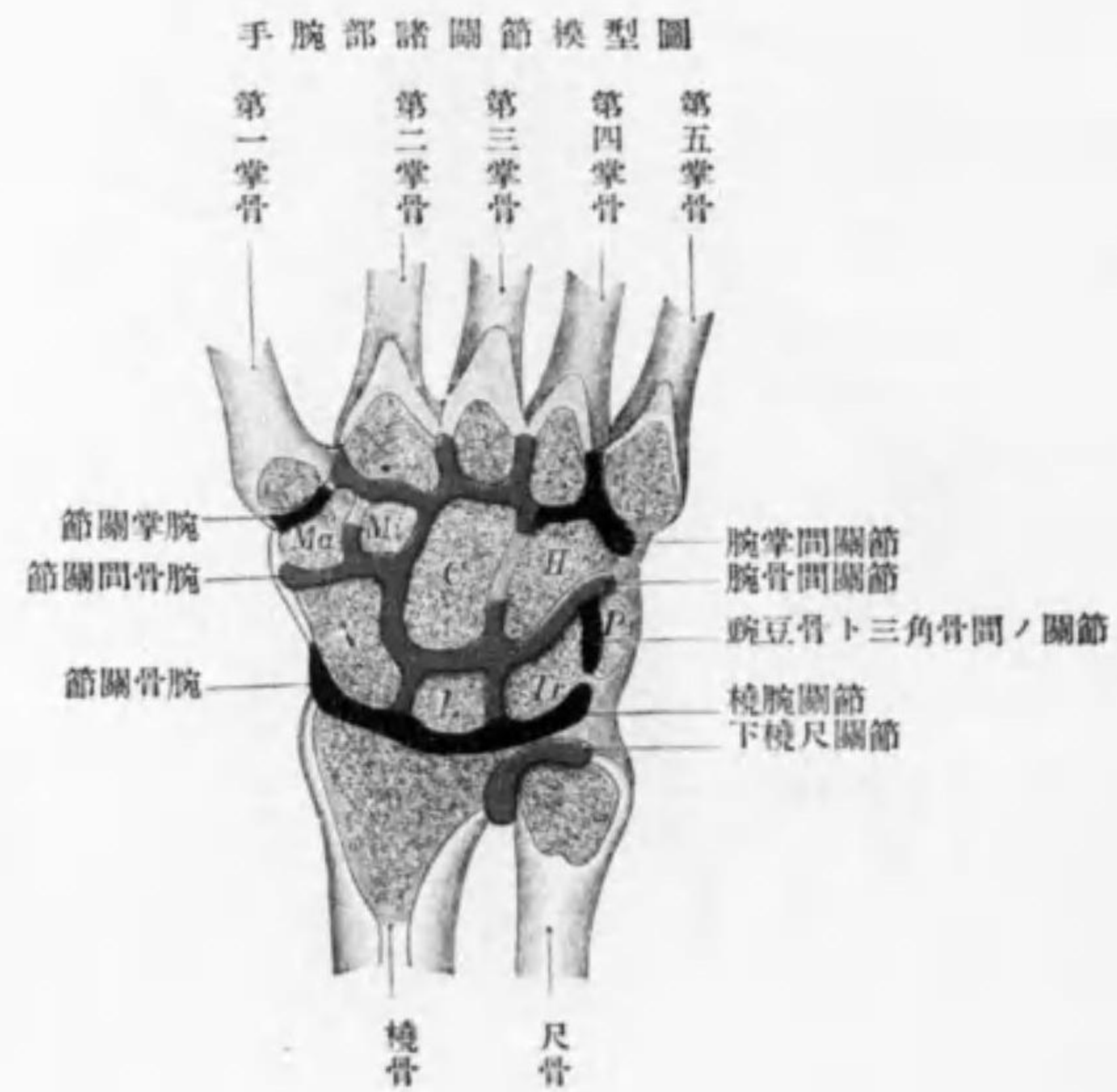


VII. 手腕關節部主要外傷診斷要項

(A) 骨形態變狀アル場合	(1) 肉又狀位置	(a) 骨折ヲ場合ヲ	手腕關節ノ數 cm 上方ニテ屈曲・關節尋常。	i) 兩前膊上骨折	
		(b) 無骨折場合	手腕關節ノ附近ニテ屈曲。	關節ニ異常ナシ。 關節血腫・運動痛。	ii) 橈骨下端骨折
			手腕關節部ニテ固定。	腕關節ニテ屈曲。 莖狀突起連絡線ノ末梢ニテ屈曲。	iii) 橈腕關節脱臼 iv) 腕骨間關節脱臼
	2) 限局性骨隆起	腕關節正常・手指運動障礙・關節ノ末梢ニテ屈曲。		v) 腕掌關節脱臼	
		前膊ノ横徑小トナリ、橈骨及尺骨交叉セル狀ニ在リ。 手ハ輕度ニ尺骨側ニ屈曲・手背面屈曲障礙セラル。		vi) 橈尺關節脱臼 vii) 月狀骨脱臼	
	(B) 骨無キ場合異常	橈骨部ニ限局性壓痛・出血アル場合。		viii) 橈骨楔入骨折	
	舟狀骨部ニ限局性壓痛・出血アル場合。		ix) 舟狀骨骨折		
	月狀骨部ニ限局性壓痛・出血アル場合。		x) 月狀骨骨折		
	手背面ノ中央部ニ瀰漫性腫脹及輕度ノ壓痛。		手腕關節捻挫及挫傷		

第二百四十四圖



第二百四十五圖

兩前膊上骨折



第二百四十七圖

手腕關節背側脱臼



第二百四十六圖

同上(骨像)



第二百四十八圖

同上(骨像)



第二百四十九圖

橈骨骨折



第二百五十一圖

腕掌關節ノ背側脱臼



第二百五十圖

同上(骨像)



第二百五十二圖

同上(骨像)
(n. Cemach)



VIII. 手腕關節部附近ノ骨折及脱臼

Fraktur u. Luxation der Handgelenkgegend

	1) 兩前膊骨上骨折 F. supracondylica antibrachii	2) 橈骨下端骨折 F. d. untern Radialendes	3) 尺骨莖狀突起骨折 F. d. Proc. styloideus ulnae
原因	直達外力ニヨルハ甚ダ稀ニシテ、多クハ介達外力ニヨル(前膊ヲ伸展シテ手掌面ヲ地上ニ衝キタル爲メニ起ルコト最モ多ク、時トシテハ手背面ノ衝擊ニヨル)。小兒ニ於テハ骨端線離開ヲ來ス。		
副損傷	稀	時トシテ腕骨骨折ヲ伴フ。	
疼痛	固定疼痛アリ、特ニ骨折部ノ運動時及介達壓迫(手ヲ前膊ニ向ツテ壓迫ス)ニ際シテ著明。		固定疼痛特ニ壓痛著明。
機能障礙	骨折部ニ左手ヲ當テ右手ニテ患者ノ手ヲ各方向ニ動かカスニ腕關節ノ上部ニテ異常運動ヲ認ム、特ニ(1)ニ於テ顯著、(2)ニ於テハ時トシテ腕關節ノ障礙ヲ伴フ。		疼痛ノ爲メ腕關節ノ運動制限セラル。
視診上所見	定型的ナルハ肉又狀背位 Gabelrückenstellungヲ取ル、特ニ(1)ニ於テ著明ナリ、時トシテハ銃剣狀屈曲 bajonettförmige Knickungヲナス。 皮下溢血著明ナルガ關節血腫ハ(1)ニ於テハ無ク(2)ニ於テハ時トシテ認ム(骨折體關節内ニ及ベル場合)。		單純ノ尺骨莖狀突起骨折ノミニ於テハ皮下溢血ヲ認ムルノミニテ外見上著變ナシ。
觸診上所見	橈骨下端骨折(2)ニ類スルモ其骨折隆起ハ腕關節ノ數cm上方(2ヨリモ上方)ニアリ。	腕關節ノ上方背側ニ下折片端、掌側ニ上折片端ヲ觸レ其上下ニ隔間有リ、骨折部ノ運動時ニ軋聲音アルコトアリ(±)。	骨折片ヲ皮下ニ觸ル、異常運動著明ナルコト多シ、軋聲音ハ骨折片ノ疎隔大ナル爲メ不明ナルコト多シ。
鑑別	腕關節脱臼・腕骨間脱臼ト鑑別ヲ要ス、(第175頁參照)。 (1)ト(2)ノ區別ハ骨折部ガ腕關節ニ近キカ遠キカニヨル、又關節症狀著明ナルハ(2)ナリ。		

(橈骨下端骨折ハ屢々認メラルルモノニシテ時トシテハ尺骨下端ノ骨折ヲ兼テ兩前膊骨上骨折トナルコトアリ)

4) 腕骨骨折 F. d. Handwurzelknochen (Carpus)			5) 掌骨骨折 F. d. Mittelhandknochen (Metacarpus)
a) 數多ノ腕骨骨折	b) 舟狀骨骨折 Os navicularis	c) 月狀骨骨折 Os lunatum	
直達外力ガ限局性ニ作用セル爲メ、或ハ高所ヨリ墜落シタル際ニ手ヲ背側屈曲位ニテ地上ニ強ク衝キタル爲メ等ニ因ル、原因・作用部位ニヨリ以上ノ相異アリ。			i) 直達外力又ハ ii) 介達外力(動機同左)。第一、第二又ハ第五掌骨ニ多ク、特ニ中央部ニ多シ、斜骨折・捻骨折・縱骨折・横骨折等アリ。
軟部ノ創傷、腕骨脱臼等ヲ伴フコトアリ			時トシテハ掌骨ノ脱臼ヲ併發ス。
腕骨骨折・月狀骨脱臼等ヲ伴フ事アリ。折ヲ併發ス。			
疼痛一般ニ顯著ニシテ特ニ骨折部ニ限局性壓痛著明。			同左。
手ノ運動特ニ伸展運動障礙セラル。			所屬手指ノ運動障礙セラル。
手指乃至手掌著明ニ腫脹シ、皮下溢血著明ナリ、併シ骨隆起等ハ視診ニテハ不明ナルコト多シ。	手ヲ少シク橈骨側ニ屈曲ス。 其他同左。	手ヲ少シク尺骨側ニ屈曲ス。	皮下溢血ノ爲メ手指又ハ手掌モ著明ニ腫脹ス、併シ手ノ異常位、骨隆起等不明ナルヲ常トス(甚ダ稀ニハ骨折端隆出)。
時トシテ骨隆起ヲ觸ルルコトアルモ皮下溢血著明ナル時ハ不明ナルコトアリ。稀ニハ軋聲音ヲ認ム	時トシテ骨折部ニ骨隆起ヲ觸ルルコトアルモ、寧ロ不明ナル場合多ク、軋聲音ヲ認ムルコトモ稀ナリ、併シ舟狀骨或ハ月狀骨部ニ於ケル壓痛顯著ナルニヨリテ診斷セラル。	骨折片ノ轉位ハ全ク無キカ或ハ輕度ナルヲ常トスルモ、稀ニハ其屈曲、脱轉等ヲ認ムルコトアリ。時トシテハ軋聲音、骨折部ノ異常運動ヲ認ム。	
單純ノ挫傷トハ骨隆起・軋聲音ナキ場合ニハ區別困難ナルコトアルモ、手ノ異常位(±)・出血ノ程度・限局性壓痛・機能障礙等ニヨリテ區別セラル、又X線検査ニヨレバ一層確實ナリ。			單純ノ挫傷トハ同左。 腕骨骨折トハ手指ノ運動障礙・壓痛部位等ニヨリテ區別ス、X線ニヨレバ一層明確。

	6) 下橈尺骨關節脱臼(甚稀) L. d. Radio-Ulnargelenks		7) 橈腕關節脱臼 L. d. Radio-Carpalgelenks	
	a) 背側脱臼	b) 掌側脱臼	a) 背側脱臼	b) 掌側脱臼
原因	墜落=際シテ手ヲ廻後シテ地上ニ衝當シ或過劇ノ廻後捻轉。	直達外力又ハ過度ノ廻前運動。	高處ヨリ墜落セル際手ヲ背側屈曲シテ地上ニ衝キタル爲メニ衝キタル爲等。	同左。掌側屈曲シテ地上ニ衝キタル爲メニ衝キタル爲等。
副損傷	時トシテ橈骨骨折ヲ兼ヌ(此際ニハ骨折症狀加ハル)。		種ニ橈骨骨折等ヲ兼ヌ。	
疼痛	高度ナラズ、併シ運動時ニ疼痛ヲ訴フ。		骨折ニ比シテ少ナシ。	
機能障礙	手ノ廻後運動 Supination 全ク障礙セラル。	手ノ廻前運動 Pronation 全ク障礙セラル。	手腕關節ノ運動障礙アルノミナラズ、手指ノ伸展不能トナル。	
視診上所見	外傷直後手が著シク廻前及屈曲位ニ固定セラル。	外傷直後手が著シク廻後位或ハ廻後廻前位ノ中間ニテ背側ニ屈曲ス。	橈骨下端骨折ニ類シシ、前膊骨端背側皮下ニ著明ニ隆出シ、橈骨莖狀突起ノ厚サ増加ス。	手ハ少シク常ニ屈曲シ、前膊骨端背側皮下ニ著明ニ隆出シ、橈骨莖狀突起ノ限界明カナリ。
觸診上所見	尺骨ト橈骨ガ腕關節ノ上部ニテ交叉セル如クナリ、且ツ該部ニテ幅狭クナリ 尺骨小頭ハ常位ニ無クシテ、 手背ニ隆出ス。	手掌ノ腱ノ下ニ隆出シ、橈骨側ニ近ヅク。	前膊骨下端特ニ橈骨莖狀突起ノ隆出背側ニ著明又背側ニハ手指伸筋端ノ緊張ヲ認ム。 尺骨關節端隆出ス。	掌側ニハ數多ノ腱アルニヨリ骨隆出著明ナラズ。
鑑別	特有ノ状態ニヨリ診斷容易ナリ。		本症ノ診斷ハ容易ナルガ橈骨下端骨折ト鑑別ヲ要ス。 腕骨間關節脱臼トモ鑑別ヲ要ス(同項参照)。	

8) 腕骨脱臼 L. d. Handwurzelknochen (Metacarpalgelenks)			9) 手腕關節ノ挫傷及捻挫 Kontusion u. Distorsion
a) 腕骨間關節脱臼 L. d. Intercarpalgelenks	b) 腕掌關節脱臼 L. d. Carpo-Metacarpalgelenks		
甚ダ稀ニ強制ナル直達外力ニヨリテ腕骨ノ第一列ト第二列ノ間ニテ背側又ハ掌側ニ脱臼ヲ來スコトアリ。	a) III-V 腕掌關節脱臼。 直達外力、稀ニ介達外力ニ因ル。	b) 拇指腕掌關節脱臼。 拇指ノ過劇ナル背側屈曲ニ因ル。	
屢々該部ノ創傷ヲ伴フ。	屢々外傷ヲ伴フ。	(-)	
中等度。	可ナリ著明。	可ナリ著明。	
手ノ背側及掌側運動障礙セラル。他動的運動ニ際シ一種ノ滑音ヲ聽クコトアリ。橈腕關節ノ運動ハ可能。	手指ノ運動不能。	拇指ノ運動不能。	一般ノモノト
a) 背側脱臼	b) 掌側脱臼		同様ナリ、骨
橈骨下端骨折ノ如ク肉又狀位ノ状ヲ呈シ手ノ兩面ニ骨隆起著明ニテ手厚クナル、併シ木症ニ於テハ次ノ變化ヲ認ム。	不全脱臼ナルヲ常トシ手が少シク内轉位ニ固定セラル、手ノ兩面ニ骨隆起ヲ觸ルモ左記ノモノト反對ノ關係ニアリ。	主トシテ背側脱臼ナリ、掌骨骨端背側ニシ、拇指掌骨骨端手背側脱臼ナルヲ常トシ、拇指ノ他動運動ニ際シ、背側脱臼ナルヲ常トシ、背ニ著明ニ隆出シ、少シク狭小トナル、拇指ノ他動運動ニ際シテ共ニ動ク。	折又ハ脱臼ニテ其特有ナル症狀不明ナル弱合或ハ皮下溢血著明ナル場合ニハ挫傷又ハ捻挫ト鑑別ヲ要ス。
骨隆起ハ兩側莖狀突起ノ連結線ノ末梢ニアリ。 鷹嘴突起ト中指先端間ノ距離短縮ス。	骨隆起ハ兩側莖狀突起ノ連結線ノ末梢ニアリ。 鷹嘴突起ト中指先端間ノ距離短縮ス。		
橈骨下端骨折・橈腕關節脱臼ト鑑別ヲ要ス。骨隆起ガ前記ノ如ク、末梢ニアルニヨリテ區別セラル。 X線ニヨレバ層明確。	特有ナル状態ニヨリ診斷容易ナリ。		

IX. 手指ノ骨折及脱臼
Fraktur u. Luxation der Finger

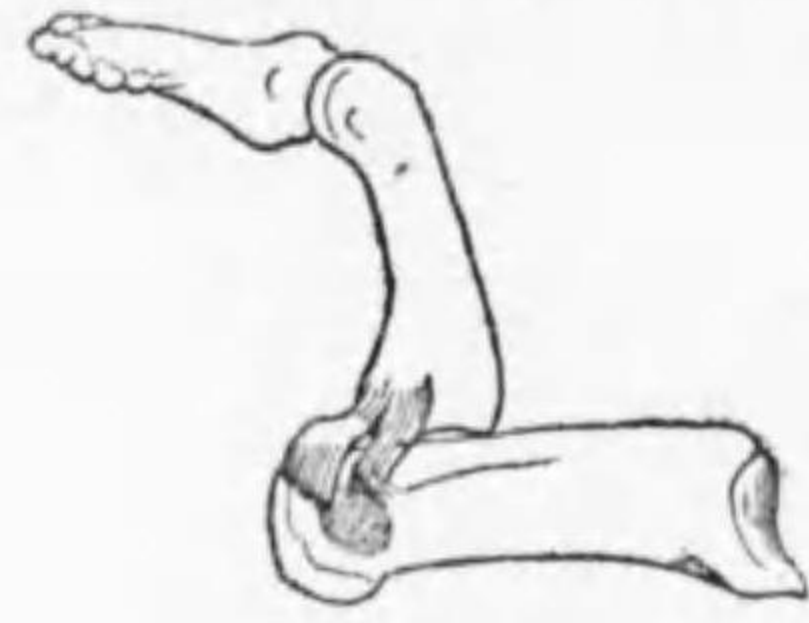
	1) 手指骨骨折 F. d. Fingerknochen (Phalangen)	2) 拇指掌指關節脱臼 L. d. Metacarpo-Phalangea!	
		a) 背側脱臼(比較的多)	b) 複雜脱臼
原因	直達外力。時トシテハ 介達外力ニ因ス。横・ 斜・縦・螺旋・粉碎骨折 等アリ。	拇指ノ強劇ナル背側屈曲ニ因ス。	原因大體同左。 (脱臼シタル第一指 骨ト掌骨ノ間ニ種子 骨 Sesambein ノ箱入 セルヲ云フ)。
副損傷	屢々創傷ヲ伴フ。	囊狀靭帯ガ掌骨骨頭ノ爲メニ掌側ニテ 破裂シ、拇指骨骨頭背側ニ脱臼ス。	
疼痛	骨折部ニ限局性疼痛著 明。	疼痛中等度、他動運動ニ際シ疼痛著明。	
機能障礙	時トシテハ異常運動アリ(-)。	i) 不全脱臼 拇指ガ掌骨ニ對シテ鈺 劍狀 bajonettförmig = 背側ニ著明ニ屈 曲起立シ、第二指骨ハ第一指骨ニ對シ 屈曲位ヲ取ル(第254圖)。 第一指骨ノ運動不能、終節關節ハ可動。 ii) 全脱臼 第一指骨ノ背面屈曲一層著 明ニシテ特有ナルZ狀ヲナス、種ニハ 伸展位ヲ取ルコトアリ、(長伸拇筋腱ガ 伸展位ノ内方ニ滑脱)、又拇指ハ少シク 第二指ニ向ツテ偏在シ、手掌ノ拇指球 皺襞深クナリ、拇指球厚ク狭クナル、拇 指ノ運動不能トナルモ、靭帯断裂ヲ伴 フ時ハ可ナリ可動性ナリ、拇指短縮シ、 掌面皮下ニ第一掌骨骨頭ヲ觸ル。以上 ノ所見ニヨリ診斷容易ナリ。	
視診的所見	骨折線ノ状態ニヨリテ 異ナルモ、毎常骨折部 ニ皮下溢血アリ。 骨片移動著明ナル場合 ト然ラザル場合トアリ。	指骨ガ掌骨ト平行ノ 位置ヲ取り、指骨ハ 長軸ニ於テ少シク捻 轉ス。 掌指關節ノ厚徑増加 シ、背側ニ指骨骨頭 隆出ス、(腫脹著明ナ ル時ハ不明ナルモ、 拇指ヲ屈曲シテ檢ス レバ明カナリ)。機能 障礙アリ、他動運動 ニ對シ彈性的抵抗アリ。	
觸診的所見	骨片移動著明ナル場 合、異常運動アル場合、 軋聲音アル場合等アリ 併シ是等ノ所見著明ナ ラザルコトモアリ。	ii) 全脱臼 手指短 縮シ、屈曲或ハ伸 展又ハ過伸展ノ位 置ヲ取り、橈骨側 又ハ尺骨側ニ偏在 ス、手背ニ指骨骨 頭、手掌ニ掌骨骨 頭隆出ス。 iii) 不全脱臼 手指 ノ短縮ナキモ伸展 位ニ固定セラレ、 掌骨面ヨリモ高キ 位置ニ在リ、手指 及手掌ニ骨隆起ア リ。	
鑑別	骨折症狀著明ナル場合 ニハ診斷容易ナルモ、 然ラザル場合ニハ挫傷 ト誤ルコトアリ。X線 検査必要。	特有ノ症狀ニヨリ診 斷容易。	

gelenk des Daumens		3) 他ノ四指ノ掌指關節脱臼		4) 指骨間關節脱臼 L. d. Interphalangeal- gelenke
c) 掌側脱臼	d) 側方脱臼	a) 背側脱臼	b) 掌側脱臼	
強劇ナル外力ニヨ リ拇指ヲ掌面ニ屈 曲シ且内轉又ハ外 轉セルニ因ル。	甚稀、拇指外轉時 ニ拇指中樞部ニ強 力ノ作用セル爲。 ニ起ル。	過伸展ヲナシ同時 ニ指ヲ捻リタル爲 ニ起ル。	同左、外力作用ノ 方向ノ相異ニヨリ 兩者ヲ生ズ(甚稀)	手指ノ過度屈伸、捻轉 内外轉等ニ因ル。
囊狀靭帯ノ損傷ヲ伴フヲ常トス。		該部ノ靭帯断裂ヲ伴フヲ常トス。 稀ニ骨離裂ヲ伴フコトアリ。		屢々該部ノ靭帯断裂ヲ 伴フ。
疼痛中等度、手指運動ニ際シ疼痛ヲ訴フ。				
掌骨骨頭背側ニ、 指骨骨頭掌側ニ隆 出シ、指掌關節部 ヨリ可ナリ上方ニ 轉位シ、手指異常 位ニ固定セラレ、 運動不能。	自動的ニハ不能ナ ルモ他動的ニハ内 外轉運動多少可能 ニ起ル。	手指異常位ニ固定セラレ、他動運動 稍々可能ナルモ彈性的抵抗アリ。	拇指ノ掌側脱臼ニ 類似シ、指ハ少シ ク屈曲位ヲ取リテ 短縮シ、同時ニ橈 骨側又ハ尺骨側ヲ 傾キ、掌骨骨頭ヲ 背側ニ指骨骨頭ヲ 手掌側ニ觸ル。	i) 全脱臼 脱臼シタル 指骨ガ背側又ハ掌側ニ 隆出シ、又橈骨或尺骨 側ニ傾キ、手指長軸ノ 傾斜・短縮・變形等著明 ニシテ手指運動不能。 ii) 不全脱臼 全脱臼ニ 比シテ診斷稍困難ナ リ、之レ變形等著明ナ ラザレバナリ、併シ指 骨關節ノ運動不能・發 生動機・骨折ノ否定等 ニヨリ診斷セラル。
特有ノ症狀ニヨリ診 斷容易ニシ テ鑑別スベキモノナシ。	特有ノ症狀ニヨリ診 斷容易ナリ、 併シ骨折ノ有無ヲ注意スベシ。		一見シテ診斷容 易ナリ。	

第二百五十三圖 拇指不全脱臼



第二百五十四圖 拇指全脱臼



第二百五十五圖 拇指全脱臼



第二百五十八圖 拇指掌側脱臼 (n. Mason)



第二百五十九圖 小指第二節ノ背側脱臼 (n. Hoffa)



第二百六十圖 小指末節ノ背側脱臼 (n. Hoffa)



第二百五十六圖 拇指背側全脱臼



第二百五十七圖 同上 X線像



第二百六十一圖 橈骨骨折ニ於ケル手ノ鈹劍狀屈曲 (n. Cmacl)



第二百六十二圖 橈骨骨折ニ於ケル手ノ肉叉狀背位 (n. Cmacl)



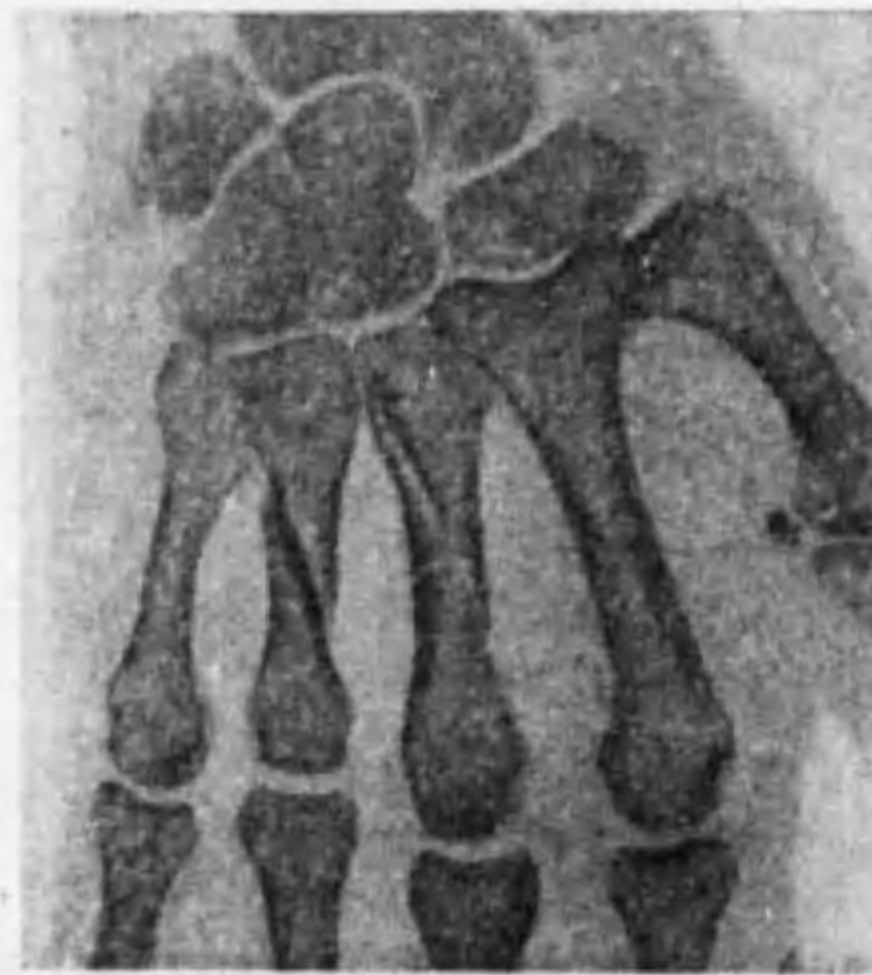
第二百六十三圖 月狀骨骨折 (n. K. H. Bauer)



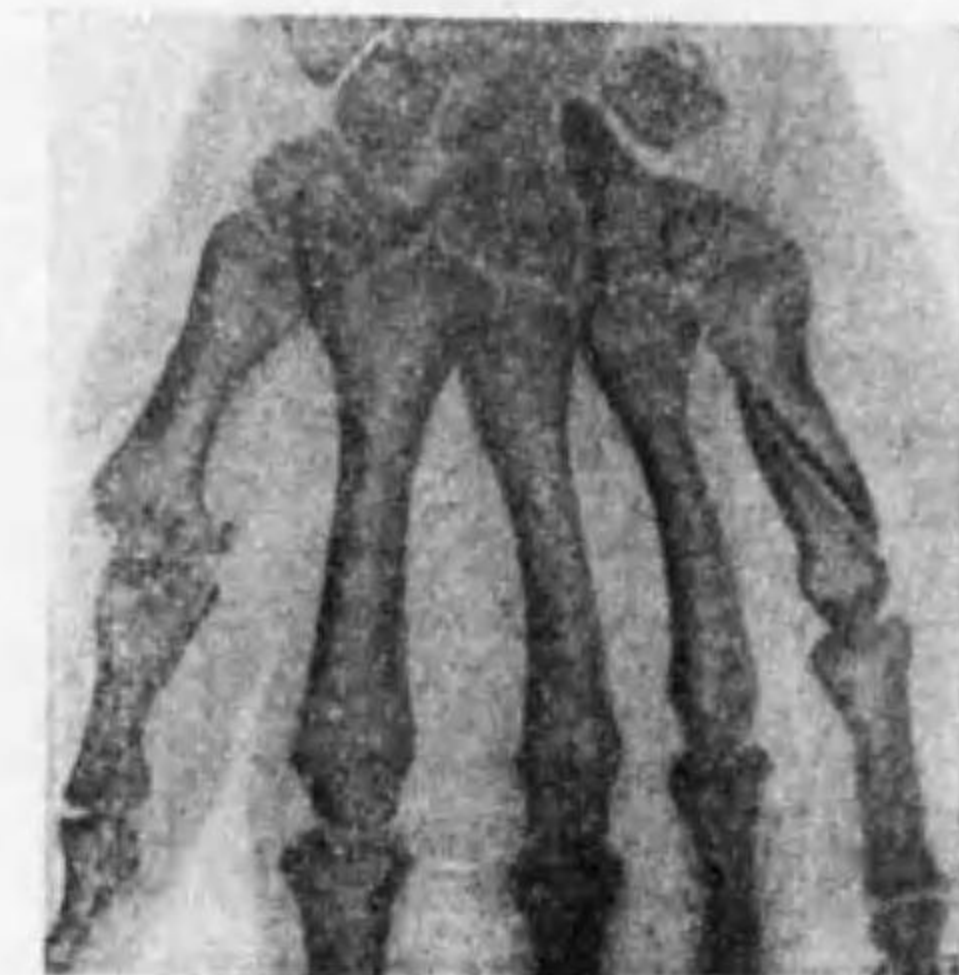
第二百六十四圖 舟狀骨單獨骨折 (n. K. H. Bauer)



第二百六十五圖 第三第四掌骨骨折



第二百六十六圖 第五掌骨骨折

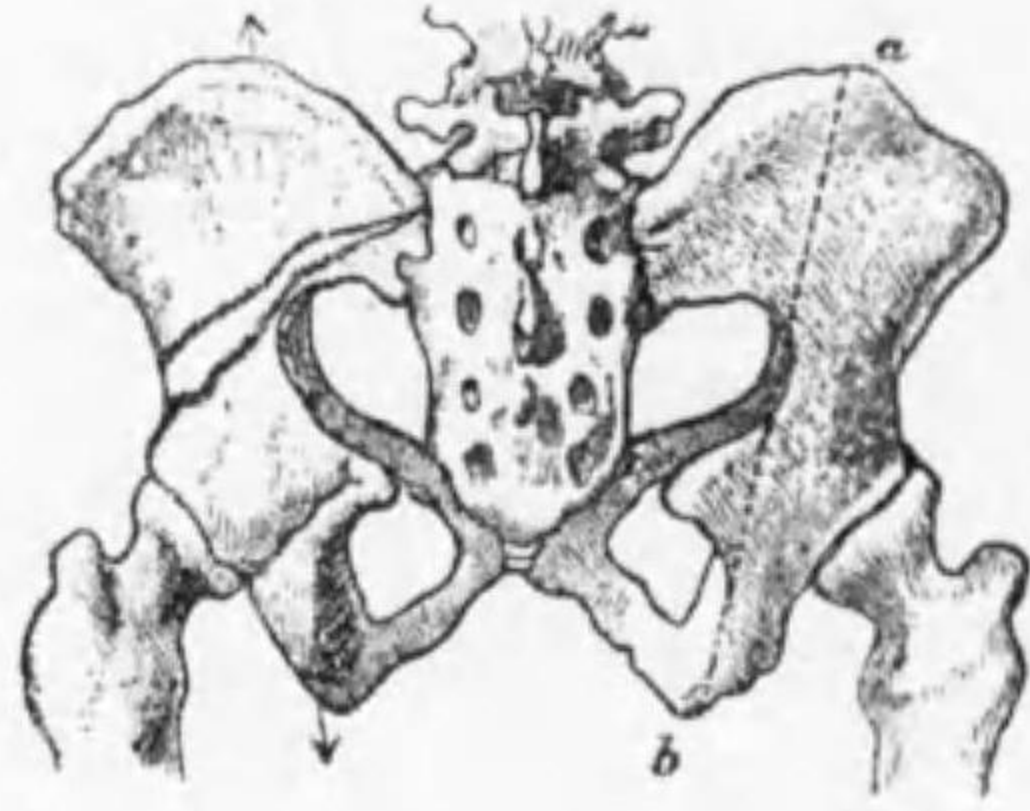


X. 骨盤骨骨折及脱臼 Beckenfraktur u.-Luxation

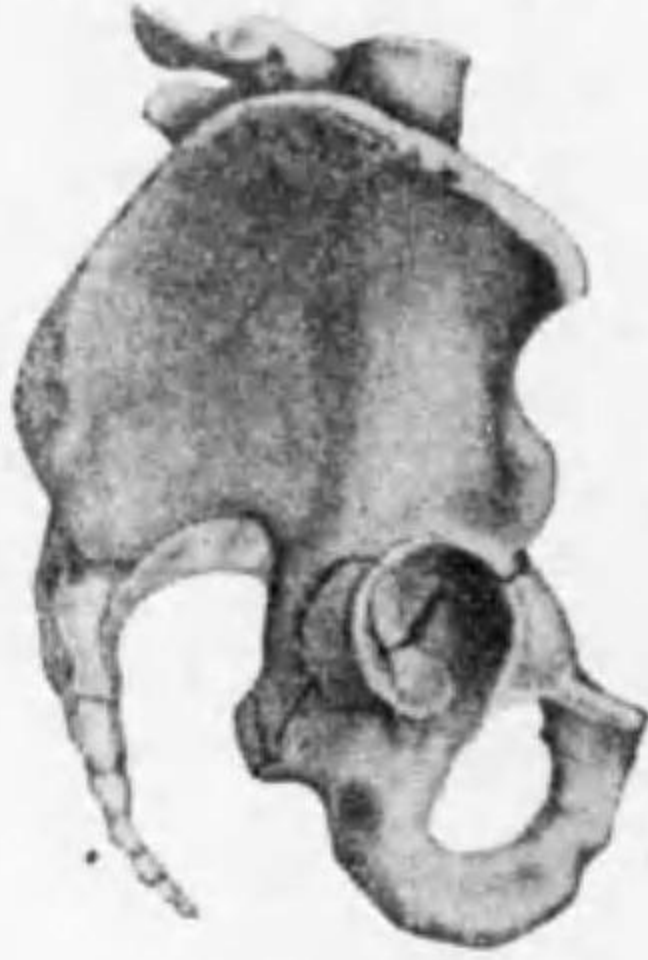
	1) 骨盤骨複合骨折 Multiple Beckenfraktur	2) 髌臼骨折 Pfannenfraktur	3) 骨盤翼骨折 F. d. Darmbeinschaukel (Duverneysche F.)	4) 腸骨 橈骨折 F. d. Crista iliaca	5) 腸骨 前上棘 及前下 棘骨折 F. d. Spina iliaca ant. sup. et inf.
原因	強劇ナル外力ニヨリテ骨盤ガ壓迫セラレタル爲メニ生ズ(轢過・汽車連結器等ノ壓迫)。	多クハ直達外力(墜落・打撃・衝突・銃創等)ニヨル、其ダ種ニ筋肉ノ急劇ナル攣縮ニ因ル。	腸腰筋ノ損傷ヲ來シ、一時其攣縮ヲ見ルコトアリ。	何レモ直達外力ニヨルコト多ク、甚ダ種ニ筋肉ノ急劇ナル攣縮ニ因ル。	何レモ直達外力ニヨルコト多ク、甚ダ種ニ筋肉ノ急劇ナル攣縮ニ因ル。
副損傷	該部ノ創傷・骨盤内臓器ノ損傷・他部ノ骨折・損傷等。腰々外傷性「ショック」ヲ起ス。	股關節脱臼又ハ他ノ骨盤骨折ヲ兼ヌルコト多シ。	腸腰筋ノ損傷ヲ來シ、一時其攣縮ヲ見ルコトアリ。		
疼痛	骨盤骨特ニ耻骨薦骨部ニ限局セル疼痛アリ、骨盤ノ壓迫又ハ骨盤翼ノ疎隔ニ際シテ疼痛著明。	下肢ヲ髌臼ニ對シテ壓迫スルニ疼痛著シ。	骨折部ニ限局性疼痛著明。	何レモ直達外力ニヨルコト多ク、甚ダ種ニ筋肉ノ急劇ナル攣縮ニ因ル。	何レモ直達外力ニヨルコト多ク、甚ダ種ニ筋肉ノ急劇ナル攣縮ニ因ル。
機能障礙	傷側ノ骨盤及下肢ノ運動ヲ避ケテ起立シ、歩行不能ナルコト多シ。	下肢腰々異常位ニ固定セラレ、彈性的抵抗アリ、運動時疼痛ヲ發ス。	歩行可能ナルモ、其際疼痛ヲ感ズルヲ以テ之レヲ避ク。	骨折部ニ於ケル骨移動・異常運動・軋轢音・骨折痛・溢血等ニヨリ容易ニ診斷セラル。鑑別スベキモノナキモ骨折片移動著明ナラザル場合ニハ單純ノ挫傷ト區別スベシ。	骨折部ニ於ケル骨移動・異常運動・軋轢音・骨折痛・溢血等ニヨリ容易ニ診斷セラル。鑑別スベキモノナキモ骨折片移動著明ナラザル場合ニハ單純ノ挫傷ト區別スベシ。
下肢ノ變化	多クハ變化ナキモ、稀ニ下肢ノ外旋及假性短縮(マルゲーヌ氏骨折)ヲ認ム。	骨頭移動著明ナル時ハ下肢ノ假性短縮ヲ認ム。	患側下肢ノ假性延長ヲ認ム。		
視診的所見	骨折變形著明ナラザルヲ常トス。皮下溢血ハ每常存スルモ骨折部位及程度ニヨリテ様ナラズ、特ニ骨折深部ニアル時ハ外部ニ溢血著明トナルニハ二三日ヲ要スルコトアリ、又骨盤骨折ニ於ケル溢血ハブーパルト氏靱帶ノ上方ニ現ルルヲ常トス(大腿頭部骨折ニ於テハ其下ニ現ル)。	骨折部位及程度ニ依リテ高舉セルヲ見ルコトアリ。皮下溢血ハ比較的早期ニアリ。	靱帯セル人ニ於テハ患側ニ腸骨前上棘稍々高舉セルヲ見ルコトアリ。皮下溢血ハ比較的早期ニアリ。	腸骨前上棘患側ニ於テ高舉シ腰々其異常運動軋轢音ヲ認ム。靱帯セル人ニ於テハ骨折線ヲ觸ルルコトアリ。	腸骨前上棘患側ニ於テ高舉シ腰々其異常運動軋轢音ヲ認ム。靱帯セル人ニ於テハ骨折線ヲ觸ルルコトアリ。
觸診的所見	骨折深在性ナル時ハ骨折線、或骨折片轉位・異常運動・軋轢音ヲ認ムルモ、深部ノ骨折又ハ骨折線ノ方向ニヨリテハ不明ナルコトアリ。マルゲーヌ氏骨折ニ於テハ腸骨前上棘少シク高クナル。	觸診上異常ナキコト多キモ、骨移動著明ナル場合ニハ大轉子ノ隆起稍々不明トナリ之ヲ整復シ得ルモ亦舊位ヲ取ル、時シテ軋轢音アリ。	腸骨前上棘患側ニ於テ高舉シ腰々其異常運動軋轢音ヲ認ム。靱帯セル人ニ於テハ骨折線ヲ觸ルルコトアリ。	腸骨前上棘患側ニ於テ高舉シ腰々其異常運動軋轢音ヲ認ム。靱帯セル人ニ於テハ骨折線ヲ觸ルルコトアリ。	腸骨前上棘患側ニ於テ高舉シ腰々其異常運動軋轢音ヲ認ム。靱帯セル人ニ於テハ骨折線ヲ觸ルルコトアリ。
鑑別	應々上記骨折症狀著明ナラズシテ診斷困難ナルコトアリ。髌臼骨折・大腿骨頭部骨折等ト鑑別ヲ要ス(各症狀參照)。	略同左。脱臼ヲ伴フ時ハ診斷容易ナルモ、然ラザル場合ニハ困難ナルコトアリ(X線検査)。	腸骨前上棘ノ高位アリ時ハ診斷容易ナルモ、然ラザレバ本症ヲ見逃スコトアリ。		

6) 恥骨骨折 F. d. Schambeins	7) 恥骨縫際脱臼 L. d. Synchondrosis osseum pubis	8) 薦腸關節脱臼 L. d. Synchond. sacroiliaca	9) 坐骨結節骨折 F. d. Sitzbeinhöckers	10) 薦骨骨折 F. d. Zerreissung d. Sakrums	11) 尾閶骨斷裂 F. d. Zerrei- sung d. Coccy- geum
多クハ直達外力、甚ダ種ニ附着筋肉ノ急劇ナル攣縮。	墜落又ハ劇シキ打撲骨盤狭小ナルモノノ分岐特ニ錯子分岐、甚ダ種ニ大腿ノ過度牽引。	直達外力又ハ介達外力(骨盤ノ横徑矢狀徑・斜徑方向ヨリ強劇ナル壓迫・難産等)。	直達外力ニヨルコト多シ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。
屢々骨盤内臓器特ニ膀胱、時トシテハ尿道ノ損傷ヲ伴フ。時トシテハ脱臼ニ骨折ヲ兼ヌ。		骨盤他部ノ骨折、其他ノ副損傷。	比較的副損傷少ナシ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。
疼痛著明、特ニ骨盤ノ側方ヨリ壓迫スルニ骨折又ハ脱臼(離開)部ニ劇痛。		外傷後薦骨部ニ劇痛ヲ發シ、多クハ薦骨ノ異常運動ヲ認ム。	自發骨折痛及壓痛アルモ介達壓痛ナシ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。	種々ノ直達外力ニヨルコト多シ。部々骨地上ニ衝下溢血著明ニシテ骨ノ薦尾時シテ靱帯附着ハ薦骨ノ屈曲・異常運動・軋轢音等ヲ認メ、直接尾閶外部及直腸内ヨリノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ訴フ種ニハ坐骨神經叢ノ壓迫ニヨリテ神經痛ヲ發スルコトアリ、診斷困難ナラズ。
下肢ニ異常ナシ。		偏側脱臼ニ骨盤上前方又ハ外方ニ轉位シ患側ノ腸骨體及腸骨前上棘ハ腫脹シ、疼痛ノ爲メ歩行困難。	兩側脱臼ニ左記ノモトノ如ク左右不同ヲ認メザレドモ、薦骨部ノ陷凹著明ナリ。	下肢ニ異常ナシ。	下肢ニ異常ナシ。
疼痛ノ爲メ歩行不能。		局所ニ皮下溢血著明、重復骨折ニ於テハ恥骨中央部隆出又ハ陷凹。偏側骨折ニ於テハ一方突出ス。併シ溢血甚シキ時ハ是等ノ變化ハ觸診ニヨリテ知ラルルノミ(但シ時トシテ不明、其他骨片ノ異常運動、軋轢音等ヲ認ムルコトアリ)(±)。	皮下溢血骨折ニ比シテ程度ニシテ多クハ脱臼骨端ノ隆出ヲ認ム。皮下ニ兩骨間ノ間隙、又ハ移動ヲ認ム、時トシテハ異常運動軟性軋轢音等アリ。	歩行時ニ多少ノ疼痛アルモ起立歩行可能。	歩行時ニ多少ノ疼痛アルモ起立歩行可能。
多クハ上記症狀著明ナラズシテ診斷困難ナルコトアリ。髌臼骨折・大腿骨頭部骨折等ト鑑別ヲ要ス(各症狀參照)。		同左。骨折ヲ合併セルヤ否ヤハ疼痛部位・溢血ノ多少・X線ニヨリテ區別ス。	骨盤翼骨折ト鑑別ヲ要ス、(下肢ノ延長ナクシテ短縮アリ、又脱臼部ノ觸知・X線検査等)。	骨盤翼骨折ト鑑別ヲ要ス、(下肢ノ延長ナクシテ短縮アリ、又脱臼部ノ觸知・X線検査等)。	骨盤翼骨折ト鑑別ヲ要ス、(下肢ノ延長ナクシテ短縮アリ、又脱臼部ノ觸知・X線検査等)。

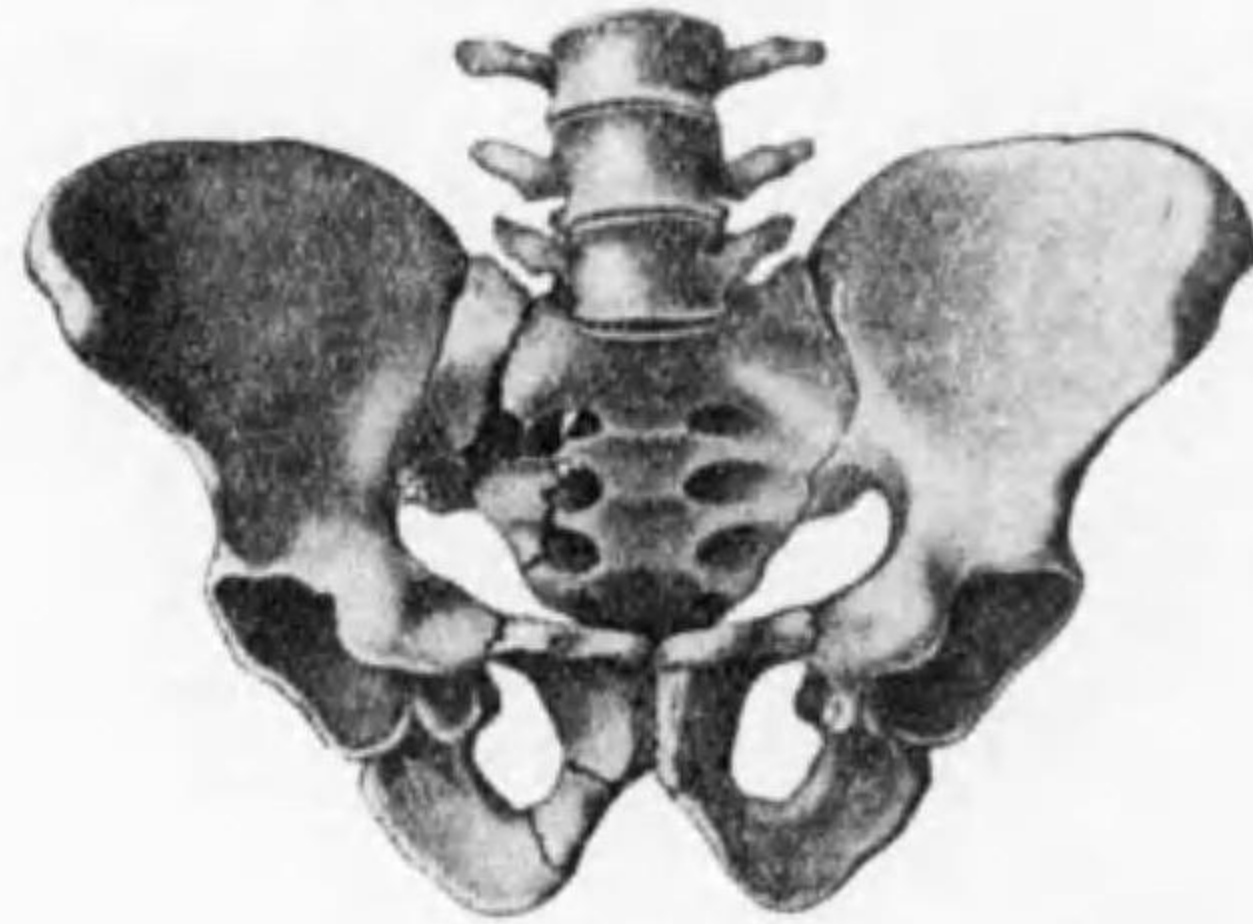
第二百六十七圖
骨盤翼骨折
(Duvernoy 氏骨折)



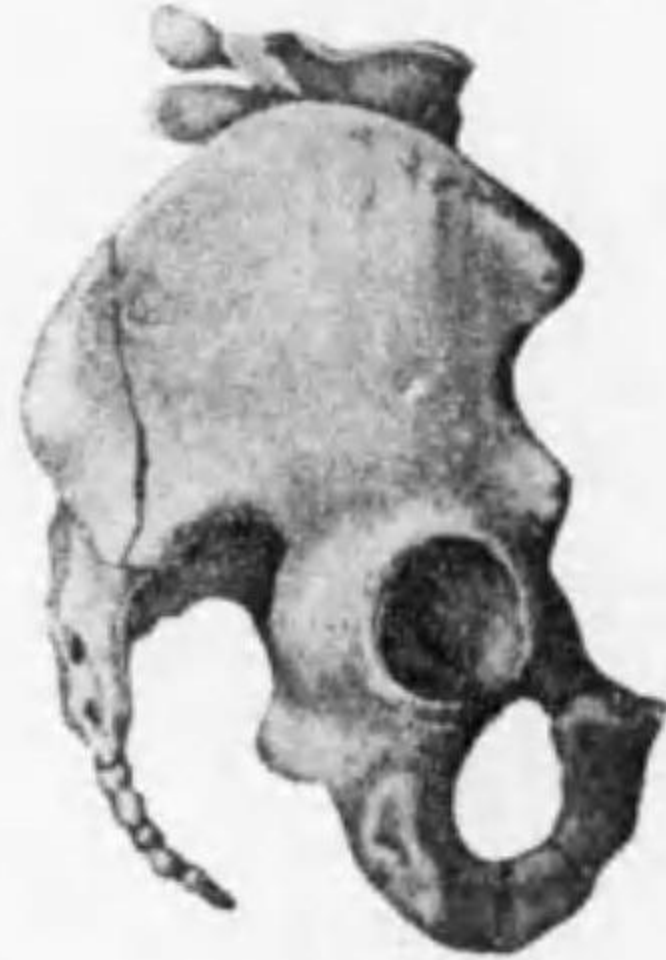
第二百六十八圖
髌臼骨折
(n. Braunsche Klinik)



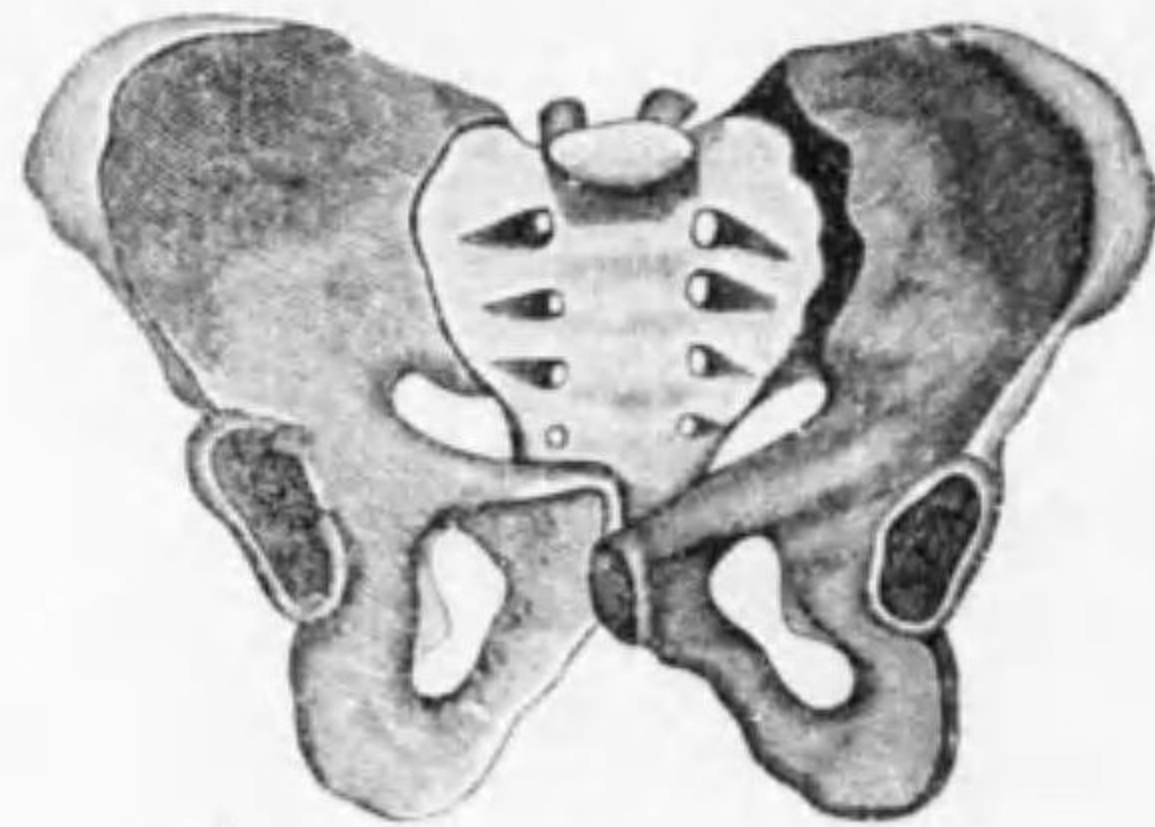
第二百六十九圖
前方骨盤輪ノ對側性骨折及右側後骨盤輪骨折
(マルゲノス氏骨折) (Malgainsche F.)



第二百七十圖
骨盤前輪及後輪骨折
(n. Braunsche Klinik)



第二百七十一圖
骨盤半側脱臼



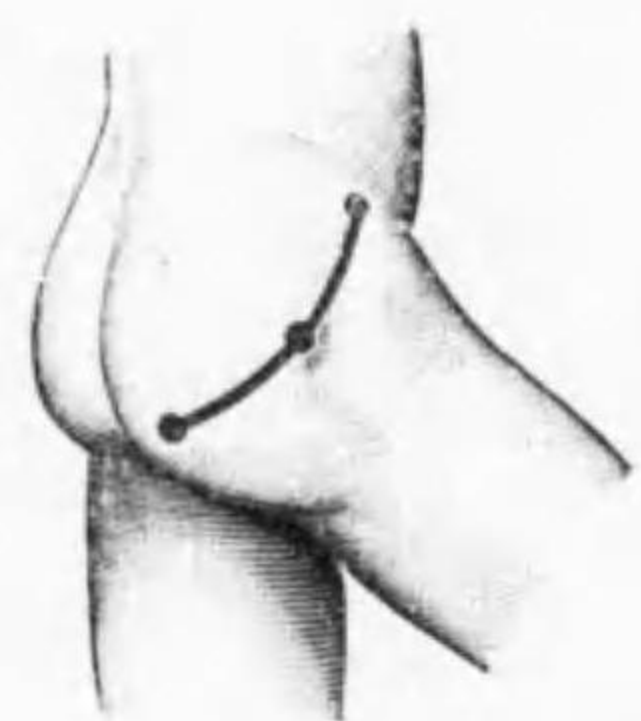
XI. 股關節部及骨盤部骨折脱臼診斷要項

Diagnostische Vorbemerkungen der Hüftgelenk-u. Beckengegend

A)	他動運動制限 (彈性的抵抗)	下肢内旋内轉シ、臀部ニ大腿骨頭アリ。	下肢中等度屈曲 (地上ニ足附ク)。	1) 腸骨脱臼 L. iliaca
			下肢強度ニ屈曲 (地上ニ足附カズ)。	2) 坐骨脱臼 L. ischiadica
B)	他動運動可能 (但其際疼痛有)	下肢外旋外轉シ大腿骨頭前方ニ在リ。	下肢中等度ニ短縮シテ、大腿骨頭鼠蹊部ニ在リ。	3) 恥骨脱臼 L. pubica
			下肢中等度ニ短縮、大腿骨頭不明。	4) 中心脱臼 L. centralis (髌臼骨折)
C)	棘蹠間距離短縮 (下肢短縮) Spina-malleolen-Distanz	頭前方ニ在リ。	下肢短縮及旋轉著明、大腿骨頭腸骨前上棘ニ觸ル。	5) 股關節上方脱臼 L. supraglenoidalis
			下肢屈曲中等度、大腿骨頭直腸内ヨリ觸知。	6) 閉鎖孔脱臼 L. obturatoria
D)	他動運動可能 (但其際疼痛有)	頭前方ニ在リ。	下肢屈曲高度、大腿骨頭ヲ内轉筋下ニ觸知。	7) 會陰脱臼 L. perinealis
			轉子蹠距離尋常、大轉子上位ニ在リ、下肢迴轉時共ニ動ク。	8) 轉子間骨折 F. intertrochant.
E)	棘蹠間距離延長	頭前方ニ在リ。	鼠蹊部ニ壓痛アリ、下肢ノ迴轉運動ニ際シ大轉子弓狀ニ動ク。	9) 頭下骨折 F. subcapitalis
			轉子蹠距離短縮、大轉子高位ナラズ、下肢運動時共ニ動カズ。	10) 兩轉子骨折 F. trochanterica
F)	棘蹠間距離短縮 (下肢短縮) Spina-malleolen-Distanz	頭前方ニ在リ。	大轉子部ニ壓痛アリ、大轉子下部ニ折片ヲ觸知。	11) 轉子下骨折 F. subtrochanterica
			大轉子ノ下部ニ壓痛アリ、上折片ヲ觸ル。	12) 薦腸關節脱臼 L. sacroiliaca
G)	棘蹠間距離延長	頭前方ニ在リ。	偏側脱臼ニ於テハ患側ノ腸骨節及腸骨前上棘ハ患側ニ比シ上方ニ推移シ、薦骨ノ異常運動ヲ認ム、下肢短縮外轉。	13) 股關節下方脱臼
			下肢短縮、下肢假性延長	14) 腸骨節脱臼 L. iliaca
H)	棘蹠間距離短縮 (下肢短縮) Spina-malleolen-Distanz	頭前方ニ在リ。	大轉子部ニ壓痛アリ、下折片ヲ觸知。	15) 大轉子骨折 F. d. trochanterica
			大轉子ノ下部ニ壓痛アリ、上折片ヲ觸ル。	16) 小轉子骨折 F. trochanterica minor
I)	棘蹠間距離短縮 (下肢短縮) Spina-malleolen-Distanz	頭前方ニ在リ。	多少ノ疼痛アリ、局限セズ。	17) 股關節捻挫 Distorsion
			下肢短縮、下肢假性延長	

第二百七十二圖

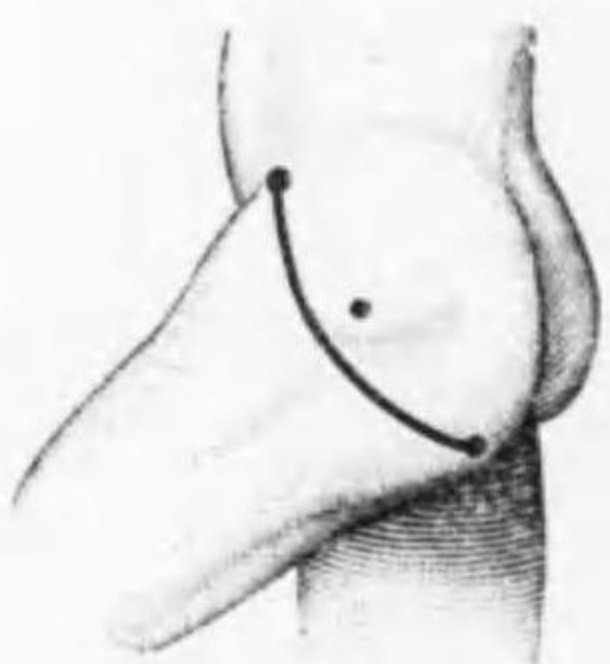
正常ローゼル・ネラトン氏線



第二百七十三圖

同線上大轉子ノ高位ヲ示ス

(n. Nordmann)

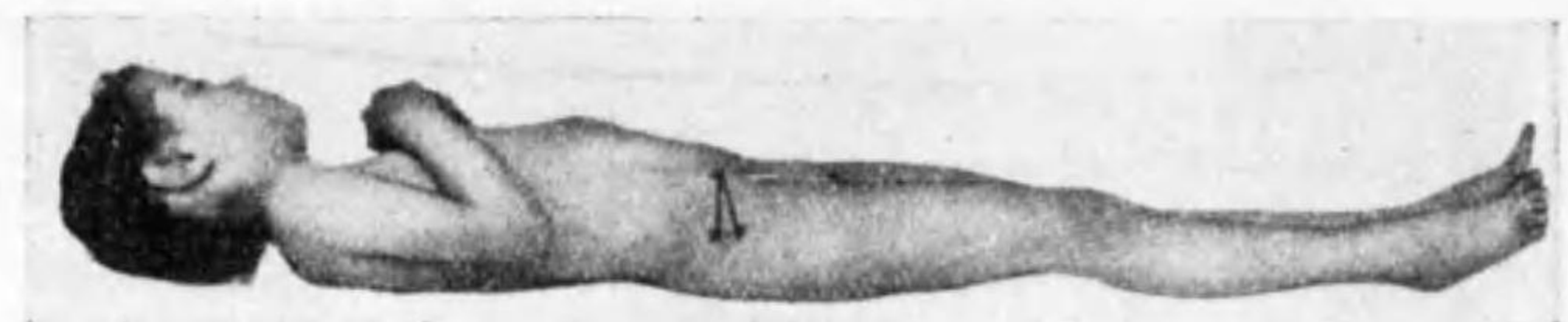


第二百七十四圖



第二百七十五圖

ブライアン氏三角(上圖ハ正常、下圖ハ患變) (n. Quervain)



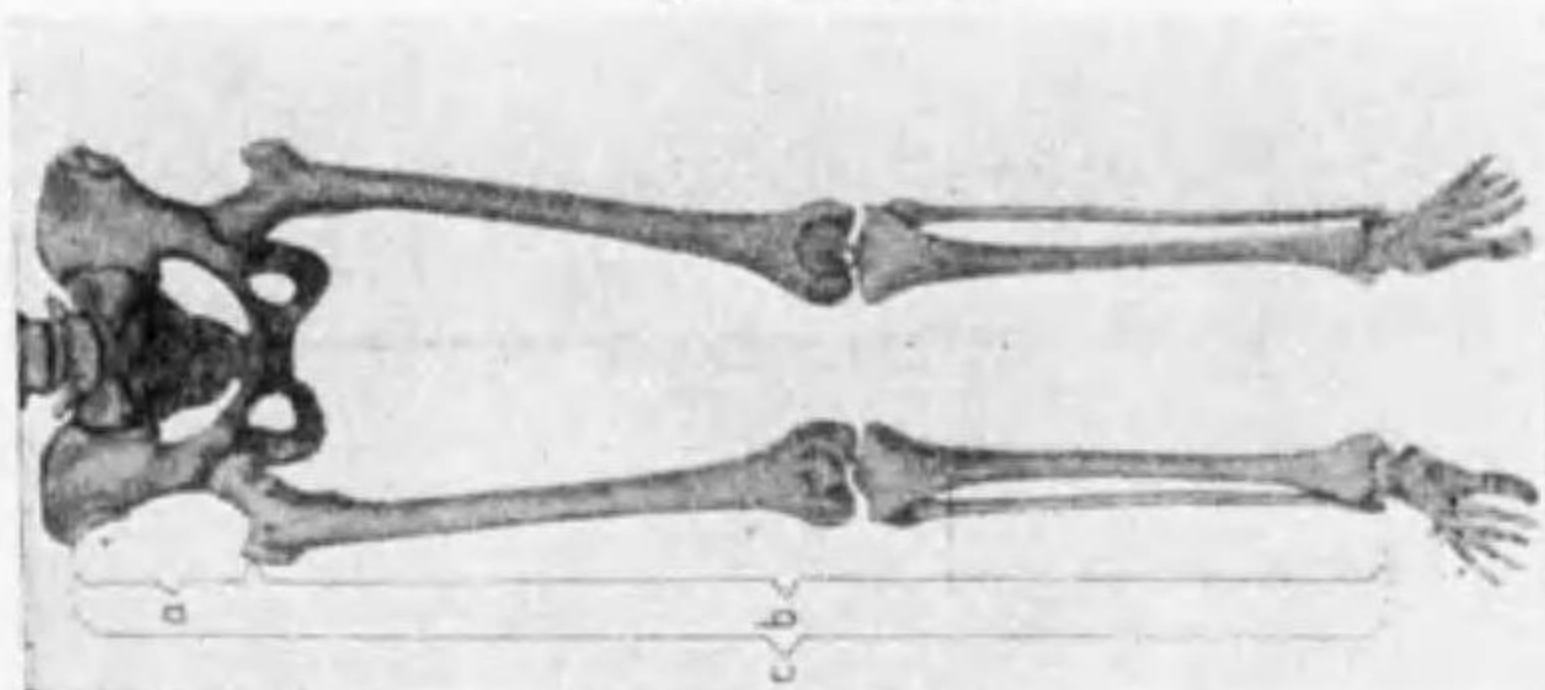
第二百七十六圖

大轉子一棘一臍線測定法(左側正堂、右側患變) (n. Quervain)



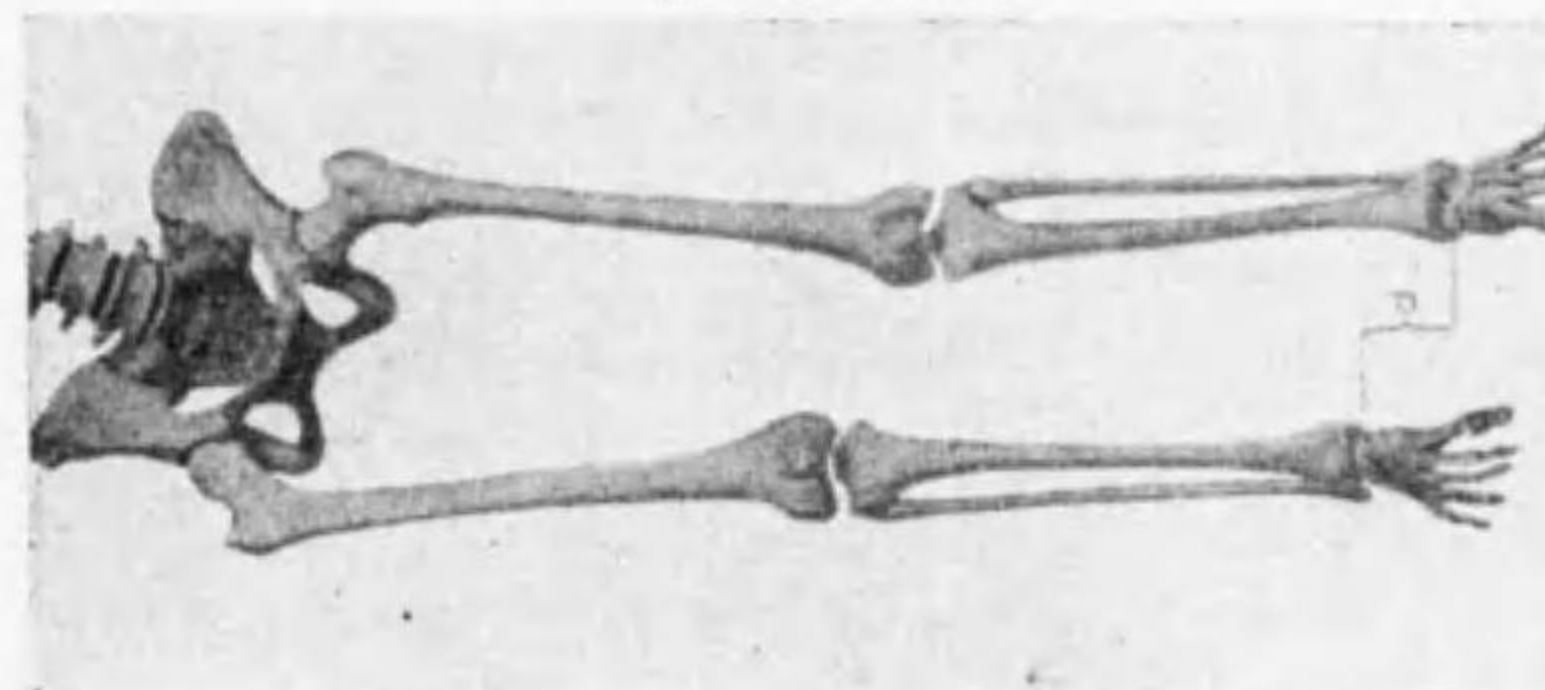
下肢測定法 (n. Quervain)

第二百七十七圖



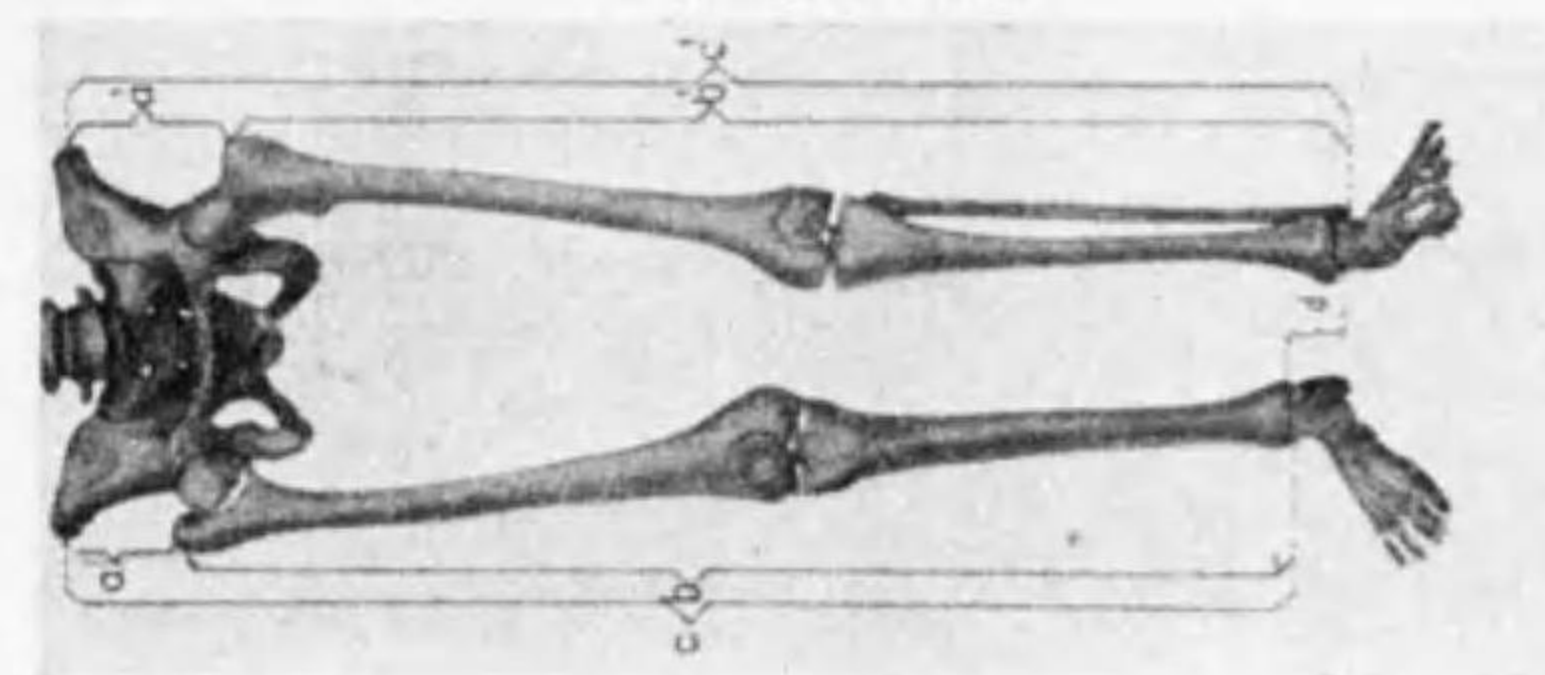
正常ナル關係ヲ示スモノ。
(a) ハ前上棘及轉子尖端ヨリ
水平線上ニセル投射線ノ差。
(b) ハ轉子下課間距離。(c)
ハ棘間距離。

第二百七十八圖



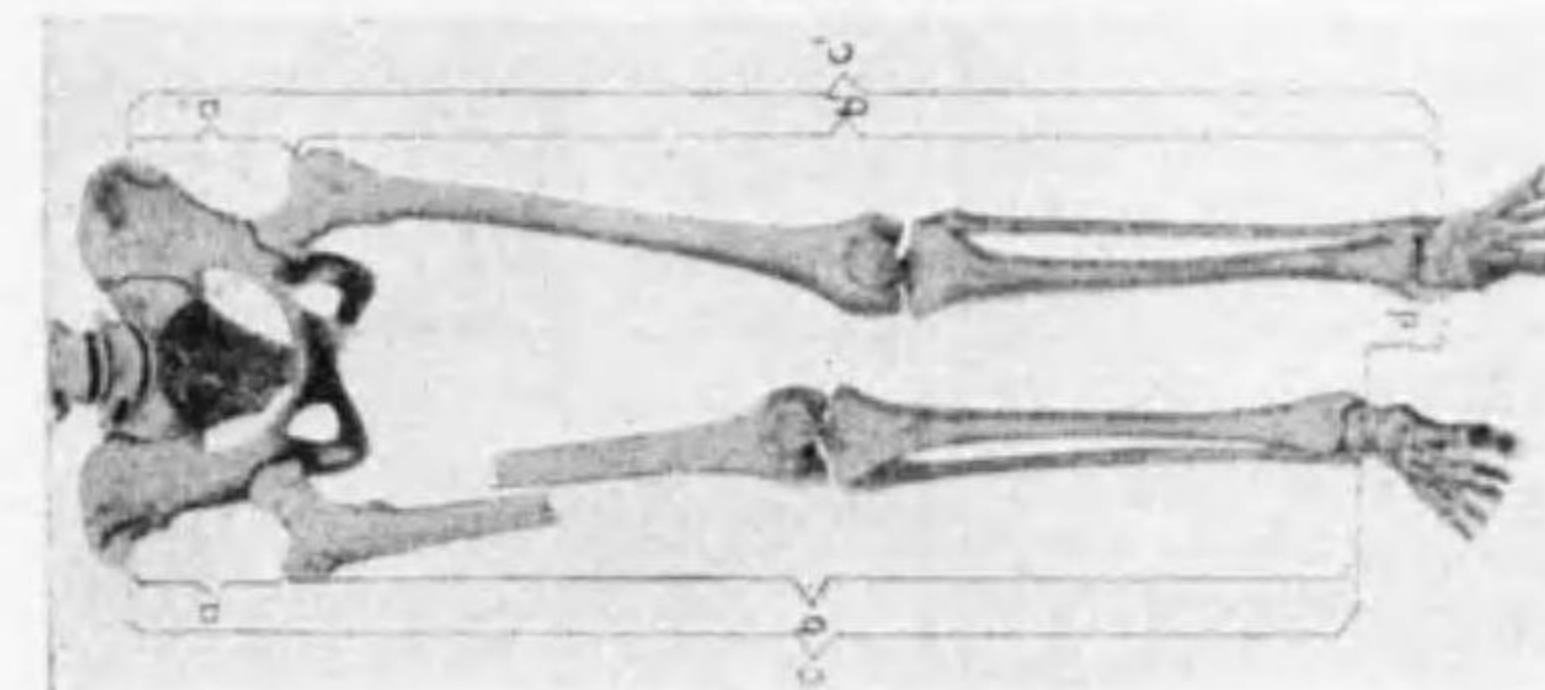
(d) ハ右下肢ノ内轉セル結果
發セル假性短縮ノ長ヲ示ス
(左下肢ノ病的外轉ニヨリテ
假性延長ヲ來セル時モ亦同様
ノ位置ヲ示ス。

第二百七十九圖



眞ノ轉子上性短縮兩踝ノ高サ
ノ差異。d ハ棘間距離 c' 及
c ノ差且轉子投射線 a' 及 a ノ
差ニ等シ之ニ反シテ轉子課間
距離ハ左右相等シ b' = a, b - a'
= c - c' = d 此狀態ハ固有ノ大
腿骨頸骨折股内轉症先天性股
關節脱臼ノ際ニ見ル定型的所
見ナリ。

第二百八十圖



眞ノ轉子下性短縮、兩踝ノ高
サノ差異。d ハ棘間距離若
クハ轉子課間距離ノ差異ニ等
シ之ニ反シテ兩轉子ハ左右同
高ニアリ a = b, a' = b' = c = c' =
d 此狀態ハ轉子部貫通骨折轉
子下骨折並ニ夫以下ニ位スル
總テノ大腿骨骨折ニ於ケル定
型的所見ナリ。

XII. 股關節部ノ骨折及脱臼

Fraktur u. Luxation der Hüftgelenkgegend

A) 股關節脱臼 Hüftgelenkluxation	
1) 後方脱臼	
a) 坐骨脱臼 L. ischiadica	b) 腸骨脱臼 L. iliaca
原因及 發生動機	介造外力例へば高處ヨリ墜落シ或ハ頭部又ハ背部ニ重荷ガ落下シ又ハ膝過等ニヨリテ下肢ガ甚ク屈曲内旋内轉セル爲メ囊狀靭帯ノ後下方ヲ破リテ骨頭脱臼ノ後下部ニ脱出ス(坐骨脱臼),併シ多クハ筋縮ニヨリテ更ニ其上方ニ至ル(腸骨脱臼),稀ニハ關節囊ノ上方ヲ破リテ直達腸骨脱臼トナル。
	高處ヨリ墜落又ハ土砂崩潰, 器械損傷等ニヨリテ軀幹ヲ強ク後方ニ伸展シ下肢ヲ外旋外轉シタル爲メニ起ル。其ダ稀ニハ直造外力ニ因ス(後方ヨリ前上方ニ外力作用ス),關節囊前上方ニテ断裂シ骨頭ハ腸結節ノ上方ニ轉位スルコト多シ(腸結節脱臼),稀ニハ尙ホ内方ニ在リ(恥骨脱臼)。
副損傷	筋肉断裂・骨折等ヲ兼ヌルコトアリ,時トシテハ骨頭ガ坐骨神經ヲ壓迫シテ神經痛又ハ知覺過敏ヲ來ス。
機能障礙	異常位ニ固定セラレ,之レヲ動かカスニ彈性的抵抗アリ,其際可ナリノ疼痛ヲ訴フ。
視診の所見	患側下肢股關節及膝關節部ニテ屈曲内旋内轉シ短縮アリ,(2)ニ於テハ輕度ナルモ(1)ニハ屈曲及短縮著明)。
觸診の所見 (測定檢)	腎筋下ニ骨頭ヲ觸知ス(之レハ下肢ヲ動かシツツ檢スル時ハ特ニ明カナリ)。
鑑別	特異ノ状態ニヨリ診斷容易ナリ,股關節ノ挫傷・捻挫・大腿頭部骨折(疼痛・腫脹・運動狀態等)ト區別ヲ要ス。

b) 恥骨下脱臼 L. infrapubica(稀)		3) 下方脱臼 L. n. unten od. L. femoris infraglenoidalis (subcotyloidea)	4) 上方脱臼 L. n. oben od. L. femoris supra- glenoidalis (supracotyloidea)	5) 中心脱臼 L. femoris centralis
i) 閉鎖孔脱臼 L. obturatoria	ii) 會陰脱臼 L. perinealis			
下肢ヲ擴ゲテ高處ヨリ墜落シ又ハ股ヲ開キ身體ヲ屈曲シ居ル時ニ高處ヨリ重荷ガ落下シタル爲メ,其ダ稀ニ大轉子ノ後上方ヨリ劇シク衝突セラレタル爲メ等。	閉鎖神經ヲ壓迫シテ神經痛ヲ發スルコトアリ。	同 左。	同 左。	同 左。
患肢少シク屈曲外旋外轉シ少シク短縮ス(患肢ノ異常位ハ横臥時ニハ著明ナルモ起立時ニハ不明トナル,之レ脊椎及骨盤ニヨリテ代償セラルレバナリ,大轉子部扁平ニ見ユ)。	患肢ノ屈曲外旋外轉屈曲著明ニシテ起立時ニモ不明トナラズ。	患肢股關節部ニテ殆ソド直角位ニ屈曲,膝關節部ニテモ屈曲シ僅ニ外轉内旋ス,併シV靭帯断裂アレバ下肢延長,稍々内方又ハ外方ニ旋轉ス。	患肢ハ伸展及外轉シ,少シク内旋シ且ツ短縮ス。	視診上及觸診上特有ノ點少ナク,主トシテ骨盤骨折ノ症狀ヲ呈ス,又始メハ脱臼症狀著明ナラズシテ歩行スルニ從ツテ下肢痛縮著明トナル,從ツテ確實ナル診斷ハX線検査ニヨラザルベカラズ。
大轉子ヲ觸知シ難ク或ハ反テ該部陷凹ス,骨頭ハ深部ニアル爲メ觸知シ難キモ下肢ヲ動かシツツ檢スル時ハ觸ルルコトアリ,或ハ直腸内ヨリ觸知ス。	大轉子ヲ觸知シ難ク,骨頭ヲ會陰部ニ觸ル。	骨頭ハ髌骨下緣又ハ坐骨結節部ニテ緊張セル筋肉ノ下ニ觸知セラル。	骨頭ヲ腸骨前上棘ノ下部ニ觸知ス(時トシテ上方又ハ外方ニ觸ルルコトアリ),髌骨部ハ空虚トナル。	メハ脱臼症狀著明ナラズシテ歩行スルニ從ツテ下肢痛縮著明トナル,從ツテ確實ナル診斷ハX線検査ニヨラザルベカラズ。
同 左。	閉鎖孔脱臼ト會陰脱臼ノ區別ハ上記ニヨリ容易ナリ。	特異ノ状態ニヨリ診斷容易。	恥骨脱臼(骨頭ノ位置),大腿頭部骨折ト區別ヲ要ス。	

第二百八十一圖
股關節坐骨脱臼



第二百八十二圖
同左骨像



第二百八十三圖
股關節腸骨脱臼



第二百八十四圖
同左骨像



第二百八十五圖
股關節恥骨脱臼



第二百八十六圖
同左骨像



第二百八十七圖
股關節閉鎖孔脱臼



第二百八十八圖
同左骨像



第二百八十九圖
股關節下方脱臼



第二百九十一圖
股關節上方脱臼



第二百九十二圖
同左骨像



第二百九十圖
同上骨像



第二百九十三圖
股關節下方脱臼



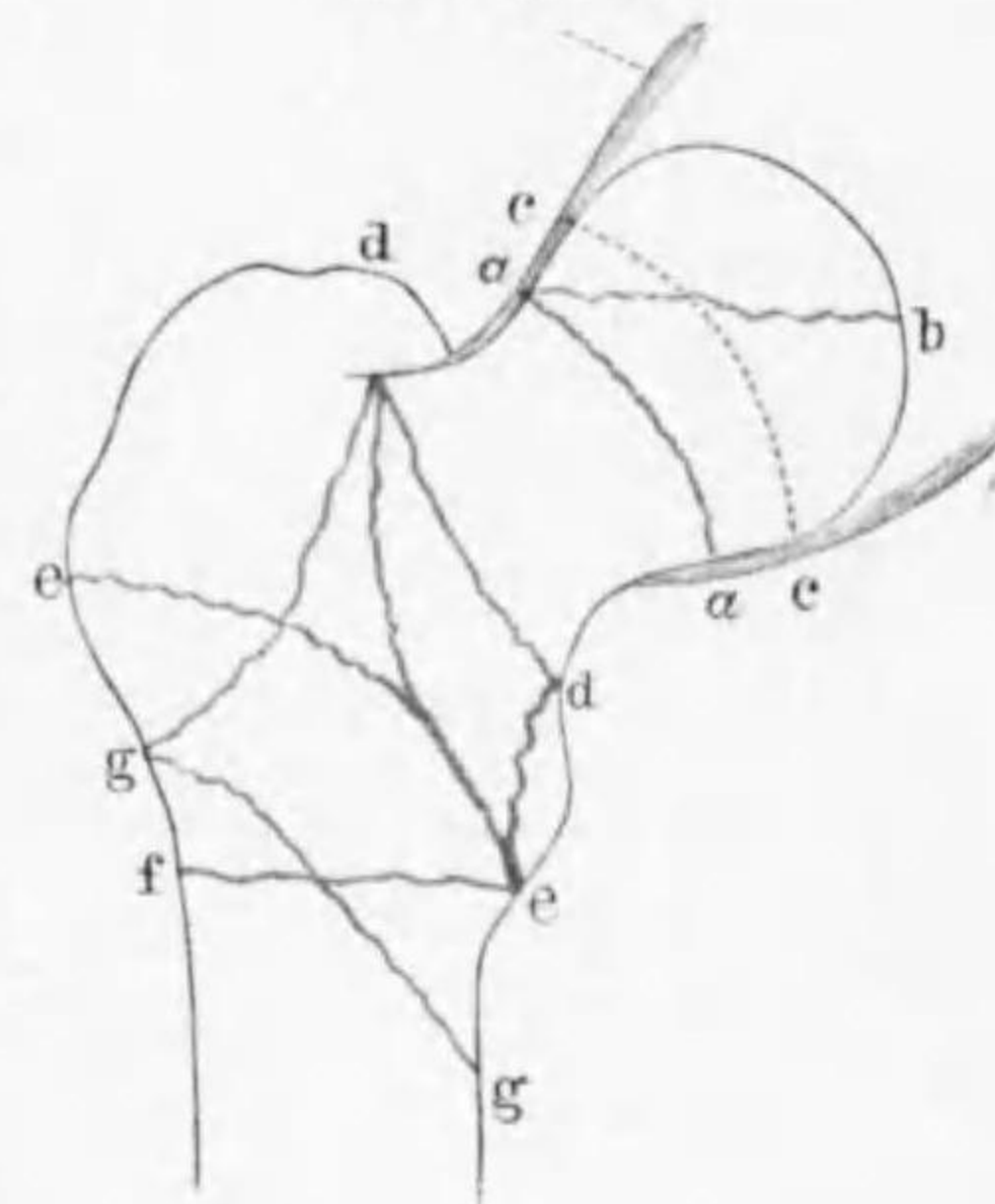
第二百九十四圖
同左骨像 (以上 n. Cernack).



(續)	B) 大腿骨上端骨折 Fraktur des oberen Endes d. Oberschenkels		
	1) 大腿骨頭骨折 F. Caput femoris	2) 大腿骨頸部骨折 Schenkelhalsfraktur	
原因	其ダ種ニ股關節脱臼ニ際シテ骨頭断裂シ或ハ骨頭軟骨部ノ剝離ヲ來スコトアリ、又ハ高處ヨリ墜落シテ足ヲ地上ニ衝キ或ハ大轉子ノ打撲ニ因ルコトアリ。	a) 關節囊内骨折 Intrakapsuläre F.	b) 關節囊外骨折 Extrakapsuläre F.
		i) 直達外力(大轉子ノ打撲・衝突・銃創等)ニヨルハ稀ナリ(關節囊内骨折ナルコト多シ)。 ii) 介達外力(例ヘバ高處ヨリ墜落シテ足又ハ膝ヲ地上ニ強ク衝キタル爲メ等)ニヨルコト多シ、特ニ老人ニ於テハ容易ニ骨折ス。 iii) 甚ダ種ニ筋肉攣縮(後方ニ倒レントスルヲ急劇ニ防ガントシ或ハ重荷ヲ急ニ持上ゲントスル際等)ニヨル(ii, iiiニ因ルハ關節囊外骨折ナルコト多シ)。	
副損傷	單純ノ大腿頸骨折ヲ見ルコト多シ。		
機能障礙	起立及歩行不可能、時トシテ僅ニ可能。	起立及歩行全ク不可能。	劇痛ヲ訴フルモ起立歩行可能。
視診的所見	患肢ノ外旋外轉短縮アルモ著明ナラズ、殆ンド皮下溢血ヲ認メズ、又之レアルモ二三日後ニ現ハル。	骨折端移動著明ナルヲ以テ下肢短縮著明(8-12cm)。下肢外旋外轉、張股筋鞘及髂筋共ニ弛緩シ、大轉子及腸骨橋間距離ニ比シテ稍々短縮、皮下溢血著明。	大腿ノ短縮ハ2-3cmニ過ギズ、外轉外旋モ著明ナラズ、張股筋鞘及髂筋共ニ弛緩シ、大轉子及腸骨橋間距離ニ比シテ稍々短縮、皮下溢血著明。
觸診的所見	大轉子ノ位置ニモ著明ノ變化ナク、下肢ノ測定(腸骨棘間距離)ニヨリ少シク短縮ヲ認ム。 大轉子ノ壓迫、下肢ノ長軸壓迫、又ハ鼠蹊部ノ壓迫ニ際シ股關節部ニ疼痛ヲ訴フ。 大腿廻轉運動時ニ劇痛ヲ訴ヘ、其際軋聲音ヲ認ムルコトアリ(±)。	大轉子ノ轉位著明(甚シキハ、ネ線上數cm)、骨折部ニ於テ異常運動アリ、軋聲音著明、或ハ不明(骨折端ノ疎隔甚シキ場合)、疼痛著明。	大轉子少シク上方ニテ内方ニ移ル、大轉子ノ壓迫、下肢ノ長軸壓迫又ハ廻轉ニ際シテ劇痛ヲ訴フ。 異常運動及軋聲音不明。
鑑別	股關節ノ捻挫・挫傷ト鑑別ヲ要ス。 疼痛・短縮(±)・軋聲音・X線検査等ニヨリテ區別ス。 大腿骨頭骨折ト大腿頸關節囊内骨折トノ區別ハX線ニヨラザレバ明カナラザルコト多シ。	以上症狀ニヨリ 診斷困難ナラズ。	屢々骨折ヲ見逃スコトアリ、X線検査ヲ要ス。

大腿骨上端骨折型ノ各種

第二百九十五圖



- 1) 骨頭骨折 F. Caput femoris (a-b).
- 2) 頭下骨折 F. subcapitalis (a-a). (共ニ關節囊内骨折ニ屬ス)。
- 3) 骨頭骨端線離開 Epiphysentrennung d. Kopfes (c-c). 骨頭骨折ニ類シ關節囊内骨折ニ屬シ、其ダ種ニ小兒ニ來ル。
- 4) 轉子間骨折 F. intertrochant. (d-d). 大腿頸が大轉子ニ移行セントスル所ニアリ、一部ハ關節囊内骨折、一部ハ關節囊外骨折ナリ。
- 5) 轉子部貫通骨折 F. perthrochanterica (e-e). 骨折線ガ兩轉子ニ跨ルモノヲ云フ、比較的多シ、關節囊外骨折ナリ。
- 6) 轉子下骨折 F. subthrochanterica (f-e).
- 7) 轉子下斜骨折 Schrägbruch (g-g).
- 8) Y 狀骨折 (d-e-e). V 狀骨折。
- 9) 大轉子骨折 (d-g). 及 10) 小轉子骨折 (d-e). 何レモ直達外力ニ因ス。骨折部ニ相當シテ皮下溢血・疼痛・骨片移動・軋聲音等アルニヨリテ診斷セラル、機能ニハ差支ナキモ大轉子ノ骨折ニ於テハ疼痛ノ爲メ下肢ヲ少シク屈曲且内旋スルコト多シ。
以上ノ各骨折ノ診斷ハ屢々X線ニヨラザレバ確實ナラザルコトアリ。

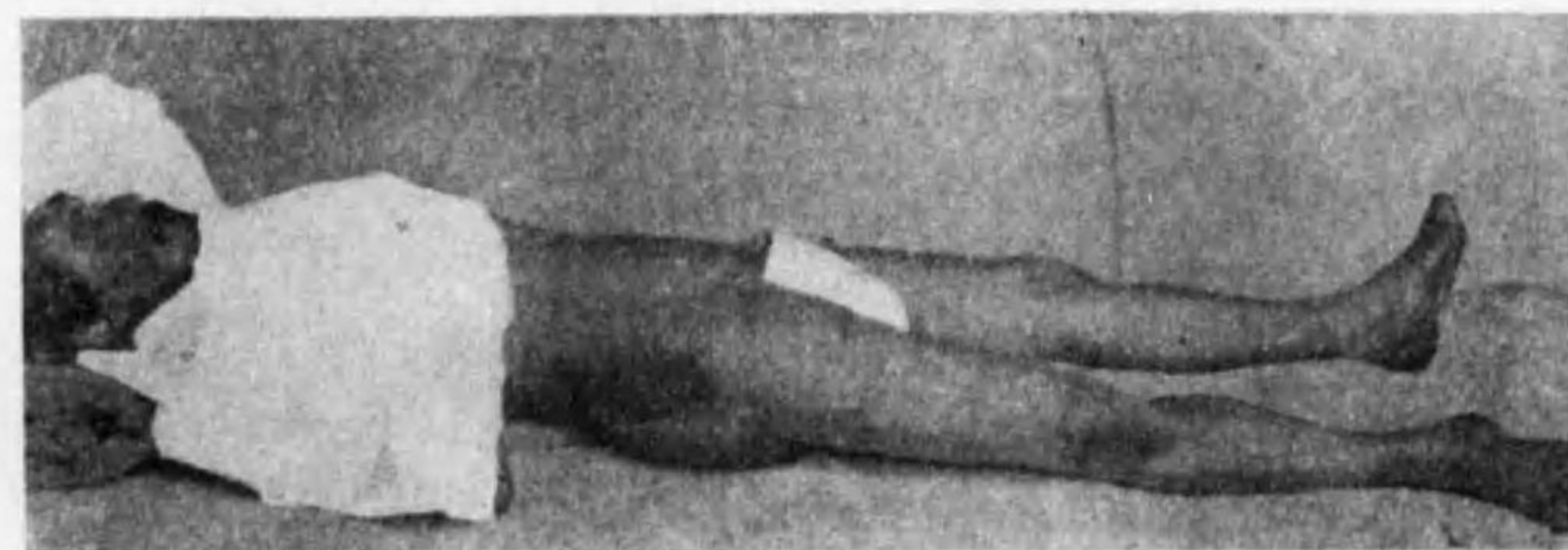
c) 股關節挫傷及捻挫
Kontusion u. Distorsion d. Hüftgelenks

何レモ稀ナリ、挫傷ハ直達外力ニヨリ捻挫ハ介達外力ニ因ル。視診上及觸診上著變ナク、下肢ノ短縮モ認メラズ、併シ時トシテ疼痛ノ爲メ下肢ヲ少シク外旋シ僅カニ假性短縮ヲ認ムルコトアリ。
其他挫傷ニ於テハ皮下溢血ヲ伴フコトアリ。疼痛稍々著明ナルコトアルモ介達壓痛ナク、患肢上ノ起立及歩行可能。

骨折ノ否定(特ニ楔入骨折)ニヨリテ診斷セラル、又外力作用状態モ参照スベシ。

第二百九十六圖

(下肢ノ外旋著明ニシテ短縮及血腫ヲ伴フ)。
(n. Quervain)



XIII. 大腿骨幹骨折 Fraktur d. Diaphyse der Femur

原	<p>之レハ屢々認メラルモノナルガ、特ニ壯年ノ男子ニ多シ。</p> <p>a) 直達外力。重物ノ落下・經過・銃創・彈片創等ニヨル、軟部損傷ヲ兼ヌルコト多シ。</p> <p>b) 介達外力。高處ヨリ墜落ノ際ニ足又ハ膝部ヲ強く地上ニ衝突シタル爲メニ所謂屈曲骨折ヲ起シ、或ハ軀幹ノ急劇ナル廻轉ニヨリ捻轉骨折ヲ起スコトアリ、又骨ニ種々ノ障礙アル時ハ輕度ノ外力ニヨリテモ容易ニ骨折ス。</p>
因	
骨	<p>1) 斜骨折 Schräglbruch 屢々認メラル、時トシテ骨折端ニヨリ皮膚ヲ穿通ス。</p> <p>2) 螺旋骨折 Spirallbruch 之レモ時トシテ認メラル、介達外力ニ因ス。</p> <p>3) 横骨折 Querbruch 稍々稀ナリ、直達外力ニ因ル。</p> <p>4) 縦骨折 Längsbruch 甚ダ稀ナリ、斜骨折ノ極端ナルモノナリ。</p> <p>5) 粉碎骨折 Splitterbruch 種々ノ直達外力ニ因ス。</p> <p>6) 蝴蝶骨折 Schmetterlingsbruch } 銃創ニ因ス。</p> <p>7) 孔狀骨折 Lochbruch }</p> <p>8) 冰裂骨折 Knochenfissur 比較的稀、直達外力ニヨル。</p>
折	
型	
主	<p>大腿骨幹骨折ノ診斷ハ容易ナリ、之レ骨折轉位著明ナルヲ以テナリ、然ルニ此轉位ハ骨折部位ニヨリテ相異アリ。</p> <p>a) 上三分一ノ骨折 上折片ハ腸腰筋及臀筋ニヨリテ後上方ニ牽引セラレ、下折片ハ内轉筋ニヨリテ内方ニ牽引セララル(第 299 圖)。</p> <p>b) 中三分一ノ骨折 上折片ハ殆ソド常ニ下折片ノ前方ニ來ル。</p> <p>c) 下三分一ノ骨折 同ジク上折片ハ下折片ノ前方ニ來ルモ、上折片ハ内轉筋ノ牽引ニヨリ内方ニ轉位シ、下折片ハ腓腸筋ニヨリテ膝關ニ向ツテ牽引セララル(第 300 圖)其他一般ニ下折片ハ下肢ノ重力ニヨリテ外方ニ廻轉シ患者之レヲ擧上シ難シ。以上ノ轉位ニヨリ下肢ノ短縮著明ニシテ、甚シキハ 10cm 以上ニ及ブ。異常運動モ多クハ明カニシテ甚シキハ骨折部ニテ著明ニ屈曲ス。患者ハ起立歩行不能トナリ(陳舊性ノモノハ此限ニアラズ)、疼痛著明、軋聲音ハ骨折端ノ移動著明ナラザル時ニ著明ナリ。</p>
要	
症	
狀	
及	
鑑	
別	<p>楔合骨折 Eingekeilte Fraktur ハ稀ニ認メラルモノナルガ此際ニハ他ニ比シテ診斷稍々困難ナリ、足部又ハ膝部ヨリノ介達壓痛著明ナルコト、兩側下肢ノ長さヲ比較測定スルコト、X線等ニヨリテ診斷セララル。</p>

第二百九十七圖 大腿ノ螺旋骨折(n. Bruns Klinik) 第二百九十八圖 大腿上三分一ニ於ケル乘駕骨折



第二百九十九圖

大腿骨上三分一ノ骨折ニテ筋肉ノ攣縮ニヨリテ特有ナル移動ヲナセルモノ (n. Mattis)



第三百圖

大腿骨下三分一ノ骨折ニテ筋肉ノ攣縮ニヨリテ特有ナル移動ヲ早セルモノ (n. Mattis)



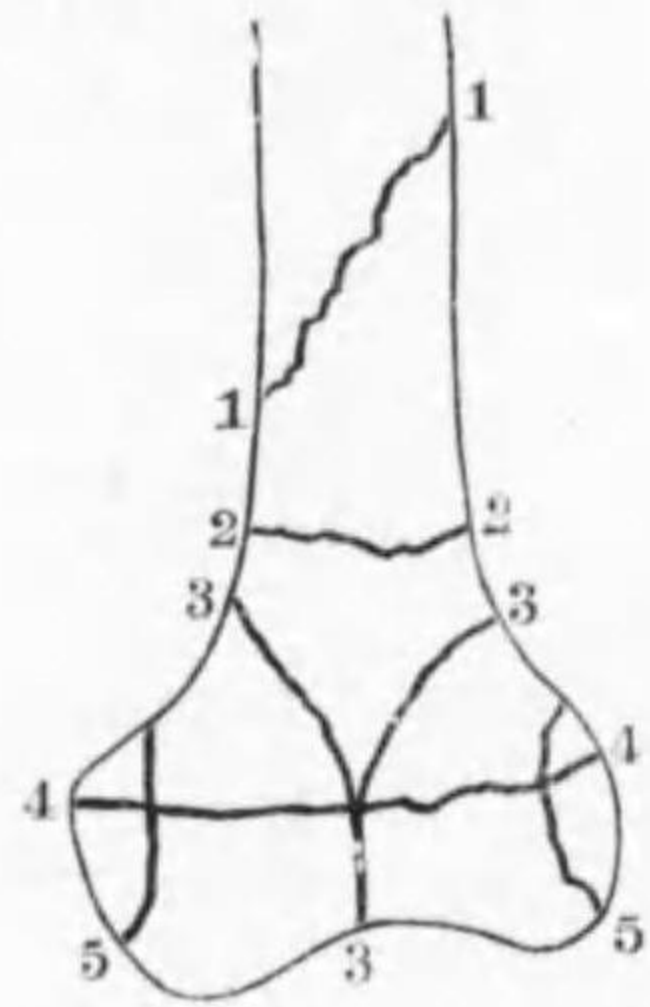
XIV. 膝關節部ノ骨折及脱臼
Fraktur u. Luxation der Kniegelenkgegend

Table with 5 columns: Fracture types (a-e), Cause, Complications, Functional impairment, Pain, Lower limb axis change, Joint swelling, Joint effusion, Bone displacement, Other, and Differentiation. It details conditions like supracondylar fracture, epiphyseal separation, and condylar fracture.

Table with 4 columns: Tibial shaft fracture (a-d), Cause, Complications, Functional impairment, Pain, Lower limb axis change, Joint swelling, Joint effusion, Bone displacement, Other, and Differentiation. It details conditions like supracondylar fracture, epiphyseal separation, and condylar fracture.

第三百一圖

- 大腿骨下端骨折ノ諸型
- 1) 大腿骨下三分ノ一斜骨折
 - 2) 大腿骨髌上骨折
 - 3) Y状骨折
 - 4) 大腿骨下端骨端線離解
 - 5) 大腿骨髌單獨骨折



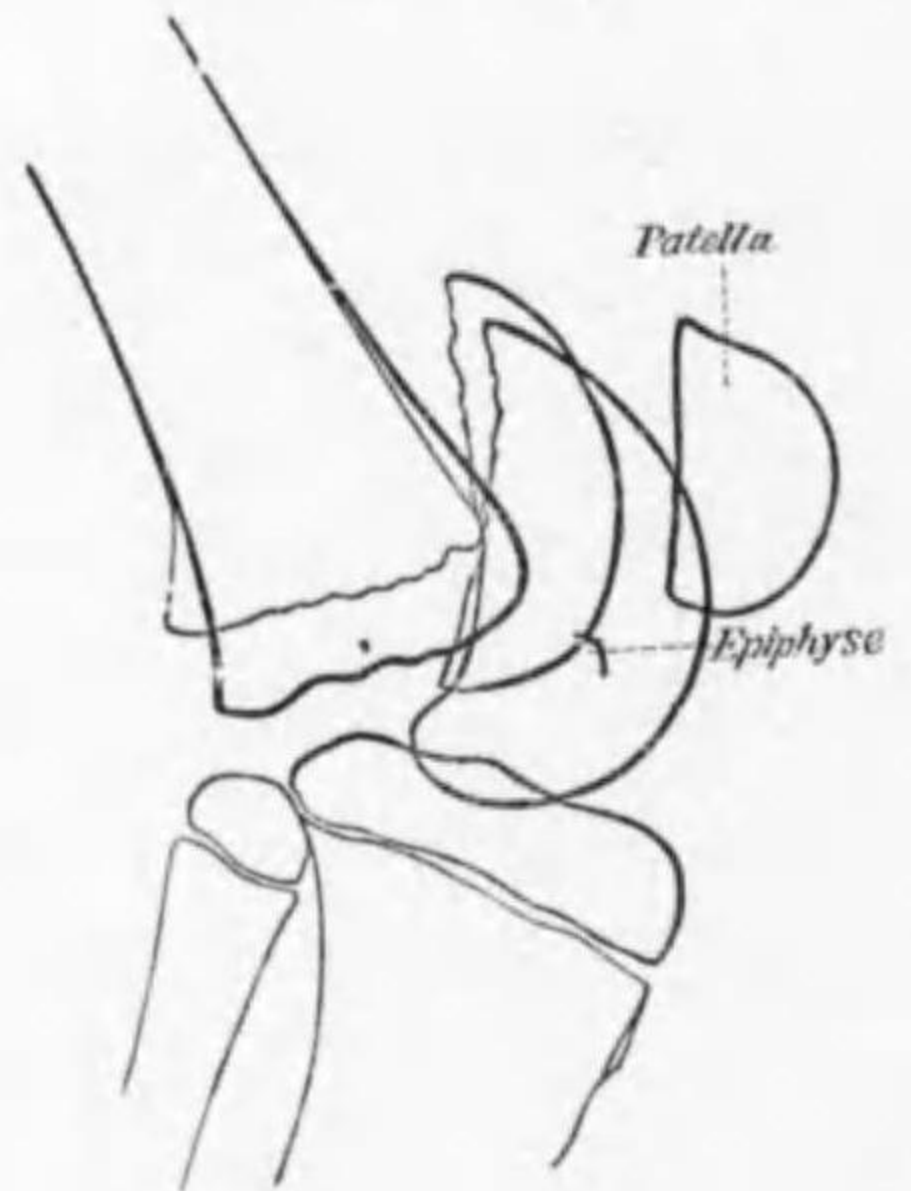
第三百三圖

大腿骨髌上骨折
(横骨折及屈曲)
(n. *Quervain*.)



第三百二圖

大腿骨下端骨端線離開ニシテ骨頭部骨幹ト膝蓋骨ノ間ニ箱入セルモノ



第三百四圖

大腿骨髌上骨折(斜骨折)
(n. *Quervain*)



第三百五圖

脛骨内髌斜骨折



第三百六圖

脛骨外髌及腓骨骨頭ノ斜骨折



第三百七圖

腓骨骨頭ノ單獨骨折



第三百八圖

脛骨上端及脛骨結節ノ骨端線離開



第三百九圖

脛骨内外髌骨折 (n. *Koen*)



第三百十圖

脛骨外髌ヨリ脛骨骨幹ニ向ヘル多發性縦骨折



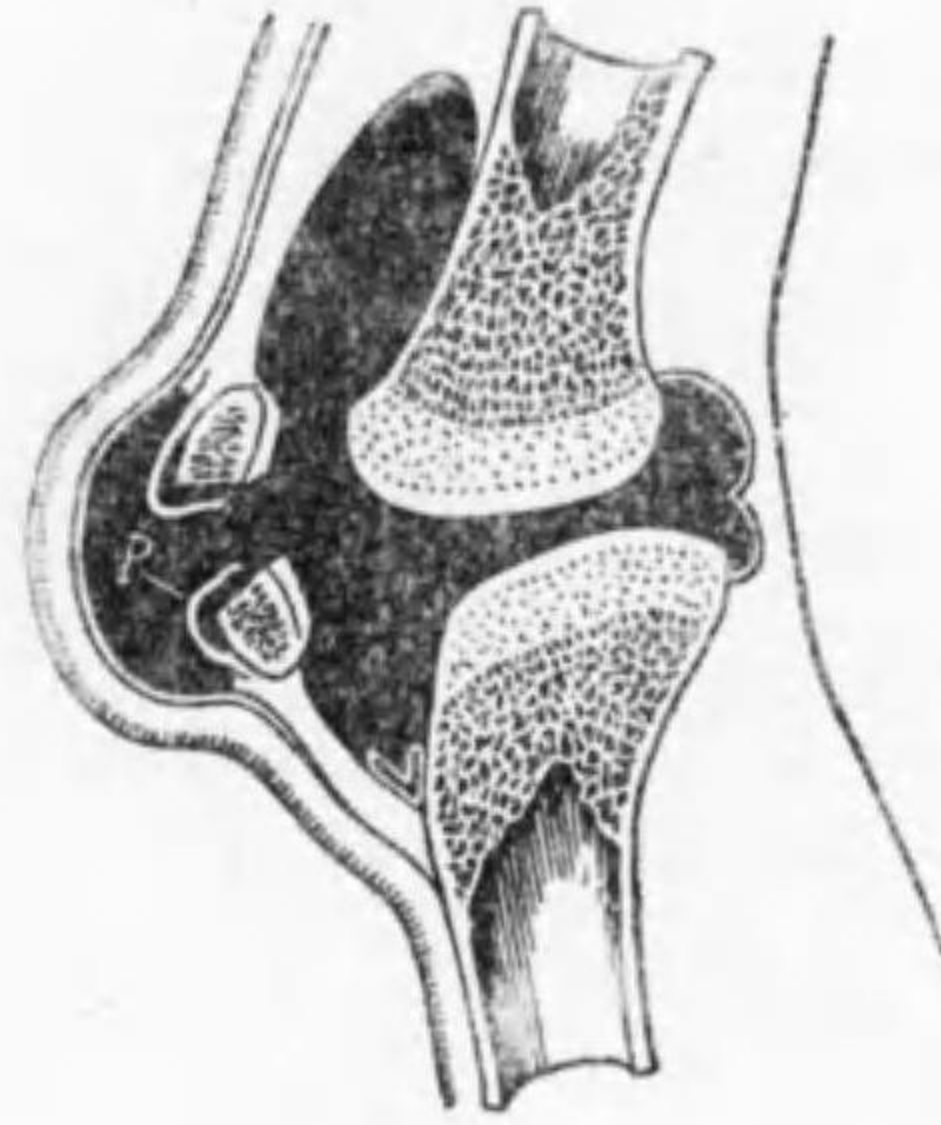
(續)	4) 膝蓋骨骨折 Fraktur d. Patella		5) 四頭股筋腱断裂(甚稀)	6) 膝蓋靭帯断裂(甚稀)
	a) 横骨折 Querfraktur	b) 縦骨折(甚稀) Längsfraktur	Ruptur d. Sehne d. M. quadriceps	Ruptur d. Lig. patellae
原因	直達外力(打撲・衝突・鈍創等ニヨル場合ニハ横・縦骨折ノミナラズ、T状・Y状・粉碎骨折等)又ハ介達外力(四頭股筋ノ急劇ノ攣縮等)ニヨル(横骨折)。		膝蓋骨横骨折ト同様ニ四頭股筋ノ急劇ナル攣縮ニ因ル(例ヘバ後方ニ倒レントスルヲ急劇ニ防止セントスル際等)。	
副損傷	脛骨結節ノ断裂ヲ伴フコトアリ(特ニ介達外力ニヨル)。		多クハ(-)。	
機能障礙	完全骨折ニ於テハ起立歩行・階段上昇不能。不全骨折ニテハ前々可能。	左記ノ機能障礙顯著ナラズ。	膝關節ノ自動的伸展運動不能、併シ不全断裂ニ於テハ可能。他動的ニハ運動自由ニシテ其際疼痛著シカラズ。	
疼痛	膝蓋骨ヲ横切りテ自發痛及ビ壓痛著明。	膝蓋骨ニ縱ニ自發痛及ビ壓痛著明。	膝蓋骨上部ニ	膝蓋骨下部ニ
下肢長軸ノ變化	膝關節部ニテ屈曲ス、併シ短縮ナシ。	膝關節屈曲輕度。	膝關節部ニテ屈曲ス、併シ下肢短縮ナシ。	
關節血腫	多クハ著明。		著明ナラズ。	
關節外血液滲潤	屢々著明ナリ。或ハ粘液囊ニ相當シ上方ニモ腫脹アリ。		時トシテ著明(骨折ニ比シ少シ)。	
骨端移動及變形	屢々兩骨折片ノ移動著明、時トシテハ其間ニ横溝ヲ觸ル。	骨折片移動著明ナラズ、時トシテ縦骨折線ヲ觸ル。	膝蓋骨ノ上方ニ	膝蓋骨ノ下方ニ
其他	時トシテ軋音ヲ認ム。		(-)	
鑑別	多クハ容易ナルガ i) 次記ノ腱断裂(5,6)及ビ ii) 重症挫傷(疼痛・出血・患肢ノ異常位・X線等)ト區別スベシ。	i) 重症挫傷及ビ ii) 附近ノ骨折等ト鑑別スベシ。	多クハ容易。 i) 膝蓋骨横骨折(挫傷部位・疼痛・出血等ニヨル)ト區別ス。 ii) (5)及(6)ノ區別ハ以上ノ變化ガ膝蓋骨ノ上方ニアルカ又ハ下方ニアルカニ據ル。	

7) 膝關節脱臼(甚稀) Luxation d. Kniegelenks			8) 膝關節間軟骨脱臼及断裂(甚稀)	9) 上脛腓關節脱臼
a) 全脱臼 靭帯断裂 mit Sehnenruptur	b) 全脱臼 Vollständige Luxation	c) 不全脱臼 Unvollständige Luxation	Luxation u. Ruptur d. Semilunalknorpels (Meniesken)	L. d. oberen Tibia-fibular- gelenks
甚ダ稀ナリ、膝關節ノ強劇ナル伸展・屈曲・捻轉或ハ打撲等ニ因ス、之レハ次記ノ如ク種々ノ方向ニ脱臼スルモ全脱臼ハ稀ニシテ不全脱臼ナルコト多シ。			膝關節ノ重症捻挫ニ際シテ關節間ノ半月狀軟骨ガ断裂シ、或ハ附着靭帯ノ断裂ニヨリテ脱臼スルコトアリ。	直達外力、甚ダ稀ニハ腓骨附着筋ノ急劇ナル攣縮ニヨル。
大腿骨下端又ハ脛骨上端ノ骨折ヲ伴フコトアリ、骨頭ニヨリ膝關節ノ神經又ハ血管ヲ壓迫スルコトアリ。				脛骨又ハ腓骨上部ノ骨折(±)。
機能障礙顯著、併シ他動的ニハ運動可能(!)。			異常位ニ固定セラレ自動せず、他動的ニモ運動不能ニシテ彈性的抵抗アリ。	下腿ノ運動可能ナルモ患肢上ニ直立シ難シ。
初期ニハ自發痛・介達痛可ナリ著明ナルモ疼痛著シカラズ、但シ骨折ヲ伴フ場合ニハ此限ニアラズ。			嵌頓時劇痛著明ナルモ、隆出部ニ壓痛ナシ。	疼痛比較的輕度(骨折アレバ其疼痛ヲ伴フ)。
膝關節部ニテ少シク屈曲シ、下肢短縮シ、多少側方ニモ屈曲セルコトアリ。			屈曲著シカラズ、下肢延長(!)。	膝關節ヲ少シク屈曲。
時トシテ稍々著明、			輕度。	著明。
多クハ輕度或ハ無シ、併シ直達外力ニ因ル場合ニハ皮下溢血ヲ伴フコトアリ。			多クハ著明ナラズ。	
之レニ (i)前方脱臼 (ii)後方脱臼 (iii)側方脱臼 (iv)迴轉脱臼トアリ、多クハ異常位ニ膝蓋骨縁・大腿骨髌・脛骨端ヲ觸ル。			屢々膝關節ノ内側(稀ニ外側)ニ隆出セル軟骨ヲ觸ル。	腓骨骨頭常位ヲ去リテ前方(前脱臼)又ハ後方(後脱臼)ニ在リ。
(-)			關節鼠症狀。	時トシテ二頭股筋腱ノ緊張ヲ見ル。
時トシテ大腿骨下端骨折又ハ脛骨上端骨折ト鑑別ヲ要ス。			多クハ容易ナリ。 (i)(c)ノ區別モ困難ニアラズ。	多クハ容易、時トシテ腓骨骨頭骨折ト鑑別ヲ要ス。

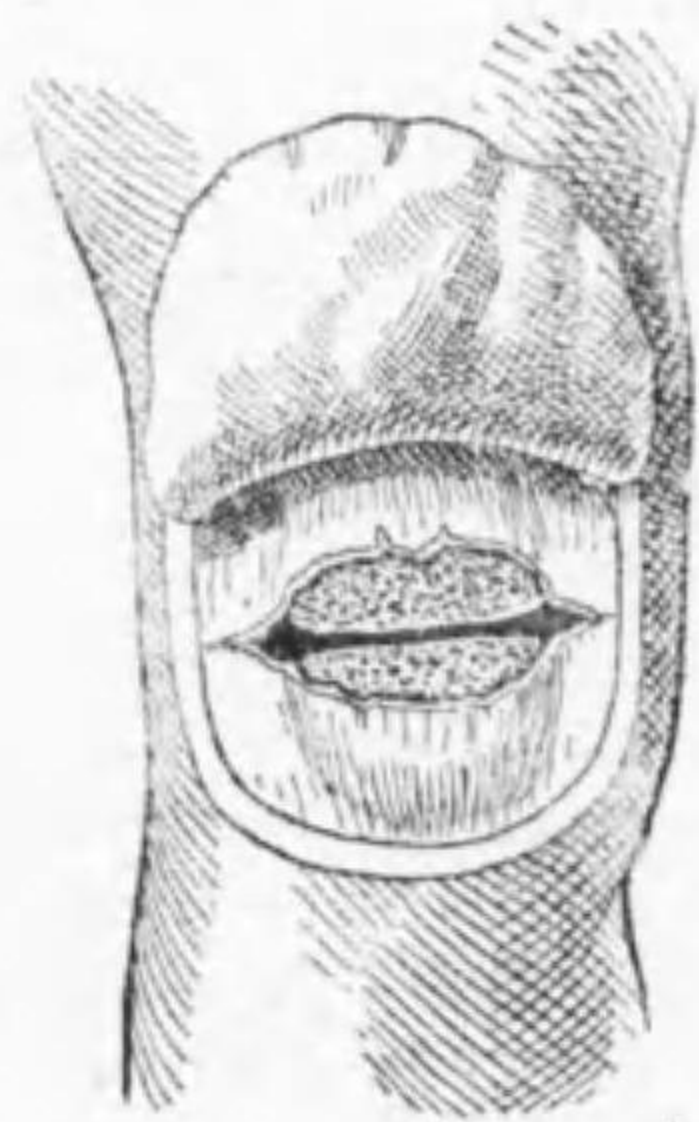
10) 膝蓋骨脱臼 Luxation der Patella (甚稀)			
a) 側方脱臼 Laterale Luxation	b) 鉛直脱臼 Vertikale L.	c) 水平脱臼 Horizontale L.	d) 轉軸脱臼 Torsions-L.
<p>原因 膝關節伸展位ニテ膝蓋骨ニ打撲又ハ衝突ヲ受ケタル爲メ、或ハ四頭筋ノ急劇ナル攣縮ニ因ル、脱臼ノ反對側ニテ關節囊ノ断裂アリ。</p> <p>症狀 1) 外側脱臼 a) 全脱臼 膝關節僅ニ屈曲位ニ固定セラレ自動運動全ク不能、他動運動僅ニ可能ナルモ其際劇痛ヲ訴フ。膝關節ノ横徑大トナリ、内側ニ大腿骨下端ノ内髌隆出シ、膝蓋骨外髌部ニ轉位セルヲ認ム(其運動著シク制限)、膝關節ノ前面ニ空虚ノ關節窩ヲ觸ル(併シ出血多キ時ハ不明)、膝蓋骨ニ附着セル四頭筋筋腱及ヒ膝蓋腱緊張シテ膝蓋骨ノ上部ニ變帶ヲ形成ス。</p> <p>b) 不全脱臼 膝關節ハ窄口伸展位ニアリ、膝關節ノ横徑左程大トナラズ、前面ニ膝蓋骨ノ膨隆ヲ認ムルモ可ナリ外方ニ轉位シ、内方ニ關節窩ノ一部ヲ觸ル、<u>四頭筋筋腱及ヒ膝蓋腱著明ニ緊張ス。</u></p> <p>2) 内側脱臼 (甚稀)、不全脱臼ナルヲ常トス、前記ノ外側不全脱臼ニ類シ、只内側ニ脱臼スルヲ異トスルノミ。</p> <p>鑑別 特異ノ症狀ニヨリ容易。</p>	<p>原因 膝蓋骨ノ外縁若クハ内縁ニ劇シキ打撲又ハ衝突ヲ受ケタル爲ニ起リ、一層稀ニハ膝關節ヲ屈曲シテ腿ヲ僅ニ廻轉・外轉又ハ内轉セル際ニ四頭筋筋ガ急劇ニ攣縮セル爲ニ起ル。囊狀靭帯ノ断裂著明ナルヲ常トス。軟骨面ノ方向ニヨリテ</p> <p>i) 内鉛直脱臼(内方ニ向フ)、ii) 外鉛直脱臼(外方ニ向フ)ヲ分ツ、甚ダ稀ニハ iii) 膝蓋骨ガ外髌ノ側方ニ脱臼ス。</p> <p>症狀 膝關節多クハ伸展位(稀ニ稍々屈曲位)。膝關節ノ前後徑大トナリ普通ノ隆起ヲ失ヒ膝蓋骨ノ側縁皮下ニ隆出ス。中央部ニ隆出スルコト多キモ、稍々外方又ハ内方ニ在ルコトモアリ。</p> <p>四頭筋筋腱及ヒ膝蓋腱隆起部ニ連リテ著明ニ緊張ス、時トシテハ皮下ニ軟骨面ヲ觸ル。膝關節運動不能。膝蓋骨ハ左右ニハ僅ニ可動ナルモ縦ニハ不動。</p> <p>鑑別 容易。</p>	<p>原因 轉過・器械等ニヨリテ膝蓋骨ガ強制ニ上方又ハ下方ニ打撃・衝突セラレタルニ因ル。之レガ爲メニ膝蓋骨ガ脱轉シテ大腿骨髌ト麗骨ノ關節面トノ間ニ嵌入ス(故ニ嵌入脱臼 Einkeilungs-L. ノ名アリ)、膝蓋骨ガ軟骨ノ上方又ハ下方ニ向ヘルトニヨリテ i) 上方脱臼 ii) 下方脱臼ノ別アリ、尙此際四頭筋筋腱又ハ膝蓋腱ノ断裂ヲ伴フコト多シ。</p> <p>症狀 膝關節稍々屈曲位ニ固定セラル、關節血腫ニヨリテ膝關節多ク腫脹シ常位ニ膝蓋骨ヲ觸レズシテ大腿骨髌ノ下ニ膝蓋骨ニ相當スル隆起物横ハリ其下ニ陷凹ヲ認ム。之レハ多少可動性ナルモ其際劇痛ヲ訴フ。其上方ニ四頭筋筋腱又ハ下方ニ膝蓋腱緊張ス(断裂アレバ不明)。</p> <p>鑑別 容易。</p>	<p>原因 鉛直脱臼ト發生動機同様ニシテ其程度一層重キ爲、膝蓋骨ガ其縱軸ニテ廻轉ヲナシテ軟骨面皮下ニ向フモノヲ云フ。此際關節囊ハ兩側ニテ断裂セラレ四頭筋筋モ断裂セラルルコト多シ。</p> <p>症狀 膝關節ハ伸展位ニ固定セラレ、膝蓋骨多クハ外方ニ偏シ外縁隆出シ、内縁ノ外方ニ大腿骨内髌ノ骨隆起ヲ觸ル、四頭筋筋腱及ヒ膝蓋腱断裂セラレザル時ハ皮下ニ膝蓋骨ニ向フ索狀物ノ緊張ヲ認ム。</p> <p>鑑別 容易ナルガ、膝蓋骨側方脱臼ト區別スベシ。</p>

(續)	11) 膝關節捻挫 Distorsion d. Kniegelenks			12) 膝關節挫傷 Kontusion (Quetschung) d. Kniegelenks
	a) 内側靭帯断裂 ヲ伴ヘルモノ	b) 十字靭帯断裂 ヲ伴ヘルモノ	c) 單純捻挫	
原因	膝關節ノ過度ノ伸展・外轉・内轉・外旋・内旋ニ因ル(脱臼ト發生原因同様ナルモ其程度輕度)。(a)及(b)ハ比較的外力ノ作用強キニ因ル。			膝關節部ノ打撲・衝突等ニ因ル。
副損傷	時トシテ附近ノ骨折ヲ來スコトアリ、 診察ニ際シテ注意スベシ。			表皮剝離・挫傷創ヲ兼ヌルコトアリ
機能障礙	機能障礙顯著、他動的ニハ可動。異常ノ外轉・軸捻。	自動的運動不能ナルモ、他動的ニハ異常過伸展。	機能障礙輕度、特ニ他動的ニハ運動障礙セラレズ、其際多少ノ疼痛アルモ骨折ノ如ク甚ダシカラズ。	
疼痛	自發痛・介達痛ハ中等度、靭帯附着部ニ壓痛顯著。	同左。併シ壓痛ハ限局性ナラズ、或ハ不明。	外傷ヲ蒙リタル場所ニ疼痛アリ。	
下肢長軸ノ變化	下肢多クハ少シク外轉位ニアリ。	前方又ハ後方ニ輕度ノ不全脱臼ノ狀ヲ呈ス。	膝關節内血腫著明ナレバ膝關節少シク屈曲スルコトアルモ、然ラザレバ常位ニ在リ。	
關節血腫	著明。			著明ナラザルコト多シ。
關節外血液滲潤	多クハ輕度、或ハ無。			無シ。屢々著明。
骨端移動及變形	下肢ヲ屈曲外旋セル際ニ靭帯緊張セズ、反ツテ内側ニ陷凹ヲ認ム。	著變ヲ認メズ。		
其他	軋轢音等ナシ。			
鑑別	多クハ容易。血腫高度ナル場合ニハ脱臼・骨折ト鑑別ヲ要ス、前記異常運動アルニ注意スベシ。單純性捻挫トノ區別ハ異常運動ノ有無ニ據ル。			多クハ診斷容易。時トシテハ變形明カナラザル脱臼又ハ、骨折ト鑑別ヲ要ス、時トシテハ暫時經過ヲ觀察シ、又ハX線検査ニヨリテ診斷セラルルコトアリ。

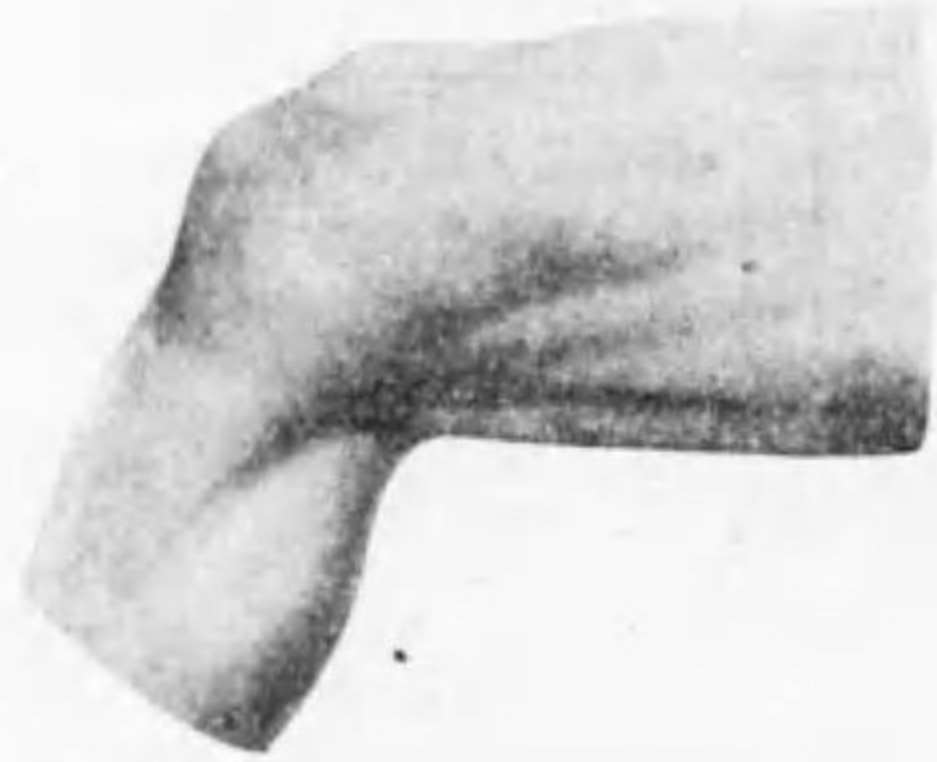
第三百十一圖
膝蓋骨骨折解剖圖
(側面)



第三百十二圖
同上(前面)
(n. Keen)



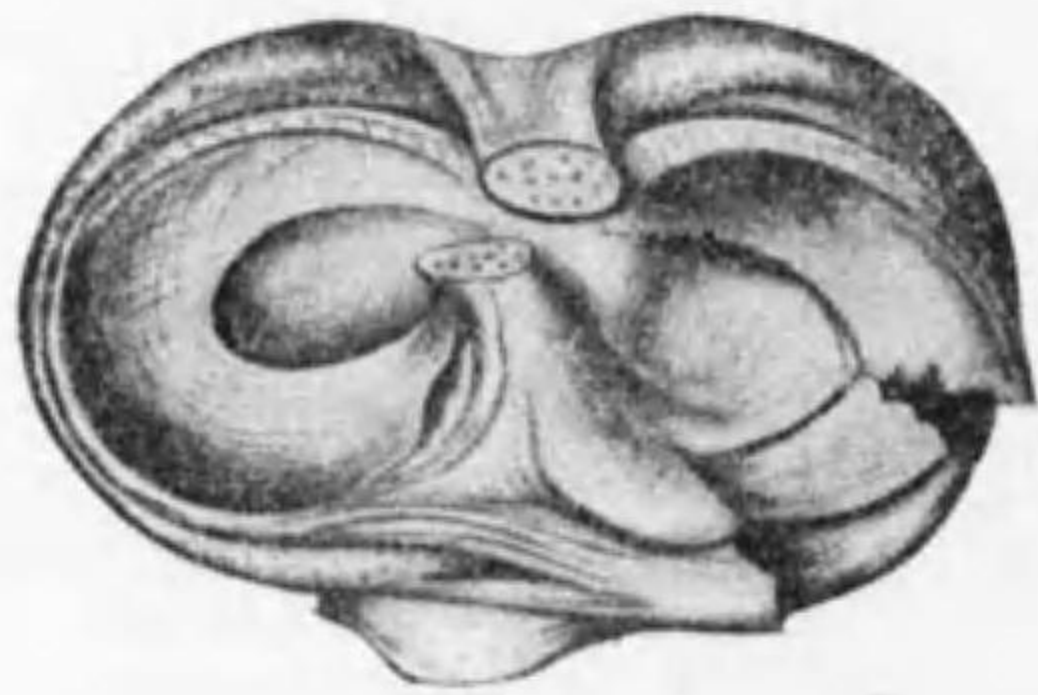
第三百十三圖
膝蓋骨ノ陳舊性骨折
(n. Cernach)



第三百十四圖
四頭股筋腱斷裂
(n. Helferich)



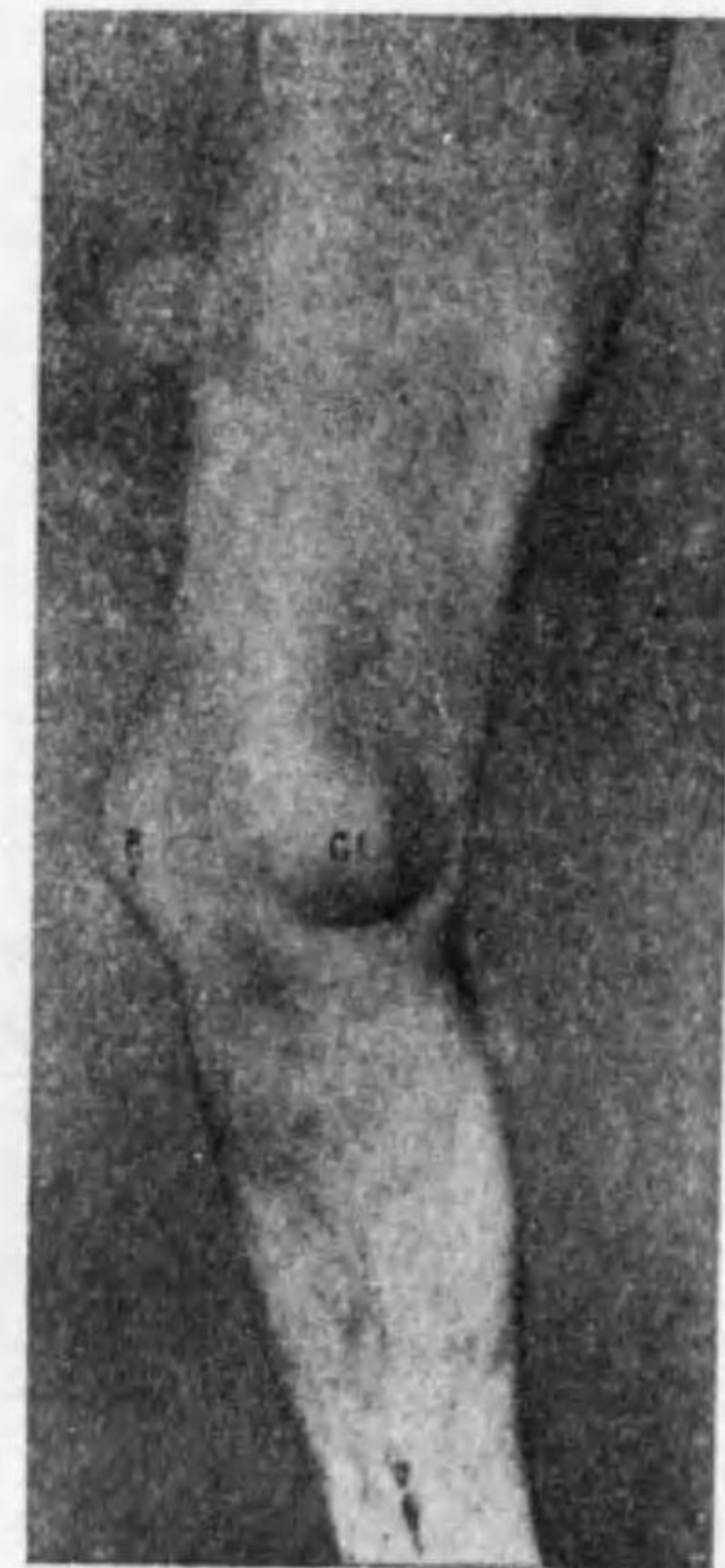
第三百十五圖
半月狀軟骨斷裂



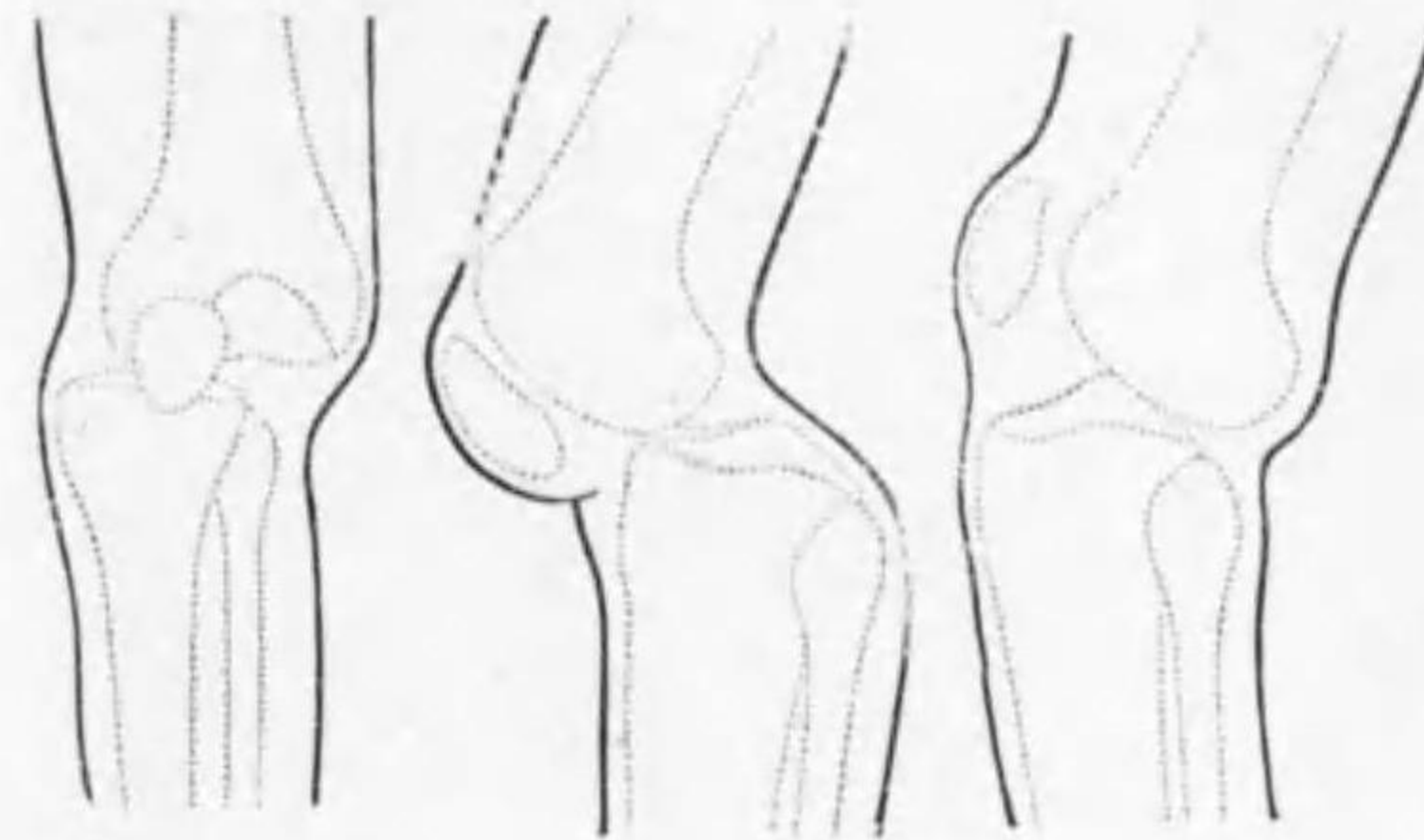
第三百十八圖
下腿側方脱臼



第三百十九圖
下腿側方脱臼
(n. Quercain)



第三百十六圖
膝關節脱臼
側方脱臼 後方脱臼 前方脱臼



第三百十七圖
下腿後方脱臼
(n. Bergmann)



第三百二十圖
膝蓋骨外側脱臼



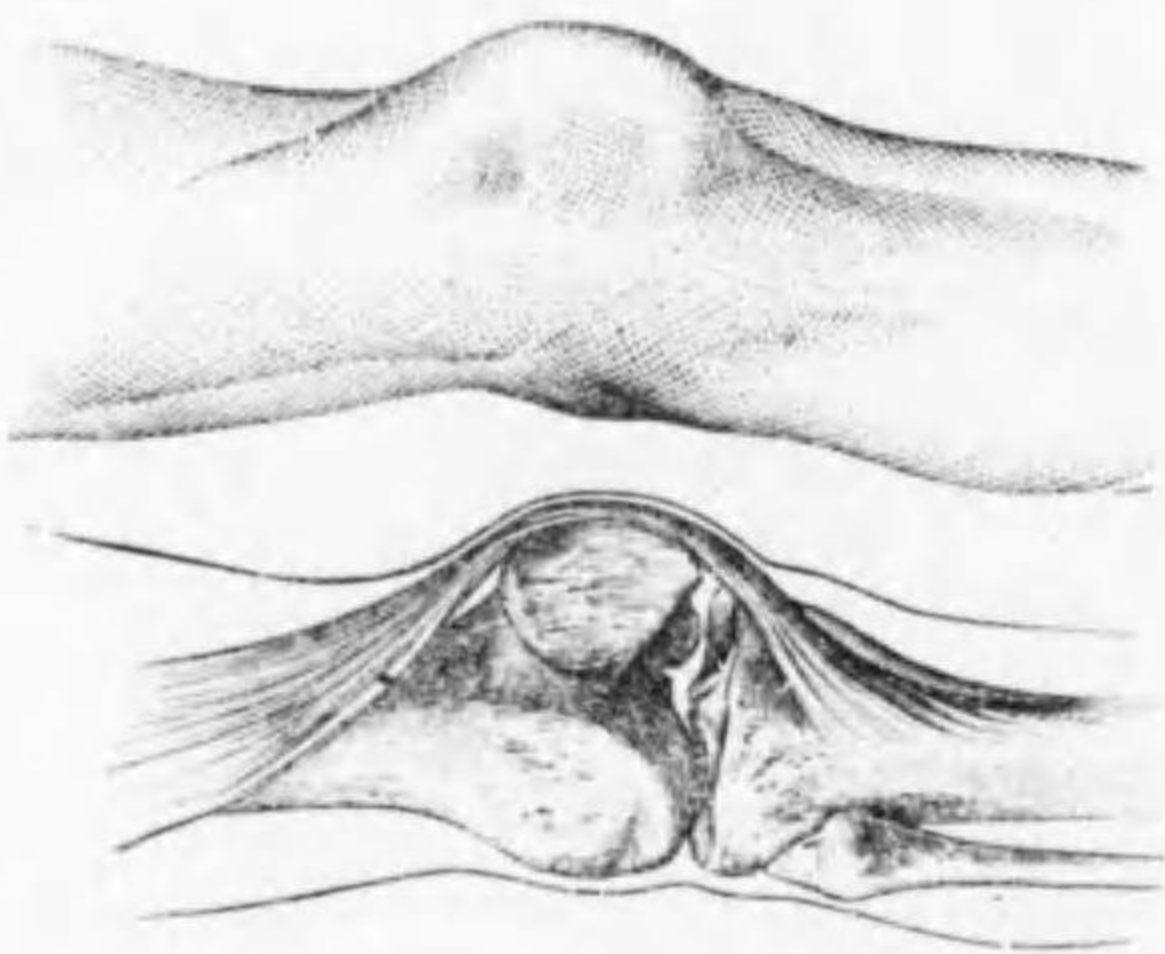
第三百二十二圖
膝蓋骨捻轉
(n. Hoffa)



第三百二十三圖
膝蓋骨嵌入脱臼
(n. Brunsche Klinik.)



第三百二十一圖
膝蓋骨鉛直脱臼
(n. Hoffa)



第三百二十四圖
膝關節前方脱臼
(n. Bergmann)



XV. 下腿骨骨幹骨折

Fraktur d. Diaphyse d. Unterschenkelknochen

1) 兩下腿骨骨幹骨折
Fraktur d. Diaphyse
d. beider Unterschenkelknochen

原因 a) 直達外力(馬蹄傷・打撲・重物落下・經過・器械傷・銃創・彈片創等)ニヨリテ屢々骨折起サルルガ、此際ニハ開放骨折・複雑骨折ナルコト多シ。

b) 介達外力(高處ヨリ墜落シテ足ヲ地上ニ強く衝キタル爲メ、下腿ノ強制ナル捻振等)ニヨルコトモアリ、此際ニハ皮下骨折ナルコト多キモ、骨折片ニヨリ續發的ニ皮膚ヲ破ルコトアリ。

骨折型 中三分一ニ最モ多ク、下三分一又ハ兩者ノ中間ニモ多シ。

骨折型ハ斜骨折最モ多ク、横骨折ハ稀ナリ、時トシテハ螺旋骨折・粉碎骨折・翼笛狀骨折・冰裂骨折等アリ、銃創ニヨリテハ孔狀骨折・蝴蝶骨折等ヲ見ル。又下腿ニハ複雑骨折多シ(神經・血管・皮膚等ノ損傷)。

症狀及鑑別 下腿骨骨折ノ診斷ハ比較的容易ナリ、之レ骨折ノ各症狀即チ固定骨折痛(壓痛及ビ介達壓痛)・骨折部ノ腫知・變形及ビ短縮・異常運動・軋聲音・皮下溢血等著明ナルヲ以テナリ、甚ダシキハ下腿ガ骨折部ニテ著明ニ屈折シ、或ハ骨折片ガ皮膚ヲ破リテ外部ニ露出スルコトアリ。冰裂骨折ニ於テハ其症狀少ナキモ注意シテ檢スレバ大抵診斷セラル、併シ骨折型ノ診斷ハX線検査ニヨラザルベカラズ。

2) 脛骨骨幹ノ單獨骨折
Fraktur d. Tibiadiaphyse

脛骨ノ骨折ヲ見ルコトハ比較的稀ナリ、之レ脛骨ニ骨折アル時ハ細キ腓骨モ共ニ骨折セラルルヲ以テナリ。

脛骨ノ單獨骨折ニ於テハ兩下腿骨折ノ如クニ顯著ナル症狀ヲ呈セズ、特ニ骨折片ノ轉位至ツテ少ナシ、之レ健存セル腓骨ニヨリテ支持セラルレバナリ、併シ上折片ハ四頭股筋ト腓腸筋トノ收縮ニヨリテ稍々前方ニ轉位スルコトアリ、之レガ爲ニ脛骨ニ骨折縁ヲ觸レ、或ハ異常運動・軋聲音ヲモ認ムルコトアリ。

其他固定骨折痛及ビ皮下溢血アリ、骨折甚シカラザル場合ニハ起立歩行可能ナリ。

鑑別 重傷ノ挫傷ト鑑別ヲ要スルモ容易ニ區別セラル。

3) 腓骨骨幹ノ單獨骨折
Fraktur d. Fibuladiaphyse

脛骨ノ單獨骨折ニ比シテ多シ、直達外力ニヨリ斜骨折・横骨折ナルコト多シ、腓骨ハ厚キ筋層ニ覆ハルル爲メ骨折部ヲ觸知シ難ク、骨片ノ移動モ著シカラズ、起立歩行可能ナルガ爲ニ診斷屢々困難ナリ。

併シ骨折部ニ固定疼痛アリ、足部ノ迴轉運動ニ際シテ骨折部ニ疼痛ヲ訴フルノミナラズ、時トシテ其軋聲音ヲ發シ、稀ニハ骨折端ノ變位ヲ認ム。併シ確診ヲ下スニハX線検査ヲ要スルコト多シ。

XVI. 足關節及足部主要外傷診斷要項 Diagnostische Bemerkungen d. wichtigen Verletzungen des Fussgelenks u. des Fusses

(A) 足關節部ノ形態異常	a) 他動的運動可能(骨折症狀ヲ伴フ)。	足關節ノ 2-3cm 上方 = 壓痛アルモノ。	1) 踝上骨折 F. supramalleolaris	
		内外踝 = 壓痛アルモノ。	2) 踝骨折 F. malleolaris	
	b) 他動的運動不能・彈性的抵抗アリ(骨折症狀ナキモノ)。	距骨ガ足踝部ニ對シテ異常位ニアリ	足部推移高度	3) 脚距關節脱臼 L. talocruralis
		他動的運動全ク不可能ナルモノ。	足部推移輕度	4) 距骨脱臼 L. tali
	距骨ノ足踝部ノ關係尋常、足ノ屈伸可能ナルモノ。		5) 距骨下足脱臼或ハ距跟關節脱臼 L. subtalo	
(B) 形態異常無キモノ	a) 骨ノ壓痛・軸壓痛・出血等ノ骨折症狀著明ナルモノ。	足背屈曲 = 際シテ特ニ疼痛著シキモノ。	6) 距骨骨折 F. tali	
		足蹠面屈曲 = 際シテ特ニ疼痛著シキモノ。	7) 跟骨結節骨折 F. tuberi calcanei	
		廻前廻後 = 際シテ特ニ疼痛著シキモノ。	8) 跟骨體骨折 F. corpi calcanei	
	b) 足ノ靭帶部 = 壓痛アルモノ軸壓痛著シカラザルモノ。	側靭帶 = 壓痛アリ、自動的運動可能(但シ疼痛ヲ伴フ)。	9) 足關節捻挫 Distorsion d. Fussgelenks	
	アヒレス腱部 = 壓痛陷凹アリ、足蹠面屈曲不能。	10) アヒレス腱断裂 A. Achillessehnenruptur		

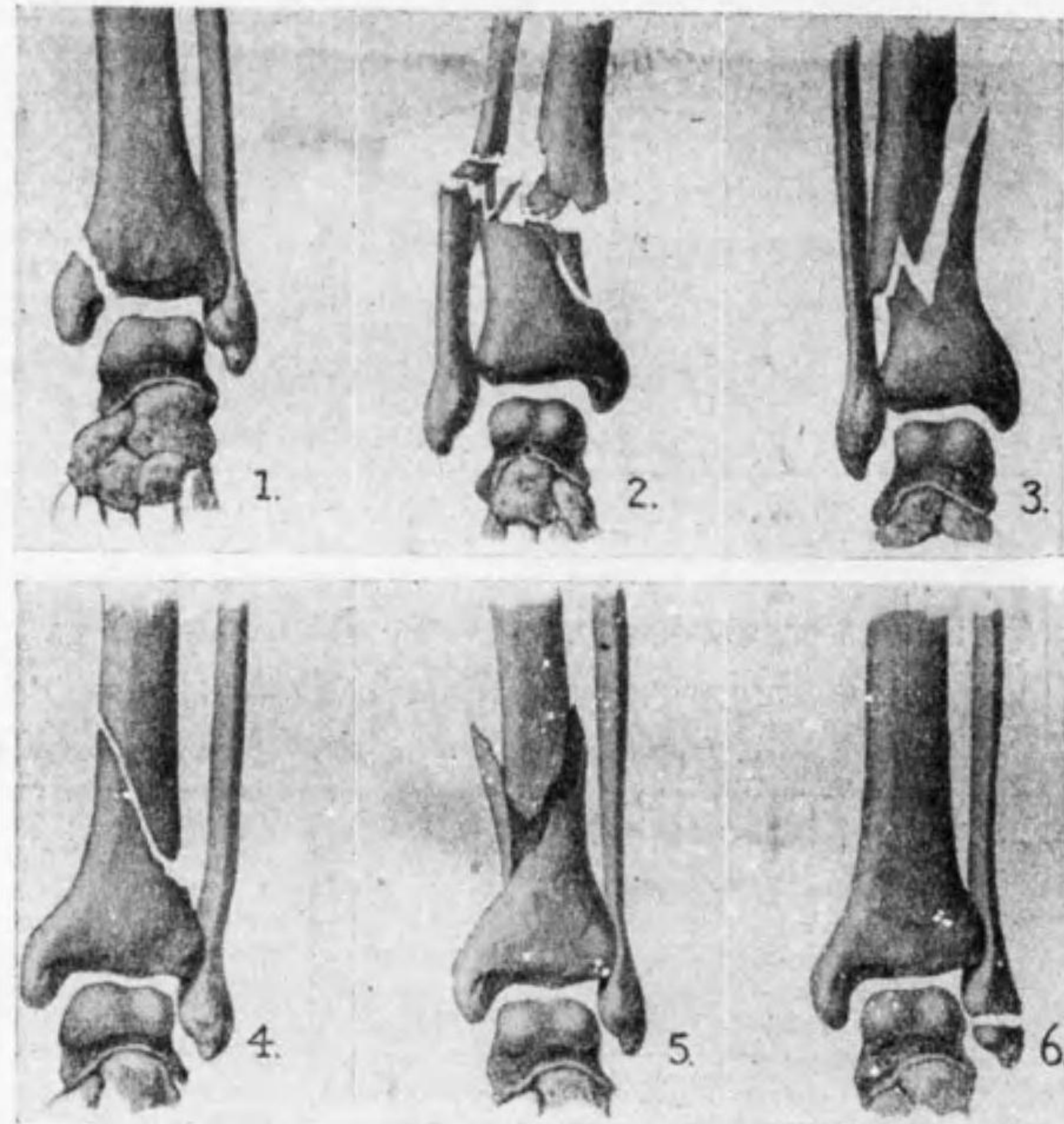
足部異常位ニヨル診斷指針 (不全脱臼・骨折片移動ナキ骨折ニテハ變狀ナキコトアリ)。

(a) 足ノ内轉	1) 足關節脱臼(廻後脱臼) L. talocruralis (Supinations-L.) 2) 足關節脱臼(内方廻轉脱臼) L. talocruralis (Innenrotations-L.) 3) 距骨單獨脱臼(廻轉脱臼) Isolierte L. d. Talus (Rotations-L.)
(b) 足ノ外轉	1) 下腿踝上骨折 F. supramalleolaris. 2) 踝骨折(廻轉骨折) F. malleolaris (Rotations-F.) 3) 足關節脱臼(廻前脱臼) L. talocruralis (Pronations-L.) 4) 足關節脱臼(外方廻轉脱臼) L. talocruralis (Aussenrotations-L.) 5) 距骨單獨脱臼(廻轉脱臼) Isolierte L. d. Talus (Rotations-L.)
(c) 足背延長及足蹠短縮	1) 足關節脱臼(外方脱臼) L. talocruralis (Aussen-L.) 2) 距骨下足脱臼(外方脱臼) L. pedis subtalo (Aussen-L.) 3) リスフランク氏關節脱臼(上方及下方脱臼) L. d. Lisfrancschen Gelenks.

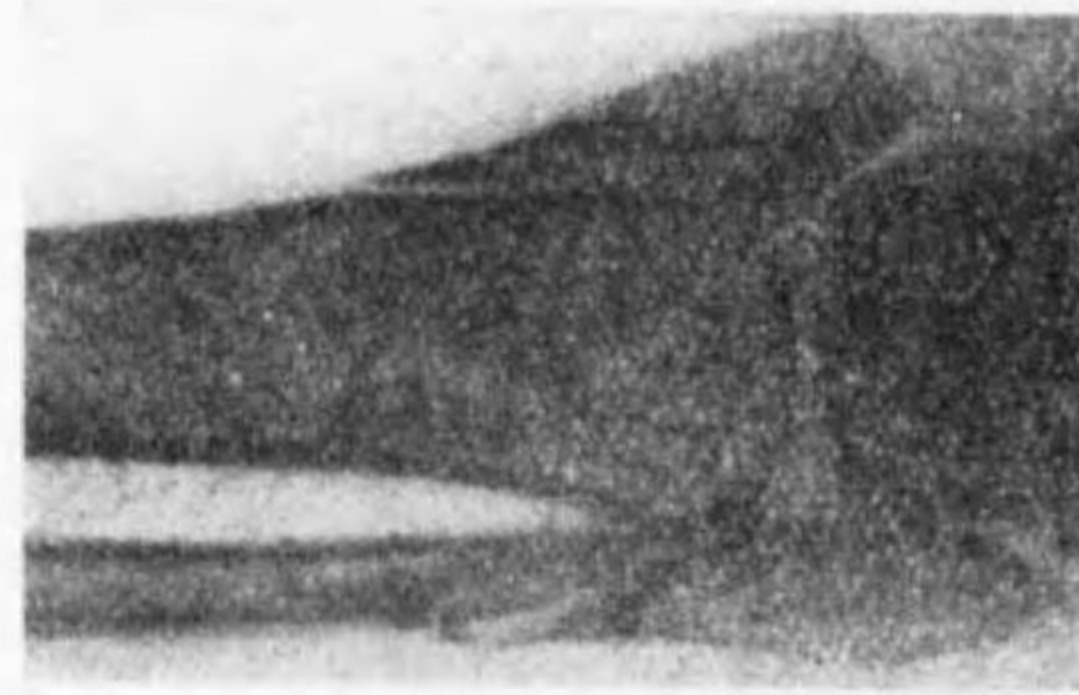
(d) 足及足蹠短縮	1) 下腿踝上骨折 F. supra malleolaris. 2) 足關節脱臼(後方脱臼) L. talocruralis (hintere L.) 3) 足關節脱臼 L. talocruralis (obere L.) 4) 距骨下足脱臼(前方脱臼) L. pedis subtalo (vordere L.) 5) 距骨單獨脱臼(前方及後方脱臼) Isolierte L. d. Talus (輕度) 6) リスフランク氏關節脱臼 L. d. Lisfrancschen Gelenks (上方及下方脱臼) 7) リスフランク氏關節脱臼(交叉脱臼 divergierende L.)。
(e) 内翻足狀	1) 踝骨折(内轉或ハ廻後骨折) Malleolen-F. (Adduktions-od. Supinations-F.) 2) 足關節脱臼(内方廻轉脱臼) L. talocruralis (Innenrotations-F.) 3) 距骨下足脱臼(内方脱臼) L. Pedis subtalo (innere L.) 4) 距骨單獨脱臼(外方脱臼) Isolierte L. d. Talus (äußere L.) 5) ショパー氏關節脱臼(内方脱臼) L. d. Chopartschen Gelenks (innere L.)
(f) 足部足蹠面ニ沈降	1) 跟骨壓迫骨折 Kompressions-F. d. Calcaneus. 2) 足關節脱臼(上方脱臼) L. talocruralis (obere L.)
(g) 足蹠ノ幅員増大	1) 跟骨壓迫骨折 Kompressions-F. d. Calcaneus. 2) ショパー氏關節脱臼(内方或ハ外方脱臼) L. d. Chopartschen Gelenks.
(h) 足關節ノ幅員増大	1) 足關節脱臼(上方) L. talocruralis (骨部ノ幅員増大) 2) 足關節脱臼(血腫著明ナル場合)等 3) 挫傷及ビ捻挫(血腫・溢血著明ナル場合)
(i) 鈎足	1) 跟骨結節横断裂 Querbruch d. Tuberi calcanei 2) アヒレス腱全断裂 Vollständige Ruptur d. Achillessehne.
(j) 尖足	1) 腓骨筋腱脱轉 L. d. Tend. m. peroneus. 2) 後脛骨筋脱轉 L. d. Tend. m. tibiae post. 3) 腓骨神經脱轉 L. d. N. peroneus.
(k) 足ノ銃槍狀屈曲	1) リスフランク氏關節脱臼(内方) L. d. Lisfrancschen Gelenks (内方 = 屈曲) 2) リスフランク氏關節脱臼(外方) L. d. Lisfrancschen Gelenks (外方 = 屈曲)
(l) 足短縮シ且厚クナル	1) リスフランク氏關節交叉脱臼 Divergierende L. derselben.
(m) 趾屈曲	1) 距骨單獨脱臼(後方) Isolierte L. d. Talus (輕度) 2) 趾骨骨折 F. d. Zehenknochen. 3) 趾骨脱臼 L. d. Zehenknochen.
(n) 足背小窪起	1) 單一渡骨脱臼 Isolierte L. d. Metatarsus (I. V. = 多シ)

第三百二十五圖

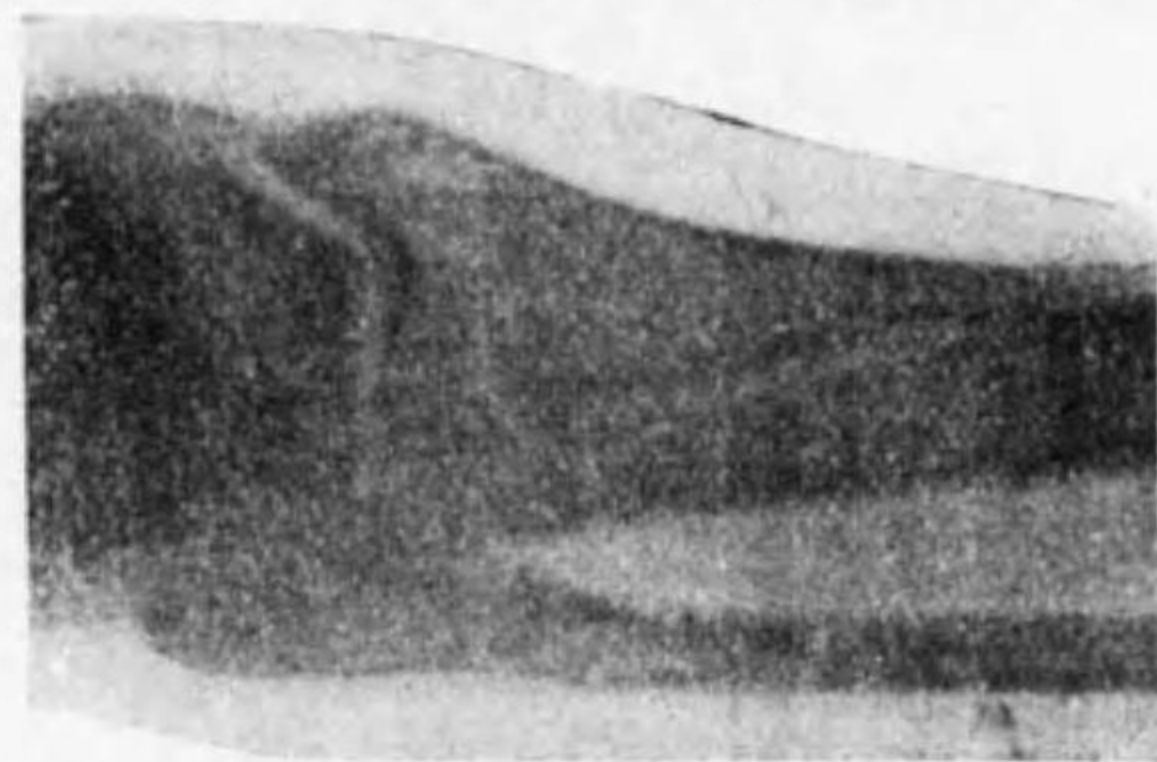
- 1. 内踝骨折
- 2. 下腿下三分ノ一上部ニ於ケル脛骨及腓骨骨折
- 3. 脛骨斜骨折ニテ上骨折片ノ外方轉位ヲ有スルモノ
- 4. 脛骨斜骨折ニテ骨折片轉位ナキモノ
- 5. 脛骨下三分ノ一ノ螺旋狀骨折
- 6. 外踝單獨骨折 (n. Keen Surgery)



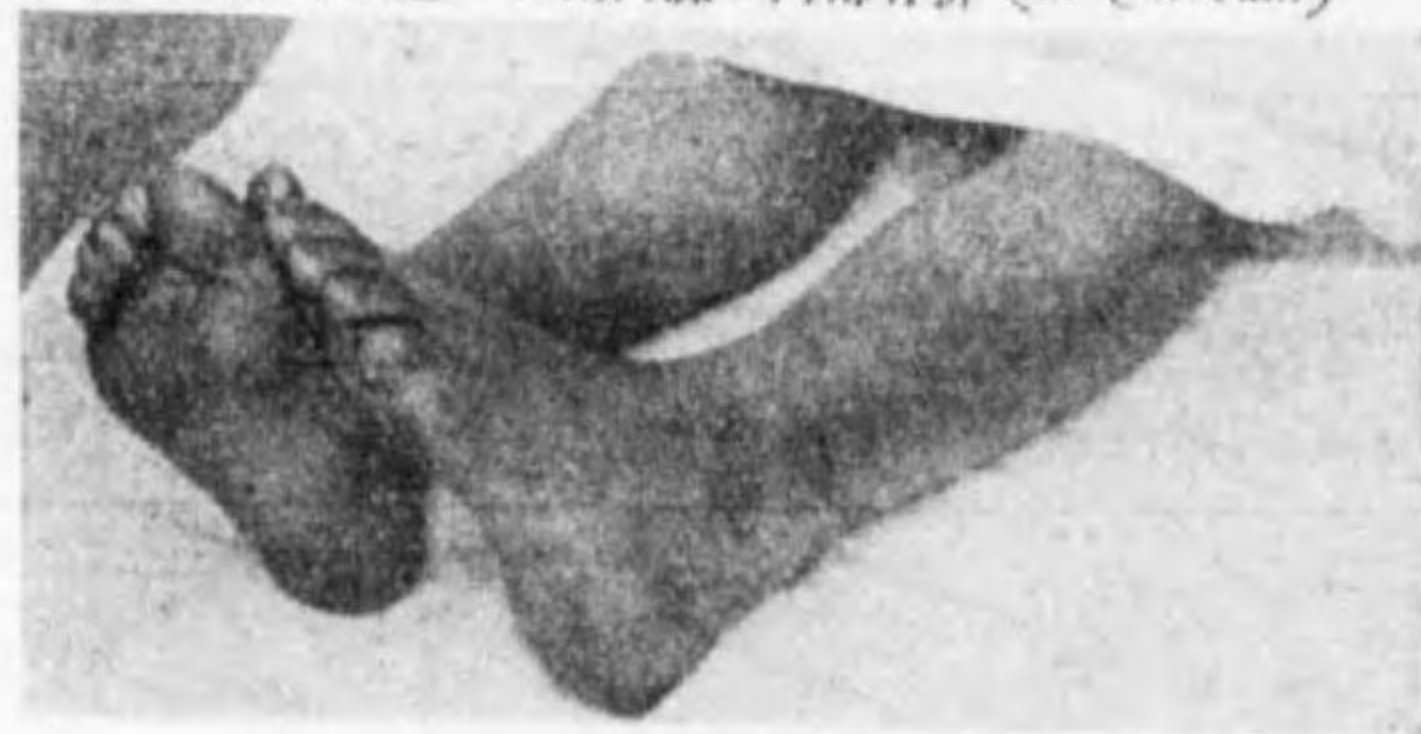
第三百二十六圖 内踝ノ内轉骨折及腓骨ノ扭狀骨折 (n. Quervain)



第三百二十七圖 脛骨及腓骨ノ脛上捻狀骨折 (n. Bergmann)



第三百二十八圖 左側内踝ノ内轉骨折 (n. Quervain)



第三百二十九圖 外方迴轉骨折 (n. Fergmann)



第三百三十二圖 外踝外轉骨折 (n. Quervain)



第三百三十圖 跟骨結節骨折 (n. Quervain)



第三百三十三圖 骨折片ノ轉位著明ナル距骨骨折 (n. Kohlhardt)



第三百三十一圖 右側跟骨壓迫骨折(内外踝ノ沈降)



第三百三十四圖 跟骨體ノ壓迫骨折



XVII. 足關節及足部主要骨折及脱臼

	1) 下腿踝上骨折 F. supramalleolaris (足關節ノ12-3cm上部ニ於ケル骨折ニテ横骨折・斜骨折・捻骨折等アリ)。	2) 踝骨折 F. malleolus		
		a) 内轉或遅後骨折 Adduktions-ol. Supinations-F.	b) 外轉或遅前骨折 Abduktions-ol. Pronations-F.	c) 迴轉骨折 Rotations-F.
原因	直達外力(轢過・銃創等)・介達外力(高處ヨリ墜落、足ノ過度内轉等)。	足部ノ過劇ナル内轉遅後ニ因ルコト多シ。	足部ノ過劇ナル外轉遅前ニヨルコト多シ。	下肢長軸ニ對シテ足部ヲ過劇ニ迴轉セル爲(特ニ外方)
副損傷	時トシテ骨折端ニヨリテ皮膚・神經・血管ヲ傷ク。	内踝ノ骨折、時トシテ足關節不全脱臼。	屢々腓骨骨折、時トシテハ足關節不全脱臼。	腓骨下端骨折・距骨骨折ヲ兼ヌルコトアリ。
機能障礙	自動的運動不能。併シ他動的運動可能、或ハ異常運動、但シ其際劇痛ヲ訴フ。起立歩行不能。	機能障礙顯著ナラズ、歩行可能。	機能障礙著明、他動的運動尠々可能ナルモ、其際劇痛ヲ發ス。	機能障礙比較的輕度ニシテ、歩行可能(但シ疼痛アリ)。
視診の所見	骨折ノ状態ニヨリ種々ナリ、 i) 傷足ブラブラトナリ、下腿短縮、足關節ノ上部太クナル。 ii) 傷足外方ニ屈曲シ、骨折端著明ニ隆出。 iii) 稀ニ傷足前方又ハ後方ニ推移シ骨折端反對ニ突出。 iv) 變形著明ナラザルコトアリ。	傷足屢々内翻足狀ヲ呈シ、外踝部ニ腫脹著明、併シ變形著明ナラザルコトモアリ。	特有ナルハ外翻足或屈曲足ノ狀ヲ呈シ、下肢ノ長軸ニ對シテ足部外方ニ傾斜シ内踝部ニ腫脹アリ、或ハ足踝ノ横徑著大ニ見ユ、時トシテハ内踝特ニ隆出シ、外踝ノ直上ニ陷凹ヲ見ルコトアリ。	患足多クハ下腿長軸ニ對シテ約九十度外方ニ轉向シ、内外踝腫脹シ、時トシテハ内踝ノ轉位著明ナルコトアリ。
出血	關節血腫ハ稀、皮下溢血ハ毎當著明。	屢々關節血腫著明。關節外出血ハ著明或ハ輕度。		
觸診の所見 (疼痛等)	上記ノ骨折端ヲ皮下ニ觸ルル事アリ(±)、傷足ノ運動ニ際シ骨折端ノ異常運動・軋音・骨折片ノ疎隔等ヲ認ムルコトアリ、併シ出血多キ時ハ所見不明ナルコトアリ、足關節上部ニ壓痛・介達痛著明。	外踝部ニ異常運動・軋音・骨折端觸知(併シ是等ノ所見不明ナルコトモアリ)、外踝部ニ限局性壓痛及ビ運動痛著明、時トシテ内踝部ニモ壓痛アリ。	兩踝部ニ限局性壓痛著明、屢々内踝轉位シ其骨折線ヲ觸ル、時トシテハ腓骨上骨折ヲ認ム、兩踝ノ壓迫ニヨリ畸形去ルコトアルモ、劇痛ヲ訴フ。其他骨折部ノ異常運動・軋音アルコトアリ。	内外踝ニ限局性壓痛著明。時トシテ骨折片ノ異常位・異常運動ヲ認ム、軋音ハ稀。
鑑別	i) 踝骨折(骨變形著明ナラザル場合)。 ii) 足關節脱臼。 iii) 足關節捻挫(變形著明ナラザル場合)等ト鑑別ヲ要ス。	特有ナル變形著明ナル場合ニハ診斷容易ナルモ、然ラザレバ i) 足關節不全脱臼。 ii) 踝上骨折。 iii) 距骨骨折。 iv) 跟骨骨折。 v) 足關節重症捻挫等ト鑑別ヲ要スルコトアリ。		

3) 距骨骨折 F. talus		4) 跟骨骨折 F. calcanei	
a) 骨折片轉位 著明ナラザルモノ (骨折線種々ノ方向ニアリ)	b) 骨折片轉位 著明ナルモノ	a) 跟骨結節斷裂 F. tuber calcanei 單純離裂骨折	b) 跟骨壓迫骨折 Kompressions-F. d. Corpus calcanei
i) 高處ヨリノ墜落、 ii) 稀ニハ過劇ナル迴前迴後運動、 iii) 稀ニハ直達外力(轢過・銃創等)。	i) 腓腸筋ノ急劇攣縮ニヨリアヒレス腱斷裂ノ爲(單純ノ横骨折多シ) ii) 稀ニハ直達外力ニ因ル。	高處ヨリ墜落シテ足踵ヲ劇シク地上ニ衝キタル爲メ、稀ニハ轢過・銃創等。	高處ヨリ墜落シテ足踵ヲ劇シク地上ニ衝キタル爲メ、稀ニハ轢過・銃創等。
單獨骨折ハ稀ニシテ、足關節脱臼・内 外踝骨折・下腿骨骨折・跟骨骨折等。	介達外力ニ因ル時ハ副損傷ナキモ、直 達外力ニ因ル時ハ附近ノ骨折(±)。	足踵又ハ腓骨下端 ノ骨折ヲ伴フ。	足踵又ハ腓骨下端 ノ骨折ヲ伴フ。
機能障礙高度ニシテ患足ノ上ニ 直立シ難シ。 足背屈曲特ニ不能、	患足ノ運動・起 立・歩行可能、 但シ其際多少ノ 疼痛アリ。	足踵面屈曲・起 立歩行不可能。	脚距關節ノ屈伸可能 ナルモ内外旋轉運動 不能ニシテ患足上ニ 起立歩行不可能。
足關節ノ周圍及 内外踝ノ附近ニ 溢血腫脹著明、 時トシテ内踝著 明ニ隆出ス。	患足足踵ニ屈曲 且ツ迴後位或ハ 馬足又ハ扁平足 狀(他ノ骨折アル 時)。内外踝腫 部ニ沈降(距骨 骨折著明時)、距 骨骨折片ハ内外 踝ノ前方或ハ後 方ハ隆出。	外見上著變ナ ク足踵部ニ皮 下溢血ニ因ル 腫脹アリ、ア ヒレス腱ノ緊 張稍々減少セ ルヲ認ムルノ ミ。	足尖背側ニ舉上シ 足踵隆起不明トナ リ、時トシテハ足 踵ノ上ニ横溝ヲ見 ル、アヒレス腱ノ 緊張著シク不明ト ナル。 足踵ノ變化ナシ。
皮下溢血著明。	皮下溢血輕度。	皮下溢血著明。	皮下溢血最著明。
患足ノ深部ニ疼痛アリ、内外踝 ノ前方又ハ後方ニ壓痛アリ、特 ニ足背屈曲ニ際シテ劇痛ヲ訴フ。 時トシテ軋音、稀ニハ骨折片 ノ移動ヲ認ム。 (b)ニ於テハ前記異常部位ニ骨 隆起ヲ觸ル)。	異常ノモノヲ觸 知シ難キモ、多 クハ跟骨ヲ横切 ル骨折線ニ相當 シテ限局性壓痛 アリ。	跟骨結節ノ横斷裂 ニ於テハ「アヒレ ス腱」ノ牽引ニヨリ 上折片上方ニ移動 シ異常運動ヲナシ 其下方ニ裂隙ヲ觸 ル、屢々軋音アリ。 每當骨折部ニ疼痛 アリ。	跟骨突起ニ異常運 動アリ、時トシテ 軋音ヲ發ス、併 シ其際劇痛ヲ訴フ 又足踵部ニモ壓痛 著明、多クハ異常 骨折片ヲ觸知シ難 シ。
i) 距骨骨折。 ii) 距骨骨折。 iii) 跟骨骨折。 iv) 足關節脱臼。 v) 足關節重症捻挫等ト鑑別ヲ要 スルコトアリ。	足關節捻挫及ビ 挫傷ト屢々區別 シ難ク、X線檢 査ニヨリ始メテ 明カナルコトア リ。	診斷多クハ容易、 i) アヒレス腱斷裂 (同病條下參照)、 ii) 距骨骨折トハ種 々ノ點ニ於テ異ナル iii) 跟骨骨折ノ他型 トノ鑑別ハ夫々トノ 比較ニヨル、或ハX 線檢査ヲ要ス。	診斷多クハ容易ナ ルガ、 i) 距骨前方脱臼。 ii) 足關節重症捻挫 ト鑑別ヲ要スルコ トアリ(各項參照)。

	(續)		5) 足關節脱臼或脚距關節脱臼	
	c) 跟骨載距突起骨折 F. d. Sustentaculum tali	d) 踝下突起骨折 F. d. Proc. inframalleolaris	a) 外側脱臼	
			i) 迴前脱臼	ii) 外側迴轉脱臼
原因	足ノ強劇ナル外轉ニテ附着靭帶ノ牽引ニ因ル。	足尖ヲ下ニシテ高處ヨリ墜落シテ衝キ、或ハ強劇ナル内轉。	踝骨折ト同様ナル足ノ強劇ナル外轉及ビ迴前運動ニ因ル。	足ノ過劇ナル外方迴轉ニ因ル。
副損傷	屢々附近ノ骨折ヲ伴フコトアリ。		踝骨折ヲ兼ヌルコトアリ。	
機能障礙	足ノ屈伸可能ナルモ内外轉運動全ク不能。	疼痛劇烈ニシテ歩行困難、併シ脚距關節可動。	足ノ自動的運動不能、他動的運動多少可能(骨折ヲ伴フニアラザレバ其際疼痛著シカラズ)。	足關節ノ自動運動全ク不能、他動的運動モ不能ニシテ彈性的抵抗アリ。
視診的所見	少シク外翻足狀ヲ呈シ、足踵部少シク短縮シ内踝ノ下部腫脹ス。	足及ビ足關節部ニ異常ナク、外踝ノ下方ニテ足ノ外側ニ皮下溢血著明。	患足著シク外轉シ、足踵外方ニ轉向シ、距骨滑車内踝ノ下方ニ著シク隆出シテ皮膚ヲ破ラントス。	患足下腿軸ニ對シテ約九十度外方ニ轉向シ、距骨滑車ハ内踝ノ下方ニ著シク隆出シ、アヒレス腱及ビ外踝ニ附着セル長腓骨筋著シク緊張シ、足踵著明ニ隆出ス。
出血	皮下溢血稍々著明。		皮下溢血及ビ關節血腫比較的輕度(併シ骨折ヲ伴フ時ハ著明ナルコトアリ)。	
觸診的所見	足踝ノ下方ニ限局性壓痛アリ、載距突起健側ニ此シテ稍々増大シ、或ハ其異常運動ヲ認ム。	外踝ニハ著變ナク、其下部ニ小骨片ヲ觸レ、時トシテ異常運動・軋轉音ヲ認ム。	内踝ノ下方ニ距骨滑車ノ隆出ヲ觸レ、外側ニ腓骨端隆出ス、骨折ヲ兼ヌルニアラザレバ疼痛比較的輕度。	足關節ノ上部ニテ前方ニハ脛骨、後方ニハ腓骨下端ヲ觸ル(距骨轉位ニヨル壓排ノ爲メ)。
鑑別	i) 内踝骨折。 ii) 距骨骨折ト鑑別ヲ要ス。各骨折部ノ壓痛・多少ノ變形・X線等ニヨリテ區別ス。	i) 外踝骨折。 ii) 距骨骨折ト鑑別ヲ要ス。各骨折部ノ壓痛・多少ノ變形・X線等ニヨリテ區別ス。	足踝外轉骨折ニ類スルモ、足部ノ外轉一層高度ニシテ(不全脱臼ニ於テハ輕度)出血・壓痛等ニヨリテ區別セラル、距骨下外方足脱臼トモ區別ヲ要スルコトアリ。	特有ナル所見ニヨリ診斷容易ナリ。

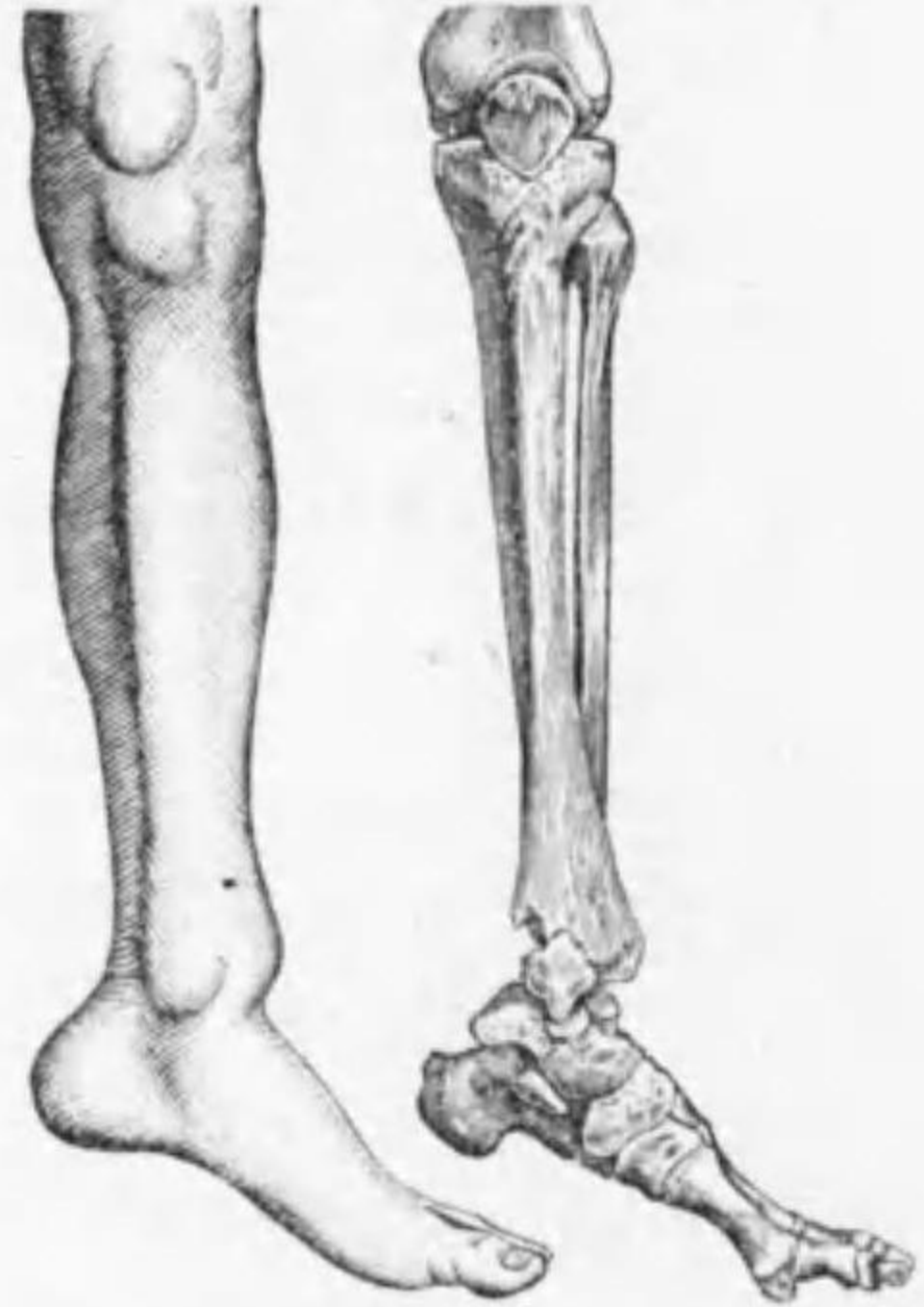
L. talocruralis (Fussgelenk) (足關節ハ強靭ナル關節被膜及ビ靭帶ヲ有スルヲ以テ此脱臼ハ強劇ナル外力ニ因ル、又不全脱臼多ク、屢々骨折ヲ伴フ)。

b) 内側脱臼		c) 前方脱臼	d) 後方脱臼	e) 上方脱臼(最稀)
i) 迴後脱臼	ii) 内方迴轉脱臼			
足踝ノ内轉骨折ト同様ナル足ノ強劇ナル内轉迴後ニ因ル。	足ノ強劇ナル内方迴轉ニ因ル。	足ノ強劇ナル足背屈曲ニ因ル。	足ノ強劇ナル足踵面屈曲ニヨル(關節囊前方ニテ断裂)。	高處ヨリ墜落シテ足ヲ地上ニ衝キタル爲メ、脛骨ガ腓骨間ニ嵌入。
屢々踝骨折ヲ伴フコトアリ。		屢々脛骨骨折・アヒレス腱断裂・足關節靭帶断裂。	脛骨骨折・足靭帶断裂等。	脛骨骨折・腓骨骨折アルコトアリ。
足關節ノ自動運動全ク不能、他動的運動モ不能ニシテ彈性的抵抗著明(併シ骨折ヲ伴フ時ハ異常運動アルコトアリ)。				
患足著シク内轉シ内翻馬足位ヲ取り足踵内方ニ轉向シ足踵ノ彎曲著明トナル。	患足下腿軸ニ對シテ著シク内方ニ轉向シ、足ノ外縁ハ前方ニ、内縁ハ後方ニ向フ。	患足著明ニ前方ニ延長シ、足背面或ハ足踵面ニ屈曲固定ス。踵部隆起不明トナリ踵部ト踵部ノ間ニ深溝ヲ生ジ距骨前方ニ突出ス(不全脱臼ニ於テハ症狀輕度)。	患足前方ニ於テ短縮シ足踵延長シ、前方ニ脛骨端隆出ス。アヒレス腱著明ニ緊張シテ其側ニ深溝アリ。(不全脱臼ニ於テハ前記症狀輕度)。	足關節ノ前面少シク隆起シ足部短縮シ足關節ノ幅廣クナリ内外踝沈降ス、屢々關節血腫著明。
皮下溢血及ビ關節血腫比較的輕度(併シ骨折ヲ兼ヌル時ハ出血著明ナルコトアリ)。				
距骨滑車ヲ外踝ノ下部ニ觸ル、距骨隆出著明ナル時ハ皮膚ノ壞疽ヲ來スコトアリ。	距骨ガ内踝下部ノ後方又ハ内方ニ觸知セラル。	前方ニ距骨滑車、後方ニ足踝ノ隆出ヲ觸ル。(其他前記副損傷アレバ是等ノ症狀ヲ伴フ)。	前方ニ脛骨端ヲ觸ル、距骨ハ觸知シ難シ。	兩踝ノ隆出著明(併シ距骨又ハ脛骨端ヲ觸レ難シ)。
多クハ容易ナルガ、i) 踝骨折(内轉或ハ迴後骨折)。 ii) 距骨下足脱臼(内側)ト鑑別ヲ要ス。	特有ナル足ノ異常位ニヨリテ診斷容易ナリ。	踝上骨折ト鑑別ヲ要ス(骨折ニテハ内外踝足部ト共ニ前方ニ轉位シ、脱臼ニ於テハ下腿ト共ニ後方ニ在ル等)。	踝上骨折ト鑑別ヲ要ス(前者ト反對)其他距骨下足脱臼(後方脱臼)トモ鑑別ヲ要ス。	特有ナル状態ニヨリテ診斷容易ナルガ、跟骨體壓挫骨折ト鑑別ヲ要スルコトアリ。

第三百三十五圖
外方足脱臼 (腓骨骨折ヲ兼ヌ) (n. Hoffa)



第三百三十六圖
外方迴轉足脱臼 (n. Hoffa)



第三百三十七圖
前方足脱臼 (n. Hoffa)



第三百三十八圖
後方足脱臼 (腓骨骨折ヲ兼ヌ) (n. Hoffa)



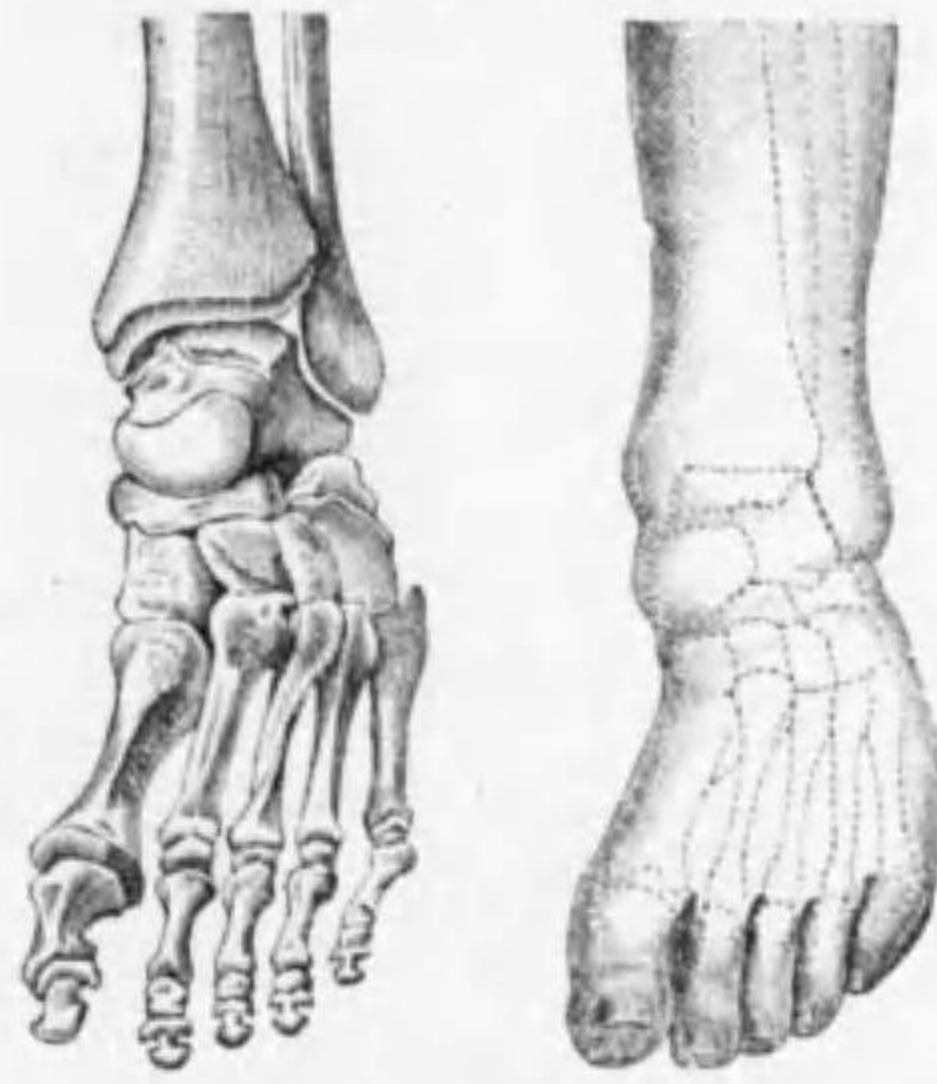
第三百三十九圖
内方足脱臼 (腓骨骨折ヲ兼ヌ) (n. Hoffa)



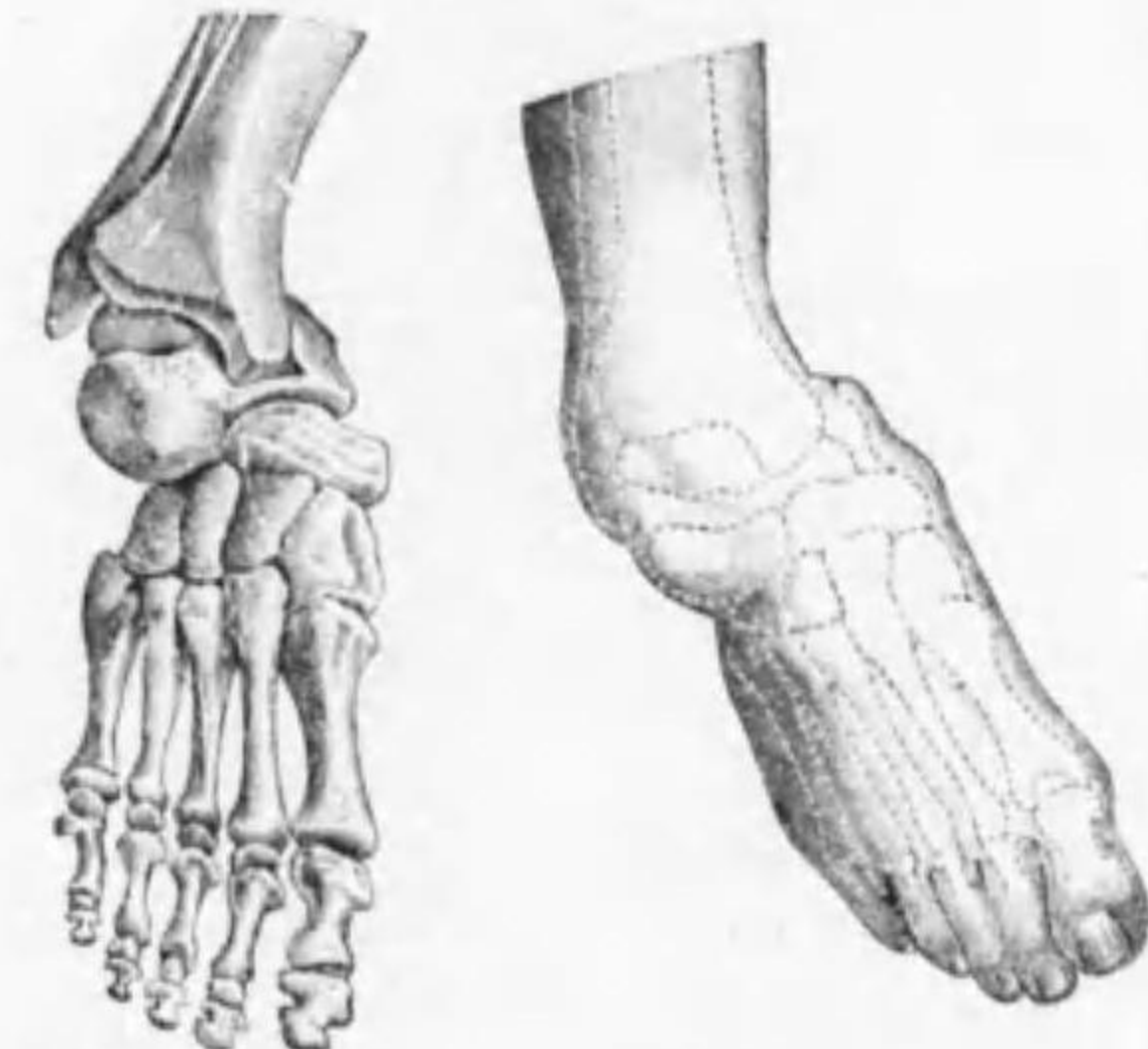
第三百四十圖
脛骨下端ノ断裂ヲ伴ヘル足關節上方脱臼 (n. Bergmann)



第三百四十一圖
距骨下内方足脱臼 (n. Hoffa)



第三百四十二圖
距骨下外方足脱臼 (n. Hoffa)



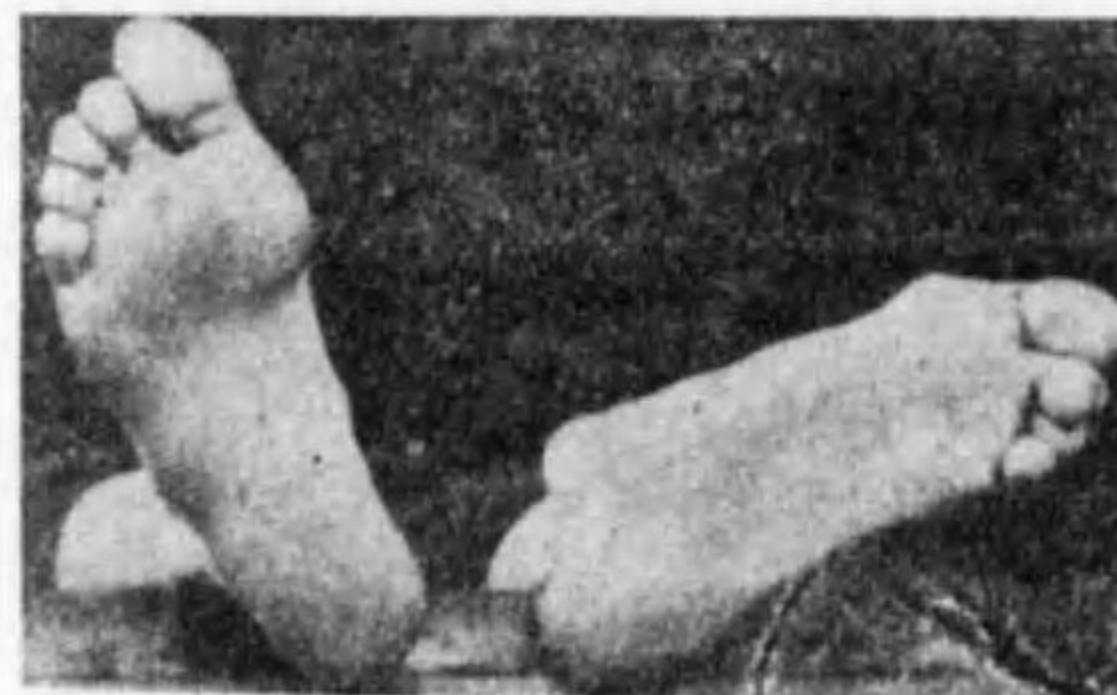
第三百四十三圖
距骨下前方足脱臼 (n. Hoffa)

第三百四十四圖
距骨下後方足脱臼 (n. Hoffa)

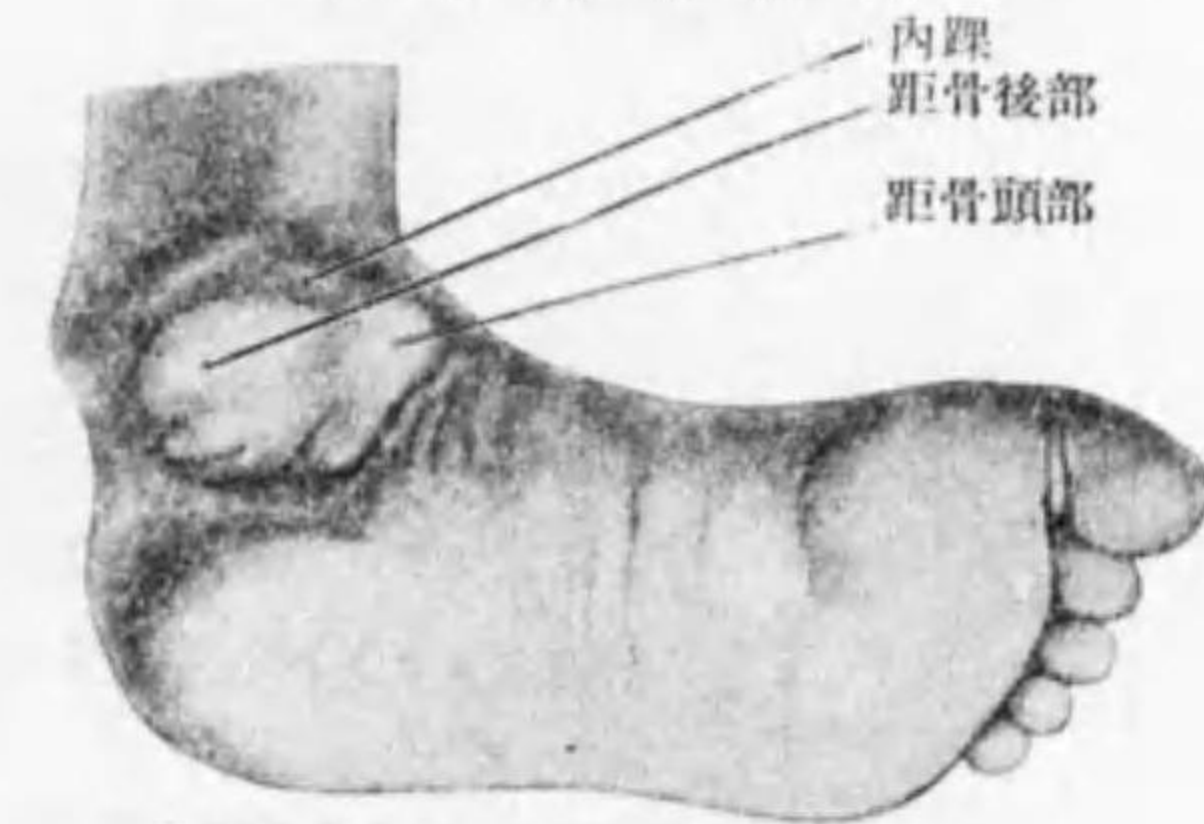
第三百四十五圖
距骨下前方足脱臼 (n. Anger)



第三百四十六圖
距骨内方脱臼 (n. Bergmann)



第三百四十七圖
距骨捻轉脱臼



6) 距跟關節脱臼或距骨下足脱臼 L. talocalcanealis od. L. pedis subtalos				
	a) 内方脱臼	b) 外方脱臼	c) 前方脱臼	d) 後方脱臼
原因	足ノ過劇ナル内轉及ビ廻後ニ因ル。	前者ト反對ニ足ノ過劇ナル外轉及ビ廻前ニ因ル。	足ノ過劇ナル足背屈曲ニ因ル。	足ノ過劇ナル足趾屈曲ニ因ル。
副損傷	時トシテ踝部骨折・距骨骨折ヲ兼ヌ。			
機能障礙	自動運動全ク不能、他動的ニハ多少可能ナルモ外轉全ク不可能。	略ボ同左、併シ之レニ於テハ内轉全ク不可能。	自動的運動不能ナルモ、他動的ニハ屈伸運動可能、併シ内外轉運動ハ多少制限セラル。	
視診的所見	内齧足位、足趾内緣彎曲シテ短縮、外緣延長、外踝著明ニ隆出、内踝不明。	外齧足又ハ扁平足狀ヲ呈シ、跟骨及骹子骨著シク突出シ、其上部陷凹ス。内踝隆出著明、外踝隆出明カナラズ。	足關節ノ前方脱臼ニ類似シ、患足前方ニ延長シ、足趾ノ隆起消失シ、下腿ノ長軸ハ足趾部ニ向フ。	足關節ノ後方脱臼ニ類似シ、患足短縮シ趾部延長シ、「アヒレス腱ノ緊張著明ニ見ユ。
出血	皮下溢血・關節血腫比較的輕度ナルモ、骨折ヲ兼ヌル時ハ著明ナルコトアリ。			
觸診的所見	患足外緣ニ外踝隆出シ、其前内側ニ距骨頭ヲ觸ル、内緣ニハ内踝ヲ觸レ難キモ、其下方ニ跟骨突起・舟狀骨ヲ觸ル。	前外方ニ距骨頭隆出シ、其前方ニ舟狀骨ヲ觸ル、内側ニ跟骨及ビ舟狀骨ヲ觸ル、内踝足趾ニ近ヅキ、其下ニ軟隆起ヲ認ム。	跟骨著シク前方ニ推移セラレ、足背脛骨ノ下部ニ當リテ距骨頭ヲ觸レ、更ニ其前下部ニ舟狀骨ヲ觸レ、兩者ノ間ニ空隙ヲ認ム。	距骨頭ガ舟狀骨及ビ楔狀骨ノ上部ニ脱轉シ、之ヲ患足ノ前方ノ皮下ニ觸ル（足關節脱臼ニハ之ヲ觸レズ）。
鑑別	足關節脱臼(廻後・廻前・前方・後方脱臼)ニ類スルモ、距骨ガ足趾ニ對スル位置ニ變動ナク、他動的運動多少可能(特ニ屈伸運動)ナルコトニヨリテ區別ス、X線検査ニヨレバ層確實ナリ。			

7) 距骨單獨脱臼 Isolierte Luxation d. Talus (距骨ガ下腿骨・跟骨・舟狀骨トノ聯絡ヲ離ルルモノヲ云フ、比較的稀ナリ。)				
a) 前方脱臼	b) 後方脱臼	c) 内方脱臼	d) 外方脱臼	e) 迴轉脱臼
強劇ナル外力ニヨリテ足ガ足趾面又ハ足背面ニ劇シク屈曲セラレ距骨ガ兩下腿骨ノ關節聯合ヨリ脱出スルニ當リ、更ニ外轉及ビ廻前運動(a, b)又ハ内轉及ビ廻後運動(c, d)ノ加ハリシ爲ニ起ル。				足ノ強劇ナル迴轉ニヨル(縱軸捻轉稍々多ク、横軸捻轉ハ稀)。
時トシテ距骨又ハ跟骨ノ骨折ヲ兼ヌルコトアリ。				
自動的ニハ足關節ノ運動不能、他動的ニハ少シク可能。	前者ヨリモ他動的運動可能。	他動的運動モ著シク制限セラル。	他動的運動稍々可能。	他動的運動モ全ク可能。
足背少シク短縮シ、足趾面ニ屈曲シ且ツ内轉或ハ外轉シ(距骨ガ内方或ハ外方ニ偏スルニヨリ)、下腿少シク短縮シ、「アヒレス腱」上方ニ直ニ走ル、距骨ガ足背舟狀骨上ニ著明ニ隆出、足趾少シク足趾ニ近ヅク。	足背少シク短縮シ足趾ニハ異常ナキモ其上方脛骨ト、「アヒレス腱」間ニ距骨隆出ス。時トシテ趾屈曲ス。	扁平足狀ニシテ少シク外齧位ヲ呈シ、内踝著シク皮下ニ隆出シ、其下ニ距骨隆起シ、其下方少シク屈曲。足趾特ニ距指屈曲ス。	足趾著シク内方ニ轉向シ、内齧足狀ヲ呈シ外踝隆出シ距骨其下ニ隆出シ、其下方屈曲ス。	患足外方ニ推移シ、屈曲位ヲ取り、内側ニ特有ナル骨突起ヲ認ム。
皮下溢血及ビ關節血腫比較的輕度ナリ、併シ骨折ヲ伴フ時ハ著明ナルコトアリ。				
足背ニ脱臼セル距骨著明隆出、外方ニハ外踝突起、中央ニ距骨滑車ノ隆起、更ニ其前方ニハ距骨頭・舟狀骨トノ關節面アリ、脛骨後方ニ推移シテ跟骨上ニ支持セラル。	距骨ハ前記異常位ニ觸ルルモ、厚キ軟部ニ覆ハルルヲ以テ其形態左記ノ如ク明カナラズ、脛骨ノ前面ニ陷凹ヲ認ム。	内踝ノ下ニ距骨ヲ觸ル、内踝骨明ナルモ外踝不明ナルヲ常トス。	外踝ノ下ニ距骨ヲ觸ル、外踝著明ナルモ内踝ヲ觸レズ。	患足ノ内側ニ三個ノ骨突起(内踝、距骨頭ノ後部及ビ前部)ヲ觸ル。
上記特有ノ症状ニヨリテ診斷容易ナルガ、時トシテ距骨下足脱臼(内方・外方・前方・後方脱臼)ト鑑別ヲ要ス。併シ區別困難ナル場合ニハX線検査、其他骨折症狀ノ有無ヲ注意スベシ。				

	8) 距骨脱臼 L. calcaneus (跟骨ガ距骨及ヒ舟状骨ヨリ外方ニ脱臼)。	9) 小跗骨骨折 F.d. kleiner Tarsalknochen (舟状骨・楔状骨・骰子骨)	10) 蹠骨骨折 F.d. Metatarsalknochen	11) ショパー氏關節脱臼(甚稀) L.d. Chopartschen Gelenks a) 内方脱臼 b) 外方脱臼	
原因	強劇ナル直達外力ニヨルコト多シ。	強劇ナル挫傷・轆過・鋭創等ニ因ル。	i) 左記同様ノ直達外力、ii) 種ニハ介達外力(足尖過劇ノ屈曲)。	直達外力ニヨリ跗骨ガ舟状骨及ヒ骰子骨ト共ニ距骨及ヒ跟骨ヨリ脱臼スルコトアリ。	
副損傷	附近ノ骨折又ハ脱臼ヲ兼ヌルコトアリ。	附近ノ骨折ヲ兼ヌルコトアリ。	附近ノ骨折、軟部損傷ヲ伴フコトアリ。		
機能障礙	自動的運動及他動的運動共ニ不能。	疼痛ノ爲歩行困難ナルモ、不可能ナルニハアラズ。	外傷直後ハ劇痛ノ爲起立・歩行不能。		
視診的所見	多少外腫足状ヲ呈シ、外踝ノ右部ニ跟骨ノ前上端隆出シ、骰子骨ノ上ニ跟骨突起ヲ認メ、距骨ハ其上方ニアリ、時トシテ皮下溢血著明。	骨折片ノ移動少ナキヲ以テ特別ノ外見ヲ呈セズ、皮下溢血ノミヲ見ルコト多シ。	足背面又ハ足蹠面ニ小骨隆起ヲ見ルコトアリ、併シ蹠骨附近ノ皮下溢血ノミヲ見ルコトモアリ。	内腫足状ニテ少シク蹠後位ヲ取り、足蹠ノ直前部ニテ横徑増大ス。	扁平足状ニシテ少シク蹠前位ヲ取り、足蹠ノ直下ニテ横徑著シク増大ス。
出血	出血比較的輕度ナリ。	出血輕度。	出血輕度或ハ不明。	出血比較的輕度。	
觸診的所見	距骨ト舟状骨ハ普通ノ如クニ聯絡シ、其外下方ニテ跟骨ノアルベキ所ニ之ヲ認メズ、跟骨ヲ上記ノ異常部位ニ觸ル、疼痛可ナリ著明。	觸診上特殊ノ變化ナク、限局性壓痛ノミヲ認ム。	同上ノ骨隆起ヲ觸レ、骨片移動・軋聲音アルコトアリ、又ハ是等ノ所見ナク、壓痛ノミナルコトアリ。	内縁著明ニ彎曲シ、横斷變ヲ生ジ、外縁ニ距骨・跟骨隆出シ距骨内縁ニ長趾伸筋ノ腱緊張ヲ認ム。	内縁ニ距骨頭隆出、外縁ニ骰子骨・跟骨隆出ス。
鑑別	距骨下足脱臼(後方脱臼)ト區別ヲ要ス(骰子骨ノ上ニアルハ距骨ニアラズシテ跟骨ナルニヨリテ區別ス)。	蹠骨骨折ニテ骨折片ノ移動アル時ハ小跗骨骨折トノ鑑別容易ナルモ、然ラザル場合ニハ兩者ノ鑑別困難ナルコトアリ(壓痛點・X線ニテ區別)、尙兩者ハ挫傷ト鑑別ヲ要ス。	距骨下脱臼ト鑑別ヲ要スルコトアルモ、特有ナル状態ニヨリ區別困難ナラズ。		

12) 全蹠骨脱臼或リスフランク氏關節脱臼 L. d. Metatarsalknochen od. Lisfrancschen Gelenks					13) 單一蹠骨脱臼 (I. 或 V. 蹠骨) Isolierte Metatarsal-Kn-Luxation
a) 上方脱臼 (足背)	b) 下方脱臼 (足蹠)(甚稀)	c) 内方脱臼	d) 外方脱臼	e) 交叉脱臼 Divergierende L.	
高處ヨリ墜落シテ足端ヲ衝キ或ハ足ノ上ニ重物落下セル爲。	足ノ強劇ナル足背面屈曲ニ因ル。	足蹠固定シ足部前方ニ過劇ニ内轉セラレシ爲。	足蹠固定シ足部前方ニ過劇ニ外轉セラレシ爲。	足蹠ニテ石ヲ踏付ケテ蹠蹠セル爲ニ起リシ例アリ。	直達外力ニヨル。
蹠骨骨折或ハ軟部損傷ヲ伴フコトアリ。					時トシテ足部挫傷ヲ伴フ。
歩行可能ナルモ其際疼痛可ナリ劇甚。					起立歩行可能。
足短縮(全脱臼)或ハ足延長(不全脱臼)、足背彎隆著明、足蹠扁平、屢々足趾足背面ニ屈曲シ(蹠緊張ノ爲)足尖内方ニ向フ。	患足短縮シ、足背ニ骨隆起ヲ認ム、其前方ニ深溝ヲ生ズ。	患足内方ニ鈹劍狀ニ屈曲シ少シク内轉ス。	患足外方ニ鈹劍狀ニ屈曲シ少シク外轉ス。	患足短縮シテ厚クナリ、足背及ヒ足蹠ニ骨隆起ヲ認ム。	患足ニ短縮等ノ變形ナク、足背ニ小骨隆起ヲ見ルノミ(特ニI 又ハV 蹠骨頭部)。
屢々皮下溢血著明ナリ。					皮下溢血著明或ハ輕度。
足背ニ蹠骨頭ノ隆出ヲ明カニ認ム、又該部ニ伸筋腱ノ緊張ヲ認ム。	足背ニ足根骨ニ相當スル骨隆起ヲ觸ル。	内縁ニI 蹠骨外縁ニ骰子骨隆出。	内縁ニI 楔状骨、外縁ニV 蹠骨頭隆出。	I 蹠骨ハ足蹠ノ内側ニ、他ノ蹠骨ハ外側ニ向フ。	I 又ハV 蹠骨頭ノ隆出ヲ觸ル移動性ナリ。壓痛著シカラズ。
特有ナル症状ニヨリ診斷多クハ容易ナルモ、不全脱臼ニ於テハ症狀輕度ナル爲診斷ヲ誤ルコトアリ。					診斷容易ナルモ不注意ニ檢スレバ重症挫傷ト誤ルコトアリ。

第三百四十八圖
第一趾骨骨折
(n. Hoffa)



第三百四十九圖
第二趾骨骨折
(n. Hoffa)



第三百五十圖
ショパー氏關節内方脱臼
(n. Prakt. Chirurgie)



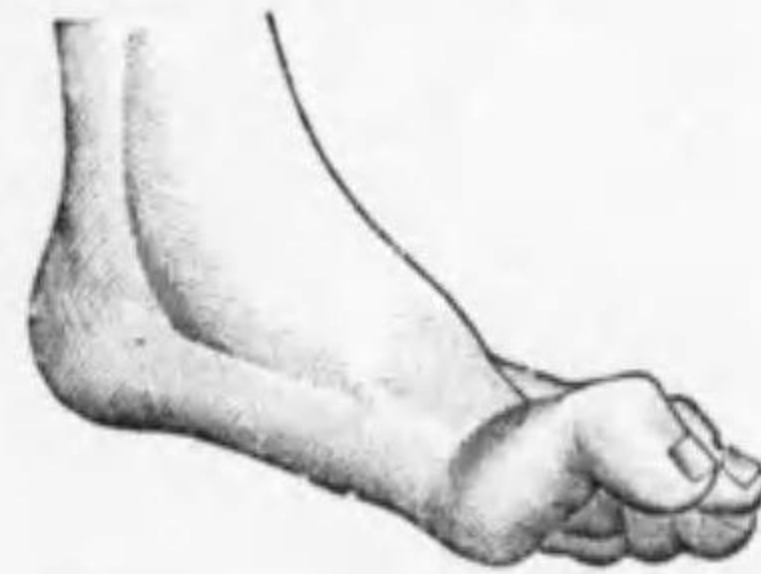
第三百五十一圖
リスフランク氏關節
交叉脱臼
(n. Bernhard)



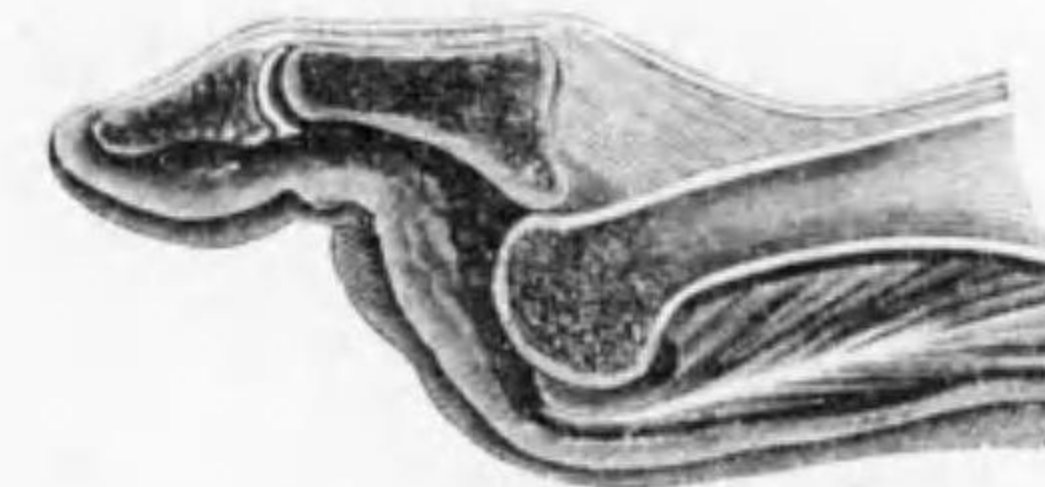
第三百五十二圖
リスフランク氏關節外方脱臼
(n. Hoffa)



第三百五十三圖
跗趾背側脱臼
(n. Hoffa)



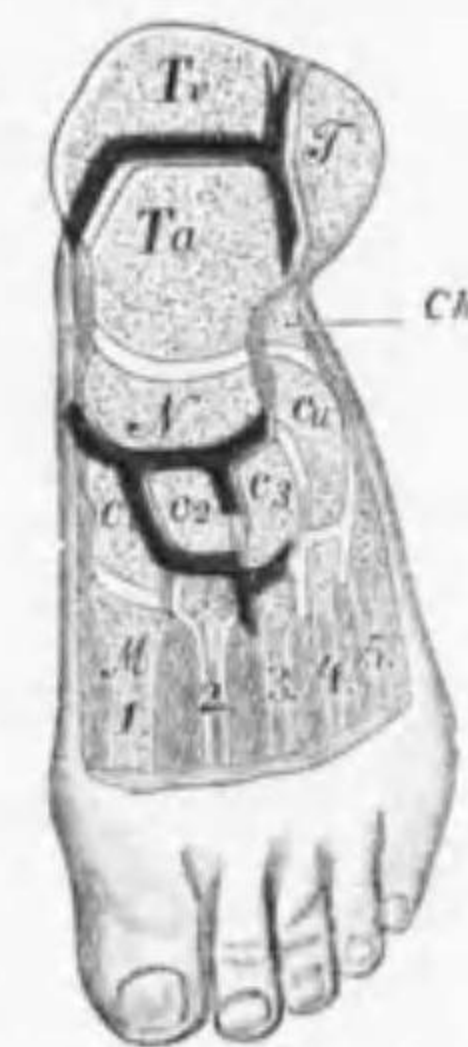
第三百五十四圖
跗趾背側脱臼
(n. Anger)



第三百五十五圖
右足骨ノ圖



第三百五十六圖
跗骨關節ノ地平断面



(Tv) 脛骨 (E) 腓骨
(Ta) 距骨 (N) 舟狀骨 (Ch) 骰子骨 (C₁, C₂ 及 C₃) 第一・第二及第三楔狀骨 (M₁ 乃至 M₅) 第一乃至第五趾骨

	14) 腓骨筋腱脱轉 L. d. Tend. m. peroneus	15) 後脛骨筋腱脱轉 L. d. Tend. m. tibiae post.	16) 腓骨神經脱轉 L. d. N. peroneus	17) アヒレス腱断裂 Ruptur d. Achillessehne (全及不全断裂)	18) 足關節捻挫 Distorsion d. Fussgelenks
原因	足關節ノ過劇ナル内轉ニ因ル。	足關節ノ過劇ナル外轉ニ因ル。	足關節ノ劇烈ナル捻挫ニヨリ腓骨小頭ノ骨折ヲ來シタル爲。	腓腸筋ノ急劇ナル攣縮(飛躍・疾走・角力中等), 稀ニハ緊張セル腱ノ上ニ直達外力作用セル爲。	足關節ノ過度ノ運動ニ因ル(脱臼ト原因ヲ同ウスルモ其程度弱シ)。
副損傷	内踝又ハ外踝ノ骨折或ハ足關節捻挫ヲ伴フコトアリ。				屢々附近ノ骨折脱臼ヲ併發ス。
機能障礙	患足ノ内轉運動不能。	患足ノ外轉運動不能。	足ノ屈伸, 内外轉運動障礙。	断裂後患肢ノ足趾面屈曲不能トナル(不全断裂ニテハ多少可能), 患肢上ニ起立不能。	疼痛ノ爲特ニ内外轉運動障礙, 歩行困難, 併シ無理ニ動セバ可能。
視診的所見	外踝ノ前上部ニ腓骨筋腱脱轉緊張シテ足部ノ外縁ヲ走ル。	内踝ノ前上部ニ脛骨筋腱脱轉緊張シテ足部ノ内縁ヲ走ル。	外踝ノ後方ニ腓骨神經脱轉シテ緊張ス。	断裂ニ際シ一種ノ變音ヲ聞クコトアリ, 全断裂ニ於テハ屢々尖足位ヲ取ル(不全断裂ニテハ然ラズ), 出血少ナキ時ハ腫附著部ニ陷凹ヲ認ムルコトアリ。	外傷直後關節内出血アリ, 兩踝ノ前後ニ腫脹ヲ認ム, 時トシテハ患足ノ足背ニ皮下溢血ヲ認ム, 併シ患足ニハ特殊ノ變形ヲ認メズ。
出血	皮下溢血著明或ハ輕度, 時トシテハ關節血腫ヲ伴フコトモアリ。			屢々腫附著部附近ニ皮下溢血著明等。	
觸診的所見	上記腱ノ緊張ヲ觸レ, 整復可能ナルモ, 内轉運動ニヨリ容易ニ再ビ脱轉ス。	上記腱ノ緊張ヲ觸レ, 整復可能ナルモ外轉運動ニヨリ再ビ容易ニ脱轉ス。	上記部位ニ神經ノ緊張ヲ觸レ, 該部ニ壓痛著明。	断裂部ニ相當シテ陷凹ヲ觸ル, 疼痛比較的輕度, 不全断裂ニ於テハ陷凹明カナラザルコト多シ。	腫脹部ニ波動アルコトアリ, 疼痛可ナリ著シキモ, 骨折ニ於ケルガ如キ固定骨折疼痛ナク, 又比較的速ニ緩快ス。
鑑別	何レモ特有ナル症狀ニヨリ診斷容易ナリ, 外傷後足部ノ異常位アル時ハ骨折脱臼ノミヲ考ヘズシテ是等ノモノヲモ注意スルヲ要ス, 但シ是等ノ疾患ハ何レモ甚ダ稀ナリ。			多クハ診斷容易ナルガ跟骨結節断裂ト鑑別ヲ要ス, 跟骨部ニ於ケル骨折症狀ニ注意スベシ。	前記ノ足部ノ骨折又ハ脱臼ニシテ骨頭又ハ骨片ノ移動著シカラザル場合ニハ本症ト鑑別ヲ要スルコトアリ。

19) 足部挫傷 Kontusion d. Fussgelenks	20) 趾骨骨折 Fraktur d. Zehe	21) 足趾脱臼 Luxation der Zehe			
		a) 躡趾足背脱臼	b) 躡趾内側脱臼	c) 小趾上内方脱臼	d) 趾骨間脱臼
足關節部ノ打撲衝突等。	直達外力ニ因ル, 甚シキハ趾断裂。	躡趾ノ過劇ノ足背面屈曲。	躡趾ノ過劇ノ足背面屈曲及外轉。	小趾ノ過度ノ外轉。	趾ノ過度ノ足背面屈曲。
骨折ヲ伴フコトアリ。	皮膚損傷ヲ伴フコト多シ。	時トシテ躡骨或ハ趾骨骨折。	躡骨骨折。	時トシテ趾骨輝裂。	
略ボ同左, 併シ機能障礙一般ニ輕度。	足趾ノ運動多少不能, 歩行ハ可能。	躡趾ノ運動全ク廢絶, 彈性的抵抗強シ。	躡趾ノ伸展運動稍々可能, 屈曲不能。	小趾ノ運動障礙。	趾ノ運動障礙。
挫傷部ニ皮下溢血著明, 併シ關節内出血ハ著明ナラザルヲ常トス, 其他患足ニ特殊ノ變形ナシ。	多クハ骨折片轉位著明, 併シ骨輝裂ニ過ギザル時ハ皮下溢血ノミヲ認ム。	躡趾躡骨背側ニ鈹劍狀ニ起立シ, 躡趾節足趾面ニ屈曲シ, 躡骨骨頭足趾面ニ隆出(不全脱臼ニハ輕度)。	躡趾先端外上方ニ向ヒ, 其骨頭ハ患足ノ内側ニテI躡骨ノ内上方ニ在リ。	小趾ノ外轉著明ニシテ, 躡骨上ニ殆ンド直角位ヲ取ル。	脱臼部ニ於テ異常屈曲ヲナス。
		骨折ヲ伴フニアラザレバ皮下溢血及ビ關節血腫著明ナラズ。			
略ボ同左。	固定痛・機能疼痛著明, 時トシテハ骨片轉位・異常運動・軋轉音等アリ, 併シ是等ガ不明ナルコトモアリ。	上記異常部位ニ躡骨及ビ趾骨骨頭ヲ觸ル。	上記部位ニ躡趾頭ヲ觸レ, I. 躡骨骨頭ハI-II 趾骨間ニ在リ, 少シク外旋外轉ス。	小趾ハ上記異常部位ニ固定シ, V 躡骨骨頭ヲ足趾面ニ觸ル。	兩趾骨ノ骨頭ヲ觸ル。
		骨折ヲ伴フニアラザレバ疼痛中等度,			
同左。	特有ナル局所症狀ニヨリテ診斷容易ナリ, 趾脱臼ト鑑別スベシ。	特有ナル局所症狀ニヨリテ診斷容易, 趾骨折ト鑑別ヲ要スルコトアリ。			

(C) 四肢ノ主要疾患

I 肩胛部ノ疼痛 Schmerz der Schultergegend

1) 外傷後ノ疼痛	骨折・脱臼・捻挫・挫傷等 = 因ス(詳細ハ各條下参照)。
2) 皮膚及皮下ノ急性炎	癰・瘍・蜂窩織炎等 = 際シテ疼痛ヲ發スルコトアルモ、同時ニ急性炎症症狀著明ナルニヨリテ診斷容易ナリ。
3) 急性粘液囊炎	次頁ニ示スガ如ク肩胛部ニハ數多ノ粘液囊アリ、時トシテ之レニ急性炎症ヲ發シ疼痛ヲ起スコトアリ、急性關節炎ト鑑別ヲ要ス(次頁参照)。
4) 筋肉痲痺質斯	時トシテ認メラルルコトアリ、症狀不定ナリ(總論参照)。
5) 化膿性筋炎	熱發・機能障礙ト共ニ疼痛アリ(總論参照)。
6) 肩胛骨疾患	化膿性炎ヲ起スコトアルモ甚ダ稀ナリ(總論参照)。
7) 各種關節炎	各種ノ肩胛關節炎ニ際シ、特ニ急性炎ニ際シ肩胛關節ニ疼痛ヲ發ス(關節炎ノ條下参照)。
8) 痲痺或初老性肩胛痛 Myalgie d. Schultergegend	本症ハ本邦ニハ屢々認メラルルモ、歐米ニハ甚ダ稀ナリ(歐米人ニハ股部疼痛多シト)、本病ノ原因ハ尙不明、40-50歳ノ男子ニ多ク女子ニハ稀ナリ、一般ニ運動少ナキ贅澤ノ人ニ多シ、偏側性ナルコト多シ。本病ノ本態モ不明ナルガ、關節自個ノ疾患ニアラズシテ、恐ラクハ肩胛部附近ノ頸鞘ノ疾患ナルベシト。多クハ特別ノ原因ナク肩胛部ヨリ上膊ニ互リテ一種不快ノ鈍痛ヲ發シ、特ニ曉夜ニ著シク、時トシテハ之レガ爲メニ覺醒スルコトアリ、多少氣候ノ影響アルモ痲痺質斯ノ如ク顯著ナラズ。疼痛ノ爲メ機能障礙アリテ手ヲ高舉シ難シ(高處ノ物ヲ取ルコト、結髪・結帶等妨ケラル)、併シ強ヒテ他動的ニ動カセバ可能ナリ。局所ニハ他覺的變化ナク、全身狀態ニモ變化ナシ。本症ハ肩胛關節痲痺質斯・畸形性關節炎・肩胛部神經痛等ト鑑別ヲ要ス。
9) 肩胛部神經痛 Neuralgie d. Schultergegend	時々肩胛部ニ不定ノ疼痛ヲ發スルコトアリ、特ニ神經質ノ人、殊ニ婦人ニ多シ、疼痛ヲ主症狀トナシ他ニ症狀ナシ。初老性肩胛痛ト誤ララルコトアルモ、疼痛不定ナルニヨリテ區別セラル。
10) 反射性疼痛	肺膿瘍・肺結核・肺膿内異物・横隔膜ヘルニア・膽石・腎石・子宮内膜炎等ニ際シテ肩胛痛ヲ訴フルコトアリ。其他原因不明ノ肩胛痛アリ。

II 肩胛部ノ腫脹及腫瘍

Anschwellungen u. Tumoren der Schultergegend

肩胛部ニ於ケル主要ナル粘液囊ハ

1) 三角筋下粘液囊 B. subdeltoida
2) 肩峰突起上粘液囊 B. supra-acromialis
3) 肩峰突起下粘液囊 B. infra-acromialis
4) 肩峰骨下粘液囊 B. subcapularis
5) 烏喙突起下粘液囊 B. subcoracoida
6) 結節間粘液囊 B. intertubercularis

以上ノ内(1)(2)(3)(5)ニ時トシテ粘液囊炎ヲ起スコトアリ、

a) 急性漿液性粘液囊炎 Bursitis serosa acuta
b) 急性化膿性粘液囊炎 Bursitis purulenta acuta
c) 慢性漿液性粘液囊炎 Bursitis serosa chronica
d) 結核性粘液囊炎 Bursitis tuberculosa

以上粘液囊炎ノ部位・形狀其他ノ症狀ニヨリテ診斷容易ナルガ(總論参照)、肩胛關節炎トノ主要鑑別點ヲ表記スレバ次ノ如シ。

	肩胛部粘液囊炎(種)	肩胛關節炎
腫脹部位	肩胛部ノ前外方ニ腫脹アルノミ。	肩胛關節ノ前側・後側・外側等全周ニ腫脹アリ。
疼痛部位(但慢性症ニハ缺如)。	粘液囊腫脹部ニノミ疼痛アリ、關節自個ニハ疼痛ナシ、又上膊骨ヲ關節ニ向ツテ壓迫スルモ疼痛無シ。	關節ノ前側・後側・腋窩等ヨリノ壓迫ニ際シ疼痛アリ、又上膊骨ヲ關節ニ向ツテ壓迫スルニ疼痛アリ。
機能障礙	上膊ノ側方舉上運動ガ障礙セララルコトアルモ、他ノ運動ハ可能。	關節ノ各方向ノ運動障礙セララル。

2) 肩胛關節炎 第 226 頁参照。

3) 肩胛骨疾患 化膿性骨炎・膿毒・結核等アルモ甚ダ稀ナリ(總論参照)。

4) 肩胛部ノ腫瘍
a) 軟部ノ腫瘍 皮下ニ脂肪腫・纖維腫・血管腫・肉腫等ヲ發生スルコトアリ、肉腫ハ屢々著大トナル。其他粉瘤・嚢腫等發生スルコトアリ。
b) 骨ノ腫瘍 鎖骨・肩胛骨・上膊骨上端ニ骨腫・軟骨腫・肉腫等ヲ發生スルコトアリ、特ニ肉腫ハ惡性ナリ、又種ニハ上膊骨上端ニ骨囊腫ヲ發生スルコトアリ(總論参照)。

5) 鎖骨ノ疾患 化膿性骨髓炎・膿毒・結核等アルモ稀ナリ(總論参照)。

第三百五十七圖 (右肩胛關節部ヲ胸廓ヨリ離斷シ前方ヨリ見タルモノ) (n. Spaltchests)

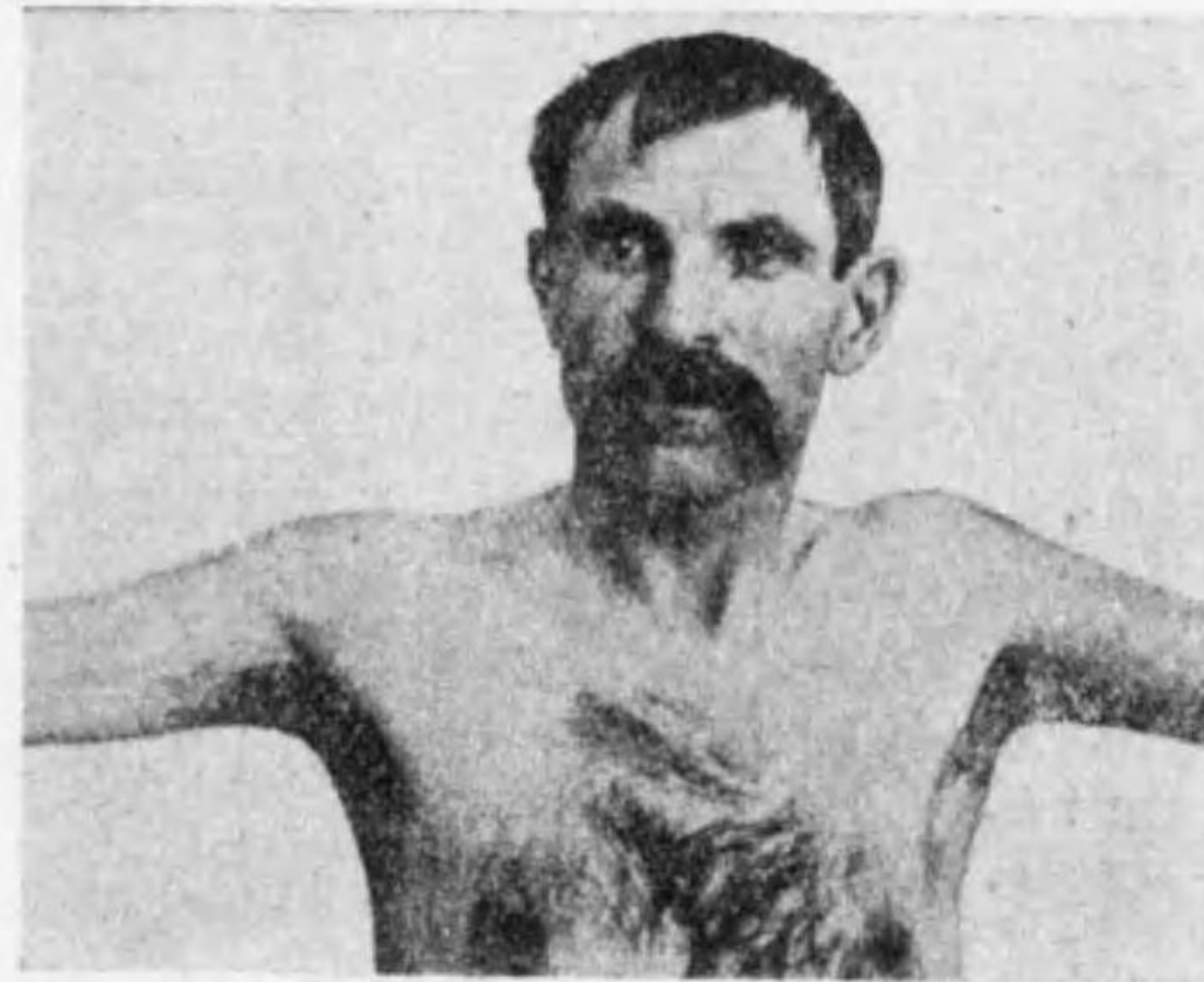
III 肩胛關節炎 Schultergelenkentzündungen, Omarthritis

1) 急性漿液性 serosa acuta	滲出液少量ニシテ波動明カナラザルコト多シ、疼痛機能障礙ヲ以テ主症狀トナス。三角筋下粘液囊炎(急性)ト鑑別スベシ。
2) 急性化膿性 purulenta acuta	比較的稀、急性炎症症狀顯著、時トシテ化膿ガ二頭筋ニ沿ヒテ腋窩又ハ胸部ニ傳播ス。
3) 淋毒性 (急性) gonorrhoeica	比較的稀、漿液性ナルコト多ク化膿性ハ稀ナリ、急性關節痲痺ヲ以テ鑑別スベシ。
4) 痲質 斯性 rheuma- tica	(a) 急性 時トシテ肩胛關節ニ單發スルコトアリ。 (b) 慢性 單獨ニ來ルコト稀ニシテ、多クハ他ノ關節ト共ニ侵サル。
5) 畸形性 deformans	甚ダ稀、上膊骨頭ノ變形著シク、扁平トナリ、磨軋音著明、屢々多少ノ滲出液ヲ伴フ、疼痛アリ。
6) 慢性漿液性 serosa chr.	殆ンドナシ。
7) 結核性 tuberculosa (漿液性・肉芽性 多ク、化膿性ハ 稀ナリ。)	稍々稀ナルガ乾性カリエス Caries secca ヲ特異トス、炎症性産物少ナク、上膊骨頭肩胛骨幹白ノ破潰ヲ來シ、筋肉及關節被膜萎縮シ、關節骨格著明ニ見ユ、肩胛關節沈降シ、上膊少シク外轉位ヲ取ル。早期ヨリ機能障礙疼痛アリ、時トシテハ附近ニ寒性膿瘍ヲ形成ス。
8) 梅毒性 syphi- litica	(a) 第二期 屢々亞急性痲痺質ト誤ラル、驅膿法ニヨリ緩快ス。 (b) 第三期 甚ダ稀ナリ。ワ氏反應・試驗的驅膿法・X線検査等。
9) 尿酸性 urica (Gicht)	殆ンド來ラズ。
10) 血友病性 haemophilica	甚ダ稀。
11) 神經性 neuropathica	稀ニ脊髓空洞症ニ際シテ起ルコトアリ。特有ノ症狀ニヨリ診斷容易、後ニハ病的脱臼ヲ來ス。
12) 肉腫 Sarkom	甚ダ稀、診斷容易。

(b) 肩胛線ノ外方ニテ肩峰突起ニ移行スル所ノ下縁ニテ前方ニ向ツテ刺入ス。
 滲出液 一般ニ少量ナルガ、其量多キ時ハ容易ニ動搖關節トナル、肩胛關節ノ穿刺部位 (a) 烏喙突起ノ外側ニテ下方ニ向ツテ行フカ或ハ
 ニ肩胛關節ニ障礙アルモ肩胛骨ノ運動ニヨリテ水平位マデハ上肢ヲ舉上スルコトヲ得、併シ肩胛骨ヲ固定スル時ハ舉上運動不能トナ
 機能障礙 肩胛關節ハ球關節ニテ各方向ニ運動スルモ、炎症アル時ハ是等ノ運動制限セララル。特ニ上肢ノ舉上及ビ外轉制限セララル、然ル
 異常位 上膊ヲ少シク外轉外旋シ、肘關節部ニテ少シク屈曲シ、疼痛甚シキ時ハ健手ニテ之ヲ支持ス。
 腫脹 一般ニ輕度ナリ、特ニ肩胛部ノ上方及ビ後方ニテハ不明ニシテ前方ニ著明ナリ(發赤モ前方ニ於テ著明)、腋下ニ於テモ腫脹ヲ認ム
 ルコトアレドモ、發赤ハ明カナラズ、三角筋及ビ後方ニテハ不明ニシテ前方ニ著明ナリ(發赤モ前方ニ於テ著明)、腋下ニ於テモ腫脹ヲ認ム

第三百五十八圖

上膊ノ舉上ニヨリテ肩胛骨ノ頂點正中線ニ近ヅキ且ツ鎖骨峙立セルモノ。是レ肩胛關節強直ノ證ニシテ肩胛關節炎ノ初期ニ見ラルモノナリ。
(n. Quervain)



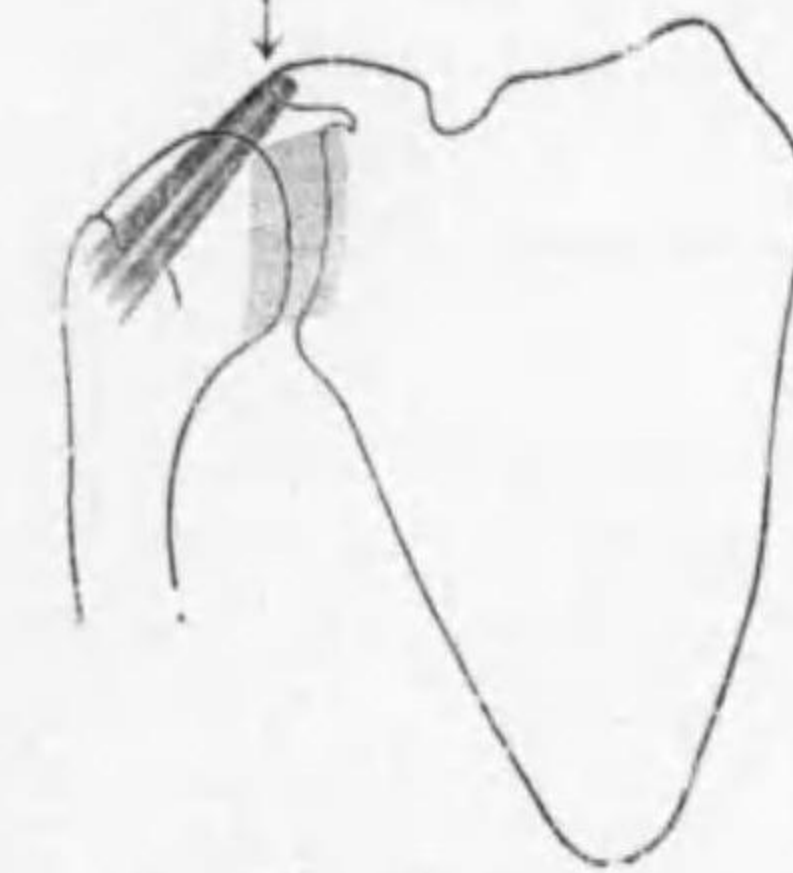
第三百五十九圖

右肩胛關節乾性カリエス



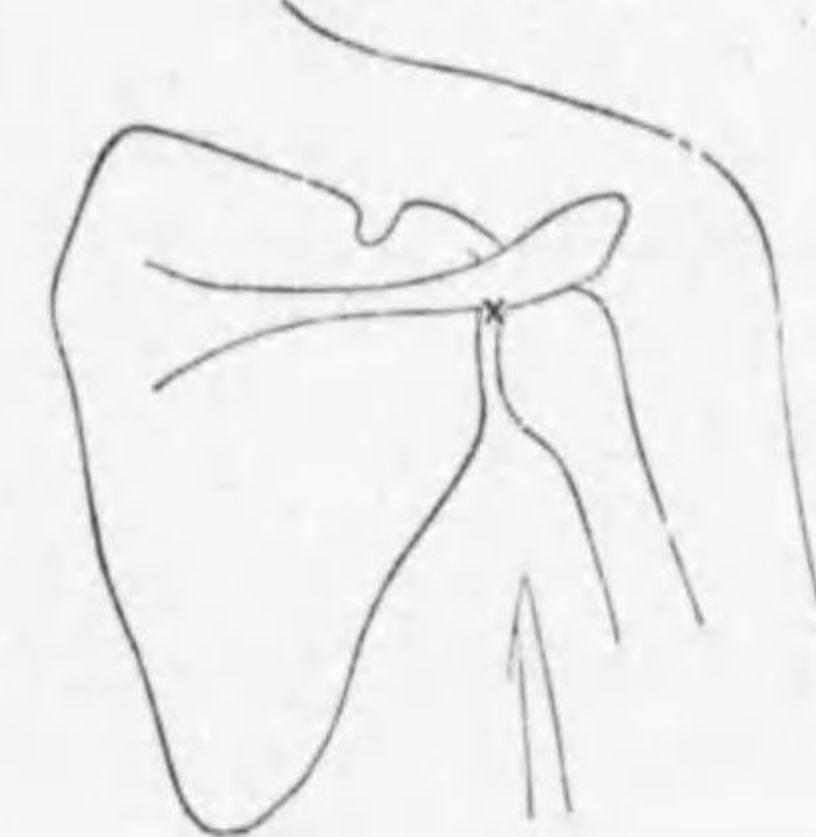
第三百六十圖

肩胛關節ノ後方ヨリスル穿刺及ビ注入部位



第三百六十一圖

肩胛關節内ノ上方ヨリスル穿刺及ビ注入部位



第三百六十二圖

中指瘰癧ニ因スル腋窩淋巴腺炎



IV 腋窩腺炎及腋窩腺腫脹

Lymphadenitis axillaris u. Lymphdrüsenanschwellungen

	原因	主要症状	鑑別
1) 急性化膿性 淋巴腺炎 Lymphadenitis pur. acuta	手指ノ小創・瘰癧 上肢ノ化膿創又 ハ化膿性疾患・ 乳嘴ノ皸裂・乳 腺炎等ニ續發ス。 時トシテハ細菌 侵入部不明ナル コトアリ。	一個乃至二三個ノ淋巴腺ガ急性ニ腫脹 シ、疼痛アリ、初メハ表面ノ皮膚ニ變化 ナキモ軟化スルニ從ツテ發赤熱感アリ 硬度初メハ緊縮性靱ナルモ、次第ニ吸 收セラレテ治スルカ、或ハ軟化シテ化 膿スルニ至ル、限界初メハ明瞭ナルモ 後ニハ不明瞭トナリ、或ハ蜂窩織炎ヲ 併發ス。 全身症状トシテ熱發及ビ種々ノ熱症狀 ヲ伴フコト多シ、併シ時トシテハ亞急 性ノ經過ヲ取り熱發亦著明ナラザルモ ノモアリ。	i) 「ベスト」ニ因ル 急性腋窩腺炎ト鑑 別(次項参照)。 ii) 亞急性ノモノハ 結核性淋巴腺炎ト 誤ラレルコトア リ。 iii) 腋窩腺・化膿性 粉瘤トモ鑑別ヲ要 スルコトアリ。
2) ベスト Pest ニヨル急性 腋窩腺炎	腋窩ニハ腋窩 腺ニ最モ多キモ ノナルモ、時ト シテハ腋窩腺ニ モ來ル、手ノ小 創ヨリ感染スル ニヨル。	腋窩腺ニ急性淋巴腺腫脹疼痛ヲ來シ腋 内出血アリ。 熱發著シク、全身症状重篤ナリ。 腺穿刺ヲ行フテ鏡檢スル時ハ「ベスト 菌ヲ證明ス。 淋巴腺ハ自然ニ吸收セラレルコトト化 膿スルコトトアリ。	「ベスト」流行時ニ ハ本病ノ診斷容易 ナルモ、然ラザル 場合ニハ慎重ニ診 斷スルヲ要ス。經 過急性ニシテ全身 症状重篤ナルニ注 意スベク、確診ハ 鏡檢ニヨラザルベ カラズ。
3) 結核性腋窩 腺炎 Lymphadenitis tuberculosa	腋窩ニハ頸腺ニ 次ギ屢々本症ヲ 起ス。 比較的虛弱ナル 人ニ多シ。	二三乃至數個ノ淋巴腺腫脹シ小ナルハ 互ニ散在セルモ屢々互ニ融合シテ塊 狀ノ大ナル腫瘍ヲ形成スルコトアリ。 硬度ハ彈力性稍々軟或ハ靱、甚ダシキ ハ軟骨樣硬ニシテ末期ニハ軟化シテ化 膿スルコトアリ、之レヲ放置スレバ自 潰シテ治癒シ難ク、瘻孔ヲ殘ス、初期 ニハ全身症状著明ナラザルモ肺等ニ結 核ノ合併症アレバ熱發・盜汗等アリ衰 弱等ヲ來ス。	診斷多クハ容易ナ リ、只亞急性化膿 性腋窩腺炎ト誤ル コトアリ。疼痛・ 經過・全身狀態等 ニ注意シ、或ハ濕 布等ヲ行ヒテ暫時 經過ヲ觀察ス。
4) 單純性慢性 腋窩腺炎及 腺病性腋窩 腺炎	手指・手ノ皸裂、慢性膿瘍等ニヨリテ腋窩腺ガ少シク腫大スルコトアリ、 腺病性ノモノハ淋巴腺ガ刺戟性ナル爲メ少シク腫脹ス、尙ホ此際ニハ頸部等 ニモ小淋巴腺ノ腫脹ヲ見ルコトアリ、併シ何レモ意義少ナキモノナリ、 (症状・診斷等總論参照)。		
5) 惡性淋巴肉芽腫 Malignes Lymphogranulom, 白血病性 及ビ 假性白血病性淋巴腺腫 Leukaemisches u. Pseudoleukaemisches Lymphom 頸部ノ同症ニ際シテ屢々腋窩腺等ニモ同様ノ 腫脹ヲ來スコトアリ(總論参照)。			
6) 癌腫轉位 Karzinometastase 上肢ノ痛及ビ乳癌ニ續發ス(總論参照)。			
7) 腋窩ノ瘡 Furunkel 時トシテ急性化膿性淋巴腺炎ト誤ラル、發生・形狀・膿栓ニ注意スベシ。			
8) 腋窩汗腺 又ハ 粉瘤ノ化膿 時トシテ見ラル、膿ニ類スルモ膿栓ノ有無ニヨリテ區別ス。			

V 上肢幹部(上膊及前膊)ノ急性炎症性疾患

Akute entzündliche Erkrankungen des Stammes der oberen Extremitäten

(A) 皮膚 及皮 下疾 患	1) 癰 Furunkel	時トシテ上肢ニ發生スルコトアリ。蜂窩織炎ヲ伴フコトアルモ比較 的稀ナリ。
	2) 瘰癧 Karbunkel	上肢ニハ甚ダ稀ナリ。
	3) 急性膿瘍 Akuter Abszess	蜂窩織炎ニ繼發シ、或ハ血行傳染ニ因ス。 膿ト鑑別ヲ要ス。
	4) 蜂窩織炎 Phlegmone	創傷傳染・各種化膿性疾患ニ繼發ス。 早期ヨリ皮膚ノ發赤・熱感・腫脹著明ニシテ多少ノ疼痛アリ、體温上 昇ヲ伴フ。初ハ滲潤性軟ナルガ後ニハ軟化シテ波動ヲ呈スルコトア リ。診斷容易ナルモ、丹毒・化膿性筋炎・化膿性骨髓骨膜炎・瓦斯ガ ングレン等ト鑑別ヲ要ス(總論参照)。
	5) 瓦斯ガング レン Gasgangraen	上肢ニハ下肢ニ比シテ稀ナリ(總論参照)。
	6) 丹毒 Erysipelas	手ノ丹毒ニ續發スルコト多ク、上肢幹部ニ原發スルコトハ稀ナリ。 蜂窩織炎・皮膚炎ト鑑別ヲ要ス(總論参照)。
	7) 脾脫疽 Milzbrand	外見上癰ニ類スルモ、上肢ニハ甚ダ稀ナリ(總論参照)。
(B) 筋 肉疾 患	8) 急性化膿性 筋炎 Myositis purul. acuta	上膊ニハ前膊ヨリ多シ。 初期ニハ表面ノ發赤著明ナラズシテ、早期ヨリ所患筋肉ニ相當スル 機能障礙アリ、筋ノ走行ニ一致シテ滲潤性腫脹アリ、疼痛及ビ體温 上昇ヲ伴フ。 蜂窩織炎・急性化膿性骨髓骨膜炎・急性筋肉腫瘍等ト鑑別ヲ要ス。
	9) 急性筋肉腫 質炎 Akuter M.- Rheumatismus	多クハ肘部ノ筋肉ト共ニ侵サルルモ、稀ニハ上肢ニノミ來ル、 急性化膿性筋炎ノ初期ト鑑別ヲ要スルコトアルモ、多クハ診斷容易 ナリ。
C) 10) 急性淋巴管炎 Lymphangitis acuta	手指又ハ手ノ化膿症・毒蛇咬傷・屍毒傳染等ニ因ス。 前膊及ビ上膊ニ淋巴管ニ沿フテ赤色ノ線條ヲ生ジ疼痛アリ、體温上 昇ス、屢々急性腋窩腺炎、時トシテハ蜂窩織炎ヲ伴フ。	
D) 11) 急性淋巴腺炎 Lymphadenitis acuta	肘關節ノ上部ニ於ケル肘腺ニ急性炎症ヲ起スコトアルモ、比較的稀 ナリ、腋窩腺ノ腫脹ニ就キテハ第228頁参照。	
E) 12) 急性化膿性骨 髓骨膜炎 Osteomyelitis u. Periostitis pur. acuta	上膊ニハ屢々認メラレルモ、前膊ニハ比較的稀ナリ、疼痛熱發ヲ以 テ始マリ、後ニハ蜂窩織炎ヲ併發シテ腫脹・發赤・熱感等アリ、多少 ノ運動障礙ヲ來ス、他ノ原因ニ因ル蜂窩織炎・急性化膿性筋炎ト鑑 別ヲ要ス、初期ニハX線検査上ノ變化著明ナラザルコトアリ。	

VI 上肢幹部(上膊及前膊)ノ慢性疾患
Chronische Erkrankungen des
Stammes der oberen Extremitäten

(A) 皮膚及皮下疾患	1) 護膜腫 Gumma	上肢ノ皮膚及皮下ニ護膜腫ヲ發生スルコトアルモ比較的稀ナリ。
	2) 腫瘍 Geschwülste	纖維腫・脂肪腫・血管腫・淋巴管腫・神經纖維腫・乳癌腫・肉腫・癌腫等ヲ發生スルコトアルモ比較的稀ナリ。
	3) 囊腫 Zyste	時トシテ皮下ニ粉瘤 Atherom ヲ發生スルコトアルモ、決シテ皮膚様囊腫・外傷性皮膚囊腫ヲ發生セズ、其稀ニ包蟲囊腫・囊蟲腫アリ、稀ニ外傷ニヨリ上膊又ハ前膊ニ動脈瘤或ハ動脈瘤ヲ生ズ。
B) 4) 慢性淋巴腺炎 Lymphadenitis chr.	肘腺ニ單純性慢性淋巴腺炎ヲ來スコトアリ。 甚ダ稀ニ肘腺又ハ上膊ノ淋巴管結核ヲ見ルコトアリ。	
(C) 筋肉疾患	5) 化骨性筋炎 Myositis ossif.	時トシテ三頭筋ニ銃槍骨 Turner-Knochen ヲ發生スルコトアリ、併シ之レハ腫痛ト氣附カルコトハ稀ニシテ疼痛ニヨリテ氣附カル、其他進行性化骨性筋炎ニ於テモ上膊筋ヲ侵スコトアリ。
	6) 筋ノ護膜腫 Gumma d. M.	稀ニ上膊筋肉ニ粗大ノ護膜腫ヲ發生シテ腫脹狀ヲ呈シ、或ハ多數ノ粟粒大ノ小護膜腫ヲ發生シテ筋肉ノ慢性腫脹ヲ來スコトアリ、時トシテハ壓迫又ハ緊張ニ際シ多少ノ疼痛ヲ發シ、攣縮又ハ運動障礙ヲ來スコトアリ、或ハ癱瘓期ニ及ンデ攣縮ヲ成ス。腫大著シキ時ハ筋肉腫、疼痛攣縮アル時ハ筋肉癱瘓質ト鑑別ヲ要ス。
	7) 筋ノ腫瘍 Geschwülste d. M.	時トシテ肉腫ヲ發生スルコトアリ(紡錘細胞肉腫)、特ニ護膜腫ト鑑別ヲ要ス。 甚ダ稀ニ上膊筋ニ包蟲囊腫ヲ發生セル報告アリ。
(D) 骨疾患	8) 慢性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis chr.	多クハ急性化膿性骨髓骨膜炎ヨリ移行スルモノニシテ腐骨又ハ膿瘍ヲ殘留セル爲ニ起ル、時々急性乃至亞急性炎症狀發作ヲ起ス、骨肥厚著明ナリ。 稀ニハ初メヨリ慢性ノモノヲ見ルコトアリ。 上膊骨ノ結核・膿毒ト鑑別ヲ要スルモ多クハ區別容易ナリ。
	9) 骨微毒 Knochensyphilis	上膊骨又ハ前膊骨ノ微毒ハ甚ダ稀ナリ(肘關節ニハ比較的稀キモ)。
	10) 骨結核 Knochen-Tbc.	肩胛關節・肘關節・手腕關節ニ接スル骨端ニハ屢々結核ヲ見ルモ上膊又ハ前膊ノ骨幹部ノ結核ハ甚ダ稀ナリ。
	11) 骨腫瘍 Knochengeschwülste	上膊骨ニ時トシテ肉腫ヲ發生シ、著大ナルコトアリ。末期ニハ診斷容易ナルモ、初期ニハ診斷困難ナルコトアリ。 其他骨腫・軟骨腫・骨囊腫等ヲ發生スルコトアリ。

第三百六十三圖

上膊骨髓炎



第三百六十四圖

上膊骨ノ化膿性骨髓炎



第三百六十五圖

右上肢ノ骨及筋肉微毒



第三百六十六圖

上膊ノ慢性骨髓骨膜炎(n. Axhausen)



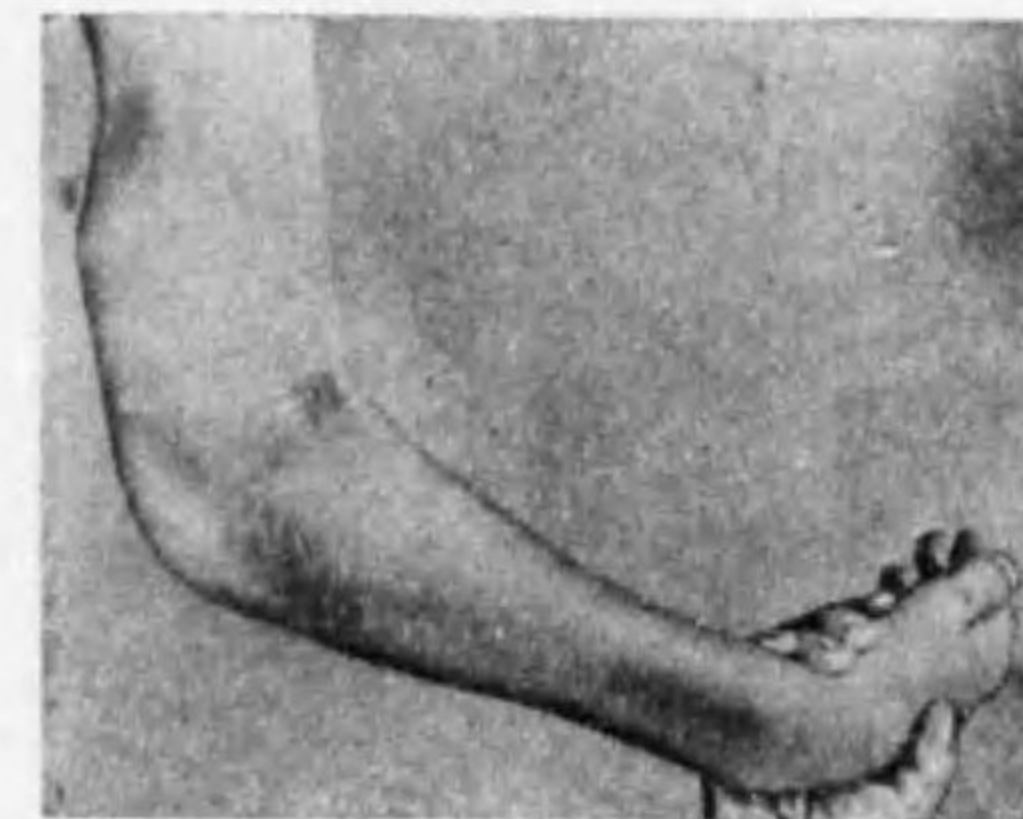
VII 肘部ノ腫脹
Anschwellungen der Cubitalgegend

A) 肘部軟部ノ炎症性疾患	<p>1) 癰 Furunkel 不時シテ發生スルモ、瘍ハ殆ンド發生セズ。</p> <p>2) 蜂窩織炎 Phlegmone ハ屢々肘部ニ發生スルモ、原發性ノモノハ其稀ニシテ、化膿性肘關節炎・急性淋巴管炎・急性化膿性筋炎・急性化膿性骨髓骨膜炎・化膿性創傷等ニ因スルモノナリ、故ニ此際ニハ蜂窩織炎ノ原因ヲ探究セザルベカラズ。</p>
B) 3) 膿痰腫 Gumma 皮膚・皮下等ニ發生シ得ベキモ肘部ニハ甚ダ稀。	
C) 肘腺腫脹 Cubital-drüsen-anschwellungen	<p>4) 急性肘腺炎 Lymphadenitis cubitis acuta 手指ノ化膿性創傷・化膿症等ニ續發スルコトアリ、時トシテハ急性淋巴管炎ニ伴フ（併シ同上原因アルモ肘腺炎ヲ起スコトナク、腋窩腺ノミヲ侵スコトモアリ）。</p> <p>急性ナルハ肘腺ニ急性ニ腫脹・疼痛ヲ發シ、附近ニ蜂窩織炎ヲ伴フヲ常トス、多クハ次第ニ吸收セララルモ時トシテハ化膿軟化スルニ至ル。</p> <p>亞急性ナルハ肘腺稍々腫大シテ少シク壓痛アリ、原病竈ノ治癒ト共ニ次第ニ消散ス、本症ハ視診ニテハ不明ナルコト多キモ、觸診ニヨリテ明ナリ。</p> <p>5) 慢性肘腺炎 Lymphadenitis chronica 往時肘腺ノ慢性腫脹アル時ハ直ニ敗毒性ノモノト信ゼシガ、之レハ必ラズシモ敗毒性ノモノノミト限ラズ、手指等ノ瘰癧ヨリ 細菌侵入シテ 慢性單純性淋巴腺炎 Lymphadenitis chronica simplex ヲ起スコトアリ、又甚ダ稀ニハ結核性ノモノモアリ、併シ成年ニ兩側性ニ慢性ノ淋巴腺腫脹アル時ハ敗毒ヲ疑フ。</p> <p>6) 惡性腫瘤轉移 Meta-ta-e der malignen Tumoren 手指ノ癌腫・肉腫等ニ際シテ肘腺ニ轉移ヲ生ズルコトアリ。</p>
D) 粘液囊炎 Bursitis	<p>7) 急性鷹嘴突起粘液囊炎 Bursitis acuta olecrani (比較的稀ナリ)。</p> <p>慢性粘液囊水腫ニ化膿菌ノ傳染セルニヨリ起ルコト多ク、原發性ナルハ稀ナリ。</p> <p>鷹嘴突起粘液囊ガ著明ニ隆出シ、疼痛・發赤・熱感アルニヨリ診斷容易ナリ、併シ同時ニ蜂窩織炎ヲ伴フニヨリ、時トシテハ粘液囊炎ヲ誤認スルコトアリ、併シ鷹嘴突起部ニ腫脹特ニ著明ニシテ壓痛アルニ注意スベシ。</p> <p>i) 急性肘腺炎ニ於ケル蜂窩織炎ニ於テハ肘關節ノ2-3cm上方、後尺骨側ニ炎症性腫脹・壓痛著明ニシテ初期ニハ波動ナシ。</p> <p>ii) 急性肘關節炎トノ區別ハ炎症性腫脹ガ鷹嘴突起部ノミニ限ラズ關節周圍ニアリ、機能障礙・關節ノ攣縮等ニヨリテ區別ス。</p>

8) 慢性鷹嘴突起粘液囊炎 Bursitis chronica olecrani (屢々アリ)。 <p>粘液囊炎ニハ二三ノ種類アルモ肘部ニ認メラルハ主トシテ漿液性粘液囊炎ナリ、鷹嘴突起ノ上ニ半球形又ハ球形ノ限局性腫瘤ヲ形成シ、表面滑澤ニシテ皮膚ト癒着ナク、底部ト癒着アリ、硬度ハ彈性軟或ハ緊滿性軟ニシテ波動ヲ呈ス、疼痛ナシ。時トシテハ囊腫壁ノ肥厚又ハ米粒體ヲ認ムルコトアリ。肘關節ノ機能障礙ナシ。</p>	<p>i) 肘關節部ガングリオン Ganglion. 肘關節ノ後部ニ稀ニ「ガングリオン」ヲ發生スルコトアリ、之レト粘液囊トノ區別ハ、發生部位ガ鷹嘴突起部ノ側方ニアルコト、硬度粘液囊炎ニ比シテ硬キコト、内容甚ダ濃厚ナルコト等ニヨル。</p> <p>ii) 慢性肘關節炎 腫脹部位・機能障礙其他ニヨリテ區別ス。</p>
E) 肘關節炎	之レニハ種々ノ種類アリ、(改メテ第234頁ニ記述ス)。
F) 肘部ノ腫瘍及囊腫	<p>1) 軟部ヨリ纖維腫・脂肪腫・血管腫・肉腫・癌腫等ヲ發生スルコトアルモ、何レモ稀ナリ。</p> <p>囊腫モ甚稀ナリ、「ガングリオン」ガ肘關節被膜ニ甚稀ニ發生スルコトアリ。</p> <p>2) 骨ヨリ軟骨腫・骨腫・肉腫ヲ發生スルコトアリ。</p>

第三百六十七圖

右肘關節部蜂窩織炎 (山村氏)



第三百六十八圖

慢性鷹嘴突起粘液囊炎(n. Quervain)



VIII 肘關節炎 Ellbogengelenkentzündungen (Kubitalarthritis)

1) 急性漿液性炎 serosa acuta	比較的稀。右記ノ急性亞急性症狀アリ。 嚙嚙突起粘液囊炎。他ノ急性肘關節炎ト鑑別。
2) 急性化膿性炎 purulenta acuta	比較的稀。急性炎症症狀著明。關節損傷等ニ續發セルモノハ診斷容易ナルモ、轉移性ノモノハ淋毒性ト鑑別スベシ。
3) 淋毒性(急性) gonorrhoeica	時トシテ侵サレルコトアリ。急性化膿性炎・急性膿麻質ト鑑別。
4) 急性膿質性 rheumatica acuta	單發性成ハ他ノ關節ニ併發ス。特ニ淋毒性炎ト鑑別程度ナルハ第二期毒ト鑑別ヲ要ス。
5) 慢性膿質性 rheumatica chr.	多クハ多發性ニ來ル。 畸形性關節炎・膿毒性關節炎等ト鑑別スベシ。
6) 畸形性 deformans	本邦ニハ甚ダ稀。特ニ橈骨小頭ノ變形ヲ來シ易シ。時トシテハ滲出液多量。週前及週後時ニ有痛。膿質性ト鑑別ヲ要ス。
7) 慢性漿液性 serosa chronica	肘關節ニハ非常ニ稀。他ノ關節炎ニテ漿液滲出多量ナルモノヲ之レト誤ルコトアリ。
8) 結核性 tuberculosa	骨性ノモノ及肉芽性ノモノ多ク。肘關節部ノ腫脹著明トナル。甚ダ稀ニハ乾性ノモノヲ見ル事アリ。壓痛ハ内外側及ビ嚙嚙突起部ニ著明ナリ。關節周圍炎早期ヨリ著明トナリ。化膿及瘻孔ヲ形成シ易シ。瘻孔ハ側方又ハ嚙嚙突起ノ上方ニ生ズルコト多シ。機能障礙モ早期ヨリアリ。疼痛ヲ訴フルコト多シ。膿毒性・血友病性・骨髓炎・粘液囊炎等ト鑑別。
9) 梅毒性 syphilitica	第二期 關節部ノ腫脹・機能障礙著シカラズ。疼痛ヲ訴フルノミ。從ツテ輕度ノ關節膿質ト鑑別ヲ要スルコトアリ。
	第三期 屢々兩側性ニ來ル。小兒(先天性)ニハ甚ダ稀ニシテ壯年後ニ多シ。結核性ト鑑別スベシ。
10) 尿酸性 urica (Gicht)	甚ダ稀ニ肘關節ニ來ル。併シ多クハ指趾等ノ痛風ニ併發シ。診斷容易ナリ(但シ本邦ニハ極メテ稀)。
11) 血友病性 haemophilia	肘關節ニハ甚ダ稀。之レニ三期アリ。夫々鑑別疾患ヲ異ニス。
12) 神經性 neuropathica	脊髓空洞症等ニ因ス。著明ノ滲出物及ビ變形アリ。但シ無痛ナルヲ特異トス。
13) 肉腫 Sarcom	肘關節部ノ肉腫ハ甚ダ稀ナリ。表在性ナルヲ以テ診斷容易ナリ。

試驗的穿刺部位 肘關節ノ後方ニテ尺骨嚙嚙突起ノ直上ヨリ稍々斜下方ニ刺入ス。(以上詳細ハ總論參照)

機能障礙 屈曲及ビ伸展不能トナル。治後關節強直ヲ殘シ易シ。

異常位 多クハ肘關節部ニテ約百二十度ニ屈曲シ、少シク内旋ス。

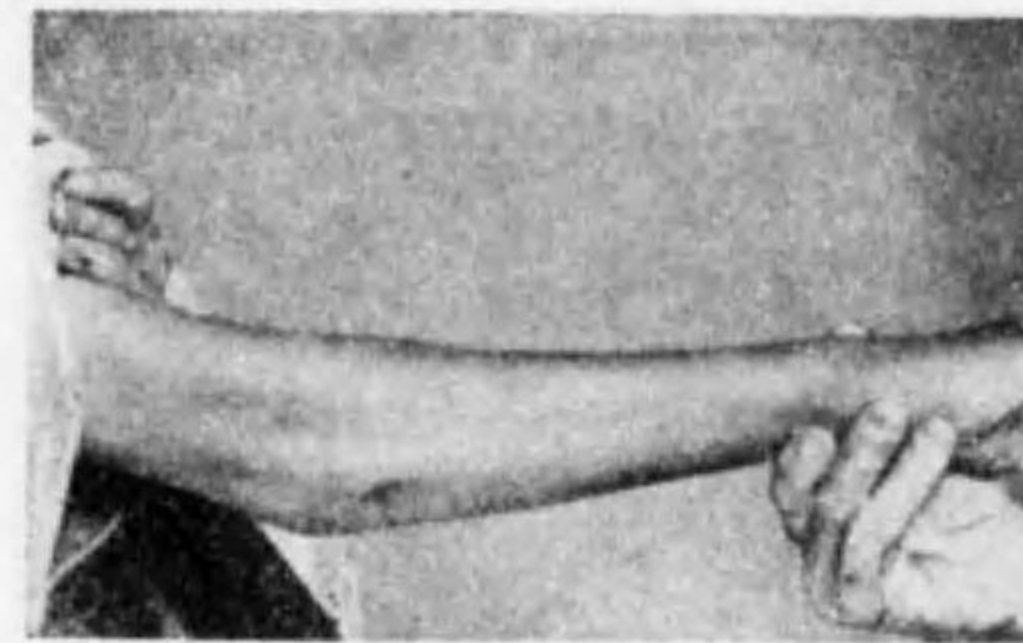
壓痛 著明ナル時ハ肘關節ノ全周ニアルモ、特ニ橈骨部ニ著明ナルコト多シ。

於テハ偏在性。

腫脹 屢々著明ナリ。初期ニハ橈骨小頭部及ビ三頭筋筋體ノ兩側ニ著明ニシテ後ニハ關節部ノ全周ニ著明トナル(粘液囊炎・淋巴腺炎ニ

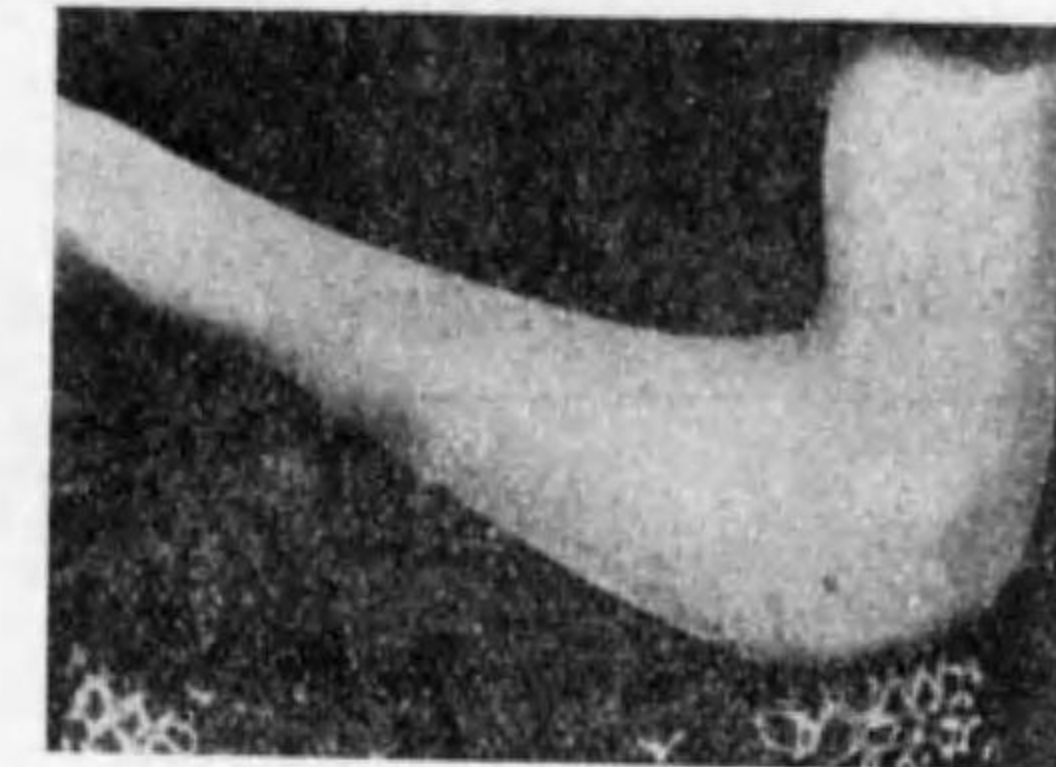
第三百六十九圖

右慢性肘關節膿質性 (山村氏)



第三百七十圖

肘關節結核及其周圍膿瘍 (山村氏)



第三百七十一圖

肘關節結核X線像



第三百七十二圖

關節鼠及畸形性關節炎



IX 手及手腕關節部ノ急性腫脹

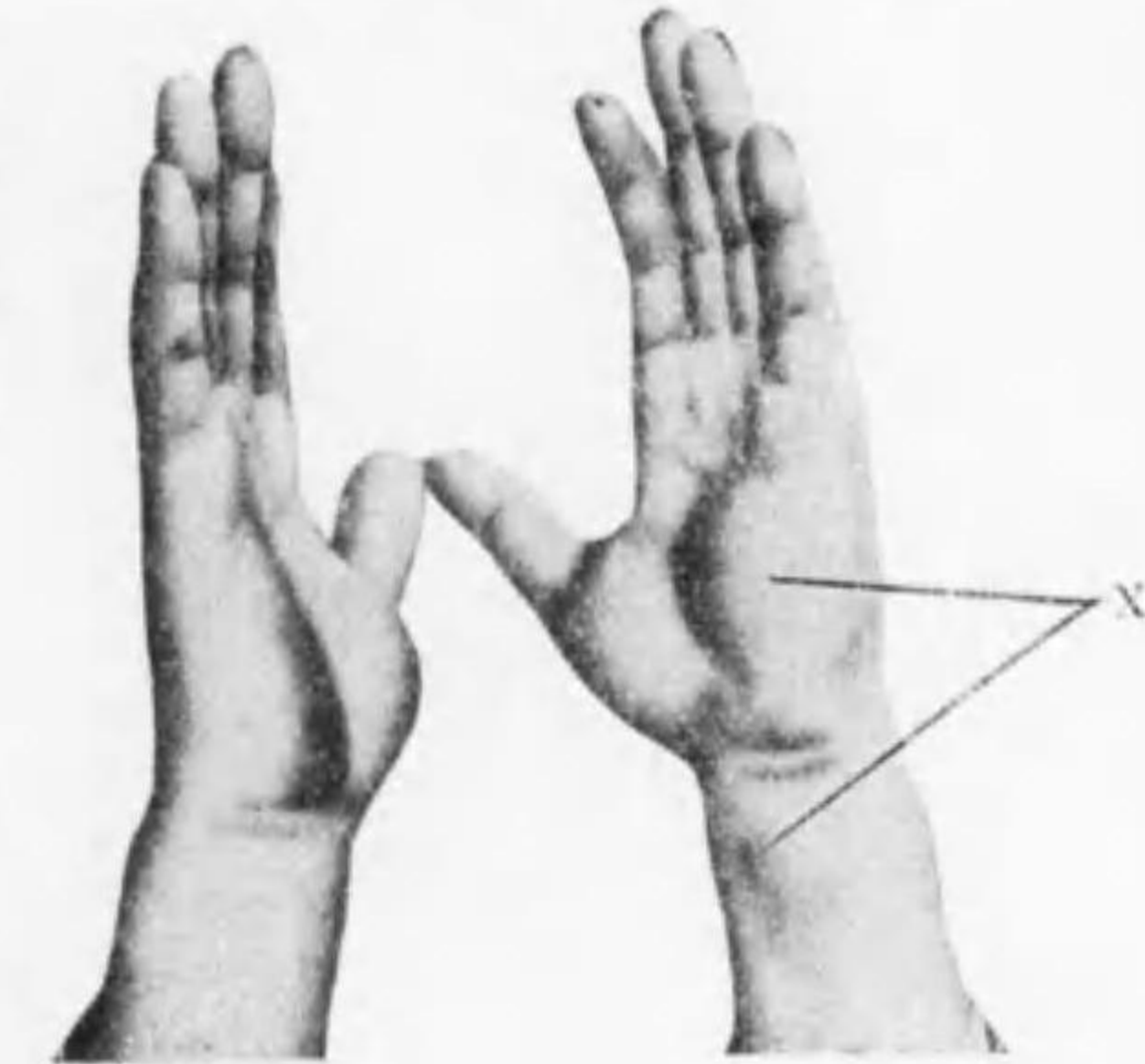
Akute Anschwellungen d. Hand u. d. Handgelenkgegend

1) 挫傷及捻挫 Kontusion u. Distorsion	之レニヨリテ皮下溢血著明ナル時ハ該部ニ急性腫脹ヲ來ス、外傷ノ既往症明カナリ。	骨折又ハ脱臼ニテ骨折片又ハ骨折端轉位著明ナラザル場合ニハ此三者ノ鑑別ニ注意スベシ。併シ少シク各症状ニ注意スレバ診斷セラル、困難ナル場合ニハX線検査ヲ行フ。
2) 骨折 Fraktur	橈骨下端・尺骨莖狀突起・腕骨・掌骨ノ骨折ニ際シ、外傷直後ニ皮下溢血ニヨル腫脹著明ナリ。	
3) 脱臼 Luxation	腕骨關節脱臼・腕掌關節不全脱臼等ニテ皮下溢血著明ナル場合。	
4) 動脈損傷 A.-Verletzung	橈骨動脈・尺骨動脈ガ刺傷又ハ鋭創ニテ傷ツケラル時ハ皮下溢血ニヨル腫脹甚ダ高度ナルコトアリ。	診斷一般ニ容易ナリ。
5) 蜂窩織炎 Phlegmone	化膿性創傷・瘰癧・化膿性骨髓骨膜炎・急性化膿性腱鞘炎・急性化膿性關節炎ニ續發スルコトアリ。	診斷容易ナリ、原因的疾患ニ注意スベシ。
6) 丹毒 Erysipelas	腫脹著明ナラズシテ發赤ヲ主トス。	診斷容易。
7) 急性化膿性骨髓骨膜炎	手及ヒ手腕關節部ニハ甚ダ稀ナリ。	同上。
8) 急性腱鞘炎 Tendovag. acut.	急性化膿性腱鞘炎・淋毒性腱鞘炎ニ於テハ手背又ハ手掌ニ急性炎症性腫脹ヲ來ス。	急性關節炎トノ鑑別ハ腫脹部位・疼痛(關節ノ全周ニナクシテ一方ニアリ)、機能障礙等ニヨル。
9) 急性關節炎 Arthrit. acut.	急性化膿性關節炎・淋毒性關節炎・急性癩癩質斯關節炎ニ際シテ手腕關節部ノ急性炎症性腫脹ヲ來ス。	
10) 手背ノ浮腫 Oedem	衰弱患者ニ於テハ手背ニ浮腫ヲ來スコトアリ、指壓ニヨリ痕跡ヲ留ム。	容易ニ診斷セラル。

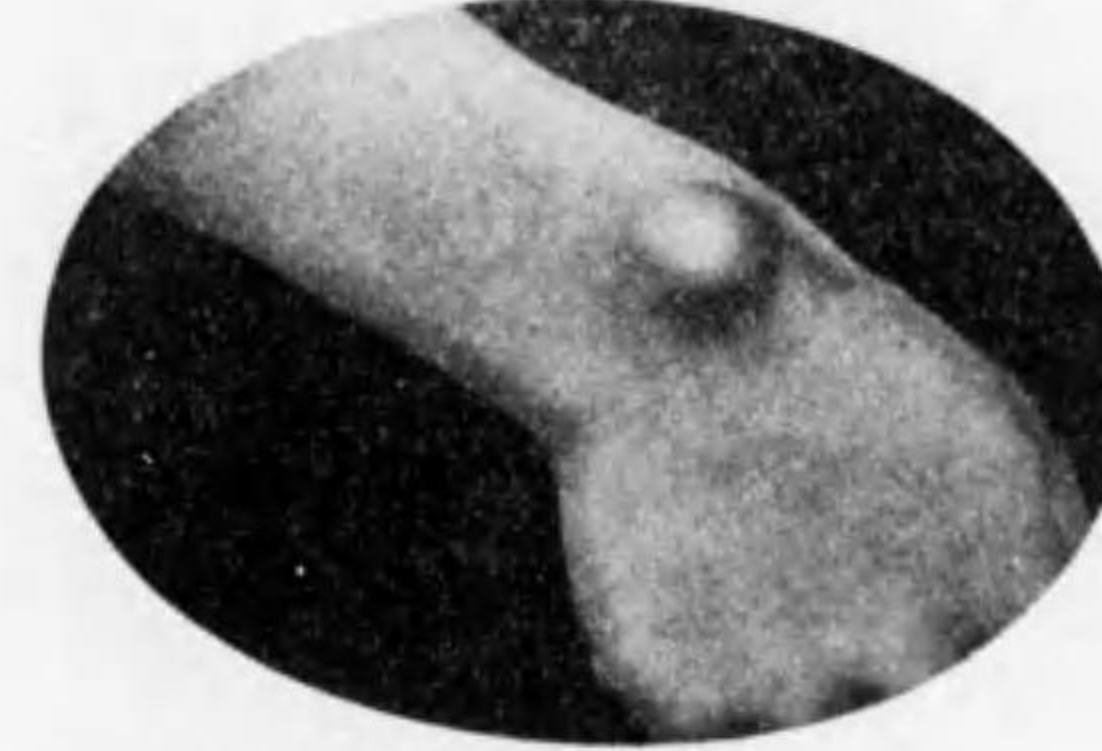
第三百七十三圖
總指伸筋腱鞘炎



第三百七十六圖
(健康側) 弧形水瘤 (n. Wilson)



第三百七十四圖
手腕關節ガングリオン



第三百七十七圖

腕骨間關節結核
(手ノ外轉及手背寒性膿瘍及前膊萎縮)
(n. Wilson)



第三百七十五圖
結核性手腕關節炎 X線像
(n. Quervain)



X 手及手腕關節ノ慢性腫脹
Chronische Anschwellungen der Hand u. der Handgelenkgegend

	部 位	形 状	其他局所症状	機能障礙
1) 腱鞘炎 Tendovaginitis (詳細ハ總論参照)	各腱鞘ノ部位一定ス、特ニ重要ナルハ總指伸筋腱鞘及ヒ總指屈筋腱鞘ニシテ之レニ一致シテ背側又ハ掌側ニ腫脹アリ、而シテ關節全周ニハ腫脹ナシ。	左記腱鞘腫脹スル時ハ長形ニシテ中央部横靱帯ニテ區分セラレ、特有ナル瓢形水瘤Zwerchackhygromノ状ヲ呈シ波動互ニ相通ズ。	皮膚ト癒着ナク、底部ニ對シテ移動性少ナシ、結核性ノ末期ニハ腱周圍炎ヲ伴フ。慢性腱鞘炎ニ於テハ腕運動時ニ一種ノ摩擦音ヲ發生スルコトアリ。	罹患腱鞘ニ相當シテ屈曲或ハ伸展障礙セラル、併シ關節ノ運動ニハ差支ナシ。
2) 手腕關節炎 Handgelenkentzündung	初期ニハ手腕關節ノ兩側、莖狀突起ノ前方ニ腫脹ヲ發シ、手腕關節ノ背側及ヒ掌側ニハ著明ナラズ、併シ關節結核ノ末期ニハ背側ニモ腫脹ヲ及ボス。	關節炎ノ種類ニヨリテ異ル、結核性ノモノハ關節部ニ疼痛アリ、手ヲ稍屈曲及尺骨側ニ外轉シタル位置ニ固定セラル、屢々前腕ノ萎縮ヲ伴フ。	特ニ手腕關節ノ屈伸運動及ヒ内外轉運動モ障礙セラル。	
3) 腕骨及掌骨ノ結核	手背ニ腫脹ヲ來シ手掌ニハ著明ナラザルコト多シ、或ハ關節炎ニ併發。	慢性腫脹(初期ニハ腫脹著明ナラザルコトアリ)。	罹患部ニ多少ノ壓痛アリ、進行スルニ從ツテ附近ニ浮腫狀滲潤著明トナル、異常位ナシ。	手ノ屈伸運動多少障礙セラル。
4) 粘液囊炎 Bursitis(稀)	手腕關節ノ背側ニ稍々大ナル手背粘液囊 B. intermetacarpophalangeaアリテ炎症ヲ起スコトアリ。	扁平球形ノ腫瘤(「ガングリオン」ヨリモ大ナリ)。	皮膚ト癒着ナク底部ト癒着アリ、軟性ニシテ波動ヲ呈ス、疼痛ナシ。	機能障礙ナシ。
5) ガングリオン Ganglion	手腕關節ノ背側ニ最モ多ク(部位不定)、掌側ニハ殆ンド發生セズ、腱鞘又ハ關節囊ヨリ發生ス。	球形・扁平球形、大ナルハ稍々不正形。	大サ豌豆大乃至胡桃大ナルモノ多ク硬度緊縮弾力性軟ニシテ甚ダシキハ軟骨様、皮膚ト癒着ナク、底部ト癒着ス。	全ク機能障礙ナシ。
6) 腫瘍類 Geschwülste	a) 軟部 ニハ脂肪腫 Lipom・纖維腫 Fibrom・血管腫 Angiom・淋巴管腫 Lymphangiom・肉腫 Sarkom・癌腫 Karzinom. b) 骨 ヨリハ骨腫 Osteom・軟骨腫 Chondrom. c) 囊腫 甚ダ稀ニ粉瘤 Atheromヲ發生スルノミ、外傷性皮膚囊腫ハ手掌ニハ發生スルコトアルモ手背ニハ發生セズ。			

第三百七十八圖
橈骨骨腫
(n. Wilms)



第三百七十九圖
尺骨骨肉腫
(n. Wilms)



(前頁ニ續ク)

内 容	鑑 別
腱鞘炎ノ種類ニヨリ漿液性纖維素性漿液、膿性或ハ内容ナシ。	手腕關節炎。腱鞘炎トノ區別ハ部位・形状・波動ノ相通ズルコト、腱或ハ關節ノ機能障礙、腕運動時ノ軋聲音(±)等ニヨル、又結核性關節炎ニ於テハX線検査ニテ變化アリ。
關節炎ノ種類ニヨリテ異ル	手腕關節結核トノ鑑別ハ腫脹部位・機能障礙・X線検査ニヨル(併シ併發アリ)。
膿性(但シ穿刺不能ナルコト多シ)。	
漿液性結液	ガングリオン。粘液囊炎トノ區別ハ粘液囊炎ハ其稀。硬度・内容・部位等ニヨリテ區別セラル又是等ノモノハ脂肪腫・纖維腫等トモ鑑別ヲ要スルコトアリ。
膠 様	
各腫瘍及ヒ囊腫ニヨリテ異ル。	(各腫瘍ノ條下参照)

第三百八十圖
尺骨肉腫X線像



第三百八十一圖
橈骨骨囊腫(特發骨折ヲ兼ヌ)
(n. Wilms)



XI 手腕關節炎 Handgelenkentzündungen (總論參照)

1) 急性漿液性炎 serosa acuta	屢々挫傷・捻挫・過勞後ニ因ス、時トシテハ本症ノ後ニ結核性又ハ淋毒性關節炎ヲ起スコトアリ、淋毒性關節炎・僂麻質斯性關節炎等ト鑑別ヲ要ス。
2) 急性化膿性炎 purulenta acuta	附近ノ化膿性炎ニ續發スルコトアリ。診斷容易、淋毒性・急性僂麻質斯ト鑑別スベシ。
3) 淋毒性(急性) gonorrhoeica	屢々發病ス、或ハ同時ニ他ノ關節ヲモ侵ス。急性僂麻質斯性ト特ニ鑑別ヲ要ス。
4) 急性僂麻質斯性 rheumatica acuta	單發性或ハ同時ニ他ノ關節ト共ニ侵サル。淋毒性・第二期微毒性ト鑑別。
5) 慢性僂麻質斯性 rheumatica chron.	多クハ他ノ關節ト共ニ侵サル、診斷多クハ容易、畸形性ト鑑別困難ナルコトアルモ後者ハ本邦ニハ甚ダ稀。
6) 畸形性 deformans	甚ダ稀。
7) 慢性漿液性 serosa chronica	甚ダ稀、多クハ他ノ關節症ノ初期症狀トシテ來ル。
8) 結核性 tuberculosa	a) 水腫性、b) 肉芽性、c) 化膿性トアルガ、b)、c) 多ク、又骨性ナルコト多シ。關節部ノ腫脹著明トナリ、屢々手掌ニモ腫脹ヲ及ボス、前膊ノ萎縮著明トナル、手腕關節少シク屈曲シ、手指伸展ス、時トシテハ腱鞘炎ヲ併發ス。淋毒性・僂麻質斯性・血友病性・微毒性等ト鑑別ヲ要ス。又結核性腱鞘炎トモ鑑別ヲ要ス。
9) 微毒性 syphilitica	第二期 甚ダ稀、僂麻質斯性等ト鑑別スベシ。
	第三期 甚ダ稀、結核性ト鑑別。
10) 尿酸性 urica (Gicht)	甚ダ稀有。
11) 血友病性 haemophilica	稀(外傷之ガ誘因トナルコトアリ)。
12) 神經性 neuropatica	甚ダ稀。
13) 肉腫 Sarcom.	甚ダ稀ナリ。

試驗的穿刺 ハ手腕關節ノ兩側莖狀突起ノ前方ニ於テ行フ。機能障礙 特ニ屈曲及ビ伸張運動障礙セラレ、又外轉及ビ内轉モ妨ケラル。異常位 手ヲ少シク掌側ニ屈曲シ、尺骨側ニ外轉ス。疼痛 腱鞘炎等ト異リ、關節ノ全周ニアリ、特ニ壓迫及ビ關節ノ運動時ニ著明ナリ。又ハ腱鞘炎ヲ併發セル場合ニハ腫脹アリ。腫脹 初期ニハ手腕關節ノ兩側、莖狀突起ノ前方ニ著明ニシテ手腕關節ノ背側及ビ掌側ニ於テハ著明ナラズ、併シ關節結核ニテ關節局關炎

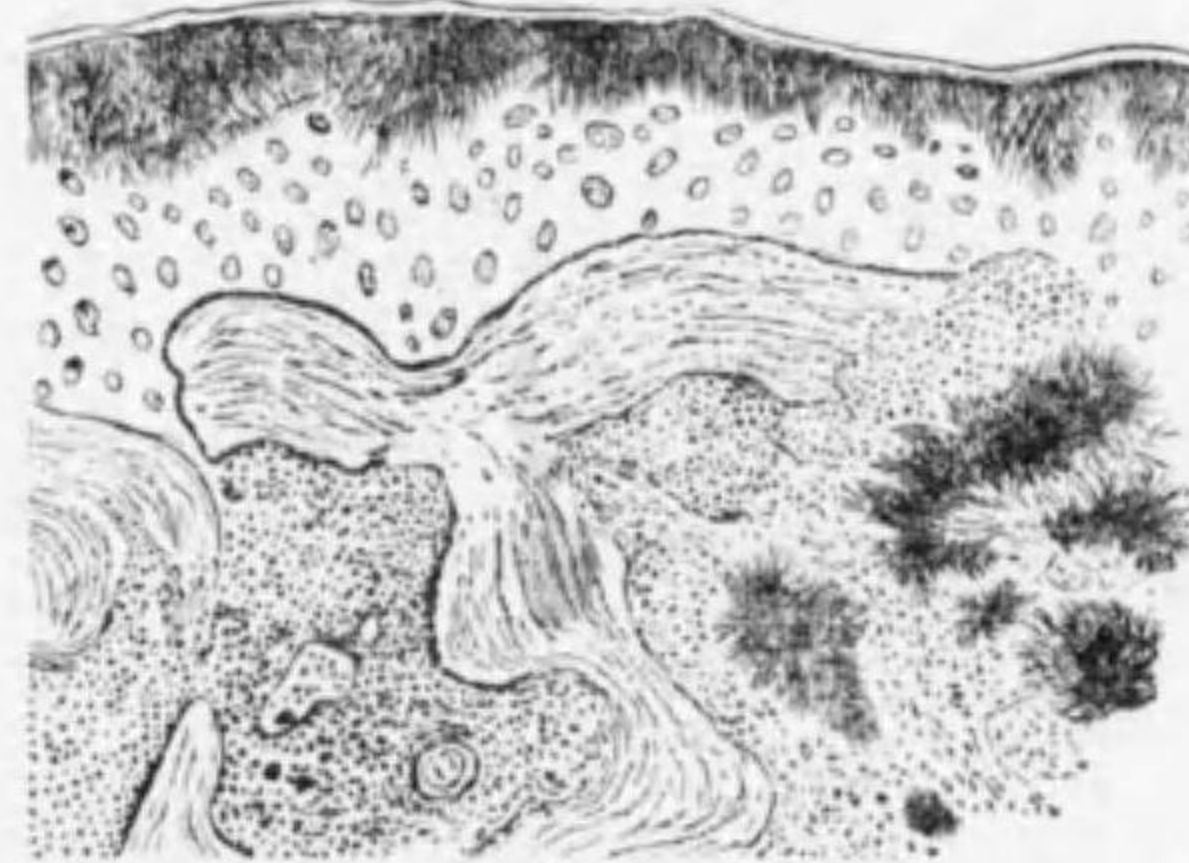
第三百八十二圖 手ノ神經關節症(左側)
(脊髓空洞症ニ因ル)



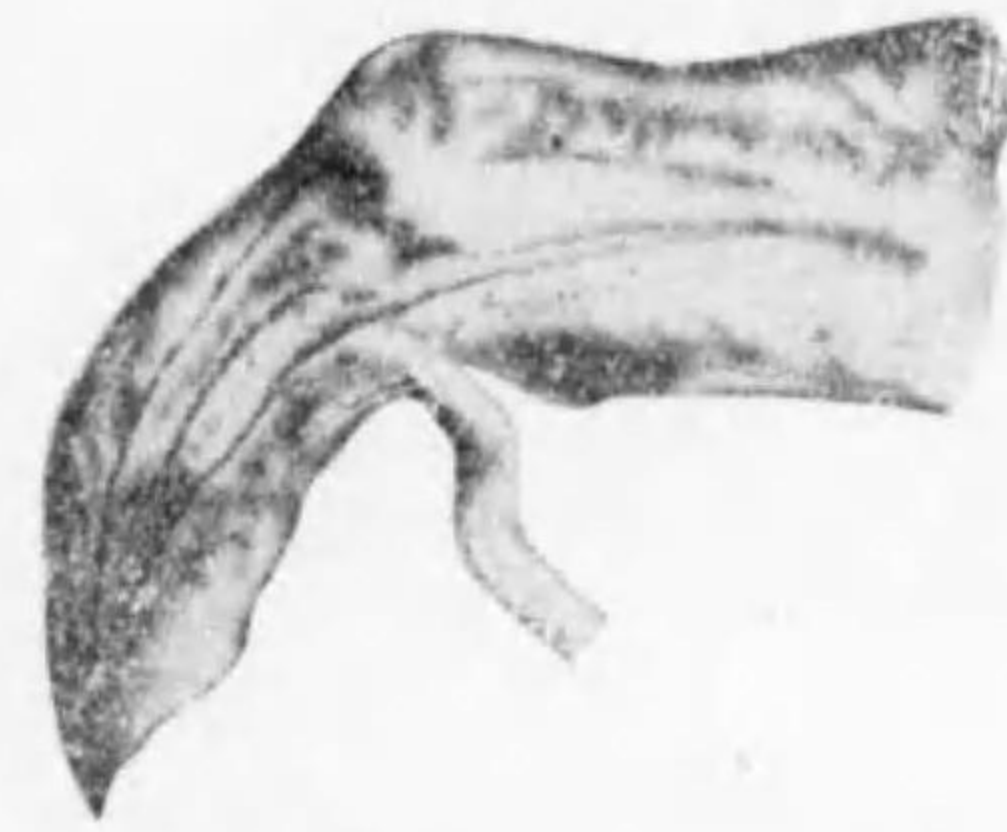
第三百八十三圖 畸形性手腕關節炎
(n. Quervain)



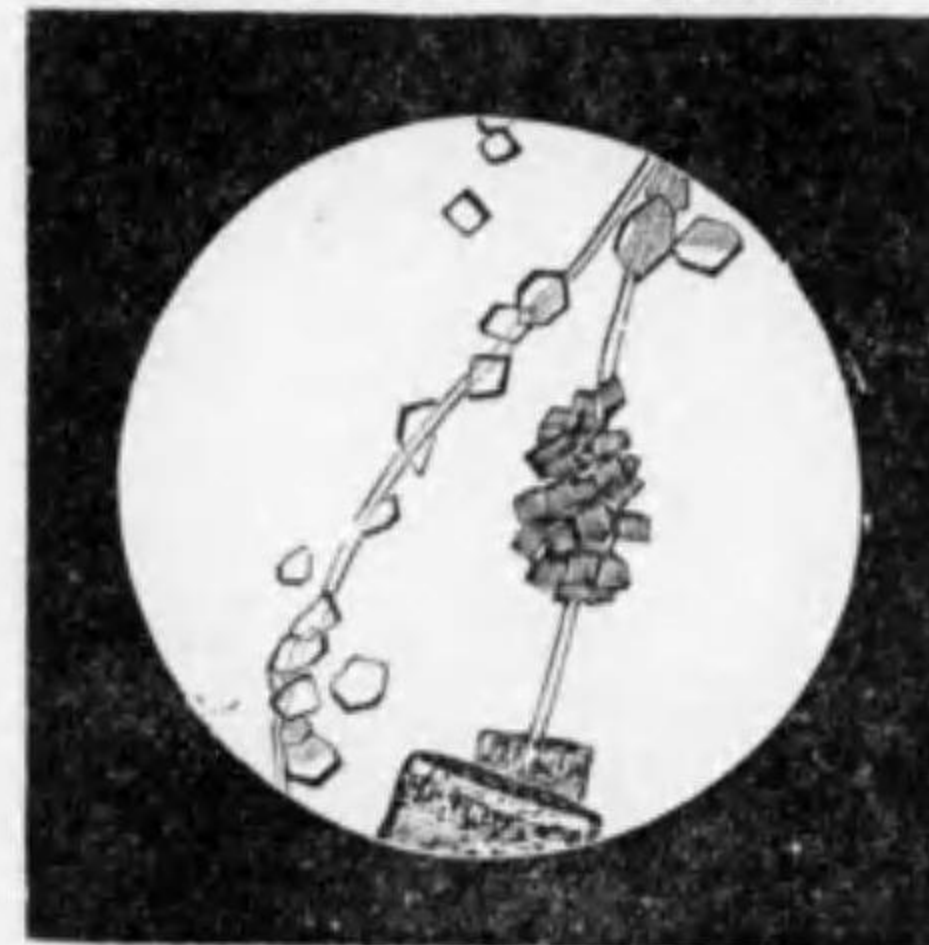
第三百八十四圖 痛風關節ノ縱断面擴大(n. Küstner)



第三百八十五圖 手指ノ痛風性關節炎



第三百八十六圖 ガーロット氏絲條
試驗法ニ由リ滲出シタル尿酸鹽結石



第三百八十七圖 痛風ノレントゲン像



XII 手指關節炎
Fingergelenkentzündungen
(Phalangeal arthritis)

1) 急性漿液性炎 serosa acuta	比較的稀, 挫傷・捻挫・過勞後ニ來ルコトアリ。	機能障礙 異常位 疼痛 腫脹 指關節ノ 兩側及 背側ニ 著明ニ シテ 掌側ニ ハ著明 ナラズ。
2) 急性化膿性炎 purulenta acuta	瘰癧ニ繼發ス, 稀ニハ外傷後。	
3) 淋毒性(急性) gonorrhoeica	比較的稀ナルモ, 屢々他ノ關節ト共ニ侵サル。	
4) 癩癘質斯 性 rheumatica	a) 急性 時トシテ認メラル, 屢々他ノ關節ト共ニ侵サル。 b) 慢性 特ニ手指ノミニ來ルコトアリ, 特有ナルヲ結節性關節癩癘質斯 Arthritis rheumatica ト云フ(第389圖)	
5) 畸形性 deformans	殆ンドナシ。	
6) 慢性漿液性 serosa chronica	急性漿液性關節炎ヨリ移行スルコトアリ。	
7) 結核性 tuberculosa	多クハ風蕪 Spina ventosa ニ續發ス(其ダ稀ニ老人ニ於テ原發スルコトアリ), 多クハ肉芽性炎ニシテ, 時トシテハ膿瘍・瘻孔ヲ形成ス。 敗毒性ノモノニ類スルモ, 鑑別容易(年齡・既往症・ワ氏反應・顯微法等)。	
8) 微毒性 syphilitica	第二期 非常ニ稀ナリ, 亞急性癩癘質斯ト區別スベシ。 第三期 甚ダ稀ナリ, 多クハ手指骨ノ敗毒ニ併發ス, 結核性ノモノト鑑別ヲ要ス。	
9) 尿酸性 urica (Gicht)	急性關節癩癘質斯ニ類スルモ, 特ニ拇指 Podagra ヲ侵スコト多ク, 特ニ夜間ニ劇痛アリ, 屢々痛風結節ヲ伴フ。	
10) 血友病性 Haemophilica	殆ンドナシ。	
11) 神經性 neuripatica	殆ンドナシ。	
12) 肉腫 Sarkom	極メテ稀ナリ。	

XIII 手指ノ腫脹 Anschwellungen der Finger

1) 先天性巨指	後頁參照。
2) 骨折	第176頁參照。
3) 脫臼	第176頁參照。
4) 癰疽	第245頁參照。
5) 脫疽	脫疽 Gangraen ノ初期ニ手指疼痛, 「チアノーゼ」ト共ニ手指ノ腫脹ヲ見ルコトアリ, 併シ此際ニハ腫脹自個ハ問題トナラズ(第247頁參照)。
6) 指骨結核 Tuberkulose d. Finger- knochen	指骨及ビ指骨間關節ニ屢々結核ヲ發生スルコトアリ, 特ニ小兒ニ多シ, 指骨ノ結核ニハ骨膜性ナルコトハ稀ニシテ, 骨性ナルコト多シ, 又指骨間關節結核ハ滑液膜性ナルコトハ殆ンド無ク, 骨性ナルコト多シ。 本病ニ特有ナルコトハ自覺的症狀ナクシテ, 手指ガ次第ニ紡錘狀ニ肥厚スルコトナリ, 其特有ナル外見ニヨリ風蕪 Spina ventosa od. Windhorn ナル名稱アリ, 該部ノ硬度稍々軟ニシテ遂ニハ自潰シテ結核性瘻孔ヲ成スコトアリ, 骨ノ結核ニ於テハ一般ニ骨ノ肥厚ヲ來スモノニアラザレドモ指骨ノ結核ニ於テハ多少骨膜ノ肥厚ヲ認ムルコトアリ。 本病ノ診斷ハ容易ナルカ指骨ノ微毒ト鑑別ヲ要スルコトアリ。年齡・體質・既往症・經過・特殊検査法(ツベルクリン反應, ワッセルマン氏反應)・試驗的顯微法等ニヨリ區別ス。
7) 指骨微毒	稀ニ之ヲ見ルコトアリ, 後天性或ハ先天性惡毒ニ因ル, 其症狀風蕪ニ類スルモ前記ノ各項ニヨリ區別ス。
8) 指骨關節炎	第242頁參照。
9) 手指ノ腫瘍	a) 軟部 ニハ纖維腫・脂肪腫・血管腫・神經纖維腫・乳嚙腫・皮角・癌腫・肉腫・黑色肉腫等ヲ發生スルコトアリ, 併シ何レモ稀ナリ。 其他疣贅 Warze, 壓迫性水瘤 Drückkule, 「ボトリオミコーゼ」 Botryomykose 等ヲ發生スルコトアリ。 b) 骨 ニハ比較的屢々骨腫・軟骨腫・稀ニ肉腫ヲ發生ス。
10) 手指ノ囊腫	時トシテ外傷性皮膚囊腫 Traumatice Epithelcyste ヲ發生スルコトアリ(總論參照), 併シ「ガングリオン」・粉瘤ハ殆ンド發生セズ。

第三百八十八圖 先天性梅毒ニヨル指骨膿毒
(n. Friedrich)



第三百九十圖 中指屈筋腱ノ結核性腱鞘炎
(n. Axhausen)



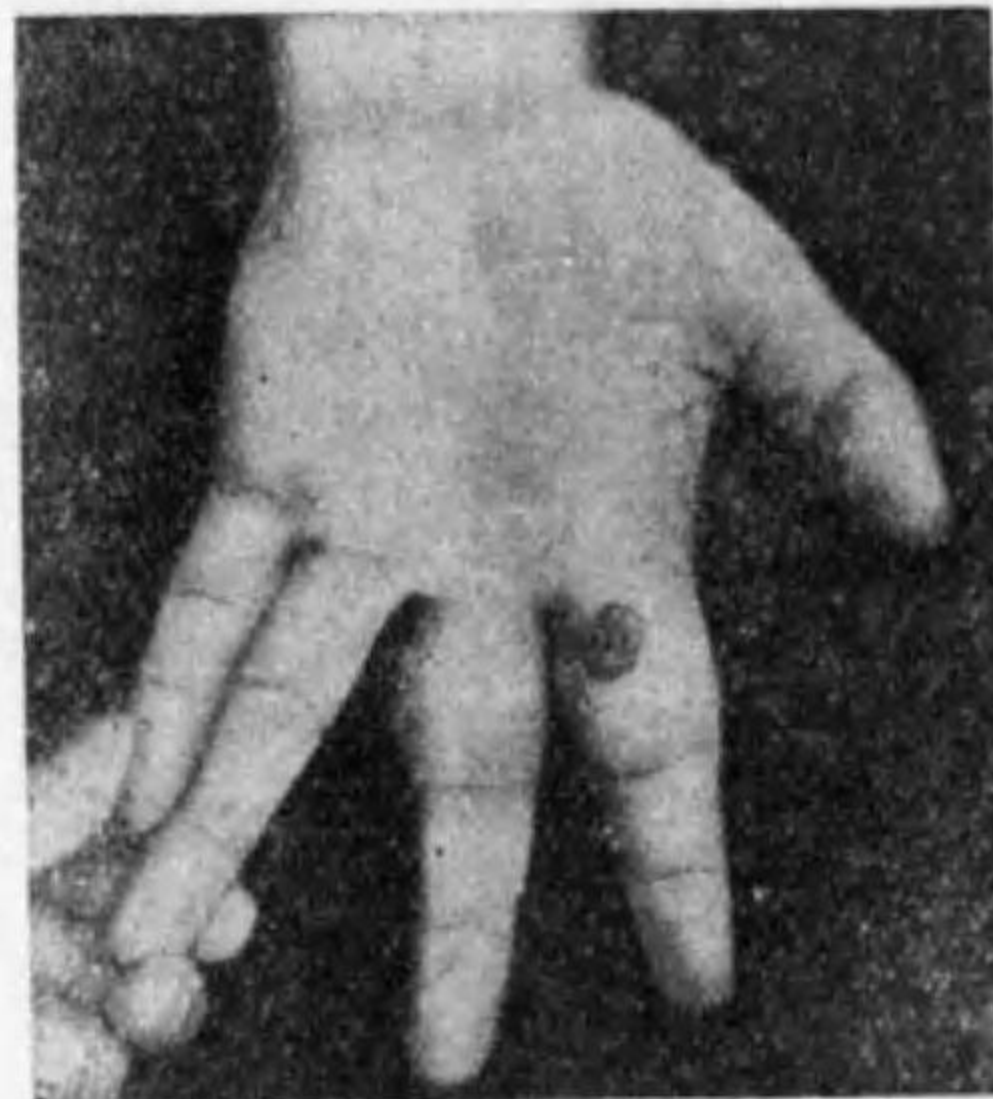
第三百九十二圖 手指及中指ノ多發性軟骨腫



第三百八十九圖 結節性癩癩質斯



第三百九十一圖 左第二及第三指
風刺竅ニ之ヨリ發セル潰瘍(山村氏)



第三百九十三圖 同左X線像(n. Querein)



XIV 瘰癧 Panaritium (手指ノ蜂窩織炎)

手指ノ先端ニ近キ背側又ハ掌側ニ多シ、是等ノ部位ニ小創傷アリタル後、又ハ竹木類ノ小片ノ刺入、皮膚ノ小皸裂等ヨリ傳染シ、或ハ其原因不明ナルコトアリ。
本症ハ特ニ下婢・農夫等ニ多ク、又冬期ニ多ク見ラル。
葡萄狀球菌ニヨルコト最モ多キモ、時トシテハ連鎖狀球菌・腐敗菌等ノ傳染ニヨルコトアリ、後者特ニ惡性ナリ、瘰癧ニハ次ノ種類アリ。

1) 上皮性瘰癧 P. subepidermoidale	化膿ガ皮膚ノマルビギー氏層内ニ限リ、深部ニ及バザルモノヲ云フ、疼痛他ニ比シテ輕ク、比較的早期ヨリ限局性腫脹・發赤著明ニシテ間モナク黃色膿ヲ透見ス、患部ノ皮膚ヲ剝離スレバ速ニ治ス。
2) 皮下性瘰癧 P. subcutaneum	最モ屢々認メラルモノナリ、皮下ニ炎症性浸潤アリ、疼痛顯著ニシテ發赤、熱感アリ、後ニハ化膿ニ陥リ、表面ヨリ膿ヲ透見シ得ルニ至ルコトアルモ、或ハ表面ニ於ケル化膿著明ナラズシテ、以下ニ述ブルガ如キ種々ノ合併症ヲ發スルコトアリ。
3) 爪牀下瘰癧 P. subunguinalis	瘰癧ガ爪ノ附近ニ發生スル時ハ容易ニ爪下ニ侵入シ、爪ノ壓迫ニ際シテ疼痛ヲ發スルコト著シク、或ハ爪ノ下ニ發赤又ハ化膿ヲ認メ、患部ノ爪ヲ除去スルニアラザレバ治癒セザルコト多シ。
4) 腱性及腱周圍性瘰癧 P. tendinosum et peritendinosum	皮下瘰癧ニ續發ス、腱又ハ其周圍ニ沿フテ速ニ上方ニ進行シ、急性全身症狀著明ニシテ腱ノ走行ニ相當シテ急性炎症症狀ヲ發シ、腱ノ機能全ク廢絶セラレ、屢々腱ノ壞疽ヲ起ス、此際ニハ壞疽ニ陥リタル腱ガ全ク除去セラレザル間ハ治セズ、又治後機能障礙ヲ殘ス。
5) 骨性及骨膜性瘰癧 P. osseum et periostale	皮下性瘰癧ノ治癒不良ナル際ニ續發スルコトアリ。疼痛特ニ著シク切開ヲ施スモ指ノ腫脹去ラズ、創面ノ肉芽ハ弛緩性ニシテ多クハ一部ニ癭孔ヲ有シ、消息子ヲ通ズルニ屢々骨ヲ觸ル、X線検査ニヨレバ骨ノ變化ヲ認ム(骨膜性ノ初期ニハ不明ナルコトアリ)。
6) 關節性瘰癧 P. articulare	深部ノ皮下性瘰癧又ハ骨性瘰癧ニ續發スルモノナリ、或ハ關節創傷ニ因ル、本症ハ特ニ第一指骨間關節ニ多シ、該部ニ相當シテ發赤・腫脹・疼痛著シク機能不能トナシ、全身症狀モ屢々著明ナリ。
7) 腐敗性或壞疽性瘰癧 P. putricum od. gangraenosum	最モ惡性ナリ、普通ノ化膿菌ト嫌氣性菌ノ混合傳染ニヨル、局所ノ急性症狀一層著明ニシテ容易ニ壞疽ヲ起シ、速ニ手及ビ前膊ニ蔓延シ、全身症狀亦重篤ニシテ速ニ前膊ノ健康部ニテ切斷セザレバ危險ナルコト多シ。

第三百九十四圖
手指ボトリオミコーゼ
(自家實驗)



第三百九十五圖
骨性瘰癧



第三百九十六圖
同左 X 線圖 (n. Quervain)



第三百九十七圖 正中神經切斷後ノ I, II, 指ノ脱疽 (n. Prakt. Chir.)



第三百九十八圖
牙指ノ石炭酸脱疽 (n. Prakt. Chir.)



第三百九十九圖
右手特發脱疽 (慶大病院)



XV 手指ノ脱疽 Gangraen der Finger

(詳細ハ足趾脱疽ノ條下参照)

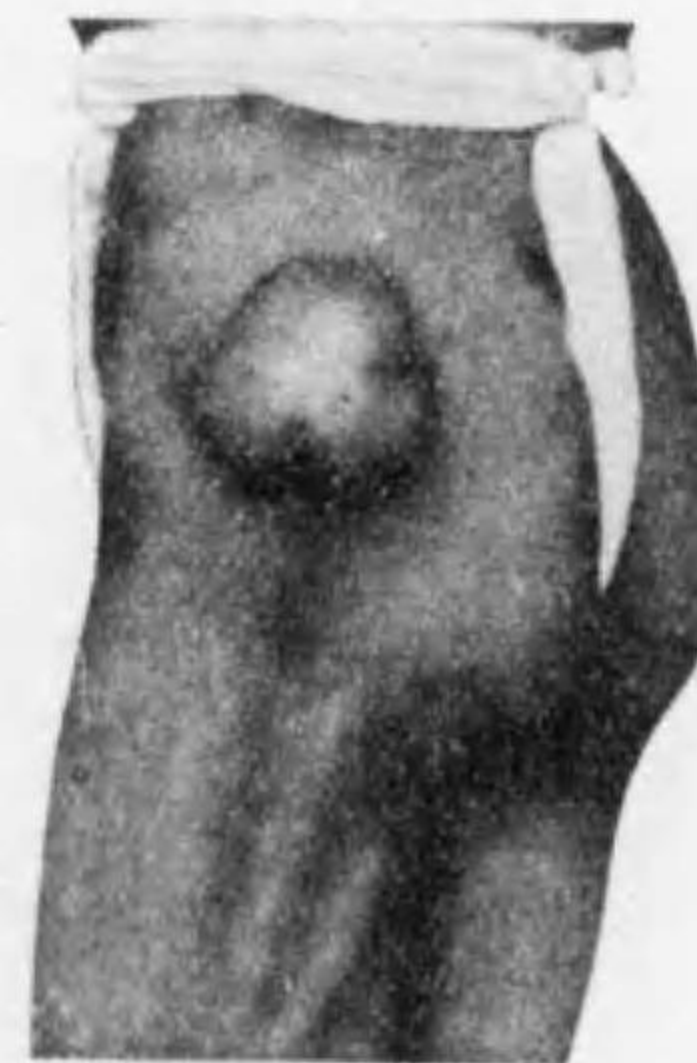
<p>1) 老人性或動脈硬化性脱疽 Senile od. arteriosklerotische Gangraen</p>	<p>老人ニ於テ動脈硬化著明ナル爲ニ起ル、併シ本症ハ足趾ニ稀ニ認メラルルモ、手指ニハ非常ニ稀ナリ(特ニ本邦ニハ殆ソド無)。 本症ハ橈骨動脈ガ索狀トシテ觸知セラルルニヨリテ診斷セラル、又動脈硬化著明ナル時ハ X 線寫眞ニヨリテモ證明セラル。 本症ノ診斷ハ容易ナルガ微毒性脱疽ト鑑別ヲ要スルコトアリ。</p>
<p>2) 微毒性脱疽 Syphilitische Gangraen</p>	<p>動脈ノ微毒性變化ニ因スルモノナルガ、足趾ニ比シ手指ニハ稀ナリ。 本症ハ老人性脱疽及ビ特發脱疽等ト鑑別ヲ要ス、微毒ノ既往症・ワ・セルマン氏反應・試驗的驅黴法等ニヨリテ區別ス。</p>
<p>3) 特發性脱疽或壯年性脱疽 Spontane od. praesenile G.</p>	<p>比較的多数モノナルモ(2)ニ比シテ稀ナリ、又足ノ特發脱疽後手ニ脱疽ヲ起スコトアリ、對側性ナルコト多数モ偏側性ニモ來ル、發病前ニレノー氏病ノ如キ輕キ間歇性神經痛ヲ來スコトモアリ、又手指ノ冷感感ヲ訴フ、微毒性脱疽・レノー氏病ト鑑別ヲ要ス。</p>
<p>4) レノー氏病或對側性壞疽 Renaudsche Krankheit od. Symmetrische Gangraen</p>	<p>手ニハ極メテ稀ナリ、時ニ發作性ノ神經痛及ビ手ノ貧血ヲ來シ、次第ニ手ノ壞疽ヲ來ス(對側性ナルコト多シ)。</p>
<p>5) 糖尿病性脱疽 Diabetische Gangraen</p>	<p>稀ニ手ニ認メラル、温性脱疽ニシテ疼痛著シ、多クハ化膿ヲ併發ス、尿中ニ糖著明ナリ。</p>
<p>6) 石炭酸脱疽 Carbolgangraen</p>	<p>手指ヲ石炭酸ニテ温布シタル爲ニ起ル、併シ近來甚ダ稀ナリ、脱疽進行性ナラザルモ初期ニハ疼痛著明、橈骨動脈ハ尋常。</p>
<p>7) 神經性脱疽 Neuropathische Gangraen</p>	<p>脊髄空洞症・脊髄腫瘍・脊髄外傷・正中神經損傷等ニ際シテ手指ニ壞疽ヲ起スコトアリ、全然無痛性ニシテ進行性ナラザルモ、治癒ノ傾向全クナシ、何レモ他ニ原病著明ナルニヨリテ診斷セラル。 切斷癩 Lepra mutilans モ此部ニ屬スベシ。</p>
<p>8) 凍傷性脱疽 G. n. Erfrierung</p>	<p>其原因的關係明カナルニヨリテ容易ニ診斷セラル。</p>

XVI 腰部ノ腫瘤類 Tumoren der Glutealgegend

<p>1) 軟部ノ眞性腫瘍</p>	<p>屢々脂肪腫 Lipom・纖維腫 Fibrom・神經纖維腫 Neurofibrom・血管腫 Angiom・淋巴管腫 Lymphangiom・肉腫 Sarkom・癌腫 Karzinom 等ヲ發生スルコトアリ。 何レモ特有ナル症狀ニヨリ診斷困難ニハアラス、併シ深部ニ發生セル時ハ診斷困難ナルコトアリ(後論參照)。</p>
<p>2) 囊腫</p>	<p>a) 粉瘤 Atherom 時トシテ腰部ニ發生ス、粘液囊炎・皮膚様囊腫ト鑑別ヲ要ス。 b) 皮膚様囊腫 Dermoidzyste 薦骨又ハ尾閏骨ノ附近ニ發生スルコトアリ、後述ノ先天性薦骨部腫瘍ト發性關係相類似ス、粉瘤ニ類スルモ部位一定シ、皮膚ト癒着ナク、底部ト癒着ス。 c) 粘液囊炎 (i) 薦骨ノ後面、(ii) 尾閏骨ノ後面、(iii) 大轉子ノ附近ニアリ、急性粘液囊炎ハ甚ダ稀ニシテ、多クハ慢性粘液囊炎ナリ。 本症ハ發生部位前記ノ如ク一定シ、皮膚ト癒着ナク、底面ト癒着アリ、試驗的穿刺ニヨリ粘液様物ヲ證ス(併シ肥厚性粘液囊炎ニ於テハ内容殆ンド無ク、纖維腫ト誤ラルルコトアリ)、(粘液囊炎ノ詳細ハ後論參照)。</p>
<p>3) 先天性薦骨尾閏部腫瘍 Angeborene Sakrococcygealtumor</p>	<p>先天性ニ薦骨部又ハ尾閏部ノ中央ニ脊髄膜ヘルニア Meningocele ヲ發生スルコトアリ、之ハ脊椎上部ニ發生スルモノト同様ナルモ、決シテ神經ノ麻痺症狀ヲ呈スルコトナシ。 時トシテハ之ニ脂肪腫・粘液腫・血管腫ヲ併發スルコトアリ、其他該部ニハ混合腫 Mischgeschwulst・皮膚様囊腫 Dermoidzyste・畸形腫 Teratom・胎兒内胎兒 Fetu: in Fo:tu inclusionem・尾骶部癒着部双胎兒 Urogenitus・多毛症 Hypertrichosi 等ヲ見ルコトアリ、又甚ダ稀ニハ尾閏骨ノ先端ニ小ナル尾附屬物 Schwanzanhänger ヲ見ルコトアリ、人類發生上ノ遺殘物ナリ。</p>
<p>4) 動脈瘤</p>	<p>稀ニ臀動脈 A. glutealis ニ動脈瘤ヲ發生スルコトアリ、然レニ該部ハ厚キ筋層等ニ覆ハルルヲ以テ初期ニハ其發生ニ氣附カズシテ雞卵大以上トナルニ及ンデ始メテ發見セララルコト多シ、動脈瘤大トナル時ハ手掌大以上トナルコトアリ、搏動及ビ雜音ヲ有スルコト特異ニシテ、時トシテハ神經ヲ壓迫シテ神經痛ヲ發スルコトアリ。 診斷容易ニシテ鑑別スベキモノナキモ、初期ニハ之ヲ見逃スコトアリ。</p>

<p>5) 護謨腫 Gumma</p>	<p>稀ニ腰部皮下(甚ダ稀ニ筋肉骨盤骨)ニ護謨腫ヲ發生ス、他部ニ於ケルモノト同様ニシテ、脂肪腫・粉瘤・動脈瘤・寒性膿瘍等ト鑑別ヲ要ス。</p>
<p>6) 寒性膿瘍 Kalterabszess</p>	<p>脊椎カリエス・骨盤骨カリエス・股關節結核、甚ダ稀ニハ肋骨カリエスノ爲メニ腰部ニ流注膿瘍 Senkungsabszess ヲ形成スルコトアリ。 上記ノ各疾患ト鑑別ヲ要スルモ、之レハ著大トナルコトアリ、穿孔又ハ自潰後屢々治シ難キ瘻孔ヲ殘ス。</p>
<p>7) 骨ヨリ發生スル腫瘍</p>	<p>a) 肉腫 Sarkom ガ骨盤骨ノ骨膜又ハ骨髓ヨリ發生シ著大トナルコトアリ、紡錘細胞肉腫ナルヲ常トス。 b) 骨腫 Osteom・軟骨腫 Chondrom ヲ發生スルコトアリ、又軟骨肉腫 Chondrosarkom ハ巨大トナル。 c) 包蟲囊腫 Echinokokkus 甚ダ稀ニ骨盤骨ニ發生ス(又軟部ニ發生スルコトモアリ、但シ本邦ニハ此報告ナシ)。</p>

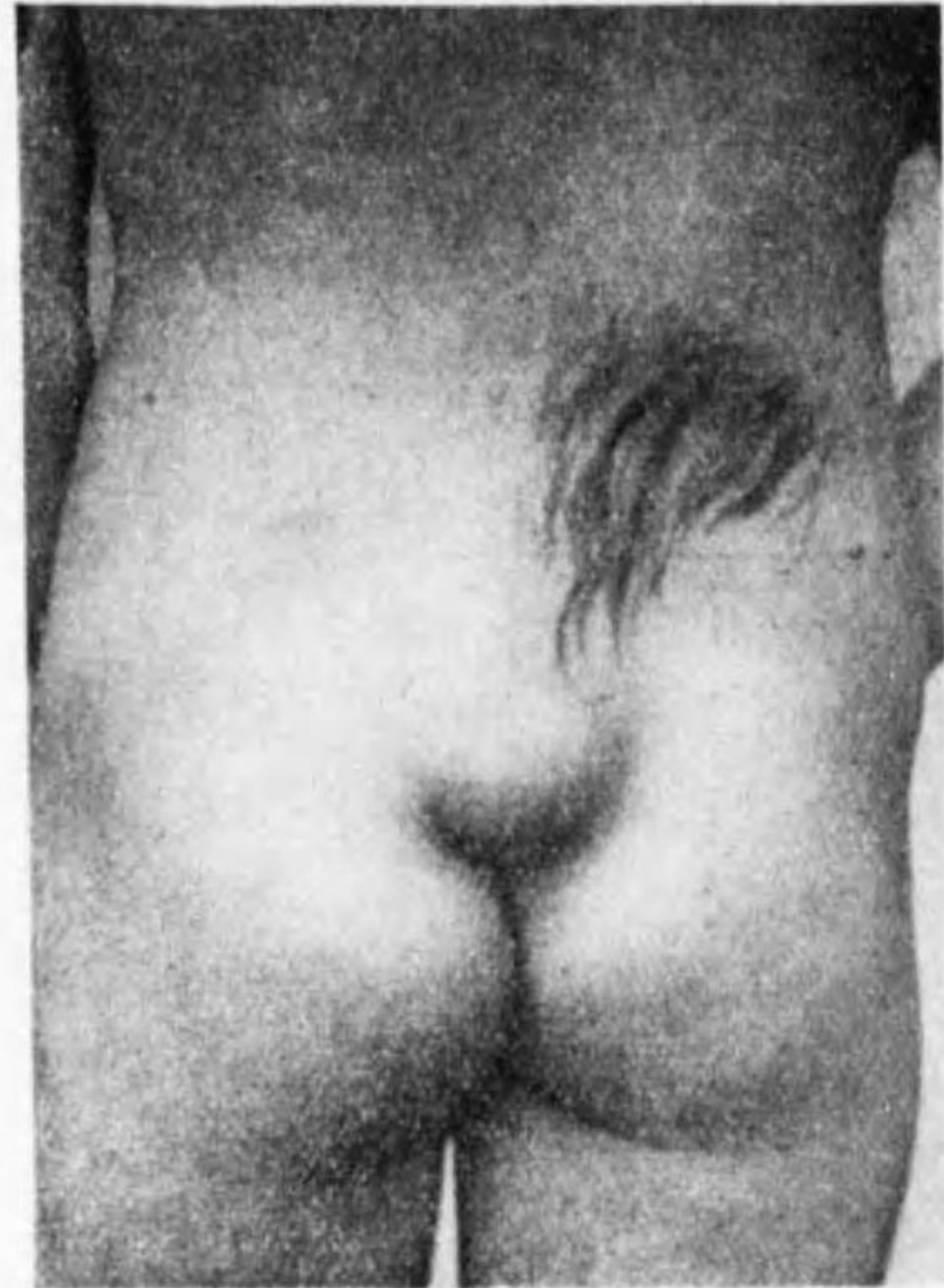
第四百圖 臀部粉瘤(山村氏)



第四百一圖 大轉子部粘液囊炎



第四百二圖 脊髓膜水腫及多毛症

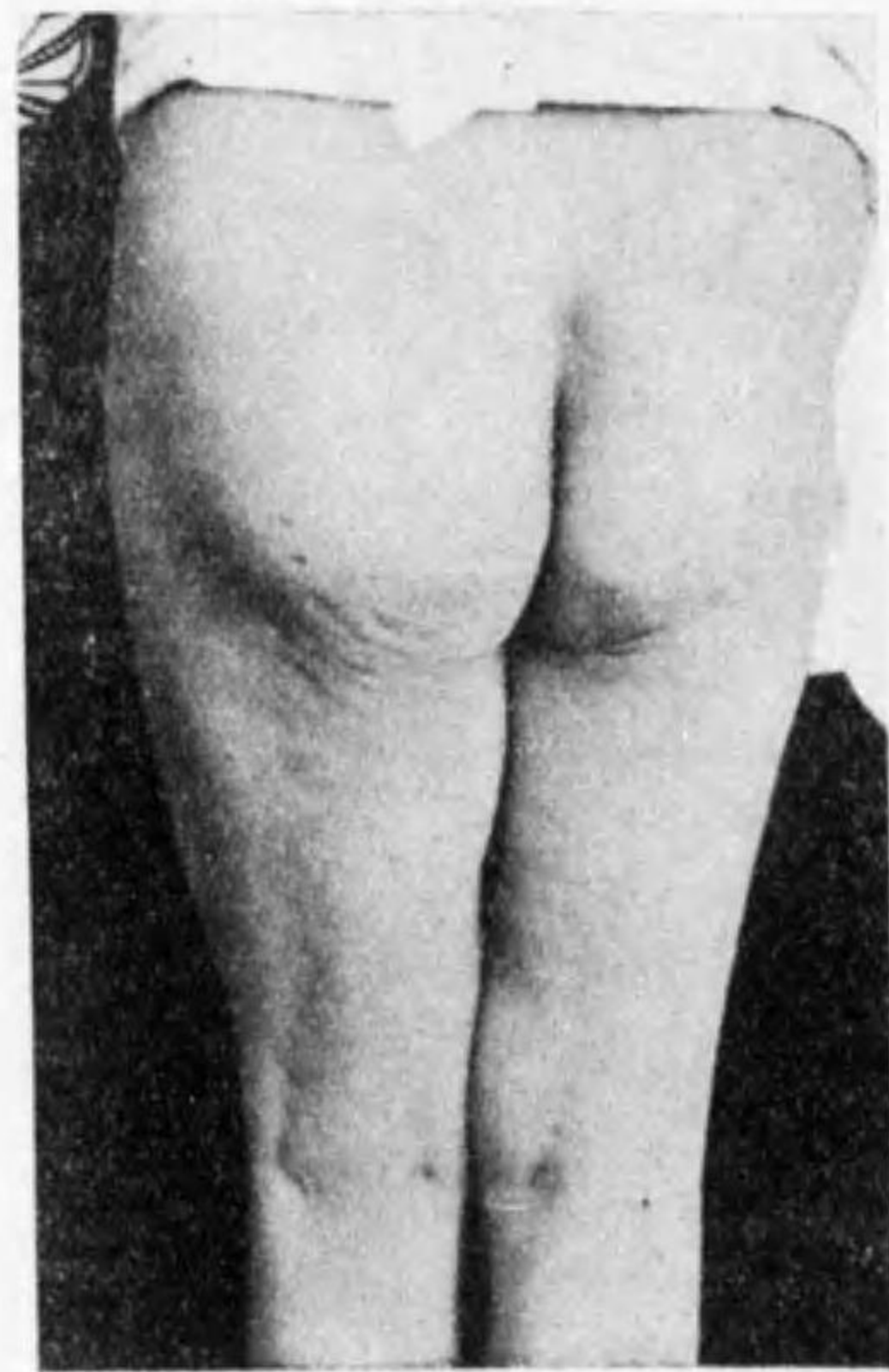


第四百三圖 尾附屬物



第四百四圖

左臀筋脈動脈瘤(慶大病院)



第四百五圖

腰椎部脊髓膜ヘルニア(n. Arhausen)



XVII 骨盤及骨盤窩ノ急性炎症性疾患

Akute entzündliche Erkrankungen des Beckens u. der Iliacalgrube

病名	主要症状	鑑別
1) 腰筋炎或腸腰筋炎 Psoitis od. Ileopsoitis	多クハ悪寒戰慄ノ下ニ著明ノ熱發アリ, 早期ヨリ下肢ガ股關節部ニテ彎曲シ, 同時ニ少シク外旋ス(腸腰筋ノ攣縮ニ因ル), 此状態ハ次第ニ著明トナリ, 甚シキハ直角位ヲ取ルコトアリ, 從ツテ早クヨリ起立歩行困難トナル, 腹壁上ヨリ壓診スルニ骨盤窩即チ腰筋部ニ抵抗壓痛アリ, 後ニハ軟化著明トナリ波動ヲ早ス, 併シ初期ニハ深部ニアル爲メ不明ナルコトアリ。	腰々蟲様突起炎ト誤ラル, 併シ蟲様突起炎ニ於テハ, 下肢ノ屈曲此ノ如ク顯著ニアラズ, 又初期ニ有ルモ次第ニ輕快ス, 腸腰筋炎ニテハ次第ニ増悪ス, 又蟲様突起炎ニ於テハ腹膜ノ刺戟症状等アリ。
2) 急性化膿性腸骨窩腺炎 Lymphad. iliaca purul. acuta.	多クハ鼠蹊腺・股腺ノ化膿ニ繼發スルモノナレドモ種ニハ原因不明ニシテ腸窩腺ニ原發スルコトアリ, 腸窩腺急性ニ腫脹シ, 壓痛アリ, 後ニハ軟化シテ波動ヲ早ス, 併シ腸腰筋炎ニ比シテ表在性ニシテ多クハ數個ノ淋巴腺腫脹ス, 又下肢ノ屈曲ヲ來スコトナシ, 多少ノ熱發ヲ伴フ。	腸腰筋炎トノ區別ハ容易ナリ。 鼠蹊腺炎ニ比シ腫脹ハ上方ニテ深部ニ在リ。
3) 骨盤骨急性化膿性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis purul. acuta	甚ダ稀ナルモノナルガ, 時トシテ年少者ニ來ル a) 限局性ニ髌臼附近, 腸骨・腸骨棘・恥骨等ノ厚キ骨部ニ發生ス。 b) 瀰漫性ニ腸骨ヲ侵シ, 多數ノ膿瘍ヲ形成シ遂ニハ互ニ融合シテ大ナル膿瘍ヲ形成ス, 多クハ突然悪寒戰慄ノ下ニ著明ノ熱發アリ, 次イデ局所ニ疼痛腫脹ヲ來ス(深在性ナルハ腫脹不明) 瀰漫性ノモノハ特ニ重篤ニシテ短時日ノ後ニ死亡スルコトアリ, 限局性ノモノハ比較的全身症状輕シ。 之ヲ放置スル時ハ化膿次第ニ著明トナリ, 周圍ニ蜂窩織炎ヲ發シ, 後ニハ膿瘍ヲ形成シ遂ニハ外部ニ自潰シ其跡ニ瘻孔ヲ殘スコトアリ。後ニハ骨盤骨ノ肥厚著明トナル, 或ハ股關節ノ強直ヲ殘スコトアリ。	初期ニハ診斷困難ナリ併シ熱發アリテ骨盤部ニ自發痛著シキ時ハ本症ニモ疑ヲ置クベシ。 腸腰筋炎トハ下肢屈曲ノ有無ニヨリテ區別ス。 蜂窩織炎トハ其原因ニヨリテ區別ス。
4) 急性喇叭管炎ニ因ル膿瘍 (婦人科書參照)。		

XVIII 骨盤窩ノ慢性腫脹

Chronische Anschwellungen der Iliacalgrube

	起始及経過	年齢	部位	形状	表面	限界
1) 結核性骨盤窩膿瘍	潛行性=始まり慢性=増大ス。骨盤カリエス」又ハ脊椎カリエス」=因ス。	若年者特ニ結核ノ素質アルモノ=多シ。	先ツ骨盤窩内深部=始まり、後ニハ表面=隆出ス。	初メハ扁平=腫脹シ、後ニハ腫瘍状=著明=隆出ス。	平滑	不明瞭、併シ腫瘍状=隆出セルトキハ限界明瞭ノ部アリ。
2) 骨盤骨ノ微毒(甚稀)	慢性=始まり、一定時期ノ後ニハ縮小ス。	壯年後(微毒ノ既往症)。	腸骨窩=發病スルコトアリ。	扁平=腫大シ或ハ稍々腫瘍状ヲ呈ス。	平滑或ハ多少ノ凹凸アリ。	不明瞭ナルヲ常トス。
3) 骨盤骨肉腫(骨膜性及骨髄性)(稀)	潛行性=始まり、比較的速ニ増大ス。	若年者。	腸骨窩・腸骨翼=發生スルコトアリ。	初メハ扁平腫大、後腫瘍状トナル。	平滑或ハ稍々凹凸。	明瞭或ハ不明瞭。
4) 亞急性腸腰筋炎(第251頁)	多クハ急性ノモノナレドモ、稀ニ亞急性ナルコトアリ。	不定。	右腸骨窩=稍々多シ。	扁平或ハ稍々著明=腫脹。	平滑。	不明瞭。
5) 蟲様突起炎後ノ膿瘍(同病下参照)	急性蟲様突起炎後=來ル、時トシテ亞急性ナル事アリ。	壯年者=多シ。	盲腸部=多キモ、時トシテハ尙下方或ハ左腸骨窩=現ル。	扁平或ハ著明=腫脹。	多クハ平滑。	不明瞭或ハ稍々明瞭ナル部分モアリ。
6) 腹部アクチノミコーゼ	慢性=増進(滲潤性成長)	不定。	廻盲部=始まりヲ常トシ、下腹部=及ブ。	滲潤性腫脹。	平滑或ハ稍々不同凹凸。	不明瞭。
7) 下腹部限局性腹膜結核	潛行性=起始、増大急性ナラズ、或ハ不變。	若年者=多シ。	下腹部=多シ。	滲潤性或ハ結節性腫脹。	粗大或ハ結節状凹凸。	多クハ不明瞭。
8) 深部腸骨窩腺炎(亞急性)	亞急性。	不定。	他ノモノニ比シテ表在性。	數個ノ淋巴腺腫大ヲ觸ル。	多クハ個々ノ淋巴腺ヲ觸ル。	稍々明瞭或ハ不明瞭。

硬度	疼痛	全身症状	其他	鑑別
軟性、腫脹著明ナル時ハ波動明カナルモ、初期ニテハ不明。	多クハ無し、(併シ腎部ニ流注セル時ハ腎神経ヲ壓迫シテ神経痛ヲ發スルコトアリ)。	末期ニハ不定熱發・盜汗・衰弱等アルモ初期ニハ著明ナラズ、併シ虛弱ナル人=多シ。	自潰後瘻孔ヲ殘ス、他ニモ流注膿瘍ヲ形成スルコトアリ。 X線検査ニヨリ骨盤骨ノ變化ヲ認ム。脊椎強直彎曲等、X線検査	骨盤骨肉腫・微毒等トノ鑑別ハ困難ナラズ(形状硬度等)。併シ初期ニハ本症ヲ見逃スコトアリ、(1)及(2)ノ區別ハ脊椎ノ検査ニヨリテ容易ナリ。其ダ稀ニ肋骨カリエス」ニ因ル膿瘍ヲ見ルコトアリ。
初メハ弾力性軟、後ニハ骨肥厚ニ因リ硬。	(-)	他部ニモ微毒性變化ヲ認ムルコトアリ。	ワ氏反應・試驗的驅膿法、後ニハX線ニヨリ骨變化ヲ認ム。	骨盤骨肉腫・寒性膿瘍等ト鑑別ヲ要スルモ、年齢・局所状態・特殊検査法ニヨリ區別ス。
稍々硬或ハ稍々靱(波動ナシ)。	(-)	末期ニハ衰弱、他部ヘノ轉位。	著大トナル時ハ骨盤内臓器ヲ壓迫ス。	初期ニハ寒性膿瘍・微毒等ト鑑別ヲ要スルモ、腫脹著明ニ増大セル時ハ容易。
滲潤性軟、波動不明ナルコト多シ。	多少ノ疼痛。	多少ノ熱發アリ後ニハ衰弱ス。	下肢彎縮屈曲ヲ特異トス(次第ニ増進)、白血球增多。	他ノ疾患ニ於テハ此ノ如ク下肢ノ彎縮屈曲ヲ來スコトナク、時トシテ蟲様突起炎ニ之ヲ見ルノミ。
滲潤性軟、波動著明或ハ不明。	多少ノ疼痛。	多少ノ熱發アリ後ニハ衰弱ス。	下肢彎縮屈曲ハ稀(上者ヨリ程度ニテ増進セズ)白血球增多。	腸腰筋炎トハ初期ノ蟲様突起炎症状ノ有無、下肢彎縮屈曲ノ程度及ビ後ニハ反ツテ輕快スルコトニヨリテ區別ス。
板状硬、時トシテハ其一部ニ小軟化。	多クハ無キモ時トシテハ疼痛アリ。	時トシテ多少ノ熱發アリ、後ニハ衰弱ス。	末期ニハ腸狭窄症状アルコトアリ、腸中ノ「ドルーゼ」	時トシテ慢性蟲様突起炎・膿瘍ノ鑑別ヲ要スルモ他ノモノトハ誤ラズ。
稍々硬靱。	多クハ無し、或ハ輕度。	(1)(2) = 同ジ。	腹水ヲ兼ヌルコトアリ、他部ノ結核。	診断困難ナラズ。(腹部ノ條下参照)。
稍々硬靱、或稍々軟、時トシテ一部軟化。	多少アリ。	多少ノ熱發アリ。	白血球增多症ハ輕度、多クハ鼠蹊腺炎ヲ伴フ。	診断容易。

XIX 骨盤カリエス Beckenkaries

本病ハ若年者ニ多ク(併シ壯年後ニ來ルコトモアリ), 特ニ結核ノ素因アル人, 他部ニ結核アル人ニ發病スルコト多シ。

本症ハ次ニ述ブルガ如ク骨盤ノ各所ニ發生シ, 疼痛及腫脹(寒性膿瘍ニ因ル)ヲ主症狀トスルモ發生部位ニヨリテ多少症狀ヲ異ニス。

<p>1) 腸骨楯 Crista iliaca</p>	<p>比較的腫々認めラルルモノナリ。 本症ニ於テハ自覺の症狀著明ナラザルヲ以テ, 其發病ヲ知ラズシテ腸骨高 Foosa iliaca ノ腫脹又ハ之ヨリ下降セル寒性膿瘍ニヨリテ始メテ本病が發見セララルコトアリ, 時トシテハ腸骨楯ノ軟性腫脹ヲ認め, 疼痛一般ニ著明ナラザルモ, 腸骨楯ノ所患部ニ輕度ノ壓痛アルコトアリ。</p>
<p>2) 腸骨翼及骨盤骨内面 Darmbeinschaukel etc.</p>	<p>本症ニ於テモ初期ニハ腫脹疼痛著明ナラズ, 次第ニ腸骨高ニ寒性膿瘍ヲ形成ス, 初メハ扁平ナル腫脹ナルガ増大スルニ從ツテ腫脹狀ニ下腹部ノ一側ニ膨隆ス, 時トシテハ骨盤内ノ寒性膿瘍ガ骨盤内ヨリ坐骨截痕ヲ出デ, 臀部ニ現ハレ, 腸腰筋ニ沿ヒテ大腿後側ニ向ツテ下降スルコトアリ, 尙ホ骨盤膿瘍ノ疑アル時ハ直腸内及ビ腔内ヨリモ検査スルコト必要ナリ。</p>
<p>3) 髌臼ノ附近 Pfannengegend</p>	<p>本症ハ股關節結核ト密接ナル關係アリ, 即チ單純ノ髌臼ノ結核トシテ認めラルルコトハ殆ンドナク, 多クハ股關節結核トシテ來ル。</p>
<p>4) 薦骨 Sakrum</p>	<p>a) 薦骨ノ前面ニ發生スルモノハ(2)ト同様ノ症狀ヲ呈ス。 b) 薦骨ノ後面ニ發生スル時ハ臀筋下ニ腫脹ヲ來スモ, 初期ニハ其腫脹ヲ認め難ク, 屢々神經痛ノ明カナルコトアリ,(之ガ爲ニ腰痛ヲ起ス各種疾患ト誤ラル)併シ進行スルニ從ツテ腰部ノ腫脹著明トナル。</p>
<p>5) 薦腸縫隙 Synchondrosis sacroiliaca</p>	<p>初期ニハ外部ニ於ケル腫脹明カナラズシテ, 單ニ薦腸骨關節部ニ鈍痛アリ, 特ニ患者ノ立位又ハ坐位ニ於テ兩肩ヲ強ク下方ニ向ツテ壓迫シ, 或ハ兩手ニテ腸骨ヲ左右ヨリ強ク壓迫スル時ハ疼痛該部ニ著明ナリ, 進行セル場合ニハ次第ニ腰部ニ腫脹ヲ來ス(種ニハ腸骨高内ニモ)。</p>
<p>6) 耻骨縫隙 Symphysis pubis</p>	<p>特ニ中年後ノモノニ認めラルルコトアリ。 多クハ耻骨縫隙ノ後側ニ比較的限局セル腫脹ヲ來シ, 時トシテハ輕度ノ壓痛ヲ伴フ, 次第ニ増大シテ波動著明トナリ, 遂ニハ自潰シテ瘻孔ヲ殘スコトアリ。</p>

腸骨高又ハ腰部ニ慢性腫脹アル時ハ先ツ寒性膿瘍 Kalter Abscessニ疑ヲ置キ他疾患ト鑑別セザルベカラズ,

又寒性膿瘍アル時ハ屢々脊椎カリエス・股關節結核等ト鑑別ヲ要ス,

骨盤骨ノ如何ナル部分ガ侵サレ居ルカノ區別ハ前記記載ニヨリテ大體區別セララルモ, 尙ホ不明ナル時ハX線検査ヲ要ス(併シ種ニハX線ニヨルモ不明ナルコトアリ)。

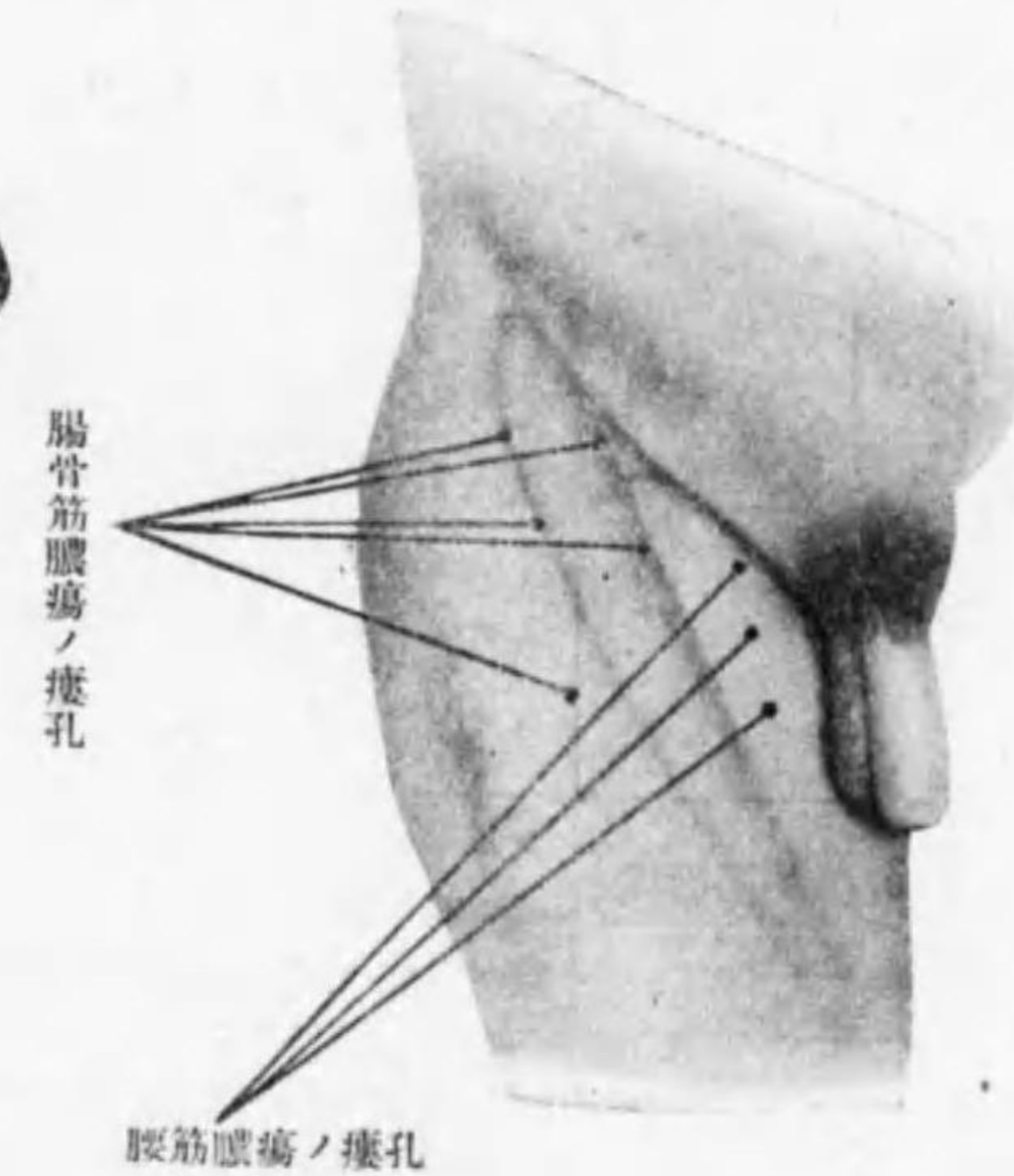
第四百六圖

骨盤カリエス(薦腸骨關節及薦骨ノ破潰著明ナリ)
(n. Briens Klinik)



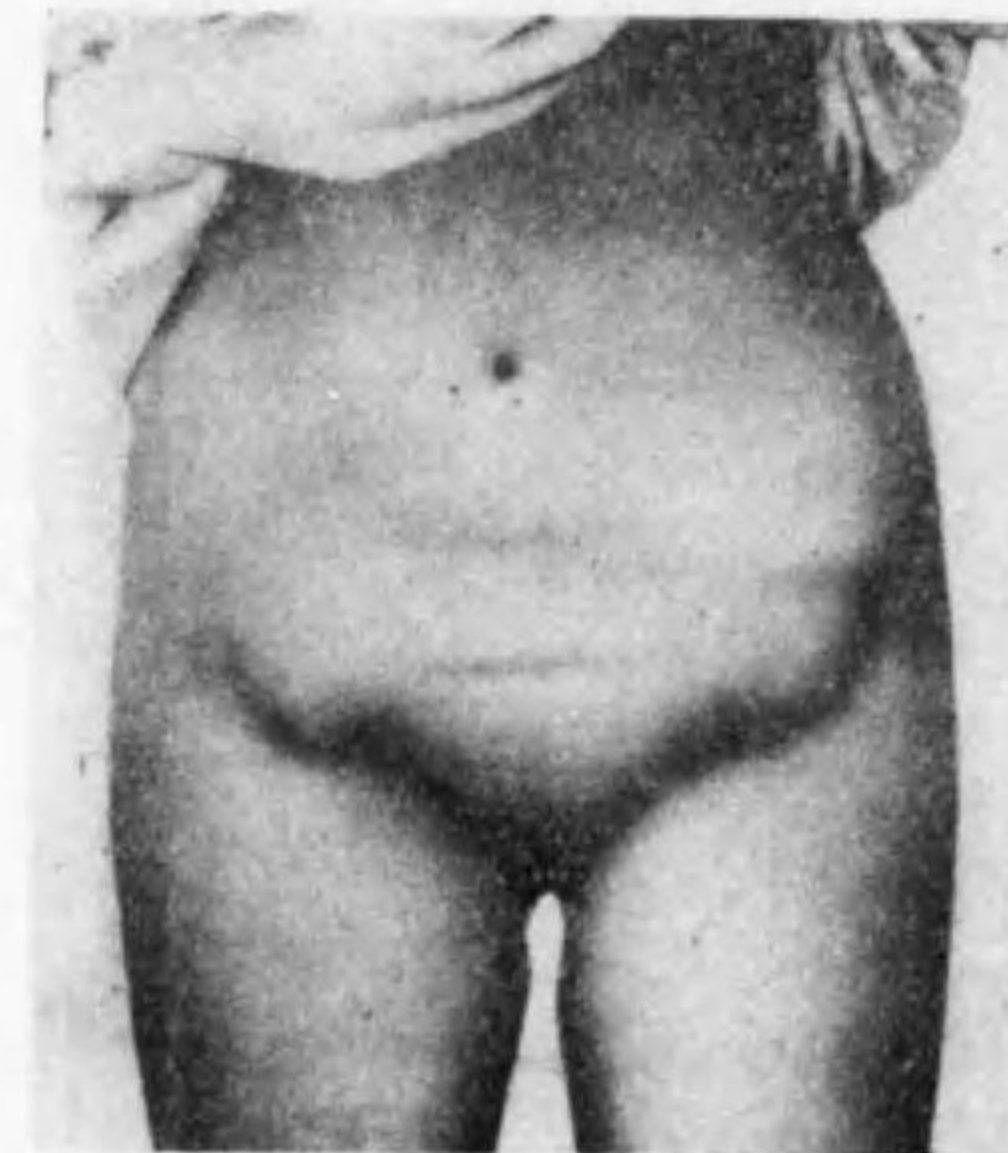
第四百七圖

腰筋膿瘍及腸骨筋膿瘍ニ因ル大腿前面ニ於ケル瘻孔ノ位置
(n. Steintal)



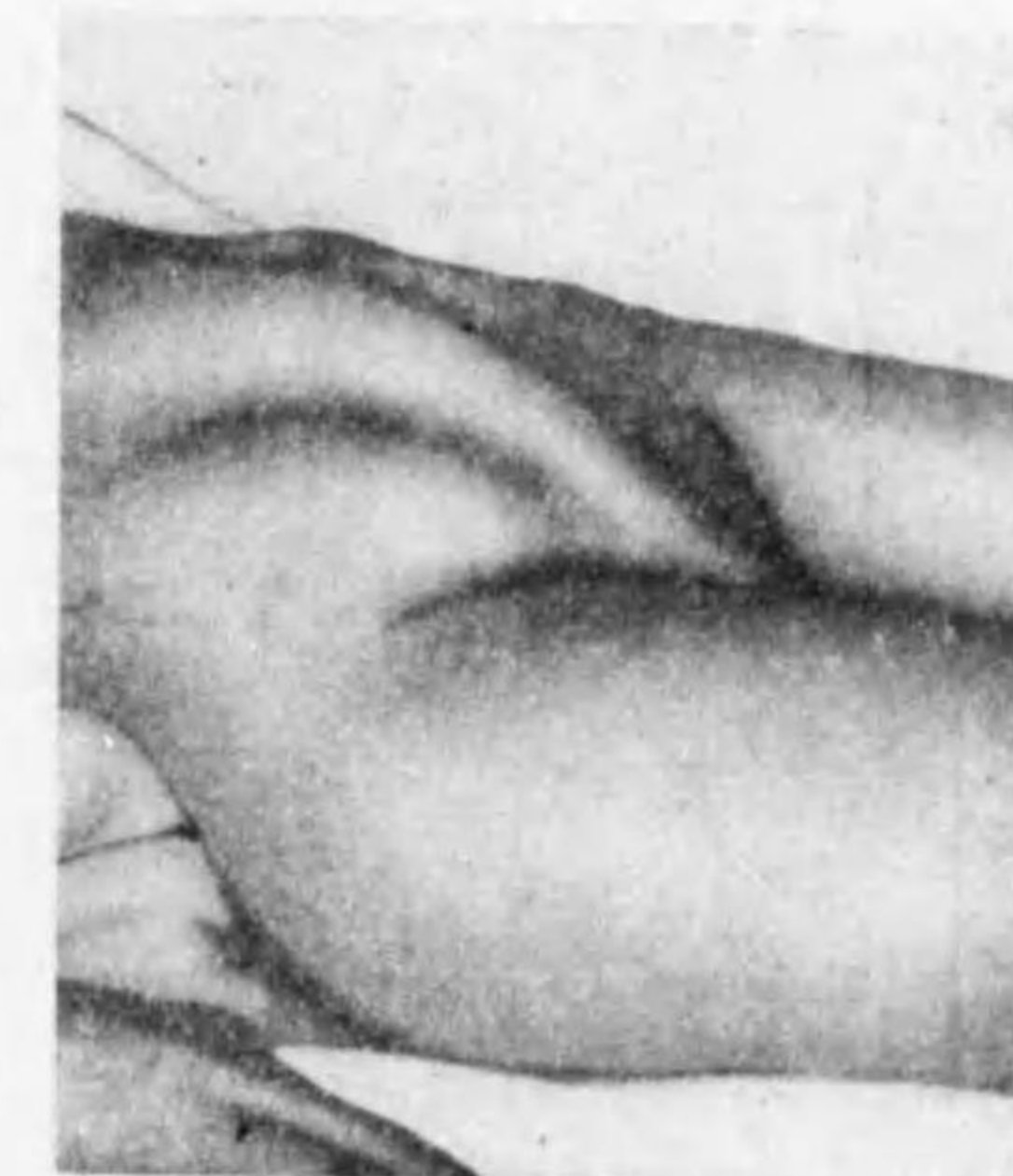
第四百八圖

薦腸縫隙結核ニヨル初期流注膿瘍



第四百九圖

腸骨高膿瘍 (n. Querein).



XX 股關節部疾患ノ診斷要項

Vorbemerkungen der Erkrankungen der Hüftgelenkgegend

A) 股關節部ノ腫脹 Anschwellungen der Hüftgelenkgegend

1) 股關節炎 Coxitis	<p>股關節ハ全周厚キ筋層ニ覆ハルルヲ以テ關節ノ腫脹ヲ親シク認メ難シ、只鼠蹊部中央ノ直下ニ於テハ比較的表在性ナルヲ以テ該部ニ於テ股關節ノ腫脹ヲ認ムルコトアリ。</p> <p>股關節炎ニハ種々アルガ(第262頁參照)、就中腫脹著明トナルハ結核性股關節炎ニシテ關節内滲出物・關節周圍炎ニヨリテ腫脹ヲ起シ、末期ニハ關節周圍膿瘍ヲ形成スルニ因ル、併シ是等ノ變化ハ股關節結核ノ末期ニ來ルモノニシテ(此際ニハ他ノ症狀モ著明)、初期ニハ關節部ノ腫脹著明ニハアラズ(股關節炎ノ鑑別ニ就キテハ後第262頁參照)。</p>
2) 股關節捻挫及挫傷	<p>之ニヨリテ關節出血著明ナル時ハ鼠蹊部中央部ノ直下ニ外傷後問モナク腫脹ヲ認ムルモ、此ノ如キハ至ツテ稀ナリ。</p> <p>特ニ本症ハ大腿骨頭骨折・關節囊内大腿頸骨折ト鑑別ヲ要ス。</p>
3) 骨折 Fraktur	<p>i) 大腿骨頭骨折及ビ關節囊内大腿頸骨折ニ於テハ關節血腫ニヨリテ鼠蹊部中央部ノ直下ニ腫脹ヲ認ムルコトアリ。</p> <p>ii) 關節囊外大腿頸骨折、其他大腿骨上端ノ骨折ニ於テハ皮下溢血及ビ骨折端移動ニヨリテ夫々特異ノ腫脹ヲ認ム。</p> <p>此際ニハ各骨折ニ特有ナル症狀ヲ伴フニヨリ診斷セラル(第190頁)。</p>
4) 脱臼 Luxation	<p>第186頁ニ示スガ如ク、股關節ニハ種々ノ脱臼アリ、脱出骨頭及ビ多少ノ皮下溢血ニヨリテ腫脹ヲ來ス、併シ何レモ脱臼症狀著明ナルニヨリテ診斷セラル。</p>
5) 急性化膿性骨髓骨膜炎	<p>大腿骨上端ノ骨髓骨膜炎ハ甚ダ稀ナルガ、時トシテ大轉子ニ之ヲ見ルコトアリ、本症ハ股關節結核(特ニ骨性)ト鑑別困難ナルガ、發病狀態・經過・炎症症狀・X線等ニヨリ區別ス。</p>
6) 流注膿瘍 Senkungsabscess	<p>骨盤カリエス、種ニ脊椎カリエスニヨリテ股關節ノ附近ニ流注膿瘍ヲ形成シ、股關節結核ノ周圍膿瘍ト誤ラルルコトアリ、此際ニハ多クハ骨盤高膿瘍ヲ併發スルモノナレドモ、時トシテハ之ガ不明ナルコトアリ。各疾患ノ症狀ヲ檢査シ、又X線檢査ニヨリ診斷ス。</p>

7) 化膿性筋炎	<p>股關節ノ周圍ニハ筋層厚キモ、該部ノ急性化膿性筋炎ハ甚ダ稀ナリ。</p>
8) 蜂窩織炎	<p>股關節部ノ蜂窩織炎ハ原發性ナルコトハ殆ンド無ク、急性化膿性骨炎・急性化膿性鼠蹊腺炎・化膿性關節炎・附近ノ蜂窩織炎等ニ續發スルモノナリ。</p>
9) 鼠蹊淋巴腺炎	<p>鼠蹊淋巴腺ハ種々ノ原因ニヨリテ腫脹スルモ、表在性ニシテ、其症狀明カナルニヨリ、他ノモノトハ容易ニ區別セラル。</p>
10) 股動脈瘤	<p>股動脈部ニ一致シ、特異ノ症狀ニヨリ、診斷容易ナリ。但シ股動脈ノ上ニ淋巴腺ノ化膿・軟性腫瘍等アル時ハ搏動之ニ傳播シテ、動脈瘤ト誤ラルルコトアリ、注意スベシ。</p>
11) 皮下溢血	<p>骨折脱臼以外ニ刺創・銃創等ニヨリテ股動脈、又ハ股靜脈等ヲ損傷シ、著明ノ皮下溢血ヲ來スコトアリ。</p>
12) 腫瘍及囊腫	<p>股關節部ニハ特殊ノモノナク、又一般ニ腫瘍モ囊腫モ稀ナリ。</p>
13) 股ヘルニア	<p>「ヘルニア」ノ條下參照。</p>

B) 股關節部ノ疼痛 Schmerzen der Hüftgelenkgegend

a) 自發痛 Spontaner Schmerz	<p>1) 急性關節炎ニ於テハ自發痛最モ著明ナリ(關節炎ノ條下參照)。</p> <p>2) 慢性關節炎ニ於テモ關節復原質・畸形性關節炎ニ於テハ疼痛ヲ發ス又股關節結核ニ於テモ疼痛ヲ發スルコトアリ。</p> <p>3) 骨折ニ於テハ疼痛最モ著明ナリ。</p> <p>4) 脱臼ニ於テモ著明ナリ、併シ骨折ニ劣ル。</p> <p>5) 捻挫・挫傷ニ於テモ疼痛アリ、併シ前二者ニ劣ル。</p> <p>6) 其他原因不明ノ輕度ノ神經痛アリ。</p> <p>(一般ニ自發痛ノミニヨリテ股關節部ノ疼痛ト診斷スルハ適當ニアラズ、宜シク壓痛及ビ官能痛其他ニヨリテ之ヲ定メザルベカラズ。)</p>
b) 壓痛 Druckschmerz	<p>イ) 直達壓痛 Direkter Druckschmerz 關節前面ニテ檢ス、即チ鼠蹊韌帶中央部ノ直下ヲ壓迫シテ檢ス。</p> <p>ロ) 介達壓痛 i) 大轉子ヲ股關節部ニ向ツテ壓迫ス。 ii) 足蹠又ハ膝部ヲ大腿長軸ニ於テ髌臼部ニ向ツテ衝突狀ニ壓迫檢査ス。</p>
c) 官能痛 Funktionschmerz	<p>次ニ述ブルガ如ク、股關節ヲ各方向ニ動かカス際ニ疼痛ヲ發スルヤ否ヤニヨリテ定ム。尙ホ此際ニハ疼痛ノミナラズ、運動時ニ異常運動アルヤ、軋聲音アルヤ否ヤヲモ注意スベシ。</p>

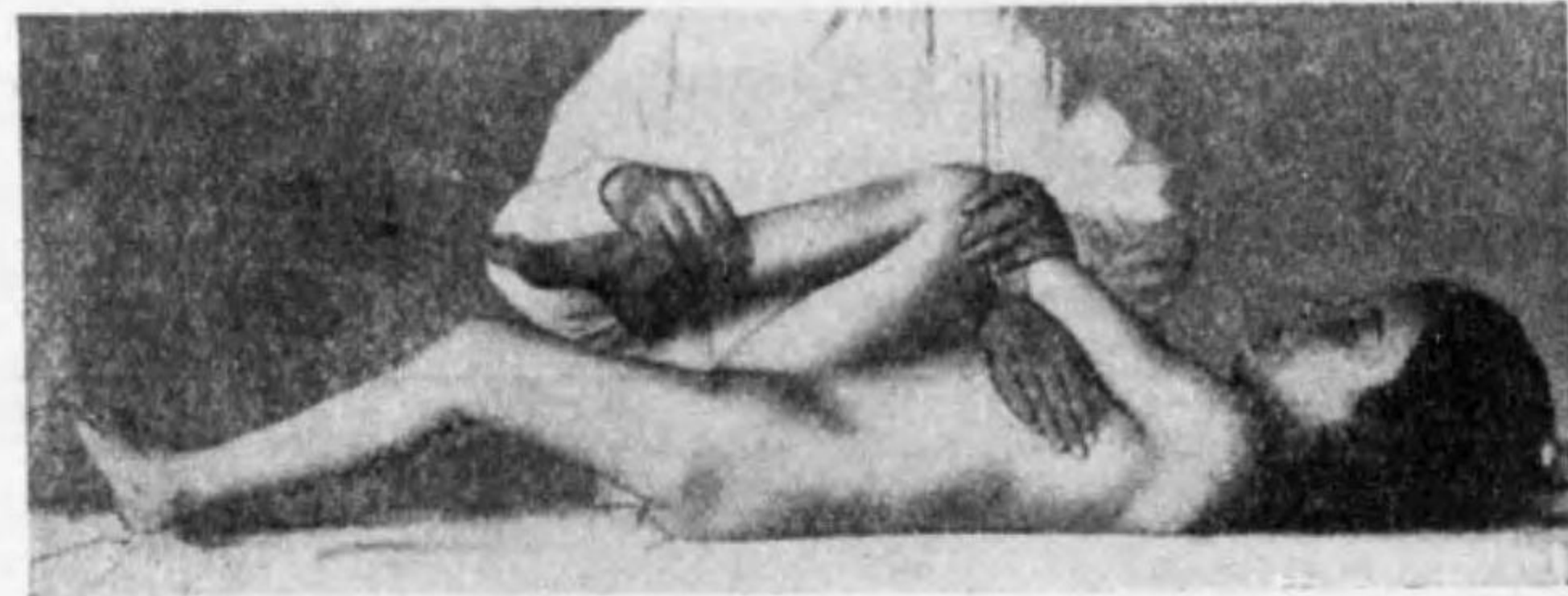
C) 股關節ノ機能 Funktion des Hüftgelenks

- a) 前額軸 Frontale Achse = 於テハ屈曲及ビ伸展 Biegung u. Streckung ヲ行フ (約 120-130 度), 但シ前方屈曲ヲ主トス。
- b) 矢狀軸 Sagittale Achse = 於テハ外轉及ビ内轉(輪) Abduktion u. Adduktion (約 90 度)。
- c) 鉛直軸 Vertikale Achse = 於テハ外旋及ビ内旋 Aussen-Rotation u. Innen-Rotation ヲ行フ (約 60 度)。

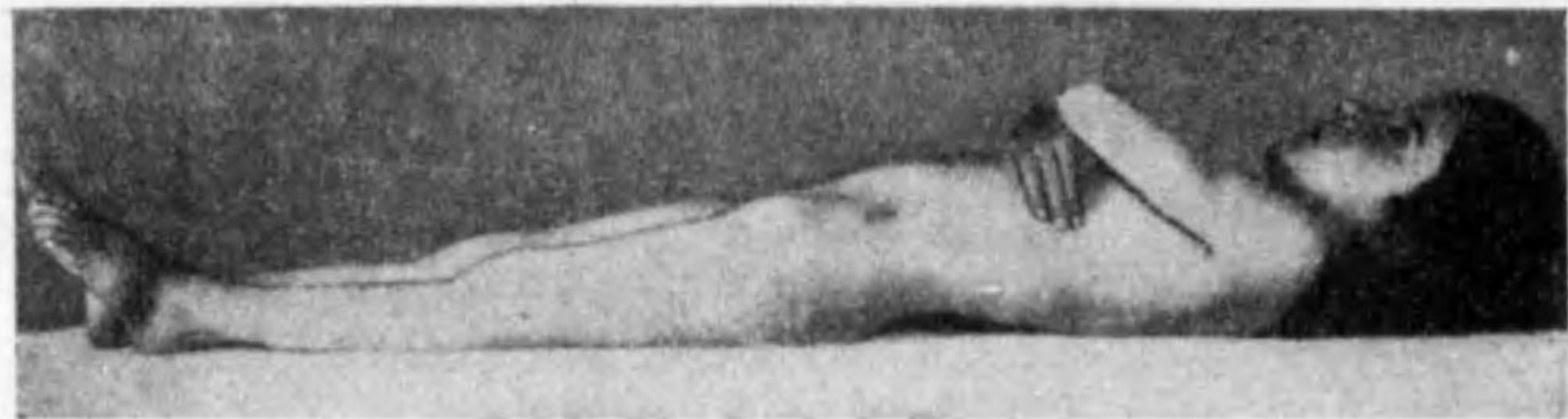
是等ノ運動ハ種々ノ疾患ニヨリテ障礙セラルルガ, 輕度ナル場合ニハ之ヲ見逃スコトアリ, 故ニ毎常健側ト患側トヲ比較シテ検査スルヲ要ス, 又輕度ノ運動制限ハ骨盤ノ共動運動 Mitbewegung des Beckens ニヨリ隠蔽セラルルコトアリ, 之ヲ検査スルニトーマス氏操作法アリ。

(股關節ノ屈曲輕度ナル際ニ之ヲ證明スルニ行ハルル法ナリ, 股關節ニ屈曲アル時ハ之ヲ充分ニ屈曲スルニ膝關節部ニ於テ屈曲シ, 下牀トノ間ニ空隙ヲ生ジ, 股關節部ヲ伸展スル時ハ腰椎部下牀ヨリ少シク高擧ス, 併シ股關節健康ナル時ハ此ノ如キコトナシ)。

第四百十圖 股關節炎トーマス氏操作法



第四百十一圖 同上 (n. Quervain.)



1) 骨折	骨盤骨折・大腿骨上端骨折ニ際シテ股關節ノ運動ガ障礙セラルルコトアリ, 此際ニハ骨折痛著明ニシテ, 時トシテ軋聲ヲ發スルコトアリ, 又骨折端ノ遊離著明ナル時ハ異常運動ヲナスコトアリ。
2) 脱臼	股關節脱臼ニ際シテハ屢々異常位ニ固定セラレ(第 186 頁参照), 著明ノ運動障礙アリ, 他動的運動稍々可能ナルコトアルモ彈性的抵抗アリ。
3) 股關節炎	種々ノ股關節炎ニ際シテ機能障礙ヲ發ス, 急性炎ニ於テハ早期ヨリ著シク, 慢性炎ニ於テハ次第ニ著明トナル(同病條下参照)。
4) 腸腰筋炎	本病ニ於テハ下肢ノ屈曲ヲ主トナス(同病條下参照)。
5) 其他	蟲樣突起炎ノ初期ニ下肢ノ彎縮ヲ來スコトアリ, 又股關節附近ノ種々ノ疼痛性疾患ニ際シテ一時運動障礙アルコトアリ。

D) 下肢測定法 Messung der unteren Extremitäten

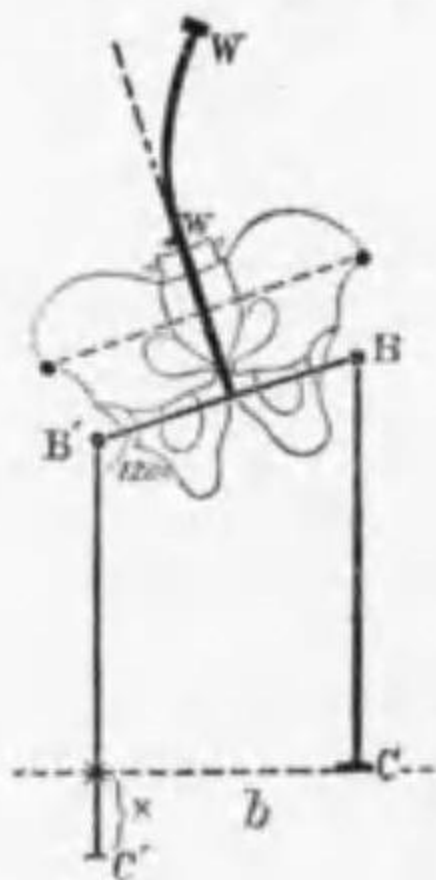
- a) 棘踝間距離 Spina-Malleolen-Distanz 腸骨前上棘ト外踝トノ距離(第 277 圖 c)
 - b) 轉子棘間距離 Trochanter-Malleolen-Distanz 大轉子先端ト外踝トノ距離(第 277 圖 b)
 - c) 棘轉子間距離 Spina-Trochanter-Distanz 腸骨前上棘ト大轉子間距離(第 277 圖 a)
- 1) 測長法
Längenmessung
(第 184 頁参照)
- (イ) 棘踝間距離及ビ轉子距距離左右同長ナル時ハ, 兩下肢ニ異常ナシ。
 - (ロ) 轉子距距離左右同ジク棘踝間距離短縮セル時ハ股關節脱臼・大腿骨頭骨折・骨盤骨折・股内膿症アル場合ナリ。
 - (ハ) 轉子距距離及ビ棘踝間距離兩者一側ニテ短縮セルハ大腿大轉子以下ニ骨折アル爲ナリ, 此際ハ轉子間距離ニハ變状ナシ。

- 2) 大轉子ノ位置測定
Lage des Trochanters
- a) ローゼル・ネラトン氏線 (ロ・ネ線) Rosen-Neletonsche Linie 股關節ヲシテ輕度ノ屈曲位ヲ取ラシメ, 坐骨結節ト腸骨前上棘トヲ連結セル線ヲ設クルニ大轉子正常位ニアル時ハ其尖端ハ此線上ニアルモ, 同線上ノ上方ニアル時ハ病的ナルヲ示ス (本法ハ最も多く用キラル)。
 - b) ブライアン氏三角 Bryant'sches Dreieck 大腿骨長軸ヲ大轉子ヲ越エテ延長シ, 腸骨前上棘ヨリ此線上ニ垂直線ヲ下シ, 以テ前上棘ヲ大轉子尖端ト結合スルニ, 正常ニ於テハ二等邊三角形ヲナスモ, 大轉子高位ニアル時ハ大腿骨延長軸ニ屬スル三角形ノ一邊ハ他ノ一邊ニ比シテ短小ナル。
 - c) 大轉子-棘-臍線 Trochanter-Spina-Nabelinie 大轉子ト腸骨前上棘ノ尖端ヲ連結セル線ヲ臍線上ニ延長スルニ正常ニテハ此線ハ臍高又ハ夫ヨリ高キ所ニテ正中線ト交叉スルモ, 大轉子ノ位置高キ時ハ臍下ニテ正中線ト交叉ス。
- 大轉子ノ骨盤ニ對スル位置ヲ定ムルコトハ(イ)骨折, (ロ)脱臼, (ハ)大腿骨頭部ノ異常, (ニ)股關節炎等ノ診斷ニ必要ナリ。

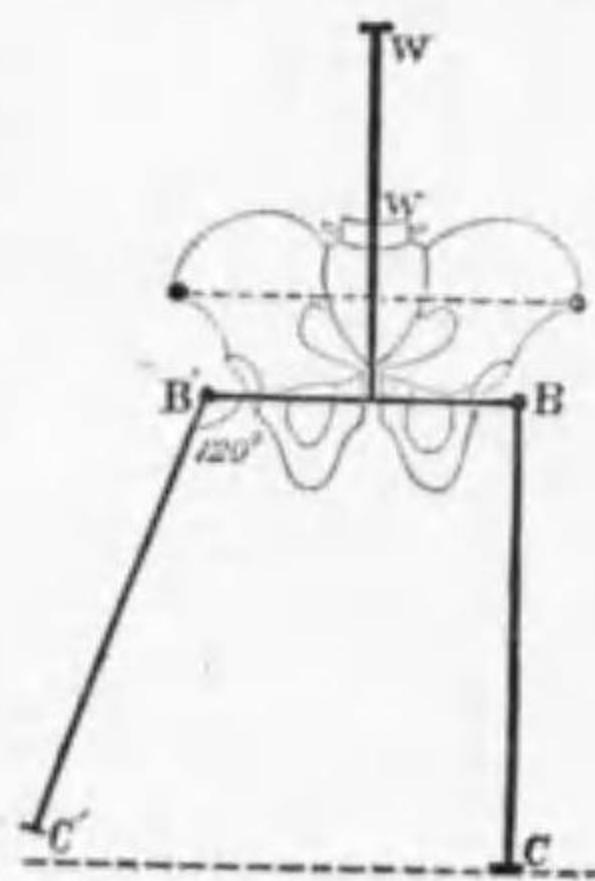
- 3) 下肢ノ周圍測定法
Umfangsmessung
- 下肢ノ周圍ヲ測定スルニハ毎常左右同高部位ニテ測定比較スベシ,
- a) 左右前上棘ヨリ下方ニ同長ヲ測定シテ(略ボ大腿中央部)目標ヲ附シ, 卷尺ヲ以テ周圍ヲ測定ス。
 - b) 膝蓋骨上縁ヨリ上方ニ同距離ニテ測定ス。
 - c) 大腿長軸ノ左右ニ垂直ニ交叉スル線上ニテ測定ス。
 - d) 下腿ニ於テハ通常腓腸部ノ最も太キ所ニテ測定ス。

E) 下肢ノ短縮及延長 Verkürzung u. Verlängerung der unteren Extremitäten	
<p>a) 眞性短縮 Wahre Verkürzung</p>	<p>大腿骨又ハ下腿骨ノ骨折脱臼ニ因シ、或ハ骨發育不全ニ因スルモノニシテ 其他種々ノ原因アリ、短縮 3cm 以内ナレバ著明ナラザルモ、其レ以上ナ ル時ハ跛行 hinkender Gang フナス。</p>
<p>b) 假性短縮 Falsche Verkürzung</p>	<p>股關節ガ屈曲・内轉セル時ハ下肢ノ假性短縮ヲ來ス、例ヘバ下肢ガ約三十度ノ内轉位ニ固定セララル時ハ、起立ニ際シ患肢ハ健肢ト交叉シテ牀上ニ達セズ、患肢ヲ牀上ニ達セシメントセバ内轉セル下肢ヲ牀上ニ達セシメ骨盤ヲ舉上シ同時ニ脊柱ハ代償的ニ前者ト反對ノ側彎位ヲ取ル、之ガ爲ニ下肢ノ假性短縮ヲ見ル。</p>
<p>c) 眞性延長</p>	<p>之ハ其ダ稀ナルモノナルガ、大腿骨折端ノ附近ニ於ケル骨髓炎ノ爲ニ骨端線ニ刺戟ヲ與ヘ、其延長ヲ來スコトアリ。</p>
<p>d) 假性延長 Falsche Verlängerung</p>	<p>股關節炎其他ニヨリテ下肢ノ屈曲外轉外旋アル時ハ下肢ノ假性延長ヲ來スニ至ル、例ヘバ股關節ガ約三十度ノ外轉位ニ固定シ居ル時ニ當リ、骨盤ガ水平位ニアリテ、脊椎眞直ナル時ハ患肢ハ牀上ニ達シ難カルベシ、然ルニ之ヲ可能ナラシメントセバ骨盤ヲ約三十度下垂セザルベカラズ、此際ニハ重心ノ關係上脊柱ニ傾斜シ、之ガ爲ニ下肢ノ假性延長ヲ見ル。</p>

第四百十二圖



第四百十三圖



股關節穿刺法

第四百十四圖

a) クラウゼ氏法 Krausche Methode. 關節ノ上部ヨリ行フ法ナリ、患者ヲ横臥セシメ患肢ヲ少シク内旋セシメ 10cm ノ長サアル穿刺針ヲ用ヒ大轉子頭ニ沿ヒテ關節ニ向ツテ直接刺入シ骨ニ達シタル時ニ少シク針ヲ上方ニ斜ニ向ケテ刺入スルニ穿刺針ハ關節頭上ヲ滑リテ髌臼部ニ達スベシ。



(n. Prakt. Chirurg.)

第四百十五圖

b) ビングネル氏法 Bingersche Methode. 股關節ノ前方ヨリ刺入スル法ナリ患者ヲ仰臥セシメ股動脈ト耻骨上縁ニ沿フテ引カレタル線ノ交叉點ト大轉子ノ頂點トヲ結合セル線上ニテ縫匠筋ノ内縁ニ出ル部ヨリ矢狀方向ニ刺入ス。



c) ヘンレ氏法 Henle'sche Methode. 股關節ノ後方ヨリ入ルル法ナリ、大轉子ノ後縁ヨリ水平ニ前方ニ向ツテ刺入ス。

第四百十六圖



股關節結核初期(假性延長外旋及ビ外轉)

第四百十七圖



股關節結核第二期(假性短縮内旋及ビ内轉)

XXI 股関節炎 Hüftgelenkentzündungen (Coxitis)

1) 急性漿液性 serosa acuta	不明ナルヲ常トス。但シ其ダ種ナリ。	<p>股関節穿刺部位 前頁ニ圖説セルガ如シ。 機能障礙 屈伸・内轉及ビ外轉・内旋及ビ外旋(初期ニハ骨盤及ビ脊椎ノ運動ニヨリテ代償セラル)。 異常位 下肢ノ外轉・外旋及ビ假性延長(結核ノ末期ニハ内轉・内旋・假性短縮)。 疼痛 アル場合ニハ自發痛以外ニ(イ)鼠蹊靭帯下部ノ壓痛、(ロ)大腿長軸ニ於テ骨頭ヲ轉ジニ壓迫スル際ニ疼痛。 腫脹 腫脹高度ナル時ニ鼠蹊靭帯ノ下部ニ於テ認ムルノミ。 股関節部ニハ種々ノ原因ニヨリテ腫脹ヲ來スモ(別項參照)、股関節炎ニ際シテハ厚キ筋層ニ覆ハルルヲ以テ初期ニハ明カナラズ、</p>
2) 急性化膿性 purulenta acuta	甚ダ種ニ急性傳染病ノ經過中又ハ其後ニ發病スルコトアリ、此際ニハ多クハ關節部ノ骨端ヲ侵スニヨル。	
3) 淋毒性(急性) gonorrhoeica	比較的種ナリ。	
4) 瘰癧質 新性 rheum.	a) 急性 甚ダ種ナリ。	
	b) 慢性 比較的種、多クハ他ノ關節ト共ニ侵サル。	
5) 畸形性 deformans	本邦ニハ甚ダ種ナリ。 大腿骨頭及ビ骨頭ノ變形著明ニシテ疼痛アリ。	
6) 慢性漿液性 serosa chr.	甚ダ種ナリ。	
7) 結核性 tuberculosa	凡ベテノ股関節疾患中最モ多キモノニシテ、進行セルモノニ於テハ診斷容易ナルモ、初期ニハ種々ノ疾患ト鑑別ヲ要ス(263頁參照)。	
8) 梅毒性 syph.	(a) 第二期 殆ンド發生セズ。	
	(b) 第三期 甚ダ種ナリ。	
9) 尿酸性 urica (Gicht)	殆ンド發生セズ。	
10) 血友病性 haemophila	殆ンド發生セズ。	
11) 神經性 neuropathica	甚ダ種ナリ。	
12) 肉腫 Sarkom	甚ダ種ナリ。	

XXII 結核性股關節炎 Coxitis tuberculosa ノ鑑別疾患

<p>(A) 初發期 (時トシテハ疼痛ヲ膝關節部ニ感ズルコトアリ。股關節部ノ疼痛・輕度ノ跛行・患肢ノ疲勞)。</p>	1) 大腿ノ成長痛 Wachstumsschmerz d. Oberschenkels	<p>本症ハ骨發育ノ盛ナル幼年者ニ認メラルルコトアリ、多クハ骨幹部ニ疼痛ヲ訴フルモ、時トシテ股關節部ニ疼痛ヲ發ス、時トシテハ輕度ノ熱發ヲ伴フ。</p> <p>鑑別點 (イ)跛行著シカラズ、(ロ)自發痛アルモ關節部ノ壓痛ナク、(ハ)股關節ノ運動制限少ナク、(ニ)患肢ノ萎縮ナク、(ホ)安靜ニヨリ消散ス、併シ強カク用ヒテ運動セシムルモ増悪セズ(ヘ)X線上變化ナシ。</p>
	2) 神經痛 Neuralgie	<p>神經質ノ人ニ多シ、或ハ然ラザル人ニモ來ルコトアリ。</p> <p>鑑別點 (イ)壓痛著シカラズ、(ロ)運動制限ナシ、(ハ)多クハ疼痛不定、(ニ)X線検査(併シ股關節結核ノ初期ニハX線上ノ變化不明ナルコトモアリ)。</p>
	3) 股關節瘰癧質 新 Coxitis rheumatica	<p>比較的種ナルガ、多發性ナル場合ニハ診斷容易ナルモ、股關節ニ單發セル時ハ股關節結核ノ初期ト鑑別ヲ要ス。</p> <p>鑑別點 (イ)瘰癧質斯ハ壯年後ニ發病ス、一般ニ結核ハ若年者ニ多キモノナレドモ股關節結核ハ壯年後ニ來ルコトモアリ、(ロ)氣候ニヨリ症狀ノ消長アリ、又入浴・加温・「サリチル酸劑」ニヨリ一時輕快ス、(ハ)X線検査。</p>
	4) 畸形性股關節 炎 Coxitis deformans	本邦ニハ甚ダ種、壯年者ニ來リ疼痛ヲ主トス(總論參照)。
	5) 梅毒性股關節 炎 Coxitis syphilitica	甚ダ種ナリ。
	6) 膝關節部疼痛 Schmerz d. Kniegend	<p>股關節炎ノ初期ニハ股關節部ニハ疼痛ナクシテ、膝關節部ニ疼痛ヲ訴フルコトアリ(股關節ノ側ヲ走ル閉鎖神經ノ刺戟)、故ニ膝關節部ニ疼痛ヲ訴フル時ハ膝關節部ノミヲ検査セズシテ股關節部ヲモ精査スルヲ要ス。</p>

(B) 第二期 或 第一期 開花期 I. Florescent Stadium

シ、患肢假性延長ヲナス、此患者ヲ起立セシムルニ其重心ヲ保タントシ、患肢ノ運動一層著明トナリ、患肢ノ股關節部ニテ風曲、外轉外旋

1) 大腿骨端骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis	甚ダ稀ナルガ、股關節結核ノ疼痛著シキ時ハ本症ト鑑別ヲ要ス。(イ)起始及ビ經過急性、(ロ)自發痛及ビ壓痛一層劇烈、(ハ)機能障礙早期ヨリ著明、(ニ)全身症狀亦重シ。
2) 淋毒性股關節炎 Coxitis gonor.	稀、急性尿道淋ニ續發スルコトアリ。 鑑別點略ボ同上。
3) 急性傳染病ニ因スル急性股關節炎	甚ダ稀ナルガ、腸チフス・肺炎・「インフルエンザ」等ノ後ニ本症ヲ起スコトアリ。 鑑別點 略ボ同上、但シ急性炎症症狀前者ヨリ輕度ナリ。
4) ペルテス病 Perthesche Kr. Osteochondritis, deformans juvenilis	股關節結核トハ其年齡・機能障礙・疼痛ノ程度互ニ類似スル爲メ屢々誤ラルルコトアリ。但シ本病ハ比較的稀ナルモノニシテ其原因ナホ不明。 鑑別點 (イ)機能障礙ノ状態ヲヨク檢スルニ本症ニ於テハ内轉運動特ニ障礙セラルルモ、屈曲運動ノ障礙少ナキコトハ注意スベキ點ナリ、(ロ)患部ニハ腫脹ヲ來サズ、(ハ)併シ確實ナル診斷ハX線検査ニヨラザルベカラズ(本症ニ於テハ局所症狀ニ比シ骨頭ノ變化著明ナリ)。
5) 股内髌症 Coxa vara	本症ハ幼年者又ハ青年ニ見ラルルモノニシテ、時トシテ疼痛ヲ發スルコトアルガ爲ニ、股關節結核ト誤ラルルコトアリ、(但シ本症モ稀有ノモノナリ(第294頁)). 鑑別點 (イ)下肢外方迴轉ノ位置ニアリ、内方迴轉運動妨ゲラル、(ロ)歩行鴨歩狀、(ハ)其發生ハ股關節結核ニ比シテ一層緩慢、(ニ)局所ニ腫脹・疼痛著シカラズ、(ホ)X線検査ニヨレバ確實ナリ。
6) 先天性股關節脫臼	鑑別困難ニアラズ、只股關節結核ニ病的脫臼ヲナシタル時ニノミ區別稍々困難ナルコトアリ。 鑑別點 (イ)發生時期及ビ經過、(ロ)之ハ關節ノ機能全ク自由ナルモ、股關節結核ニ於テハ其制限顯著ナリ。
7) 大腿骨頭骨折及骨端離開	兩者ノ陳舊ナルモノ或ハ輕度ノ外傷ニヨリテ發生セルモノハ其機能障礙及ビ疼痛ニヨリテ股關節結核ト鑑別ヲ要スルコトアリ併シ其發生及經過ニヨリ又X線検査ニヨリテ確定セラル。

シテ時期ニハ下肢ノ萎縮一層著明トナリ、股關節部ノ腫脹疼痛等著明ナリ。此

(C) 第二期 或 第一期 開花期 II. Florescent Stadium

8) 脊椎カリエス、ニ因スル腸腰筋膿瘍 Ileopsoitis	腸腰筋ノ緊張ニヨル疼痛ヲ避ケンガ爲ニ下肢ハ屈曲位ヲ取り又小轉子ニ附着スル腱ヲ弛緩セシムルガ爲ニ稍々外轉シテ股關節炎ト誤ラルルコトアリ、又鼠蹊韌帶ノ下部ニ膿瘍ヲ生ズル時ハ歩行ヲ妨ゲ、或ハ股關節部ニモ腫脹ヲ來シテ一層股關節結核ニ類スルコトアリ。 鑑別點 (イ)ヨク検査スルニ股關節部ニ疼痛ナク、(ロ)股關節部ニ運動障礙アルガ如キモ、強ヒテ動かセバ運動可能ナリ、(ハ)下肢ニ於ケル萎縮著明ナラズ、(ニ)脊椎ノ彎曲・強直・壓痛、(ホ)腸骨高ノ膿瘍、(ヘ)X線検査等。
9) 臀部大轉子間粘液囊炎 B. trochanterica m. glut. max. (甚ダ稀)	本症ニ於テ化膿スル時ハ大臀筋・張股筋及ビ四頭股筋ニ向ツテ蔓延シ、特ニ大臀筋ノ緊張ニヨリテ下肢外轉且ツ外旋セラレ、多少其運動制限セラルルガ爲ニ股關節炎ト誤ラルルコトアリ。 鑑別點 (イ)股關節部ニ疼痛ナク、(ロ)下肢ノ萎縮著明ニアラズ、(ハ)經過稍々速カナリ、(ニ)X線検査等。
10) 種々ノ急性膿瘍 verschiedene akute Abscesse	a) 蟲様突起炎ニ因スル腸腰膿瘍、b) 亞急性腸腰筋炎、c) 腎臟周圍膿瘍等ニヨリテ股關節ノ攣縮著明ナル時ハ股關節結核ト鑑別ヲ要ス、併シ是等ノ場合ニハ何レモ夫々ノ症狀明カナルニヨリテ診斷容易ナリ。
11) 股關節部ノ肉腫 Sarkom	股關節部ノ機能障礙・腫脹等アリ、股關節結核ト誤ラルルコトアリ。 鑑別點 (イ)關節部ノ腫脹ニシテ機能障礙少ナク、(ロ)疼痛全ク無キカ或ハ自發痛アルモ運動痛又ハ介達痛比較的少ナキコト(ハ)X線検査等。
12) ヒステリー性攣縮	甚ダ稀ナリ。 攣縮不定ニシテ關節部ノ變化ナキニヨリ區別セラル。
病狀進ミ疼痛著シキガ爲ニ患兒ハ常ニ病臥シ、其際健側位ニ横臥スルガ爲ニ患肢ハ前者ト反對ニ内轉内旋シ屈曲一層著明トナル。此患者ヲ強ヒテ起立セシムルニ患肢ヲ健肢ニ倚ラシメテ起立シ、患肢短縮ス(初メハ假性短縮ナルモ、後ニハ骨頭崩潰等ニヨリ眞性短縮)、而シテ患肢ノ内轉ヲ代償スル爲ニ骨盤ヲ舉上シ、腰椎前彎シ、胸椎ハ前者ト反對ノ方向ニ側彎ス。 此時期ニハ下肢ノ萎縮一層著明トナリ、股關節部特ニ臀部、スカルバ氏三角部等ノ腫脹著明トナリ、或ハ附近ニ寒性膿瘍ヲ作り或ハ自潰シテ瘻孔ヲ形成ス。 此時期ニハ其特有ナル状態ニヨリ診斷容易ニシテ鑑別スベキモノナシ。	

XXIII 大腿幹部ノ急性炎症性疾患
 Akute entzündliche Erkrankungen des Stammes
 des Oberschenkels

(A) 皮膚及皮下疾患	1) 癰 Furunkel 及瘍 Karbunkel	時トシテ大腿ニ發生ス、併シ瘍ハ比較的稀ナリ。 屢々蜂窩織炎ヲ伴フ。
	2) 急性膿瘍 Akuter Abscess	時トシテ大腿ニ見ラルコトアリ。 特發性ノ場合ニハ敗血症ニ注意スベシ。
	3) 蜂窩織炎 Phlegmone	各種化膿症ニ續發ス、深部ヨリ發生セル場合ニハ表面ノ發赤著明ナラザル爲メ、初期ニハ診斷ニ迷フコトアリ。 化膿性筋炎・急性化膿性骨髓骨膜炎ト區別スベシ。 表在性ナルハ丹毒・瓦斯ガングレント區別スベシ。
	4) 瓦斯ガングレン Gasgangraen	下腿ノ瓦斯ガングレン、又ハ肛門周圍ノ瓦斯ガングレンニ際シ大腿ヲモ侵スコトアリ、特有ノ症狀ニヨリ診斷容易ナリ。
	5) 丹毒 Erysipelas	之レモ他部ノ丹毒ノ傳播ニヨル、大腿ニ原發スルコトハ甚ダ稀ナリ。
	6) 脾脫疽 Milzbrand	大腿ニハ非常ニ稀ナリ。
(B) 筋肉疾患	7) 急性化膿性筋炎 Myositis purulenta acuta	大腿ニハ比較的多シ、特ニ四頭股筋・内轉筋ヲ侵スコト多シ、此際ニハ早期ヨリ歩行不自由トナル、皮下脂肪多キ人ニ於テハ初期ニハ表面ニ於ケル發赤・熱感・腫脹明カナラズシテ深部ニ筋肉ニ相當シテ滲潤ヲ觸ルルノミナル事アリ、疼痛・體温上昇ヲ伴フニヨリ診斷セラル、特ニ急性化膿性骨髓骨膜炎ト區別ヲ要ス。
	8) 急性筋肉痲質斯 Akuter M.-Rheumat.	時トシテ大腿ノ筋肉ニ來ル、多クハ他部ノ筋肉痲質斯ニ併發ス、初期ニハ急性化膿性筋炎ト區別ヲ要ス。
(C) 9) 股腺炎	足部ノ傳染性創傷・化膿性疾患等ニヨリテ股腺ニ急性炎症ヲ起シ、腫脹疼痛等ヲ發スルコトアリ、診斷困難ニハアラズ。	
(D) 骨疾患	10) 急性化膿性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et periostitis purul. acuta.	大腿骨ニハ屢々本病ヲ發生ス。 大腿深部ノ疼痛・熱發ヲ以テ始マル、初期ニハ骨ノ肥厚モ著明ナラザル爲メ、診斷困難ナルコトアリ、併シ急性化膿性筋炎ヲ否定スルコトニヨリテ本病ノ診斷ヲ下ス、進行セルモノニ於テハ骨ノ變化アリ、又X線検査ニヨリテモ明カナリ。

XXIV 大腿幹部ノ慢性疾患
 Chronische Erkrankungen des Stammes
 des Oberschenkels

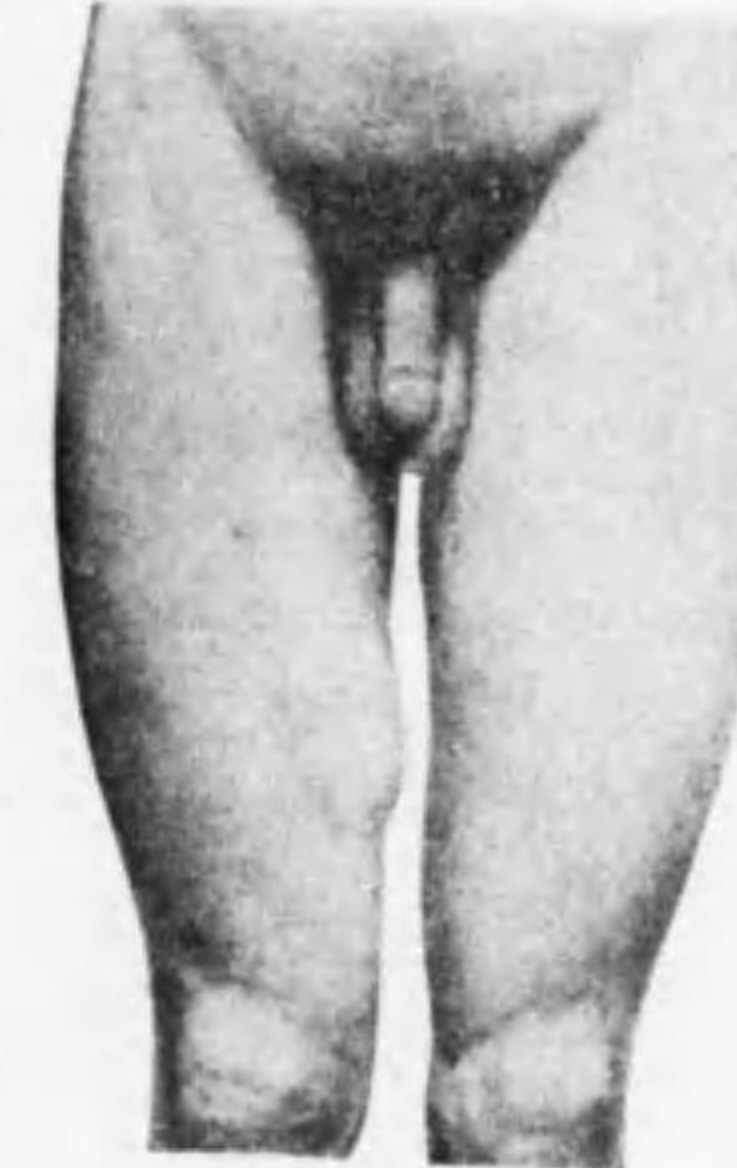
(A) 皮膚及皮下疾患	1) 護謨腫 Gumma	稀ニ大腿皮膚又ハ皮下ニ護謨腫ヲ形成スルコトアリ、腫瘍類ト鑑別スベシ。
	2) 腫瘍 Geschwülste	比較的多キハ脂肪腫・纖維腫ニシテ時トシテハ著大トナル、其他神經纖維腫・血管腫・淋巴管腫・肉腫等ヲ發生スルコトアリ、癌腫ハ稀ナリ、併シ肉腫又ハ癌腫ノ轉移ヲ見ルコトアリ。
	3) 囊腫類 Zyste	時トシテ皮下ニ粉瘤ヲ發生スルコトアルモ、決シテ皮膚様囊腫・外傷性皮膚囊腫ヲ發生スルコトナシ、甚ダ稀ニ包蟲囊腫・囊蟲腫ヲ發生スルコトアリ。 大腿ノ上部ニハ腿々股ヘルニア・「ヘルニア囊腫ヲ形成ス（「ヘルニア」ノ條下参照）。
	4) 流注膿瘍 Senkungsabscess	腰盤カリニス・腰椎カリニス・股關節結核等ニ際シテ大腿ニ流注膿瘍ヲ形成スルコトアリ（第255頁参照）。
(B) 血管疾患	5) 動脈瘤 Aneurysma	a) 眞性動脈瘤 Aneurysma verum 股動脈ノ上部ニ發生スルコト多シ、外傷後發生スルコトモアレドモ、動脈硬變症又ハ微毒ニ因スルコトモアリ。 股動脈ニ相當シテ弾力性軟ニシテ多少壓縮性ヲ有スル腫瘍ヲ生ジ、搏動著明ナリ、中樞股動脈ヲ壓迫スレバ動脈瘤ハ縮小シ且ツ搏動モ不明トナル、動脈瘤大ナル時ハ聽診上雜音ヲ呈シ、末梢ナル足背動脈ノ搏動遲延シ且微弱トナル、動脈瘤ノ増大著シキ時ハ股靜脈ヲ壓迫シテ末梢ニ鬱血又ハ浮腫ヲ起スコトアリ時トシテハ神經ヲ壓迫シテ下肢及足部ニ神經痛又ハ蟻走樣感ヲ發スルコトアリ。 股腺炎・血管ニ富ム肉腫・股動脈ノ附近ニ發生セル脂肪腫・流注膿瘍・股ヘルニア」等ト鑑別ヲ要ス。 b) 假性動脈瘤 Aneurysma spurium 之ハ搏動性血腫トモ稱シ股動脈ノ刺創・銃創等ニテ小損傷アリテ、血液ガ血管外ニ出デテ血腫ヲ形成シタル爲ニ生ズ。 之ハ外傷直後ニ發生シ著大トナラズ、壁可ナリ厚キコトニヨリテ前者ト區別セラル。 c) 動靜脈瘤 Aneurysma arteriovenosum 大腿ニ於テハ股動脈ト股靜脈トガ長ク相並行シテ走ルヲ以テ、外傷ニヨリ腿々動靜脈瘤ヲ形成スルコトアリ。 眞性動脈瘤トノ區別ハ容易ナルコトモアレドモ（總論参照）、屢々困難ナルコトモアリ。

	6) 大腿静脈瘤 Varix	毎常下腿静脈=併發スルモノナリ、時トシテハ静脈瘤ガ腫痛状ヲナスコトアリ(下腿静脈瘤ノ條下参照)。
	7) 大腿淋巴管擴張症 Lymphangiectasie	種々ノ原因ニヨリテ大腿淋巴管ノ擴張ヲ見ルコトアリ、併シ毎常下腿ノ淋巴管擴張=併發シ、下腿ニ於テ一層著明ナリ。本症持續スル時ハ次第ニ象皮病ヲ起ス(下腿象皮病ノ條下参照)。
(C)	8) 慢性淋巴腺炎 Lymphadenitis chr.	股腺=屢々慢性單純性淋巴腺炎、稀ニ結核性淋巴腺炎ヲ起スコトアリ(總論参照)。
(D)	9) 化骨性筋炎 Myositis ossificans	騎馬者ノ大腿内轉筋=乘馬骨 Reitknochen ヲ生ズルコトアリ、筋肉内ニ多少ノ壓痛アリ、筋肉内ニ硬固ノ結節ヲ觸ル、X線ニヨリテモ證明セラル。
	10) 筋ノ膿腫 M.-Gumma	稀ニ大腿筋肉内ニ a) 粗大ノ膿腫又ハ b) 膿腫性滲潤ヲ見ルコトアリ、筋肉腫ト鑑別ヲ要ス。
	11) 筋肉ノ腫瘍	稀ニ肉腫ヲ發生スルコトアリ、膿腫ト鑑別ヲ要ス。
	12) 慢性筋肉痲痺質新	多クハ他部ノ筋肉痲痺質新=併發ス。
(E)	13) 慢性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis chronica	多クハ急性化膿性骨髓骨膜炎ヨリ移行スルモノニシテ、腐骨又ハ膿瘍ノ残留=因ル、時ニ急性或ハ亞急性ノ發作ヲ來ス、骨肥厚著明ナリ。關節附近ニ於テハ其強直ヲ來スコトアリ、稀ニハ初メヨリ慢性ノモノヲ見ルコトアリ(總論参照)。大腿骨ノ結核・黴毒・肉腫等ト鑑別ヲ要スルモ多クハ容易ナリ。
	14) 骨微毒 Knochengumma	大腿骨ノ微毒ハ其ダ稀ナリ。
	15) 骨結核 Knochen-tbc.	大腿骨ノ上端(股關節結核)又ハ下端(膝關節結核)=ハ屢々來ルモ、幹部ニハ殆ソド來ラズ。併シ大轉子部ノ結核ト化膿性骨膜炎トハ鑑別困難ナルコトアリ。
	16) 骨腫瘍 Knochen-Geschwülste	大腿骨ニハ骨髓又ハ骨膜ヨリ肉腫ヲ發生スルコトアリ、其初期ニハ不定ノ疼痛ヲ發スルコトアリ、(初期ニハX線検査ニヨルモ明カナラザルコトアリ)、末期ニハ屢々著大トナル。其他骨腫・軟骨腫・骨囊腫ヲ發生スルコトアリ。

第四百十八圖
股動脈瘤
(山村氏)



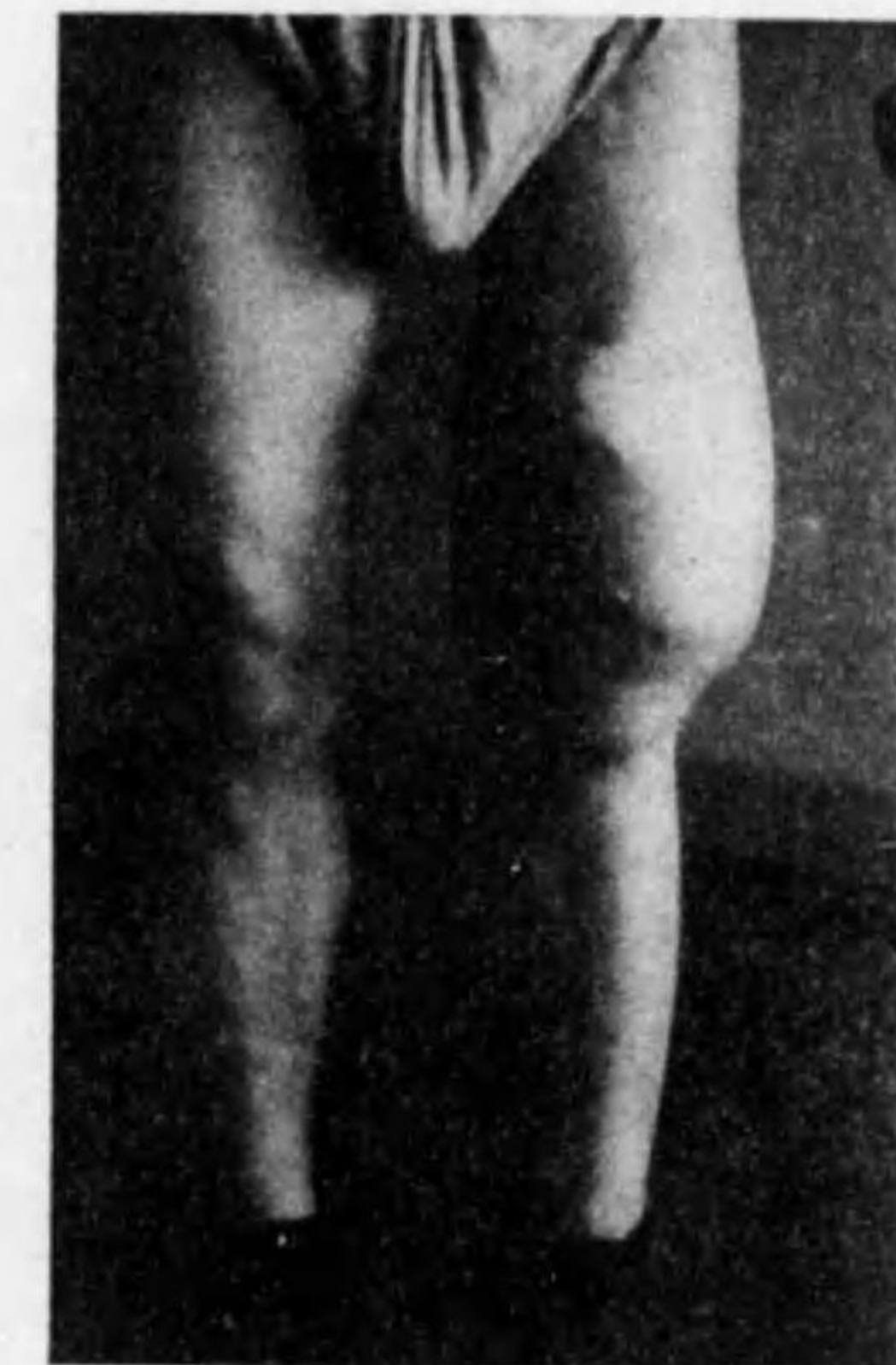
第四百十九圖
脊髓カリエスニ因ル
大腿流注膿瘍



第四百二十圖
大腿粉瘤(慶大病院)



第四百二十一圖
大腿骨肉腫(慶大病院)



XXV 坐骨神経痛

Ischias, Hüftweh od. Neuralgia ischiadica

原因	器質的變化アルモノ	<ul style="list-style-type: none"> i) 脊椎骨・骨盤骨・大腿骨ノ骨折又ハ脱臼。 ii) 骨盤又ハ腰部ノ腫瘍・流注膿瘍・動脈瘤。 iii) 脊椎又ハ脊椎管内ノ腫瘍・出血・炎症。 iv) 直腸癌・高度ノ便秘。 v) 妊娠・子宮・卵巣・喇叭管ノ腫瘍或ハ炎症・子宮後屈等。
	同無キモノ	<ul style="list-style-type: none"> i) 寒冷及ビ濕潤ニ暴露セル爲。 ii) 種々ノ器械的刺戟、例ヘバ坐骨神経ノ挫傷、長時間ノ起立・旅行・騎乗等。 iii) 傳染性疾患、例ヘバ梅毒・淋疾・「マラリア」・腸チフス・急性癩癩質斯等。 iv) 神経性疾患、例ヘバ脊髓癆・神経癩。 v) 中毒性疾患、例ヘバ糖尿病・鉛中毒等。 vi) 時トシテハ原因不明ナルコトアリ。
主要症状及診斷	<p>多クハ一側ニ來ルモ、稀ニハ兩側性ニ來ル。</p> <p>本病ノ主要症状ハ坐骨神経徑路ニ於ケル神経痛ナルガ、特ニ坐骨神経ガ臀筋下ヨリ出ヅル部位ニ著明ニシテ、時トシテハ大腿及ビ下腿ノ後側、甚シキハ足趾マデ放散ス。此疼痛ハ持續性或ハ發作性ニシテ、發作性ノ場合ニハ疼痛著シキコト多シ、又疼痛ノ程度・持續・發作回数等ハ一様ナラズ。</p> <p>本病ノ診斷ニ必要ナルハ壓痛點 Druckpunkt ナリ、之ハ臀部ニ於ケル坐骨神経派出部ニ存スルコト最モ多ク、其他大腿後側ノ中央・膝髁高、甚シキハ腓骨小頭ノ下部、内踝ノ後方ニモ存スルコトアリ。</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 坐骨神経痛高度ナル場合ニハ患肢ヲ庇護シ、脊椎健康側ニ彎曲スルコトアリ（坐骨神経痛側彎 Skoliosis ischiadica）、或ハ患肢ノ不動作性萎縮ヲ來ス。 ii) ラセッグ氏症状 Lasègue'sche Symptome。患者ヲ仰臥セシメ、下肢ヲ伸展シテ之ヲ舉上セシムルニ大腿ノ後側ニ疼痛ヲ訴フ。 iii) ミノル氏症状 Minorsche Symptome。日本式坐位ヨリ起立セシムルニ、恰カモ筋肉假性肥大症ノ如クニ次第ニ手ヲ支ヘツツ起立ス。 <p>診斷容易ナルガ腰痛・股關節結核・腸腰筋炎・神経痛ト區別スベシ。</p> <p>又其原因疾患ノ有無ニ注意スベシ。</p>	

XXVI 膝關節部ノ疼痛 Schmerzen der Kniegelenkgegend

1) 挫傷及捻挫 Kontusion u. Distorsion	<p>膝關節部ニハ屢々挫傷、時トシテハ捻挫ヲ見ル。</p> <p>此際ニハ該部ニ疼痛アリ（挫傷ニ於テハ皮下出血ヲ兼ヌルコト多シ）、骨折ト誤ラルルコトアリ、併シ疼痛比較的輕度ニシテ限局性ナラズ、且ツ時日ヲ經過スルニ從ツテ速ニ治ス（第196頁参照）。</p>
2) 骨折 Fraktur	<p>時トシテ大腿骨下端・脛骨又ハ腓骨ノ上端・膝蓋骨ノ骨折ヲ見ル。</p> <p>此際ニハ骨折痛著明ナリ、即チ外傷後自發痛著明ニシテ、直達壓痛・介達壓痛・官能痛特ニ顯著ナリ、挫傷・捻挫・脱臼ト異ナリ疼痛比較的永續ス、又此疼痛ハ前記骨折部ニ一致ス、其他各骨折ニ於ケル特異ノ症状ヲ伴フ。併シ皮下出血著明ナル時ハ骨折ノ特異症状明ナラザルコトアリ（第193, 195頁参照）。</p>
3) 脱臼 Luxation	<p>稀ニ膝關節脱臼、甚ダ稀ニハ膝蓋骨脱臼・上脛腓關節脱臼・膝關節間軟骨脱臼及ビ裂傷ヲ見ル。</p> <p>此際ニハ外傷直後疼痛著明ニシテ、關節運動時ニ特ニ顯著ナルガ、時日ト共ニ骨折ヨリモ速ニ疼痛緩快ス。</p> <p>各脱臼ノ症状著明ナルニヨリ診斷困難ナラズ、併シ是等ノ脱臼ハ特ニ強制ナル外力ニ因スル爲メ屢々骨折ヲ兼ヌルコトアルヲ以テ注意スベシ（第194頁参照）。</p>
4) 腱及靭帶断裂	<p>甚ダ稀ニ四頭股筋腱 Quadricepssehne 及膝蓋靭帶 Lig. patellae ノ断裂ガ外傷ニヨリテ生ズルコトアリ、此際ニモ疼痛アレドモ他ニ比シテ輕度ナルガ、機能障礙著明ナリ（第197頁）。</p>
5) オスグート・シュラッテル氏病 Osgood-Schlattersche Krankheit	<p>原因 本症ノ原因ニ就キテハ議論アリ、或ハ脛骨結節 Tuberositas tibiae ノ不全骨折ニヨルトシ、或ハ炎症ナリトシ、或ハ發育障礙ニ因ルトス、併シ鈴木氏等ノ研究ニヨレバ若年者ニ於テハ脛骨結節ハ屢々著明ノ嚙狀突起トシテ認めラレルモノニシテ、之アルモ必ずシモ疼痛ヲ發せず、併シ種々ノ機械的刺戟ガ自動的或ハ他動的ニ作用スル時ハ該部ニ炎症ヲ起シテ疼痛ヲ發スルニ至ルト。</p> <p>本症ハ男女ヲ問ハズ若年者ニ、一側性又ハ兩側性ニ發生ス。</p> <p>症状 主訴トシテ起立・歩行・階段昇降等ニ際シ、膝關節部ノ下ニ中等度ノ疼痛ヲ訴フ（患者ヲ日本式坐位ヨリ起立セシムルニ、毎常手ヲ衝キテ起立ス）、脛骨結節部ヲ壓診スルニ少シク腫脹シ、多少ノ壓痛アリ、關節ニハ異常ナシ。</p> <p>鑑別 膝關節結核・股關節結核等ト區別ヲ要スルコトアルモ、關節部ニハ異常ナシ、只脛骨結節部ノミニ變化アリ、X線ニヨリ確診。</p>

<p>6) 關節鼠 Gelenkmaus</p>	<p>原因 外傷・關節炎・異物等ニヨリテ膝關節内ニ骨片・軟骨片・米粒體・異物等ガ遊離セル爲ニ起ル。 症狀 平時ニハ輕度ノ關節炎ノ症狀ヲ有スルノミニシテ異常ナキモ、關節ノ運動ニ際シテ遊離物ガ關節面間ニ嵌入セル爲ニ突然ニ劇痛ヲ發シ甚シキハ失神スルニ至ル、併シ關節ノ運動ニヨリ遊離物ノ脱去ト共ニ疼痛忽然ト去ル、稀ニハ關節鼠ヲ外部ヨリ觸知スルコトアリ。 鑑別 其特有ナル症狀ニヨリ鑑別スベキモノナシ。</p>
<p>7) 膝關節炎 Gonitis</p>	<p>ロ) 急性膝關節炎ニ於テハ疼痛著明ナルノミナラズ、膝關節部ノ腫脹・機能障礙等著明ナルヲ以テ診斷容易ナリ。 リ) 慢性膝關節炎ノ進行セルモノニ於テハ夫々ノ症狀著明ナルヲ以テ診斷容易ナルガ、其初期ニハ各症狀著明ナラズ、輕度ノ疼痛ノミ存スル場合ニハ診斷難々困難ナリ、特ニ膝關節結核ノ初期、第二期膿毒性關節炎・第三期癰毒ノ初期・慢性膝關節癱瘓質斯等ニ際シテハ輕度ノ疼痛ノミアリテ他ノ症狀明ナラザル爲ニ他ノ疾患トノ鑑別困難ナルコトアリ、慎重ニ検査スベシ(各關節炎ノ診斷ニ就テハ總論參照)。</p>
<p>8) 粘液囊炎 Bursitis</p>	<p>膝蓋前粘液囊炎 Bursitis praepatellaris ニテ化膿ヲ來シタル場合ニハ疼痛ヲ發スルコトアルモ、該部ニ限局セル腫脹アリ、膝關節自個ニハ關係ナキニヨリ診斷容易ナリ。</p>
<p>9) 筋炎 Myositis</p>	<p>膝關節部ニハ筋炎ヲ見ルコトナシ、併シ前脛骨筋ノ上部ニ急性或ハ亞急性ノ筋炎ヲ見ルコトアリ、併シ部位的關係及ビ多少ノ機能障礙・疼痛等ニヨリテ他ト鑑別容易ナリ。</p>
<p>10) 急性化膿性骨髓膜炎 Osteomyelitis et Periostitis purl. acuta</p>	<p>本症ハ概シテ骨幹端部ニ多キモノナルガ、時トシテハ大腿骨下端又ハ脛骨上端ニ發病シ或ハ骨幹端線ヲ侵シ、甚シキハ膝關節ヲ侵スコトアリ。 初期ニハ急性炎症症狀著明ニシテ熱發ヲ伴ヒ、進行セルモノニ於テハ骨肥厚ヲ認メ、X線ニヨリ骨肥厚著明ナリ。</p>
<p>11) 骨結核 Knochen-tuberkulose</p>	<p>大腿骨髁又ハ脛骨骨頭ノ結核ニ際シテ屢々膝關節部ノ疼痛ヲ發スルコトアリ、本症ハ間モナク、膝關節結核(骨性)トナルモノナルガ、初期ニハ疼痛ノミアル爲ニ診斷困難ナルコトアリ、本症モ若年者ニ來ルコト多キ爲ニオスグート・シユラッテル氏病ト鑑別ヲ要ス、X線検査ニヨリ區別セラル。</p>

<p>12) 骨肉腫 Knochsarkom</p>	<p>稀ニ大腿骨下端又ハ脛骨上端ニ肉腫ヲ發生スルコトアリ。 進行セル場合ニハ骨膨隆或ハ關節部ノ腫脹著明トナリ。本症ノ診斷容易ナルモ、初期ニハ關節深部ニ疼痛アルノミニテ他ノ症狀ナキ爲メ診斷ヲ誤ルコトアリ、併シX線検査ニヨレバ大體明カナリ。(甚ダ稀ニ痛腫轉位ニヨル疼痛アルコトアリ。)</p>
<p>13) 異物 Fremdkörper</p>	<p>時トシテ膝關節部ニ刺入シタル針・銃彈等ニヨリテ疼痛ヲ發スルコトアリ、又稀ニハ他部ニ刺入セル針ガ膝關節部ニ遊走シ來リテ該部ニ疼痛ヲ發スルコトアリ、此際ニハX線検査ニヨリ診斷セラル。</p>
<p>14) 神經痛 Neuralgie</p>	<p>以上ノ各原因ナシニ膝關節部ニ不定ノ疼痛ヲ發スルコトアリ、特ニ神經性ノ人「ヒステリー患者ニ著明ナリ、併シ單ニ神經痛ナリト思ハレタル場合ニ於テモ後來以上ノ原因ヲ發見セラルルコトアリ、診斷上特ニ注意スベシ、又糖尿病ニテモ神經痛ヲ發スルコトアリ。</p>
<p>15) 股關節結核 Coxitis tbc.</p>	<p>本症ニ於テ股關節其物ニハ疼痛ナクシテ、膝關節ニノミ疼痛ヲ發スルコトアリ、之レ股關節ヲ走行スル閉鎖神經ノ刺戟ニヨルモノナルベシト。</p>

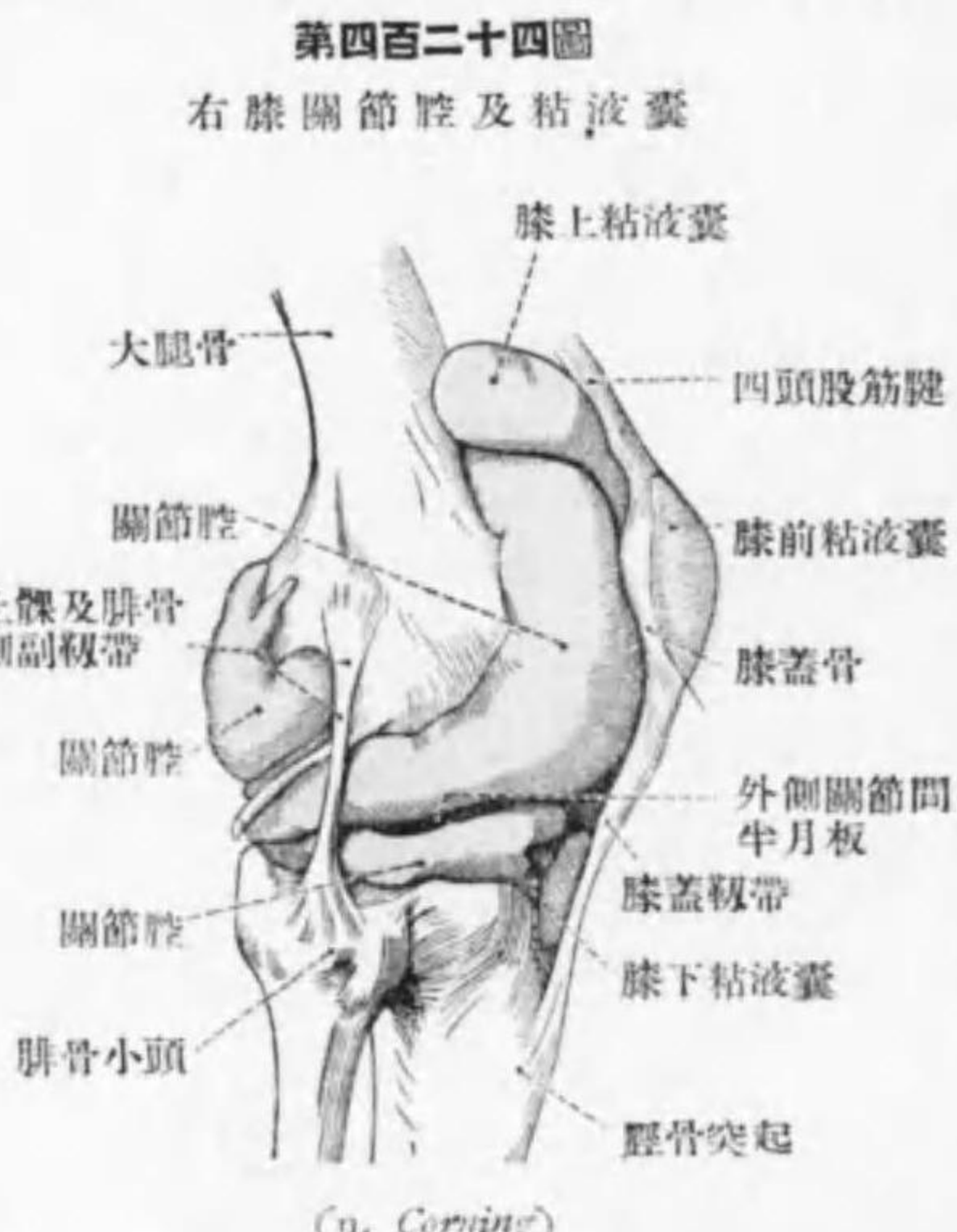
第四百二十二圖
關節鼠
(n. Axhausen)



第四百二十三圖
オスグート・シユラッテル氏病
(慶大病院)



XXVII 膝關節部ノ腫脹
Anschwellungen der Kniegelenkgegend

1) 皮下溢血 Subkutane Blutung	<p>a) 膝關節部ノ挫傷及ヒ捻挫 Kontusion u. Distorsion, b) 膝關節部ノ骨折 Fraktur c) 脱臼 Luxation d) 腱及ヒ靭帯断裂 Ruptur der Sehne u. Bänder e) 膝關節部ノ損傷 Verletzung der A. poplitea 等ニ於テハ夫々皮下溢血ヲ來シテ膝關節部ノ腫脹ヲ呈スルモ何レモ各症 狀著明ナルニヨリ診斷セラル。</p>
2) 粘液囊炎 Bursitis semimembranosa	<p>膝關節ノ附近ニハ數多ノ粘液囊アリ、其主ナルハ</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 膝蓋骨上粘液囊 B. suprapatellaris ii) 膝蓋骨前粘液囊 B. praepatellaris iii) 深膝蓋骨下粘液囊 B. praepatell. profund. iv) 内外上髌粘液囊 B. epicond. med. et lat. v) 半膜様筋下粘液囊 B. m. semimembranosi vi) 膝關節高粘液囊 B. poplitea 等 <p>ナリ。是等ノ内 (i)(vi) 時トシテ (v) ハ關節腔ト交通スルヲ以テ膝關節炎アル時ハ是等モ同時ニ腫脹スルヲ常トシ、粘液囊炎トシテ獨立ノ疾患ヲナサズ。</p> <p>膝蓋骨下粘液囊 ハ膝蓋骨ノ前下部ニアリ、膝關節トハ交通ナク、普通ハ一個ノ粘液囊ナルガ、時トシテハ皮下粘液囊・筋膜下粘液囊・腱下粘液囊ニ分レ、互ニ交通セルコトアリ、此粘液囊炎ハ屢々認メラル。</p> <p>a) 急性漿液性或纖維素性膝蓋前粘液囊炎 Bursitis praepatellaris serosa od. serofibrinosa acuta. 原因 器械的刺戟ニ因ルコトハ稀ニシテ、外傷ニヨル血腫後ニ來ルコト多シ(膝蓋前粘液囊血腫 Haematoma bursae praepatellaris). 症狀 膝蓋骨ノ前下部ニ速ニ半球形腫瘍ヲ生ジ、境界比較的明瞭ナリ。粘液囊血腫ニ於テハ表面ニ皮下溢血ヲ來スコトアルモ、不明ナルコトモアリ、硬度ハ漿液性ノモノハ軟性ニシテ波動ヲ呈スルモ、血腫ニ於テ</p> <div data-bbox="1041 685 1507 1280" style="text-align: center;"> <p>第四百二十四圖 右膝關節腔及粘液囊</p>  </div>

ハ軟泥様硬度ヲ有スルコトアリ、皮膚ト癒着ナク、底部ト關係アリ。初期ニハ多少ノ疼痛アルコトアレドモ、機能障礙ハ著明ナラズ。
診斷 一般ニ容易ナリ、關節炎トハ腫脹部位・機能障礙ニヨリテ區別ス、時トシテ本症ヨリ慢性粘液囊炎ニ移行スルコトアリ。

b) **急性化膿性膝蓋前粘液囊炎** Bursitis praepatellaris purulenta acuta.
原因 粘液囊ノ創傷・粘液囊血腫後ニ來ルコトハ稀ニシテ、粘液囊水腫ノ續發性傳染ニヨルコト多シ。
症狀 膝蓋骨ノ前下部ニ半球形ノ腫瘍アリ、發赤・熱感・多少ノ疼痛アリ軟性ニシテ波動ヲ呈ス、初メハ皮膚ト癒着ナク、底部ニハ癒着シ居ルモ屢々周圍ニ蜂窩織炎ヲ伴ヒ、瀰漫性ニ腫脹シ、後ニハ皮膚ト癒着シ、表面ノ皮膚次第ニ菲薄トナリ、遂ニハ自潰排膿スルコトアリ、併シ關節内ニハ自潰セズ、熱發ヲ伴フモ自潰ニヨリテ熱感、疼痛ノ爲メ膝關節ノ機能多少障礙セラルルモ關節炎ノ如ク著明ニハアラズ。
診斷 容易ナリ、膿腫ト區別スベシ。

c) **慢性漿液性膝蓋前粘液囊炎** Bursitis praepatellaris chronica serosa.
膝蓋骨前粘液囊水腫 Hygroma praepatellaris ニ多シ。

原因 持續的ノ器械的刺戟ニヨルモノニシテ、特ニ下婢ガ膝頭ヲ衝キテ牀上ヲ掃除セル爲ニ起ルコト多シ、時トシテハ急性症ニ續發ス。

症狀 膝蓋骨前下部ニ半球形腫瘍ヲ生ジ、表面平滑、軟性ニシテ波動ヲ呈シ、皮膚ト癒着ナキモ、底部ニ對シテ移動シ難ク、疼痛・機能障礙ナシ(併シ化膿ヲ續發スル時ハ此限リニアラズ)。内容ハ粘液性ナルコト多キモ時トシテハ漿液性ナリ、或ハ出血ヲ伴フ屢々其中ニ絨毛狀ノ増殖ヲ來シ或ハ米粒體ヲ形成シ、外部ヨリ一種ノ膠靴音ヲ觸知スルコトアリ、陳腐ナルモノニ於テハ囊壁ノ肥厚ヲ來シ、甚シキハ石灰沈着ヲ見ルコトアリ。
診斷 結核性粘液囊炎及ヒ脂肪腫ト區別ヲ要ス。



d) **結核性膝蓋前粘液囊炎** Bursitis praepatellaris tub.
比較的稀ナリ、本症ハ慢性漿液性粘液囊炎ニ類シ、初期ニハ屢々診斷困難ナリ、内容纖維素性漿液ナル時ハ結核ヲ疑フベク、既ニ結核性膿ヲ有シ或ハ粘液囊ノ周圍ニ慢性滲潤又ハ浮腫アル時ハ結核性ノモノト診斷セラル。

e) **微毒性膝蓋前粘液囊炎** Bursitis praepatellaris syph.
其ダ稀ナリ、結核性ノモノト區別ヲ要ス(總論參照)。

<p>3) 化膿性骨髓膜炎 Eitrige Osteomyelitis et Periostitis</p>	<p>大腿骨下端又ハ脛骨上端ノ急性骨膜炎ニ際シテハ疼痛熱發ト共ニ該部ノ急性炎症性腫脹ヲ來スコトアリ、此際ニハ蜂窩織炎・急性筋炎ト鑑別ヲ要スルモ、膝關節附近ニ於テハ診斷容易ナリ。</p> <p>慢性骨髄骨膜炎ニ於テハ骨肥厚ニヨリ膝關節附近ノ肥厚ヲ來スコトアルモ、起始・經過・骨及ビ關節ノ變化・X線等ニヨリ診斷容易ナリ。</p>
<p>4) 腫瘍類 Geschwülste</p>	<p>a) 軟部ニハ纖維腫・血管腫・脂肪腫・肉腫・癌腫等ヲ發生ス、就中脂肪腫 Lipom ハ膝蓋骨附近ニ發生スル時ハ粘液嚢ト區別ヲ要シ、膝關節高ニ發生セル時ハ粘液嚢炎・動脈瘤ト鑑別ヲ要ス。</p> <p>肉腫 Sarkom 筋膜・血管鞘・粘液嚢等ヨリ發生スルコトアリ、紡錘細胞肉腫ナルコト多ク、著大トナル、骨肉腫ト區別スベシ。</p> <p>b) 骨ニハ軟骨腫・骨腫・肉腫ヲ發生スルコトアリ。</p> <p>肉腫ニハ骨髄性ト骨膜性トアルガ(總論參照)、初期ニハ深部ニアル爲メ所見不明ナルコトアリ、或ハ關節炎ト誤ララルコトアリ、併シX線検査ニヨレバ明カナリ。</p> <p>c) 囊腫ハ粘液嚢炎以外ニハ粉瘤ヲ發生スルコトアルモ甚ダ稀ナリ。</p>
<p>5) 動脈瘤 Aneurysma</p>	<p>膝關動脈 A. p. pliteaニ時トシテ動脈瘤ヲ發生スルコトアリ、外傷ガ誘引トナルコトト、誘因ナシニ發生スルコトトアリ(動脈硬變・動脈微毒ニ因ル)。</p> <p>球形又ハ橢圓形ノ搏動性腫瘤ニシテ、左右ニハ多少移動性ヲ有スルモ、上下ニハ移動性少ナシ、中樞動脈ノ壓迫ニヨリ縮小シ搏動止ミ、末梢動脈ノ壓迫ニヨリ緊縮増大ス、足背動脈ノ脈搏健側ニ比シ弱且遅クナル。本症ノ診斷ハ容易ナルモ、膝關動脈ノ上ニアル脂肪腫・粘液嚢炎ト鑑別ヲ要ス、併シ之ハ舉上性搏動ヲ有スルノミニシテ緊張性搏動ナラズ、又足背動脈ニ變化ナシ。</p>
<p>6) 膝關節炎</p>	<p>(次項參照)</p>

XXVIII 膝關節炎 Kniegelenkentzündungen (Gonitis)

<p>1) 急性漿液性 serosa acuta</p>	<p>屢々膝關節ニ認メラル、多クハ原因的關係明カナルニヨリテ診斷容易ナルモ、時トシテハ結核性關節炎等之ニ繼發スルコトアリ。</p>
<p>2) 急性化膿性 purulenta acuta</p>	<p>創傷ニ因スル場合ニハ診斷容易ナルモ、然ラザル場合ニハ淋毒性膝關節炎・急性粘液嚢炎・急性化膿性骨炎等ト鑑別。</p>
<p>3) 淋毒性炎 (急性) gonorrhoeica</p>	<p>屢々認メラル。</p> <p>急性關節痲痺斯ト鑑別ヲ要ス。</p>
<p>4) 痲痺質 斯性 rheum.</p>	<p>a) 急性 特ニ淋毒性膝關節炎ト鑑別ヲ要ス、輕度ナルハ第二期微毒ト鑑別ヲ要ス。</p> <p>b) 慢性 畸形性關節炎ト鑑別ヲ要ス(總論參照)。</p>
<p>5) 畸形性 deformans</p>	<p>慢性關節痲痺質ト鑑別。</p>
<p>6) 慢性漿液性 serosa chr.</p>	<p>屢々膝關節ニ認メラル、結核性・微毒性・神經性關節炎等ト鑑別。</p>
<p>7) 結核性 tuberculosa</p>	<p>之ハ膝關節疾患中最モ多キモノナリ、種々ノ疾患ト鑑別ヲ要ス。患肢ノ羸瘦特ニ著明トナル。</p>
<p>8) 微毒性 syph.</p>	<p>(a) 第二期 比較的稀ナリ、亞急性ノ關節痲痺質ト鑑別。</p> <p>(b) 第三期 比較的稀、結核性ト鑑別。</p>
<p>9) 尿酸性 urica (Gicht)</p>	<p>甚ダ稀、他ニモ痛風ノ症狀アリ。</p>
<p>10) 血友病性 haemophiliica</p>	<p>比較的稀、之ニ三期ヲ分ツ、結核性等ト鑑別。</p>
<p>11) 神經性 neuropathica</p>	<p>脊髓癆等ニ因ス、特異ノ疾患ナリ。</p>
<p>12) 肉腫 Sarkom</p>	<p>時トシテ大腿骨下端又ハ脛骨上端ニ肉腫ヲ發生シ、膝關節ニモ滲出液ヲ生ジ、關節炎ト誤ララルコトアリ。</p>

能ナリ)、膝關節炎アル時ハ屈伸運動制限ナル(其他總論參照)。

機能障礙 膝關節ノ運動範圍ハ伸屈百八十度、屈曲約五十度マデ可能ニシテ側方運動等ハ不可能ナリ(屈曲位ニ於テハ側方運動多少可異常位 膝關節ニ於テ少シク屈曲位ヲ取ル。

疼痛 疾患ノ種類ニヨリ自發痛・壓痛(直達)・介達痛(下腿長軸ヲ上方ニ壓迫)・機能痛等アリ。

膝蓋骨ノ跳動 Patellarans 著明トナル、又結核性等ニ於テハ關節被膜ノ肥厚等ヲ認ムルコトアリ、膝蓋上粘液嚢ノ膨出モ著明ニ見ユ。

腫脹 比較的早期ヨリ著明ニ見ユ、膝關節内ニ滲出液アル時ハ膝蓋骨ノ左右ニ關節被膜ノ膨隆著明トナリ、又

第四百二十六圖
肉芽性膝關節炎



第四百二十八圖

骨髄性膝關節炎 = 因スル屈曲攣縮位 (山村氏)



第四百三十圖

脊髄癆 = 因スル左膝關節神經症 (慶大病院)



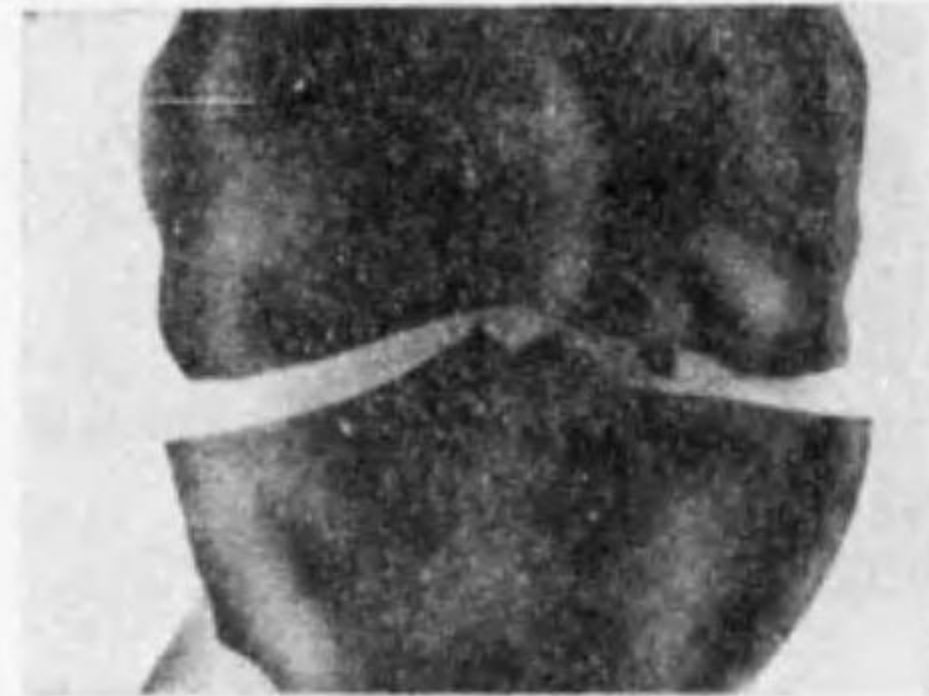
第四百二十七圖

左側第三期癩毒性膝關節炎 (山村氏)



第四百二十九圖

關節鼠 (内踝ノ軟骨缺損 = ヨル) (n. Garre u. Forchard)



第四百三十一圖

左膝關節部ノ懸垂性脂肪腫 (山村氏)



XXIX 膝關節部附近ノ疾患ニシテ膝關節炎ト誤ラルルモノ

(A) 急性	1) 急性化膿性膝蓋前粘液囊炎 Bursitis purul. acuta praepatellaris	本症 = 於テ附近 = 蜂窩織炎著明ナル場合 = ハ急性膝關節炎ト誤ラルルコトアリ。 鑑別點 (イ)膝蓋前粘液囊炎 = 於テハ膝蓋骨ノ前下部 = アリ, 膝關節炎 = 於テハ膝蓋上粘液囊, 膝蓋骨ノ兩側及膝關節窩 = モ腫脹アリ, (ロ)壓痛部前同上, (ハ)關節ノ機能障礙ハ膝關節炎 = 於テ著明ニシテ下肢ノ長軸ヲ關節部ニ向ツテ衝動的ニ壓迫スル時ニ著明ナリ。
	2) 大腿骨下端ノ急性化膿性骨髓炎 Osteomyelitis purul. acuta	本症 = 於テハ膝關節 = 急性漿液性炎ヲ波及シテ關節ノ急性腫脹ヲ來シ, 化膿性膝關節炎ト誤ラルルコトアリ。 此際 = ハ試驗的穿刺及 X線検査ニヨラザレバ鑑別困難ナリ。
	3) 關節血腫 Haemarthros	脱臼・骨折・挫傷・捻挫等ノ爲ニ起ルコトアリ, 此際 = ハ原因的關係明カナルヲ以テ關節炎ト誤ルコトナシ。 併シ血液吸收不充分ニシテ慢性單純性關節炎ヲ起シ, 或ハ關節結核ヲ續發スルコトアリ, 尙ホ血友病性關節炎ハ別箇ノモノニ屬ス。
(B) 慢性	1) 慢性膝蓋前粘液囊炎 B. praepatellaris chronica	不注意ニ検査スレバ誤ルコトアルモ, 少シク注意シテ検査スレバ鑑別容易ナリ, 即チ(イ)膝蓋骨前下部ノ比較的限局セル軟性腫脹ニシテ膝關節ノ他部ニハ腫脹ナク, (ロ)關節ノ機能障礙ナシ。
	2) 膝關節部慢性脂肪腫	之レハ先天性ニ發生シ, 經過緩慢ニシテ膝關節ノ機能障礙ナキニヨリテ容易ニ鑑別セラル。
	3) 膝關節部ノ骨肉腫 Osteosarkom d. Kniegend	大腿骨下端又ハ脛骨上端ニ發生セル肉腫ノ初期 = 於テハ關節内ニ漿液又ハ血性漿液ノ滲出物ヲ生ズル時ハ慢性膝關節炎ト誤ラルルコトアリ。 鑑別點 (イ)其腫脹ガ關節部ニ主ナルカ或ハ大腿骨下端ニモアルヤ, (ロ)各慢性關節炎ノ各症狀ノ吟味, (ハ)經過, (=)試驗的穿刺ニヨリ血性ナル時ハ腫瘍 = 因スルモノト思ハルルモ漿液性ナル時ハ他トノ鑑別困難, (ホ)X線検査, (ヘ)淋巴腺轉移アル時ハ其検査。

XXX 下腿ニ於ケル主要急性炎症性疾患
Wichtige akuten Entzündungen des Unterschenkels

	1) 蜂窩織炎 Phlegmone	2) 丹毒 Erysipelas	3) 急性化膿性筋炎 Myositis purul. acuta	4) 急性化膿性骨髓骨膜炎 Akute Osteomyel. et Periost.
腫脹部位	一定せず、大體下腿長軸に沿フテ腫脹ス。	腫脹ナシ、發赤部位不定。	腓腸部ニ多シ、時トシテ脛骨ノ外側筋走行ニ一致ス。	多クハ脛骨前面ニテ骨幹長軸ニ一致ス。
初發症狀	多クハ炎症性腫脹及ビ發赤ヲ以テ始マル。	發赤ヲ以テ始マル。	多クハ機能障礙ヲ以テ始マル。	多クハ骨ノ劇痛ヲ以テ始マル。
機能障礙	初期ニハ顯著ナラズ、進行スルニ從ツテ現ハル。	ナシ。	初期ヨリ顯著。	初期ニハ顯著ナラズ、進行スルニ從ツテ現ハル。
觸診	初期ヨリ皮下(表在性)ニ瀰漫性腫脹アリ。	異常ノモノヲ觸知セズ。	初期ヨリ筋ノ滲潤乃至硬結ヲ觸ル。	時トシテ骨ノ腫脹ヲ觸ルルコトアルモ多クハ不明。
疼痛	腫脹部ニ壓痛アルモ著シカラズ、多少ノ運動痛アルコトアリ。	疼痛ナシ、時トシテ緊満感等。	筋滲潤部ニ壓痛及ビ運動痛著明。	骨ノ所患部ニ壓痛劇烈、但シ運動痛ナシ。
表面ノ發赤	初期ヨリ發赤アリ、但シ限界不明。	發赤ヲ主トシ、腫脹ナシ、速ニ蔓延シ、發赤ノ限界明瞭。	略々同上。	初期ニハナシ、續發セル蜂窩織炎著明ナルニ及ンテ現ハル。
體溫上昇	同上。	每常急劇ニ發熱。	同上。	屢々急劇ニ上昇、時トシテハ徐々ニ發熱。

5) 瓦斯ガングレン Gasgangraen ハ稍々蜂窩織炎ニ類スルモノナルモ、遙カニ惡性ニシテ其特有ナル状態ニヨリ診斷容易ナリ(總論參照)。

XXXI 下腿潰瘍 Unterschenkelgeschwür od. Ulcus cruris

1) 單純性潰瘍 Ulcus simplex	何レモ屢々下腿ニ發生ス(總論參照)。
2) 靜脈瘤性潰瘍 Varicöses Geschwür	
3) 瘰癧性潰瘍 Syphilitisches Geschwür	
4) 結核性潰瘍 Tuberkulöses Geschwür (稀)	
5) 癌腫性潰瘍 Karzinomatöses Geschwür	
6) 神經病性潰瘍 Neuropathisches Geschwür (甚ダ稀)	

XXXII 下腿軟部ノ主要ナル慢性疾患
Wichtige chronische Erkrankungen der Weichteile des Unterschenkels

大體ハ大腿ノ慢性疾患ノ條下(第267頁參照)ニ述ベタルモノニ類スルモ、下腿ニ於ケル特殊ノモノニ就テ述ブレバ次ノ如シ。

1) 動脈瘤 Aneurysma	外傷ニヨリテ前後脛骨動脈ニ動脈瘤ヲ發生シ得ルモ甚ダ稀ナリ。
2) 靜脈瘤 Phlebektasie od. Varix	<p>靜脈瘤ハ下腿ニ最モ多キモノナルガ、高度ナル時ハ大腿ニモ及ブ。本症ハ比較的男子ニ多ク、長時起立・歩行・疾走スル勞働者ニ多ク認メラル、時トシテハ下腹部腫瘍ニ因シ、又女子ニ於テハ妊娠ニ因ルコトアリ。</p> <p>本症ハ大體靜脈 V. saphena magna ノ領域ニ來ルモノニシテ特ニ皮下ノ靜脈ニ多シ、時トシテハ深部ノ筋靜脈モ擴張スルコトアリ。即チ是等ノ靜脈ガ線狀・蛇行狀・蔓狀或ハ紡錘狀・囊狀或ハ海綿狀ニ擴張シ、擴張著明ナル場所ノ皮膚ハ菲薄トナリテ青色ニ透見セララルコトアリ。靜脈瘤ニハ通常自覺の症狀ナキモノナレドモ、其高度ナル場合ニハ下腿ニ緊満感アリ、又筋間靜脈瘤アル時ハ腓腸筋痙攣 Wadenkrampf ヲ起スコトアリ。</p> <p>靜脈瘤高度ナル時ハ損傷ニヨリテ大出血ヲ來スコトアリ、時トシテハ靜脈炎 Phlebitis、靜脈周圍炎 Periphlebitis、或ハ血栓性靜脈炎 Thrombophlebitis ヲ起シ、甚シキハ膿毒症 Pyaemie ヲ起シ、生命ニ危險ナルコトアリ。時トシテハ靜脈瘤内ニ血栓ヲ生ジ、或ハ之レニ石灰沈着シテ靜脈石 Venenstein ヲ生ズ、又靜脈瘤アル時ハ下腿潰瘍ヲ生ジ易ク且ツ治シ難シ。</p> <p>靜脈瘤ノ診斷ハ容易ナリ、血栓性靜脈炎ニ於テハ靜脈ノ擴張ヲ來スモ、此際ニハ下腿ノ腫脹著明ナリ。</p>
3) 血栓性靜脈炎 Thrombophlebitis	<p>產褥股白腫 Phlegmasia alba puerperalis、子宮周圍炎、稀ニハ妊娠ニ於テ靜脈ニ血栓ヲ形成スルコトアリ、其他腹部腫瘍、種々ノ原因ニ因ル腹膜炎ニ際シテモ本病ヲ起スコトアリ。</p> <p>此ノ靜脈血栓ハ急性ニ來ル場合ニハ突然下肢ノ腫脹ヲ來シ、初ハ疼痛著シク、所々ニ鬱血像ヲ見ル、時トシテハ股靜脈ヲ索狀物トシテ觸ル、又初期ニハ體溫上昇ヲ伴フコトアリ、初期ニハ安靜ヲ守ラザレバ血栓剝離シテ中樞部ニ至リ危險ナルコトアリ、又初期ニハ腫脹部軟ニシテ指痕ヲ留ムルモ、次第ニ腫脹消退スルト共ニ結締織ノ増殖ヲ來シ象皮病様トナル。</p> <p>b) 慢性ニ發生(血栓不全)セル場合ニハ徐々ニ下肢ノ腫脹ヲ來ス、象皮病ト區別スベシ。</p>

4) 下腿淋巴管擴張症
Lymphangi-
ektasie
及象皮病
Elephantiasis

a) 原發性象皮病 Primäre Elephantiasis 一種ノ風土病トシテ存スルモノニシテ各所ノ熱帶地方、本邦ノ九州又ハ伊豆等ノ海岸地方ニアリ、大部分ハ人血絲狀蟲 Filaria sanguinis, hominis 其他ノ寄生蟲ニ因ルモノナリ、本蟲ノ寄生アル時ハ乳糜尿ヲ見ルモ、之レナクシテ象皮病ヲ起スコトモアリ、本病ニ於テハ初メ何等ノ原因ナクシテ輕度ノ惡寒・發熱ト共ニ下肢ニ丹毒様ノ發赤腫脹ヲ來シ、此急性症狀ハ數日ニシテ自ラ去ルモ、其跡ニ皮下結締織ノ増殖ヲ殘ス、此ノ如キ發作反復スルニ從ツテ次第ニ象皮病ノ變化著明トナル、時トシテハ以上ノ發作著明ナラザルコトモアリ。

b) 續發性象皮病 Sekundäre Elephantiasis 反復スル急性淋巴管炎又ハ急性靜脈炎・腫瘍ニヨル靜脈幹又ハ淋巴管ノ壓迫、手術ニ際シ靜脈又ハ淋巴管幹部ノ結紮ニヨリ其環流ヲ妨ゲタル爲、靜脈血栓、下腿ニ於ケル慢性骨髓骨膜炎・護膜腫性潰瘍・慢性潰瘍等ニ因スルコトアリ、此際ニハ原因的疾患ニ伴ヒ徐々ニ象皮病ヲ起ス、續發性象皮病ハ其原因ニヨリテハ象皮病發生後尙ホ其原病ヲ殘ス。

象皮病ノ肥厚ハ主トシテ皮下結締織ノ増殖ニヨルモノニシテ、下肢ニ於テハ普通ノ數倍大トナリ、其狀恰カモ象ノ足ノ如ク見ユ、其度甚キ時ハ大腿ニモ及ブ、肥厚部ハ表面平等或ハ瓣狀或ハ溝ヲ以テ區分セラレ、硬クシテ指ニテ擧シ難シ、併シ初期ニハ浮腫アルニヨリ指痕ヲ留ムルコトアリ、皮膚ニハ色素沈着、表皮ノ角質増殖アリ、或ハ淋巴管嚢嚢ノ爲メ水疱ヲ生ジ或ハ白潰又ハ損傷後淋巴液ノ漏出煩ハシキコトアリ、其他濕疹・癩癧・潰瘍等ヲ生ズルコトアリ。

本病ハ發病後數ヶ月乃至數ヶ年ヲ經テ著大トナル、併シ時トシテハ増大著シカラザルコトモアリ、又象皮病ニ於テハ比較的榮養ニ影響ナシ。

診斷 特有ナル狀態ニヨリ容易ニシテ鑑別スベキモノナキモ、下肢ノ先天性巨大症ト鑑別ヲ要ス、又本症ノ原因ニモ注意スベシ。

5) 下腿ノ腫瘍及囊腫
Geschwülste
u. Zyste

下腿軟部ニハ纖維腫・神經纖維腫・脂肪腫・血管腫・淋巴管腫・肉腫・癌腫等ヲ發生スルコトアリ。

肉腫ハ筋間結締織ヨリ發生スルコト多ク、稀ニハ骨ヨリ發生ス、其他惡性ナル黑色肉腫ヲ生ズルコトモアリ。

癌腫ハ下腿潰瘍・瘻孔等ヨリ發生スルコトアリ。

囊腫 粉瘤ハ下腿ニハ甚ダ稀ナリ、「ガンダリオン」ガ下腿筋膜ニ長橢圓形腫瘍トシテ發生シタル報告アルモ、甚ダ稀ナリ。

下腿骨 ヨリハ肉腫・骨腫・軟骨腫・骨囊腫ヲ發生スルコトアリ。

第四百三十二圖



第四百三十四圖



下腿潰瘍ニ發生セル瘤狀皮膚癌ニシテ腓骨ヲ破潰セルモノ

下肢靜脈瘤

第四百三十三圖



第四百三十五圖



右下肢原發性象皮病 (慶大病院)

下腿乳嘴性癌腫 (in Kyo)

XXXIII 下腿骨ノ主要慢性疾患鑑別

Differentierung der wichtigen Krankheiten des Unterschenkels

	1) 慢性化膿性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis purul. acuta	2) 結核性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis tuberculosa	3) 微毒性骨髓骨膜炎 Osteomyelitis et Periostitis syphilitica	4) 骨肉腫 Osteosarkom (骨膜性及骨髓性)
起 始	急性炎症症状アリタル後慢性症ニ移行ス。	初メヨリ慢性。	同 左。	同 左。
年 齡	幼年者ニ多シ。	幼年者ニ多シ。	壯年後ニ多シ。先天性微毒ハ幼年者。	幼年者ニ多シ。
所 患 部 位	骨幹端或ハ骨幹部。	骨端ニ多シ、骨幹部ニハ非常ニ稀。	骨幹部。	骨端又ハ骨幹。
骨 肥 厚	骨肥厚著明、屢々不同凹凸著明。	骨肥厚ナシ。	瀰漫性或ハ不同ノ骨肥厚。	初期ニハ軟性腫瘍ナルモ間モナク骨増殖加ハル。
皮膚ノ變化	多クハ皮膚ニ色素沈着著明、屢々陥凹セル癩痕アリ、骨ト癒着アリ。	色素沈着殆ンド無シ、骨ト癒着モ稀ナリ。	色素沈着アリ、屢々骨ト癒着。	皮膚ニ静脈ノ擴張ヲ見ルコトアリ、骨ト癒着ナシ。
瘻孔及潰瘍	屢々瘻孔ヲ殘シ、稀薄膿ヲ漏ラス、消息子ニヨリ粗糲ノ骨ヲ觸ル。	屢々瘻孔形成、稀薄膿(乾酪様絮片ヲ混ズ)ヲ漏ラス、消息子ニヨリテ骨ヲ觸ルコトアリ時トシテ結核性潰瘍ヲ生ズ。	瘻孔ヲ形成セズ、微毒性潰瘍ヲ生ジ、次第ニ治シ、或ハ慢性ニ経過ス。	瘻孔・潰瘍ナシ、併シ末期ニハ白潰シテ醜花狀腫瘍トナル。
疼 痛	多クハ無シ、併シ時トシテ軽度ノ壓痛アリ、或ハ偶然急性炎症症状ヲ呈シ疼痛ヲ發ス。	疼痛ナシ、稀ニ末期ニ稍々疼痛アルコトアリ。	毎常ナシ、只初期ニ夜間痛アルコトアリ。	無痛、甚ダ稀ニ骨髓性ノ初期ニ疼痛アリ。
關節ノ變化	時トシテ膝關節炎、又ハ足關節炎併發。	屢々膝關節結核、又ハ足關節結核ヲ併發。	骨ノ微毒ヨリ關節炎ヲ起スコトナシ。	骨端ニ於テハ膝關節血腫ヲ來スコトアリ。
X 線 檢 査	不同ノ骨陰翳・骨増殖・骨變形・腐骨等。	骨萎縮、時トシテハ多少ノ骨變形等。	骨増殖・骨變形等。	骨増殖像。
其 他	経過中時々急性炎ノ症状ヲ呈ス。	結核性遺傳・體質・他部結核・ツベルクリン反應。	微毒ノ既往症・現症・ワ氏反應・試驗的驅毒法。	他部ノ轉移。

XXXIV 足關節部及足部ノ腫脹

Anschwellungen der Fussgelenkgegend u. des Fusses

1) 足關節捻挫及挫傷	出血ノ爲メ該部ノ腫脹ヲ來スコトアリ(第 222, 223 頁參照)。
2) 骨 折	出血ノ爲メ腫脹著明ナリ、其他骨片隆出ニヨリ隆起ヲ見ルコトアリ(第 221 頁參照)。
3) 脱 臼	出血(前者ニ比シ輕度)・骨頭隆出ニヨリテ異常腫脹ヲ見ル(第 221 頁參照)。
4) 蜂窩織炎	種々ノ化膿症ニ續發ス。 足ニ於ケル主要ナル腱鞘ハ 1) 前脛骨筋腱鞘 Vag. tend. m. tibialis post. 2) 長伸趾筋腱鞘 Vag. tend. m. extensoris hallucis longi. 3) 長趾伸筋腱鞘 Vag. tend. m. extensoris digitorum pedis longi. 4) 長屈趾筋腱鞘 Vag. tend. m. flexoris, digit. pedis longi. 5) 後脛骨筋腱鞘 Vag. tend. m. tibialis post. 6) 長屈趾筋腱鞘 Vag. tend. m. flexoris hallucis longi. 7) 總腓骨筋腱鞘 Vag. tend. mm. peroneorum communis. 以上ノ内(2),(3)最モ屢々侵サル、是等ハ足關節ノ前側ニアリ、腱鞘炎ニテ滲出物著明ナル場合ニハ該部ニ長形ノ腫脹ヲ來シ、其中央邊ニ下腿十字韌帶 Lig. craciatum cruris ガ横切シテ腫脹部ヲ上下ニ分ツモ、互ニ波動共通ス。 是等ノ腱鞘ニ來ル主ナル炎症ハ a) 急性漿液性腱鞘炎 Tendovaginitis serosa acuta. b) 急性化膿性腱鞘炎 Tendovaginitis purulenta acuta. c) 淋毒性腱鞘炎 Tendovaginitis gonorrhoeica. d) 慢性單純性漿液性腱鞘炎 Tendovaginitis chr. serosa simplex. e) 結核性腱鞘炎 Tendovaginitis tuberculosa. f) 微毒性腱鞘炎 Tendovaginitis syphilitica 等ナリ。 其他腱鞘炎ニ於ケル共通ノ症状ハ (イ)部位、腱鞘存在部ニ一致スル事。 (ロ)所患腱鞘ノ形状ニ一致シテ腫脹アリ(長形)。 (ハ)機能障礙(特ニ急性炎ニ著明)。 (ニ)其他各腱鞘炎ノ種類ニヨリテ種々ノ症状アリ(總論參照)。
5) 腱鞘炎 Tendovaginitis	

<p>6) 粘液囊炎 Bursitis</p>	<p>足部ニ於ケル主要ナル粘液囊ハ次ノ如シ。 1) アヒレス腱前粘液囊或ハ跟骨前粘液囊 B. achillen ant. s. retrocalcanea. 2) アヒレス腱後粘液囊 B. achillea posterior. 3) 内踝粘液囊 B. malleoli medialis. 4) 外踝粘液囊 B. malleoli lateralis. 5) 跟骨下粘液囊 B. subcalcanea. 6) 趾趾間粘液囊 B. intermetatarsophalangealis. 7) 常數外粘液囊 B. supernumeräre od. akzidentelle. 以上ノ内必要ナルハ(3), (4), (1), (2) ニシテ、屢々是等ニ a) 慢性單純性粘液囊炎 Bursitis chronica serosa. b) 急性化膿性粘液囊炎 Bursitis purulenta acuta. c) 淋毒性粘液囊炎 Bursitis gonorrhoeica (甚ダ稀) d) 結核性粘液囊炎 Bursitis tuberculosa ヲ起ス。 其特徴ハ(i) 部位ハ粘液囊存在部ニ一致ス。 ii) 形状ハ球形若クハ扁平球形。 iii) 機能障礙ハ急性炎症症状著明ナル時ニノミ多少アリ。 鑑別スベキモノハ i) 腱鞘炎, ii) 脂肪腫, iii) 「ガングリオン」等。</p>
<p>7) 足骨ノ炎症 Entzündungen der Fuss- knochen</p>	<p>a) 跗骨・跟骨等ノ急性化膿性骨髓炎 Osteomyelitis des Calcaneus, des Talus etc. ハ比較的稀ナリ、外傷後來ルモノ多キモ、稀ニハ血行性傳染ニ因ルコトアリ。 局所ニ急性炎症症状著明ニシテ、熱發ヲ伴フニヨリ診斷セララル。 稍々進行セルモノニ於テハX線ニヨリテ骨變化ヲ認ム。 b) 跗骨・跟骨・趾骨・距骨・脚距關節・趾骨・趾骨關節等ノ結核 Tuberkulose der Fusswurzelknochen, Talus, Calcaneus, Metatarsis, Talocruralgelenks, Metatarsalgelenks, Zehenknochen, Interphalangealgelenks. 時トシテ見ラル、慢性ニ患部ノ腫脹ヲ來シ疼痛顯著ナラズ、次第ニ周圍ニ慢性滲潤ヲ來シ、初期ニハ機能障礙ナキモ、後ニハ多少ノ障礙ヲ伴フ、遂ニハ化膿自潰シテ瘻孔ヲ殘スコトアリ、趾骨ニ於テハ風刺 Spina ventosa ノ状ヲ呈ス、特有ナル外見ニヨリ診斷容易ナリ、X線ニヨレバ一層確實ナリ。 c) 足骨ノ梅毒 Syphilis der Fussknochen 甚ダ稀ナリ、足趾ノ梅毒ハ風刺ノ状ヲ呈スルコトアリ、結核トノ鑑別ハ總論參照。 d) 足痛風 Podagra 本邦ニハ甚ダ稀ナリ、初期ニハ神經痛又ハ關節痲痺質ト誤ラルルモ、疼痛跗趾部ニ固定シ、特ニ夜間痛著シク、發作性ニ來リ屢々熱發ヲ伴フ、進行セルモノニ於テハ痛風結節ヲ生ジ、關節ニ畸形及ビ強直ヲ來シ、X線ニヨリ尿酸結晶ヲ認ムルコトアリ(其他總論參照)。</p>

<p>8) 足關節炎</p>	<p>(第288頁參照)。</p>
<p>9) 足ノ腫瘍 Tumoren d. Fusses</p>	<p>a) 足ノ軟部 ニハ脂肪腫・纖維腫・神經纖維腫・血管腫・乳嚙腫・皮角・肉腫・癌腫等ヲ發生スルコトアリ、就中黒色肉腫惡性ナリ。 癌腫ハ足趾等ノ慢性潰瘍等ヨリ發生スルコトアリ。注意スベシ。 b) 骨 ニハ肉腫・骨腫・軟骨腫等ヲ發生ス、何レモ其特有ナル状態ニヨリ診斷セララル。</p>
<p>10) 足ノ囊腫 Zyste d. Fusses</p>	<p>a) 粉瘤 Atherom 稀ニ足背ニ生ズルコトアルモ、足趾ニハ決シテ發生セズ、之レ足趾ニハ粉瘤發生ノ基地タルベキモノナキヲ以テナリ。 b) 外傷性皮膚囊腫 Traumatische Epithelzyste 甚ダ稀ニ足趾ニ發生スルコトアリ、硬靱ノ小腫瘤ニシテ皮膚ト癒着アリ、底部ニ癒着ナシ。 c) ガングリオン Ganglion 足關節ノ附近・足背ニ生ズルコトアリ、緊縮性軟ノ小腫瘤ニシテ皮膚ト癒着ナク、底部ト癒着アリ。 d) 粘液囊炎 Bursitis 前記ノ如ク跟骨下粘液囊・趾趾間粘液囊ニ慢性腫脹ヲ見ルコトアリ、部位一定セル球形ノ腫脹ニシテ皮膚ト癒着ナク底部ト癒着シ、硬度軟性ニシテ屢々波動アリ。 e) 足部動脈瘤 Aneurysma. 甚ダ稀ニ足背動脈 A. dorsalis pedis, 足趾動脈 A. plantaris pedis ニ動脈瘤ノ發生スルコトアリ、何レモ外傷ニ因スルモノナリ。 普通示指頭大乃至鳩卵大ニシテ巨大ナルコトナシ、足背動脈ニ發生セルモノハ搏動著明ナルヲ以テ診斷容易ナルモ、足趾動脈ニ發生セルモノハ深在性ナル爲メ搏動稍々不明ナルコトアリ、又動脈内ニ凝血多量ナル時、周圍ニ炎症アル時ハ一層不明ナリ、動脈瘤大ナル時ハ關節ヲ侵シ機能障礙ヲ來スコトアリ。</p>
<p>11) 足ノ類腫瘍</p>	<p>a) 壓迫腫(まめ) Druckbeule 草鞋・靴ナドヲ穿テ慣レヌ人ガ長途ノ旅行ヲナセル爲メニ起ルコト多シ。 豌豆大乃至示指頭大ノ水疱ヲ形成シ、内容漿液性又ハ血性ニシテ疼痛著シ、初メハ周圍ニ炎症アルモ、二三日ニシテ去ル、或ハ化膿潰瘍シテ高熱炎症狀著明ナルコトアリ、或ハ反復セル壓迫腫ノ後ニ肝腫ヲ發生ス。 b) 胼胝腫(たこ) Schwieler, Callus od. Tylosis. 足趾ニ屢々發生ス、慢性機械的刺戟ニヨリ表皮肥厚シテ硬クナリ、乾燥シテ粗糙トナリ、或ハ滑澤ニシテ少ク透光色ヲ帶ブ、多クハ知覺鈍弊ス、併シ皸裂ヲ生ジテ疼痛ヲ發スルコトモアリ、雞眼ト鑑別ヲ要ス。 c) 雞眼(魚ノ目, そこまめ) Hühnerauge od. Clavus. 前者ニ類スルモ、之ヨリ小ニシテ限局性角層肥厚ニシテ圓形又ハ橢圓形ノ限界明瞭ナル角栓ヲ生ジ、其底面圓錐形ヲナシテ真皮中ニ楔入シ、壓迫ニヨリ疼痛ヲ訴フ、時トシテハ其周圍ニ炎症ヲ併發シ暗赤色暈ヲ呈シ腫痛一層顯著ナルコトアリ。</p>

第四百三十六圖
外踝粘液囊炎 (n. Koppis)



第四百三十八圖
跟骨内結核性腐骨 (n. Quervain)



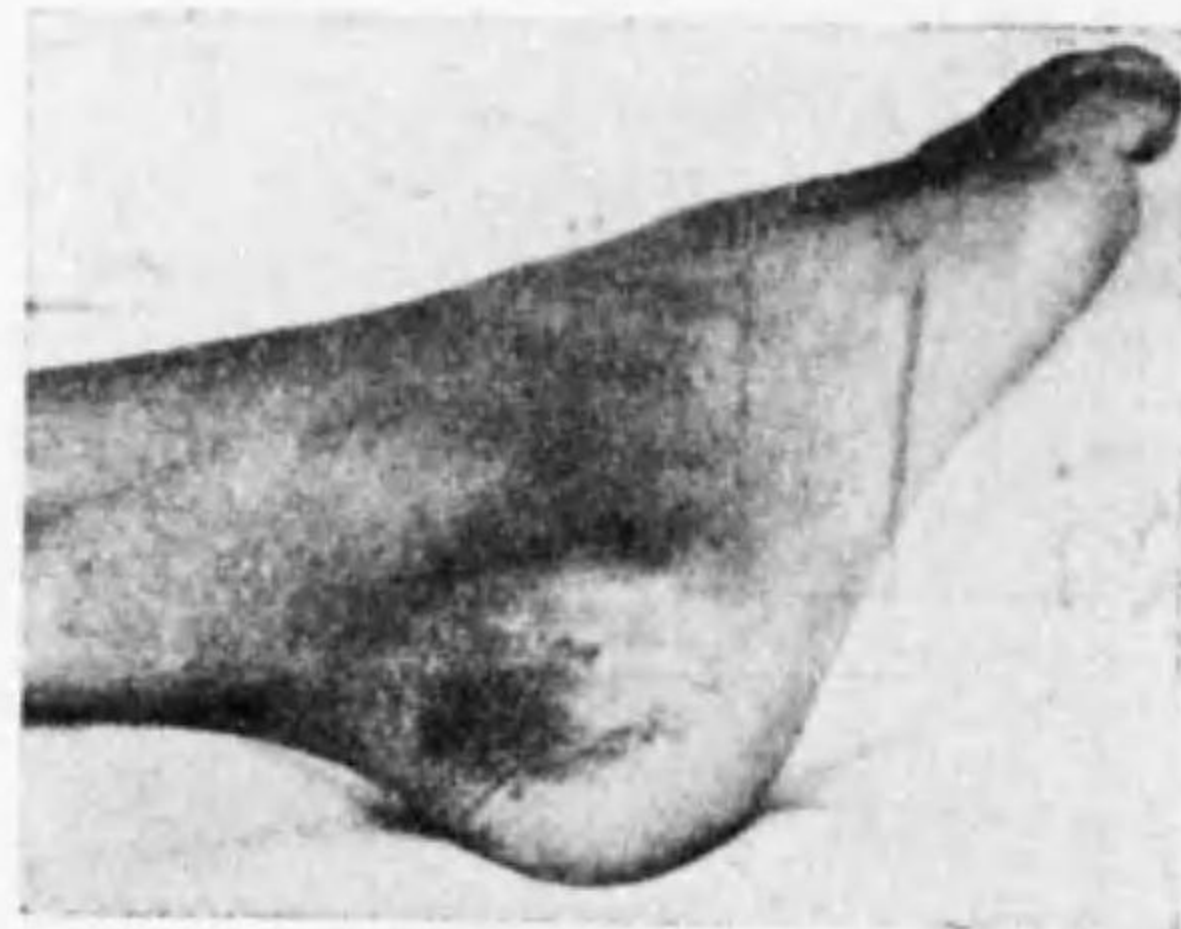
第四百四十圖
足ノ巨大ナル海绵狀血管腫



第四百三十七圖
足根骨結核 (n. Koppis)



第四百三十九圖
跟骨結核ノ瘻孔發生部位 (n. Quervain)



第四百四十一圖
足趾ノ多發性軟骨腫 (n. Quervain)



XXXV 足關節炎
Fussgelenkentzündungen (Pedarthrit)

1) 急性漿液性 serosa acuta	足關節ノ捻挫・挫傷・過勞等ニ因シ、屢々認メラル。原因的關係明カナルニヨリ診斷容易ナリ。
2) 急性化膿性 purulenta acuta	足關節部ノ損傷ニ因ルコト最モ多シ、時トシテハ脛骨・足骨ノ化膿性骨髓炎ニ繼發ス。
3) 淋毒性(急性) gonorrhoeica	屢々認メラル、急性關節痲痺質ト鑑別ヲ要ス。
4) 痿癘質 斯性 rheum.	a) 急性 時トシテ認メラル、淋毒性ノモノト鑑別ヲ要ス。
	b) 慢性 畸形性關節炎ト鑑別ヲ要スルコトアルモ、後者ハ足部ニハ甚ダ稀。
5) 畸形性 deformans	甚ダ稀。
6) 慢性漿液性 serosa chr.	比較的稀、屢々結核性ノモノヲ之ト誤診ス。
7) 結核性 tuberculosa	多クハ骨性(脛骨・距骨等)ノモノニシテ、(イ)漿液性(ロ)肉芽性、(ハ)化膿性ノ三種アリ。少シク進行セルモノニ於テハ關節周圍炎著明ニシテ後ニハ足背ノ側方ニ自潰シテ瘻孔ヲ形成ス。診斷多クハ容易ナルモ附近ノ急性化膿性骨髓炎ト鑑別ヲ要ス。
8) 梅毒性 syph.	(a) 第二期 甚ダ稀。
	(b) 第三期 非常ニ稀。
9) 尿酸性 urica (Gicht)	非常ニ稀(跗趾ニハ比較的スキモ)。
10) 血友病性 haemophilica	稀。
11) 神經性 neuropathica	甚ダ稀。
12) 肉腫 Sarkom	甚ダ稀。

(ホ)内轉 Aduktion (ハ)外轉 Abduktion ノ六種アリ、炎症アル時ハ是等ノ運動制限セラレ。機能障礙 足關節ノ運動ニシテ、(イ)足背屈曲 Dorsiflexion (ロ)足趾屈曲 Plantarflexion (ハ)過前 Pronation (ニ)過後 Supination 異常位 多少足趾面ニ屈曲ス。疼痛 疾患ノ種類ニヨリハ發痛・直達疼痛・介達疼痛・機能痛アリ。腫脹 足關節炎ニテ滲出物アル時ハ關節囊ノ腫脹ヲモ伴フコトアリ。ナル、時トシテハ種々ノ足骨關節部ノ腫脹ヲモ伴フコトアリ。

XXXVI 足部ノ特殊疼痛 Schmerzen der Fußgegend

1) 蹠骨痛 Metatarsalgie	<p>モルトン氏神経痛 <i>Mertonsche Neuralgie</i> トモ稱スルガ、恐ラクハ足蹠神經ガ蹠骨ノ沈降ニヨリテ壓迫セララル爲メナルベシト、輕度ノ外傷後或ハ外傷ナシニモ來ルコトアリ、本病ノ原因ハ尙ホ不明、多クハ第四蹠趾關節部 Metatars-phalangealgelenk 又ハ第二、第三蹠骨骨頭部 Metatarsalknochenkopfgegendニ劇痛ヲ發シ、壓痛亦著明ナリ、併シ腫脹發赤熱感等ノ炎症症狀ナシ。輕度ナルハ壓痛ノミニ留ルモ高度ナルハ自發痛モアリ、又劇痛ノ爲メ歩行困難トナルコトアリ、X線検査ニヨルモ骨ノ變化ヲ認メズ。</p>
2) 跟骨痛 Calcanealgie	<p>特殊ノ原因ナクシテ起立歩行ニ際シテ跟骨部ニ劇痛ヲ發スルコトアリ。本病ノ本態ニ就キテハ種々ノ議論アルガ、跟骨下部ニ跟骨距 Calcaneuspornヲ生ジタル爲メニ起ルモノナルベシト(恐ラクハ骨膜炎ニ因リテ)、X線検査ニヨリ確定セララル。</p>
3) ケーラー氏病 <i>Köhlersche Krankheit</i>	<p>本病ノ原因ハ尙ホ不明ナリ、外傷ガ誘因トナルコトアリ、或ハ外傷ナシニモ起ルコトアリ、年少者ニ多ク偏側性又ハ兩側性ニ來ル、足根骨 <i>Tarsalknochen</i>ノ内側特ニ舟狀骨 <i>Os naviculare</i>ノ附近ニ疼痛腫脹ヲ發シ、特ニ足ヲ内方ニ動かス時ニ疼痛著シク、舟狀骨ニ壓痛アリ。 X線検査ニヨルニ舟狀骨ノ變形・縮小著シク、其構造不明トナルコトアリ(併シ骨萎縮像ナシ)、甚シキハ舟狀骨ガ殆ンド消失スルコトアリ、時トシテハ第二蹠骨小頭、第二蹠趾關節ノ骨軟骨炎ヲ認ムト。 鑑別 a) 足根骨結核トハ下腿萎縮・X線等ニヨリテ區別、b) モルトン氏神経痛トハX線検査ノ結果骨變化ノ有無ニヨリテ區別。</p>
4) 扁平足痛 Plattfusschmerz	<p>扁平足ニ於テハ長時ノ起立又ハ歩行後疲勞ト共ニ足部ニ鈍痛ヲ感ズ、特ニ其異常ナルハゴッスラン氏少年跗骨痛 <i>Gossulnsche Tarsalgie des Adolescents</i>ナリ、之ハ足蹠隆ノ沈降ニ際シテ(イ)背側ノ舟狀骨ガ強ク距骨ニ向ツテ壓迫セラレ(ロ)足ノ外側位高度ナル時ハ外踝ヲ外側ノ跟骨角ニ向ツテ強ク壓迫、(ハ)又ハ内側ノ跟骨舟狀骨ノ靭帯ガ著シク牽引セララル爲メニ是等ノ部位ニ疼痛ヲ發ス(第479圖)、(ニ)時トシテハ跟骨痛ノミ著明ナルコトアリ、足ガ著シク過前位ニアル爲メニ跟骨ガ縱軸ニテ迴轉セラレ、其體重負擔ニ慣レザル内側面ガ地上ニ接合セシメ爲メニ起ル。</p>

(D). 四肢ノ先天性畸形

Angeborene Missbildungen (Deformitäten) der Extremitäten

(I) 肩胛部ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen d. Schultergegend

1) 鎖骨ノ先天性缺如 Angeb. Defekt d. Clavicula	<p>鎖骨ガ先天性ニ兩側性、稀ニハ偏側性ニ一部又ハ全部缺損スルコトアリ、其缺損部ハ結締織又ハ軟骨ニテ補充セララル、併シ機能ニハ差支ナシ。</p>
2) 肩胛骨ノ先天性高位或轉位 Angeb. Hochstand od. Verschiebung	<p>肩胛骨ガ偏側(左側ニ多シ)又ハ兩側ニテ上方ニ轉位セルコトアリ、此際ニハ肩胛骨ノ畸形ヲ伴フコト多シ、此際ニモ該部ノ機能ニハ差支ナシ。</p>
3) 先天性肩胛關節脱臼 Angeb. Schultergelenkluxation	<p>甚ダ稀ニ先天性ニ a) 烏喙突起下脱臼又ハ b) 肩胛骨棘下脱臼ヲ見ルコトアリ、但シ此際ニハ外傷性脱臼ノ如ク機能障礙著シカラズシテ寧ロ關節動搖性ナルコト多シ、骨頭ノ異常位ニヨリテ診斷セララル(第150頁参照)。</p>

(II) 上肢ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen der oberen Ext.

1) 上肢缺如 Anelie	<p>甚ダ稀ナリ、上肢全ク缺如スルコトアリ。</p>
2) 上肢幹部缺如 Phocomelie	<p>上肢ノ幹部先天性ニ缺如シテ、手が直チニ軀幹部ニ附着セルモノヲ云フ、之レモ甚ダ稀ナリ。</p>
3) 先天性絞扼 Angeb. Schnürung	<p>上膊又ハ前膊ガ臍帶ニテ(胎内ニテ)絞扼セララル爲メニ先天性ノ溝ヲ形成スルコトアリ、余ハ生後十月ノ小兒ニ前膊ノ絞扼ヲ實驗セルガ、其機能ニハ差支ナカリキ。</p>
4) 肘關節炎性脱臼 Angeb. Luxation d. Ellbogengelenks	<p>甚ダ稀ニ肘關節ガ先天性ニ脱臼セルコトアリ、診斷容易ナリ、併シ初生兒ノ間ニハ氣附カズニ居ルコトアリ。</p>
5) 肘部翼狀皮膚形成 Flughautbildungen d. Ellbogengegend	<p>第442圖ニ示スガ如ク、肘部ニ翼狀皮膚ヲ形成ス、之ガ爲メ前膊ノ伸展障礙セララル、併シ手術ニヨリ容易ニ治ス。</p>
6) 肘外翻症及内翻症 Cubitus valgus et varus	<p>先天性ニ前膊ガ肘部ニテ橈骨側又ハ尺骨側ニ傾斜セルコトアリ、但シ小兒及婦人ニ於テハ其運動稍々可能ニテ、180度迄ハ病的ニアラズ。</p>
7) 先天性前膊缺損 Angeb. Defekt d. Vorderarmknochen	<p>橈骨或ハ尺骨或ハ兩者ガ先天性ニ缺損セルコトアリ、橈骨ノ缺損ハ比較的ニ多ク、此際ニハ手が尺骨ニ對シテ直角ニ屈曲シ、所謂内翻手 <i>Klumpfhand</i>ノ狀ヲ呈ス。</p>

第四百四十二圖

手指及前膊等ノ高度ノ畸形(n. Deyen)



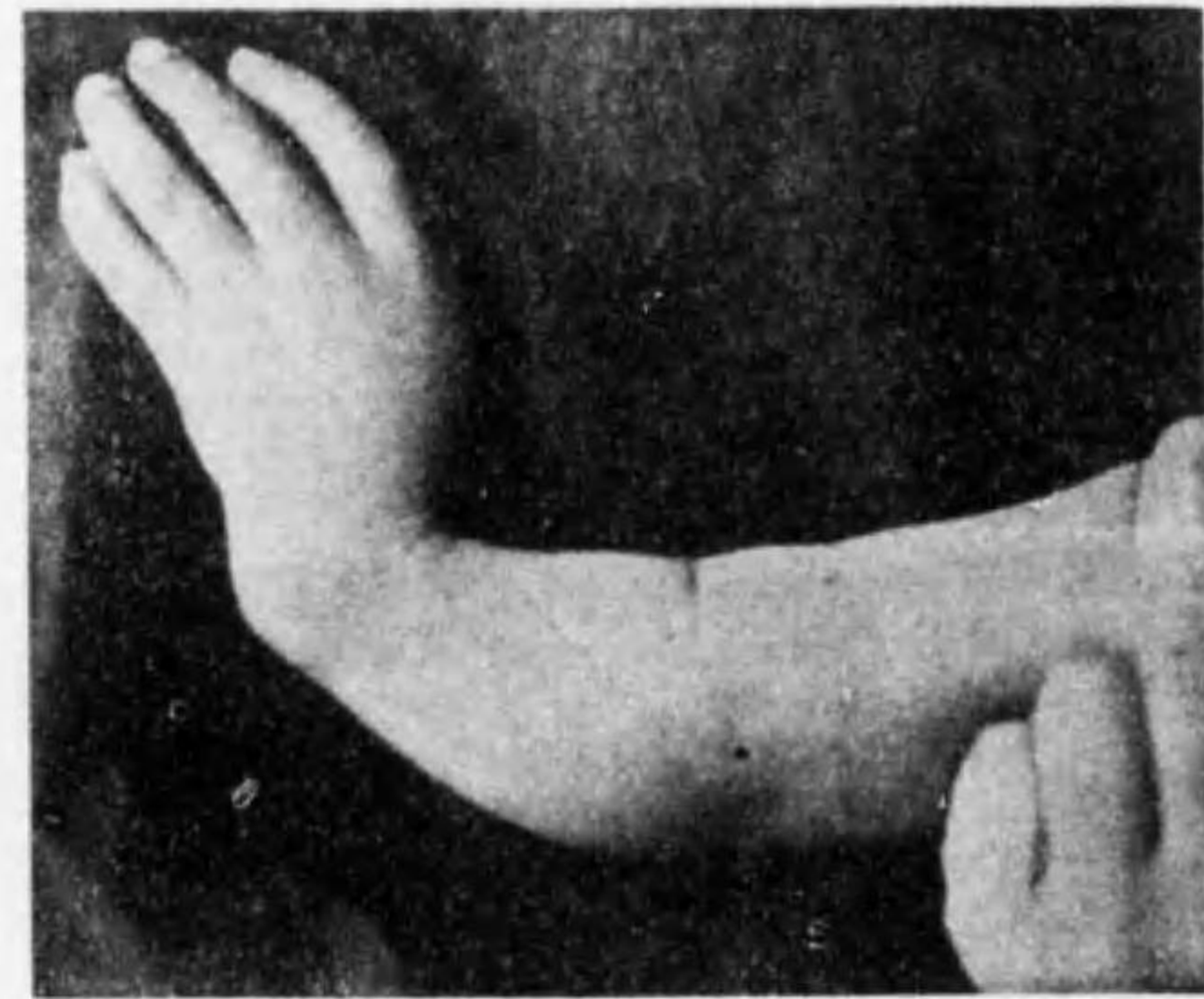
第四百四十四圖

上肢ノ先天性絞扼(慶大病院)



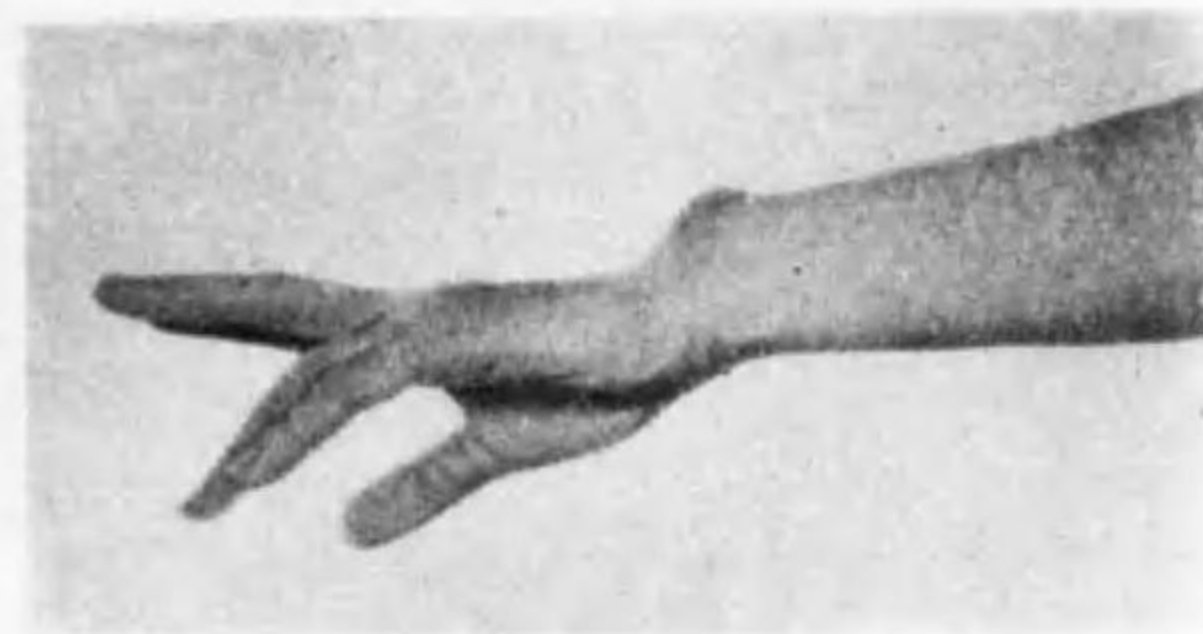
第四百四十三圖

先天性橈骨缺損



第四百四十五圖

マーデルング氏病 (n. Quervain)



(III) 手腕關節部ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen d. Handgelenkgegend

1) 先天性手腕關節脱臼	甚ダ稀ニ手腕關節ガ先天性ニ脊側又ハ尺骨側ニ脱臼セルコトアリ、併シ初メハ其存在ニ氣附カザルコトアリ、又橈骨缺損ニ伴フコトアリ。
2) マーデルング氏畸形或外翻手 Manus valga. od. Madelung'sche Deformität	原因不明ナルガ、虚弱ナル少女ニ來ルコトアリ、恐ラクハ關節被膜ノ薄弱ナル際ニ手指屈筋ノ過勞アリシ爲メニ起ルモノナルベシト、或ハ晩發性尙婁病ナラントモ稱セラレ。本症ハ手腕關節ノ半脱臼ノ状態ヲ呈シ、初期ニハ手ヲ伸展セントスル際ニ疼痛アルガ、後ニハ其疼痛無クナル、併シ畸形ハ治癒セズ。

(IV) 手指ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen der Finger

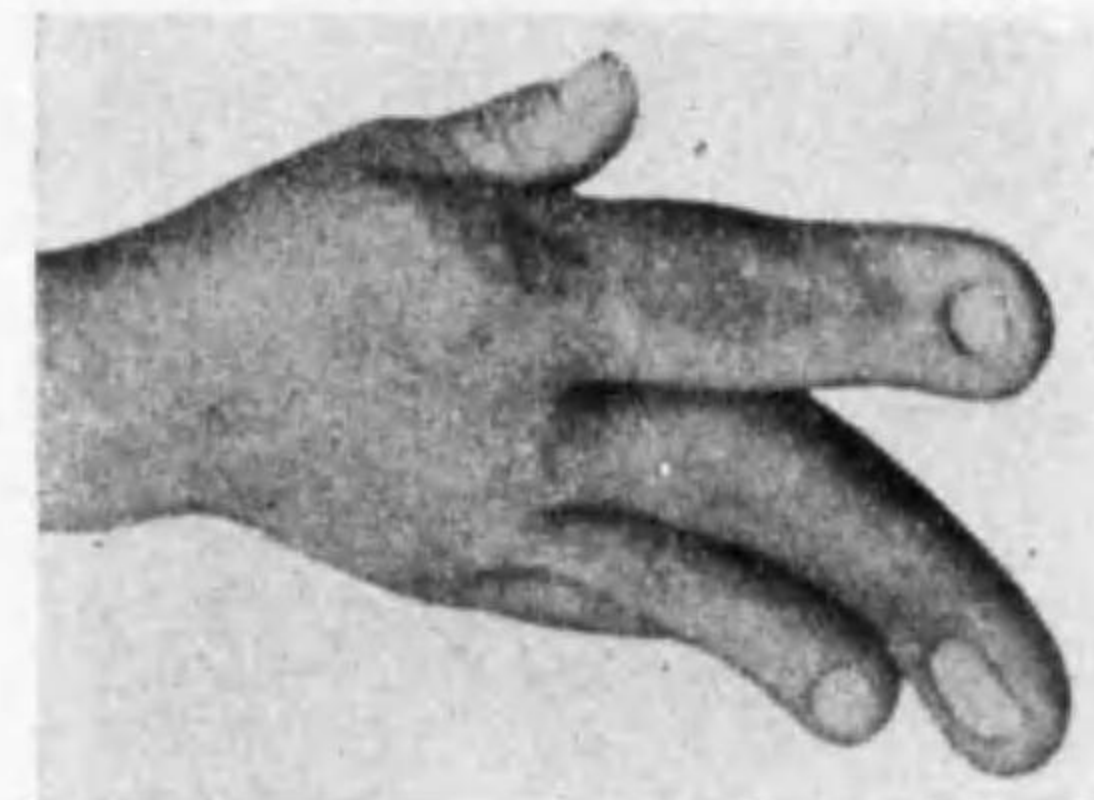
(屢々他ノ畸形ヲ伴フコトアリ、他部ノ検査ヲ忘ルベカラズ。又手指ノ種々ノ畸形併發シ來ルコトアリ)。

1) 聯指 Syndaktylie. 先天性ニ隣接セル二指若クハ數指ノ一部又ハ全部ガ癒合セルモノニシテ特ニ III 指及 IV 指ノ間ニ多ク、I 指ト II 指トノ癒合ハ最稀ナリ。癒合ハ皮膚ノミナルコト多キモ稀ニハ骨モ癒合ス。	2) 剩指 Polydaktylie 第四百四十七圖 過剩ノ指ハ橈骨側又ハ尺骨側ニ來ル、I 指ニ多シ輕度ナルハ爪節ニ二個ノ爪甲ヲ有スルモ著明ナルハ全ク完成セル指ヲ有ス。
3) 裂手 Spalthand 聯指ニ反シテ指根部ヨリ手掌ニ向ツテ裂ケ居ルモノヲ云フ、併シ之ハ稀ナリ。	4) 缺指 Ectodaktylie 指節ノ一部又ハ全部缺損セルコトアリ、缺損指數ハ一二本、甚シキハ全部ナルコトアリ。
5) 巨指 Makrodaktylie 指體ノ巨大ナルモノヲ云フ。	6) 小指 Mikrodaktylie 指體ノ過小ナルモノヲ云フ。
7) 短指 Brachydaktylie 手指ノ過短ナルモノヲ云フ。	8) 特發切斷 Amputatio spontanea 或ハ特發性指溶解症 Spontane Daktylolyse 子宮胎内ニテ卵膜索條ノ臍帶等ニテ指節ガ絞扼ニヨリテ括斷セラレタルモノヲ云フ。
9) 先天性絞溝 Kongenitale Schnürfurche 以上ノ絞扼比較的輕度ニシテ絞溝ヲナスモノヲ云フ	11) 先天性指變位症 Klinodaktylie 指ガ側方ニ屈曲セルモノヲ云フ。
10) 先天性指彎縮 Kongenitale Kontraktur d. Finger 先天性ニ指節ノ彎縮屈曲セルモノヲ云フ。	

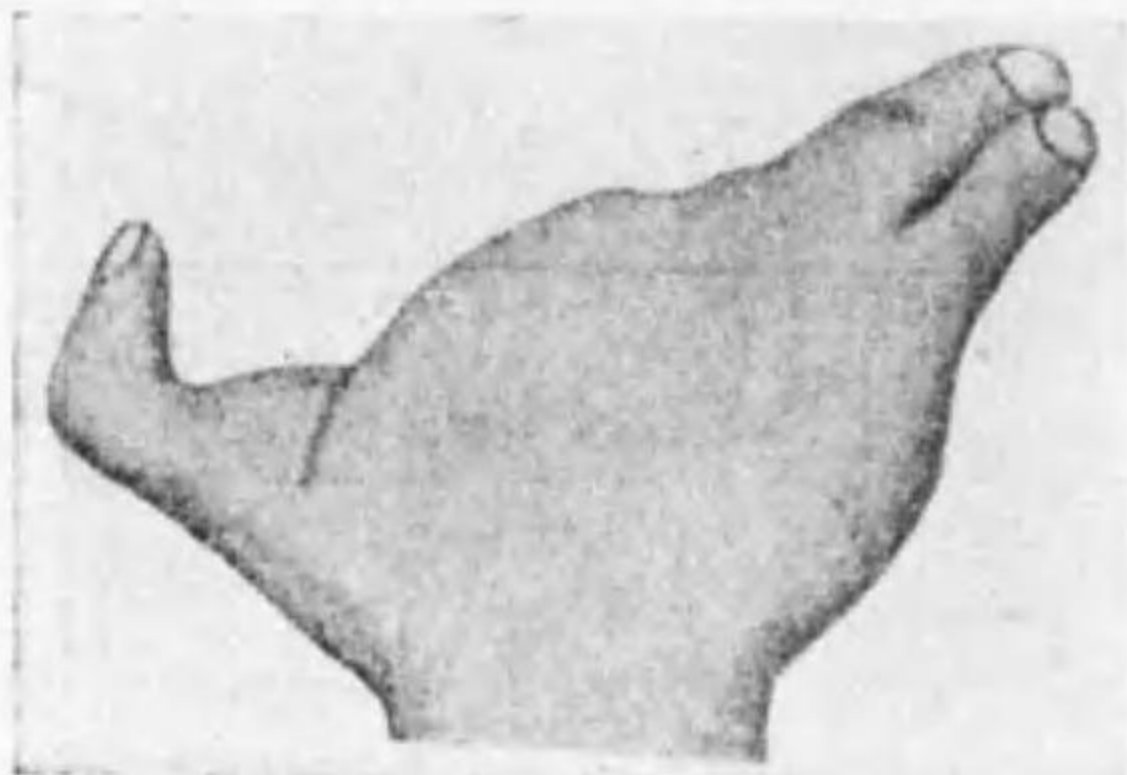
第四百四十八圖 裂手 (n. Wilms)



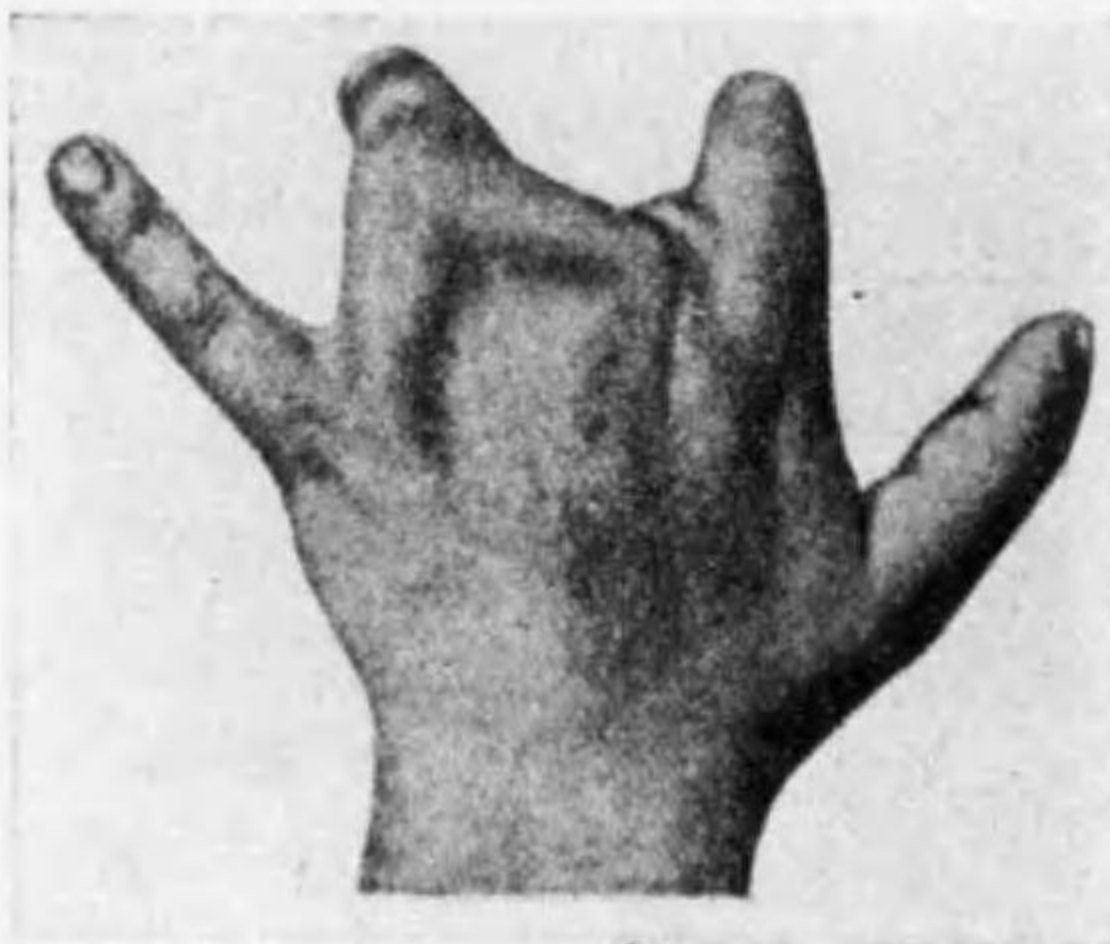
第四百四十九圖 第二、第三、第四指ノ巨指 (n. Hoffa)



第四百五十圖 右手缺指、驛指及短指



第四百五十一圖 左手驛指 (n. Hoffa)



第四百五十二圖

同上 X 線像

同上 X 線像



第四百五十三圖 兩側性手指切斷症 (n. Hoffa)



(V) 股關節部ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen des Hüftgelenks

1) 先天性股關節脫臼

Angeborene

Hüftgelenkluxation

(先天性脱臼中最モ多キモノニシテ男兒ヨリモ遙カニ女兒ニ多シ、多クハ偏側性ナルガ稀ニ兩側性ニ來ル(其原因ニ就キテハ缺損説ト子宮内胎兒ノ器械壓迫ニヨルトノ説トアリ)。

本症ハ分娩直後ニハ不明ニシテ生後一二年ニシテ小兒ガ歩行スルニ至リテ次第ニ歩行障礙著明トナル、多クハ初メ上方脱臼ナルガ、歩行スルニ從ツテ後方ニ脱臼シ腸骨脱臼 L. iliaca トナルヲ常トス。

a) 偏側脱臼 Einseitige L. 兩側性ニ比シテ多ク、年長ズルニ從ツテ短縮著明トナル。

i) 第一度或髌臼上脱臼 L. supracotyloidea 大腿骨頭ヲブーパルト氏靱帶ノ下ニテ腸骨前上棘ト股動脈トノ間ニ觸レ、骨頭ノ移動著シカラザルヲ以テ下肢ノ短縮著明ナラズ。

ii) 第二度或坐骨脱臼 L. ischiadica 大腿骨頭ノ移動一層著明トナリ、關節被膜弛緩シ、下肢伸屈位ニ於テハ前方ニ、屈曲位ニ於テハ後方ニ骨頭ヲ觸レ、下肢ノ短縮前者ヨリモ著明ナリ。

iii) 第三度腸骨脱臼 L. iliaca 大腿骨頭ガ後方ニ移動シ、前方ニハ全ク觸レ難ク、下肢ノ短縮最モ著明トナリ、歩行毎ニ軀幹及ヒ骨盤ガ患側ニ傾斜シ、患肢上ニ長ク起立シ難ク、トレンデンブルグ氏症狀 Trendelenburgsche Symptome ヲ呈ス(患兒ヲシテ健側肢上ニ偏脚ニテ起立セシムルニ反對側ノ骨盤舉上容易ニシテ患側ノ臀皺襞ハ健側ヨリモ高クナル、次ニ患肢上ニ偏脚ニテ起立セシムルニ健側ノ骨盤舉上充分ナラズシテ臀皺襞低クナル)。

b) 兩側脱臼 Beidseitige L. 此際ニハ一層其狀態特有ニシテ所謂家鴨歩行 Entengang ヲナス、大腿骨頭ノ固定充分ナラザルヲ以テ一側ノ下肢ノ上ニ起立シ難ク、骨盤前方ニ傾斜シ、脊椎ノ下部ニテ前彎ス。

診斷 上記症狀ニヨリテ容易ナルガ初期ニハ診斷困難ナルコトアリ、之ヲ確カスルニハ次ノ検査法ニヨル、

i) ローゼル・ネラトニ氏線、ブライアン氏三角、髌子棘脛線ニヨリテ大髌子ノ位置ヲ定ム(第184頁參照)。

ii) 棘脛間距離ハ左右同様ナルモ、髌子脛距離・棘髌子間距離短縮ス。

iii) X線検査ニヨリ髌臼ニ對スル骨頭ノ位置、髌臼ノ深サ(扁平トナル)及ビ傾斜少キコト等ニヨリテ診斷セラル。

本症ト鑑別ヲ要スルモノハ股内腫症・陳舊性股關節脱臼(腸骨脱臼・股關節結核・ハイネメヂン氏病(脊髓性小兒麻痺))等ナリ。

2) 股内腫症

Coxa vara

(正常ノ大腿骨頭ハ骨幹ニ對シテ 120—

a) 先天性股内腫症 Coxa vara congenita

胎生時中子宮内ノ羊水ガ少量ナル爲ニ、大腿ガ異常位ニ壓迫セラレ、頸部ニ變化ヲ來シ、先天性ニ股内腫症ヲ起スコトアリ、併シ實際上此原因ニヨルハ甚ダ稀ナリ。

b) 佝僂病性股内腫症 Coxa vara rhachitica

1-2 歳乃至 4-5 歳ノ佝僂病性患者ニ來ル、多クハ兩側性ナルモ、稀ニ偏側性ナルコトアリ、此際ニハ他部ニモ佝僂病性病變ヲ見ルヲ常トス。

130 度ノ角度ヲナスモノナルニ股内齟症ニテハ直角、甚シキハ鋭角ヲナス、此際下肢ハ多少後方ニ捻轉セルコトアリ。

大轉子著シク隆出シテ高位トナリ、從ツテブライアン氏三角ハ不等邊三角形トナリ、轉子棘線ヲ延長スレバ臍ノ下方ヲ通過ス。歩行拙劣ニシテ鴨步狀ヲ呈シ、一側性ナレバ跛行ス、但シ運動制限ハ後者ニ比シテ少ナシ。



第四百五十四圖

大腿骨頭ノ彎曲(模型的)

尋常ノ彎曲 股内齟症 股外齟症

c) 重力性股内齟症

Coxa vara statica

13-18 歳ノ人ニ來ルコトアリ(青春性股内齟症)、骨成長盛ニシテ大腿骨頭ノ強固ナラザル際ニ重荷ノ負擔又ハ長時間ノ起立歩行ニヨル、又農夫ニ多キ爲メ農夫脚 Bauerbein ナル名アリ、又晩期性佝僂病ニ因スルコトモアリ、(但シ此際ニハ佝僂病ノ症狀ヲ伴フ)、多クハ兩側性ニ來リ、大轉子ノ上方ニ推移シ、下肢ノ短縮ヲ來ス、其他佝僂病性股内齟症ニ類スルモ運動制限特ニ外轉運動障礙セラレ、又骨頭後方ニ彎曲セル時ハ内方廻轉著シク障礙セラレ下肢ヲ充分ニ屈曲シ難クナル、多クハ自覺症狀ナキモ、疲勞後屢々下肢ニ疼痛ヲ發スルコトアリ(單輪性股内齟症)。

d) 外傷性股内齟症 Coxa vara traumatica

外傷ニヨリ大腿骨頭骨折又ハ骨端線離開ヲ來シタルニ因ル、但シ此際ニハ偏側性ナルヲ常トス。

e) 炎症性轉歸ニ因ル股内齟症。

大腿骨端ノ急性化膿性骨髓炎又ハ結核ニ因スルコトアリ、但シ此際ニハ是等疾患ノ病變顯著ニシテ股内齟症ハ二次的ノモノナリ、又之モ偏側性ニ來ル。

3) 股外齟症 Coxa valga

股内齟症ト反對ニ大腿骨頭ガ上方ニ彎曲シテ下肢外轉ス、之ハ下肢筋肉痲痺・大腿骨頭ノ骨髓炎又ハ結核等ニ續發スルモノニシテ臨牀的意義少ナシ。

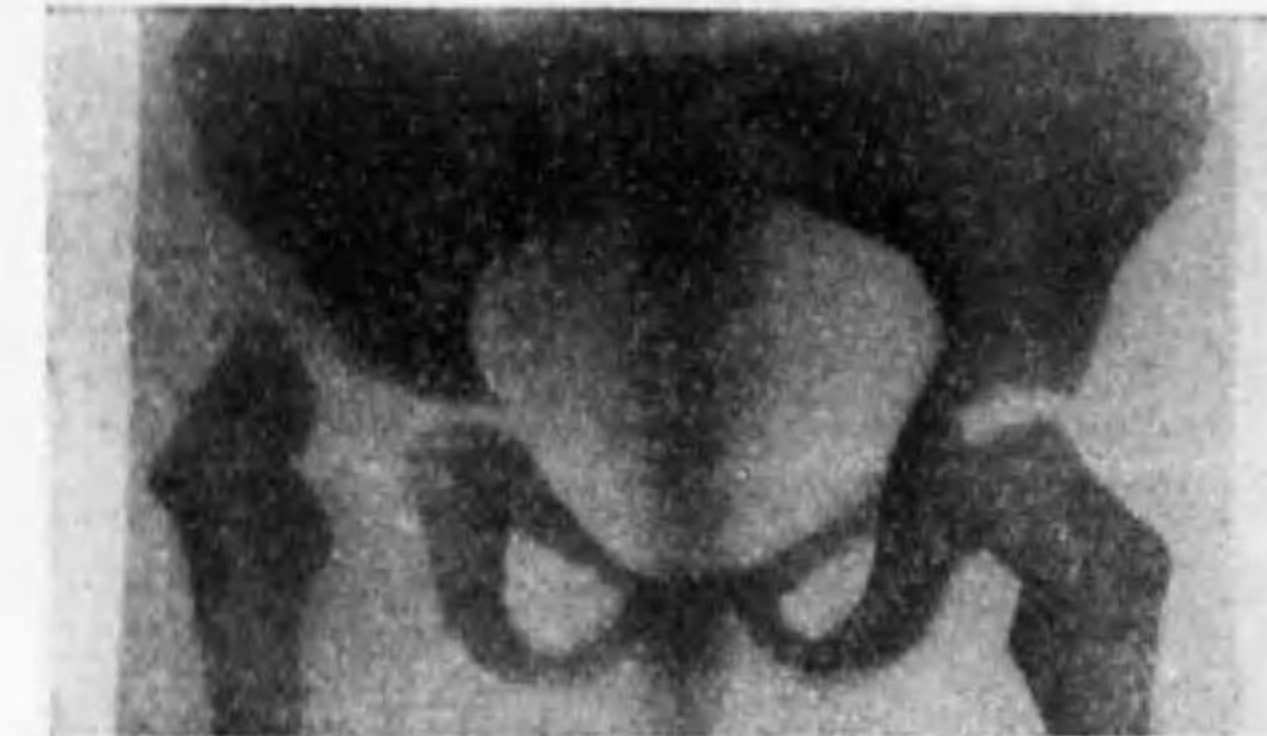
第四百五十五圖 先天性左側股關節脫臼 (n. Bergmann)



第四百五十六圖 先天性兩側股關節脫臼 (n. Bergmann)



第四百五十七圖 第一度先天性股關節脫臼X線圖 (n. Bergmann)



第四百五十八圖 第二度先天性股關節脫臼X線圖



第四百五十九圖 第三度先天性股關節脫臼X線圖



(VI) 股關節脱臼・股内腫症・股關節結核ノ鑑別

	1) 先天性股關節脱臼 Angeborene Hüftgelenk-Luxation	2) 外傷性股關節脱臼(腸骨脱臼) Traumatische Hüftgelenk-L. (L. iliaca)	3) 股内腫症 Coxa vara	4) 股關節結核 Coxitis tuberculosa
(共通點) 以上各疾患ハ歩行時跛行ヲ呈シ、多少ノ運動障礙ヲ認ム。				
起始狀態	先天性ナルガ歩行開始時ヨリ著明トナル、女兒ニ多シ。	外傷ニ因シ、壯年ノ男子ニ多シ。	先天性(稀)、小兒又ハ若年者ニ徐々ニ著明トナル。佝僂病者・虛弱者ニ多シ。	虛弱ナル小兒ニ多シ、徐々ニ發病ス。疼痛ヲ以テ始マルコトモアリ。
歩行狀態	歩行毎ニ軀幹及ビ骨盤患側ニ稍々弛緩性ニ傾斜ス、但シ初期ニハ著明ナラズ、兩側性ナル時ハ跛行狀ヲ呈ス。	歩位時多少跛行ヲナスモ特異ノコトナシ。	偏側性ナル時ハ單純ノ跛行ヲナス。兩側性ノ場合ニハ蹠歩狀歩行 Entengang ヲナス。	歩行時跛行ヲナスモ特異ノコトナシ。
患肢ノ異常位	輕度ナルモノニハ不明ナルモ、高度ナルハ短縮ヲ認ムルモ特異ナラズ。	患肢ハ股關節及ビ膝關節ニテ少シク屈曲シ、内旋内轉シ少シク短縮ス。	患肢多クハ伸展位ニテ外轉外旋ス、視診ニテハ短縮著明ナラズ。	初期ニハ外旋、外轉シ、假性延長。末期ニハ内旋、内轉シ、假性短縮。
疼痛	(-)	外傷直接疼痛著明、陳舊性ノモノニハ無シ。	(-)	初期ヨリ疼痛アルコトアリ、併シ疼痛著明ナラザルコトモアリ。
自動的運動	自動的運動可能、或運動範圍稍々大。	外傷後暫ク自動運動不能、陳舊性ナル時ハ稍々可能。	自動的運動可能、併シ外轉運動等不十分。	初期ニハ自動的運動多少可能ナルモ次第ニ不能。
他動的運動	患肢ノ運動自由ナルモ外轉少シク制限セラルルコト多シ。	他動的運動不能ニシテ彈性的抵抗アリ、併シ陳舊性ノモノハ多少可動。	可能ナルモ、外轉内旋及極度ノ屈曲困難ナルコト多シ。	初期ニハ可能ナルモ次第ニ制限セラレ。
大腿骨頭ノ觸知	大腿骨頭ハ別項記載セラル、之ハ特ニ大腿ヲ動カシツツ檢スル時ニ明カナリ。	如ク異常位ニ觸知セラル、之ハ特ニ大腿ヲ動カシツツ檢スル時ニ明カナリ。	骨頭ヲ觸知セズ。	骨頭ヲ觸知セズ。
大轉子ノ位置	大轉子ノ上方轉位著明。	大轉子ノ上方轉位著明。	大轉子ノ上方轉位比較的輕度。	大轉子轉位ナシ。
棘踝距離	短縮。	短縮。	稍々短縮。	短縮多クハ無。
大轉子踝距離	尋常。	尋常。	尋常。	尋常。
脊椎及ビ骨盤ノ變化	屢々アリ、特ニ兩側性ニ著明。	脊椎及ビ骨盤ノ變化著明ナラザルコト多シ。	高度ナル時ニハ稍々變化アルコトアリ。	高度ナル場合ニ變化アルノミ。
筋肉萎縮	臀筋ノ筋萎縮ニヨリテトレンデンブルグ氏症狀ヲ呈ス。	筋萎縮ナシ、但シ陳舊性ノモノニハ患肢ノ萎縮ヲ來ス。	時トシテ臀筋萎縮ニヨリテトレンデンブルグ氏症狀ヲ呈ス。	下肢ノ筋萎縮著明トナル、トレンデンブルグ氏症狀ナシ。
其他	第294頁参照。	第186頁参照。	第294頁参照。	第263頁参照。

(VII) 膝關節部ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen der Kniegelenkgegend

1) 膝蓋骨ノ畸形 Missbildungen d. Patella	<p>a) 膝蓋骨先天性重複 Angeb. Verdoppelung d. Patella 先天性ニ膝蓋骨ガ縱又ハ横ニ分裂シ居ルコトアリ、骨折ト區別スルヲ要ス。</p> <p>b) 膝蓋骨發育不全 Entwicklungsanomalie d. Patella 先天性ニ過小ナル膝蓋骨ヲ云フ。</p> <p>c) 膝蓋骨缺損 Angeb. Fehlen d. Patella 之ハ屢々先天性膝關節脱臼ニ伴フ。</p>
2) 膝關節先天性脱臼 Angeb. L. d. Kniegelenks	胎生時ニ膝關節ヲ過伸展セル爲ニ起ルモノニシテ、前方脱臼ナルヲ常トス、下肢ガ膝關節部ニテ過伸展シ、膝反張ノ狀ヲ呈シ、自動的ニ膝關節ヲ屈曲シ難ク、脛骨上端著シク前方ニ突出シ、膝關節ニ大腿骨ノ下端ヲ觸ル、本症ノ診斷ハ容易ナリ。
3) 膝外翻或X脚 Genu valgum od. X-Bein	<p>下腿ガ膝關節部ニテ外方ニ屈曲セルモノニシテ過度伸展及ビ外旋ヲ兼ルコト多シ、但シ膝關節ノ屈曲時ニハ此變形消失シ若クハ輕度トナル。</p> <p>本症持續スル時ハ股關節ハ代償的ニ外旋及ビ外轉シ、足關節ハ體重支持ノ爲メ次第ニ外翻足狀ヲ呈ス。</p> <p>本症ハ先天性ニ來ルモノハ稀ニシテ後天性ニ佝僂病ニ因スルコト多シ、其他膝關節部ノ骨折又ハ脱臼ニヨリ偏側性ニ來ルコトモアリ。</p>
4) 膝内翻或O脚 Genu varum od. O-Bein	前者ト反對ニ下腿ガ膝關節部ニテ内方ニ彎曲シ、下肢長軸ガ膝關節ノ内方ヲ通ルモノヲ云フ。本症モ佝僂病ニ因スルコト多シ。併シ本邦ニハ特殊ノ原因ナクシテ本症ヲ見ルコト多シ。
5) 膝反張 Genu recurvatum	比較的稀ナルガ、佝僂病又ハ慢性膝關節炎後ニ關節囊ノ弛緩又ハ麻痺ニヨリ或ハ關節切除後ニ發生スルコトアリ。膝關節過度ニ伸展セルモノニシテ、時トシテハ大腿ノ内或ハ外方過轉ヲ伴フ。

第四百六十圖
先天性膝關節脫臼



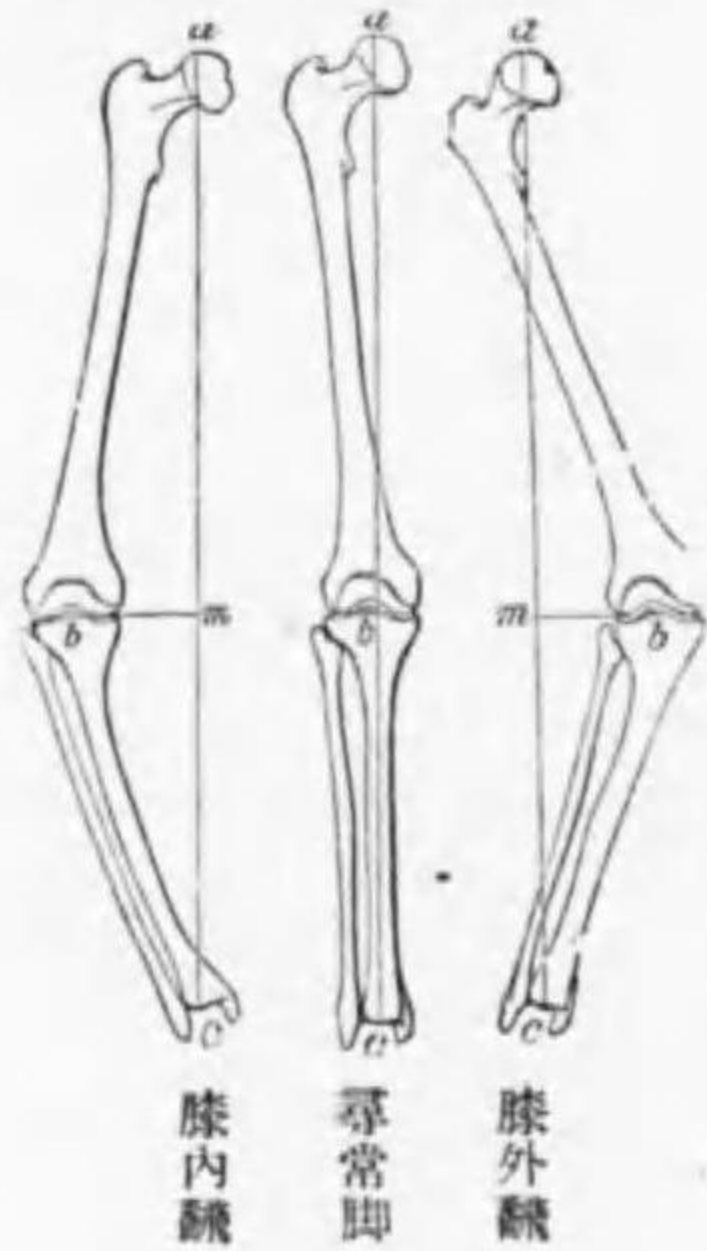
第四百六十一圖
佝僂病性兩側膝外翻



第四百六十二圖
佝僂病性膝內翻(三歲ノ男子)



第四百六十三圖
膝關節ノ靜學的畸形



膝內翻
尋常脚
膝外翻

第四百六十四圖
高度ナル右側ノ膝反張
(n. Tillmanns)



(VIII) 足 變 縮 Fuss-Kontrakturen

種 類	原 因	主 要 變 化	
1) 馬足或尖足 Pes equinus, Pferdfuss od. Spitzfuss	a) 先天性馬足 angeborener Spitzfuss	其ダ稀ナリ、特ニ純粹ノモノハ甚ダ稀ニシテ、多クハ内轉馬足ナリ、之ハ子宮内ニテ足部ガ甚シク内方ニ強壓セラレタルニ因ル。	足ガ脚距關節ニ於テ足蹠面屈曲ノ位置ニ固定セラレ、其原因ニヨリテ初メハ多少可動性ナルモ、後ニハ足背屈曲ヲ行ヒ難ク、骨部ニモ變形ヲ來スガ爲ニ次第ニ廻後及ビ内轉ノ位置ヲ取りテ内轉馬足 Pes equinovarus ノ狀トナル。
	b) 痲痺性馬足 Pes equinus paralytica	小兒脊髓痲痺・脊髓損傷等ニテ下腿筋肉ノ痲痺ヲ來ス時ハ足ハ自個ノ重力ニヨリテ足蹠面ニ沈降ス。	變形ヲ來スガ爲ニ次第ニ廻後及ビ内轉ノ位置ヲ取りテ内轉馬足 Pes equinovarus ノ狀トナル、又高度ノ馬足ニ於テハ足蹠陷凹シテ凹足 Pes excavatus, Hohlfuss トナルコトアリ。
	c) 慢性重症疾患	慢性重症疾患ニテ患者ガ永ク就褥セル時ハ縱令筋痲痺ナクモ足部次第ニ足蹠面ニ彎曲シテ馬足ノ狀ヲ呈ス。	尖足程度ナレバ足尖ニテ歩行スルモ、高度トナルニ從ツテ趾背又ハ足背ニテ歩行スルニ至ル(第465圖)。
	d) 外傷性馬足 Pes equinus traumatica	足關節ノ脫臼骨折ニ際シテ馬足ノ狀ヲ呈スルコトアリ(第207頁)	
	e) 種々ノ足關節炎・癩痕攣縮等ニヨリテ續發的ニ尖足ヲ來スコトアリ。		
2) 踵足或鈎足 Pes calcaneus od. Hakenfuss	a) 先天性踵足 angeborene	其ダ稀ナリ、足ガ子宮内ニテ踵足位ニ強壓セラレタルニ因ル。	前者ト反對ニ足ノ足背屈曲著明ナルモノヲ云フ。
	b) 痲痺性踵足 paralytische	小兒脊髓痲痺ニ際シテ稀ニ本症ヲ起スコトアリ、多クハ外轉足ヲ併發ス。	i) 第一度踵足 足ガ單純ニ足背屈曲ヲナセルモノヲ云フ。時トシテハ外轉足ヲ兼ヌ(外轉踵足 Pes calcaneovalgus)。
	c) 外傷性踵足 traumatische	足關節脫臼・骨折・アヒレス腱斷裂ニヨリテ起ルコトアリ。	ii) 第二度踵足 足ノ背屈アリテ足踵沈降セルモノヲ云フ。屢々凹足ヲ併發ス。
	d) 癩痕性踵足 narbige	足背ノ大ナル火傷後ノ癩痕ニヨリテ本症ヲ起スコトアリ。	
3) 内轉足或惑足 Pes varus od. Klumpffuss	a) 先天性内轉足 angeborene	最モ多キモノナリ、女兒ヨリモ男兒ニ多シ、兩側性ナルコト多ク、偏側性ナレバ左側ニ多シ、屢々馬足ヲ兼ヌ。胎生時中子宮内ニテ兩足ガ廻後内轉位ニ強壓セラレタル爲ニ生ズ、輕度ナルハ歩行スルニ從ツテ治スルモ重キハ生後尙ホ存ス。殊ニ骨・筋肉ノ發育異常アル時ニ著シ、時トシテハ遺傳的ノ關係ヲ見ル。	足蹠ガ内方ニ轉向セルモノヲ云フ。初メハ畸形輕度ナルモ起立歩行スルニ從ツテ體重負擔ニヨリテ次第ニ増悪ス。初メ小兒ハ足ノ内緣ニテ歩行スルモ、次第ニ足ノ廻後位、進ムニ從ツテ足ノ外緣、甚シキ

	b) 痲痺性内臓足 paralytische	稀ニ腦脊髄疾患ニテ下腿筋肉ノ痲痺ニヨリテ内臓足ヲ起スコトアリ、屢々馬足ヲ兼ヌ。	ハ足背ニテ歩行シ、足蹠ハ内面ニ向フ、此ノ如キ場合ニハ歩行部ノ皮膚餅狀ニ肥厚シ次第ニ骨關節等ノ變形ヲ來シ、下肢ノ筋肉弱クナル。
	c) 外傷性内臓足 traumatische	足關節ノ脱臼・骨折ニヨルコトアリ(第465頁)。	
	d) 虚弱ナル小兒ニテ永ク就牀セル時ハ筋痲痺ナクトモ次第ニ内臓足狀トナルコトアリ。		
4) 扁平足及外臓足 Pes planus od. Plattfuss u. Pes valgus od. Knickfuss	a) 先天性外臓足 angeb. Plattfuss	比較的稀ニ認メラル、胎生時中子宮内ノ強壓ニヨル、時トシテハ外臓脚足 Pes calcaneo-valgus 狀ヲ呈ス。時トシテハ腓骨又ハ距骨ノ發育異常ニヨル。	i) 扁平足 Pes planus, od. Plattfuss 主トシテ足穹窿ノ沈降セル爲ニ足蹠ノ扁平トナルモノヲ云フ。 ii) 外臓足 Pes valgus od. Knickfuss 足穹窿ニハ關係ナク、足ガ外方ニ轉向セルモノヲ云フ。 iii) 扁平外臓足 Pes plano-valgus 前二者ノ合併セルモノ即チ足穹窿ガ扁平トナリ、同時ニ外方ニ轉向セルモノニシテ比較的多く認メラル。
	b) 負擔性畸形 Belastungs-deformität	虚弱ナル小兒ガ長時間起立歩行セル爲ニ本症ヲ起シ易シ。又佝僂病兒モ本病ヲ起シ易シ。	自覺的症狀 各場合ニヨリテ様ナラズ、全ク自覺的症狀ナキコトアルモ多クハ多少ノ症狀ヲ伴フ、即チ歩行ニ際シテ疲勞シ易ク長途ノ歩行不能トナリ、長時間起立スル時ハ足ニ鈍痛ヲ發シ、或ハ跗骨ニ劇痛ヲ發スルコトアリ(第470圖參照)、併シ静臥シ居ル時ハ疼痛輕快ス、又挿板等ニヨリ足蹠ヲ壓定スルニヨリテ治ス。
	c) 痲痺性 paralytisch	脊髄小兒痲痺ニヨリテ屢々外臓馬足ヲ生ズ。	
	d) 外傷性 traumatische	踝骨折・脱臼等ニヨル(第465頁)。	
	其他 e) 足關節炎 f) 痲痺攣縮等ニヨル。		
	5) 凹足 Pes cavus od. Hohlfuss	足蹠ノ穹窿ガ異常ニ深キモノヲ云フ。之ハ單獨ニ來ルコトナク内臓足・馬足・踵足等ニ併發シ來ル。輕度ナルハ症狀ナキモ、高度ナルハ蹠趾關節ノ附近ニ疼痛ヲ發スルコトアリ。	

第四百六十五圖
各種ノ程度ニ於ケル尖足

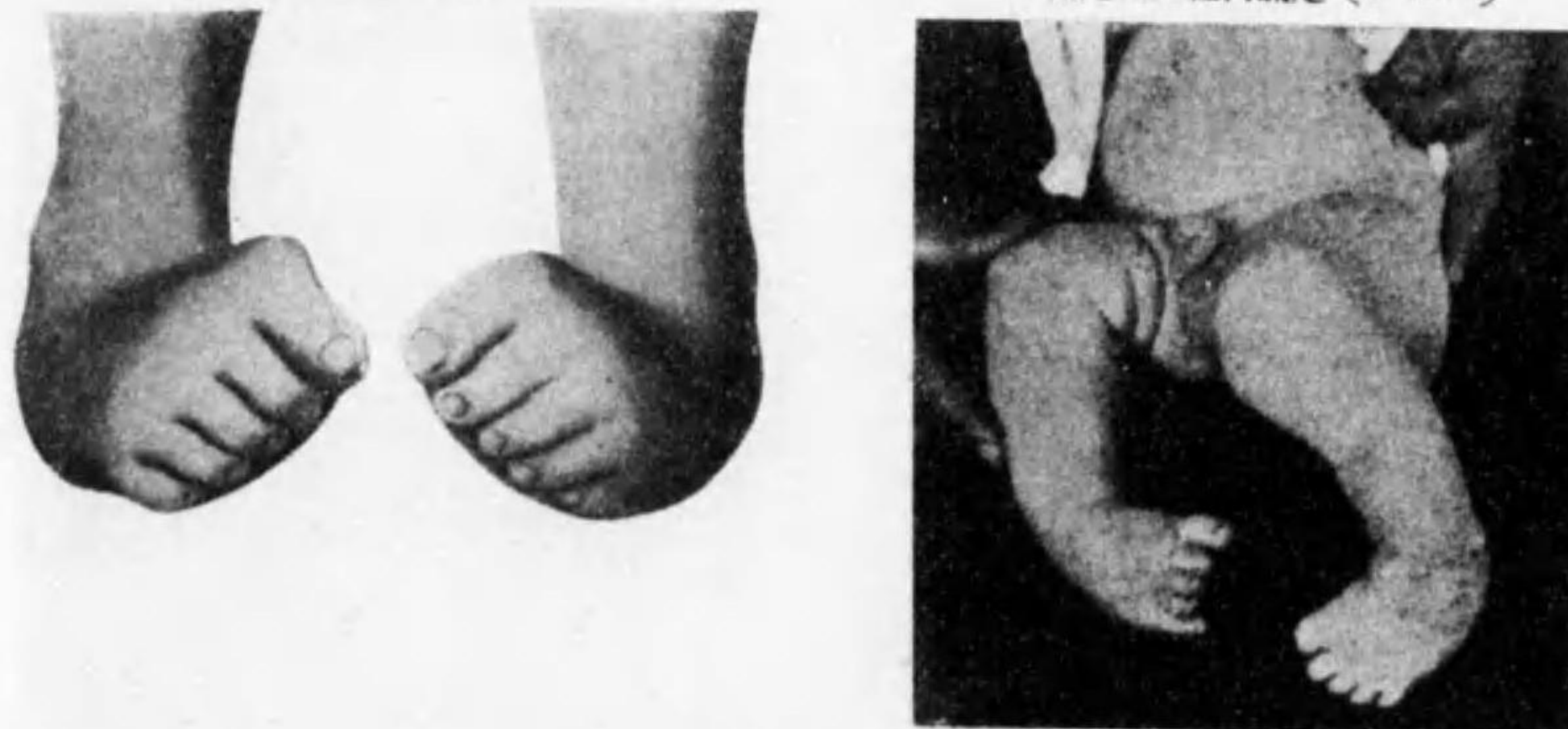


第四百六十六圖 踵足 (n. Keen)
第四百六十七圖 第二度踵足凹足ヲ兼ヌ (n. Keen)
第四百六十八圖 アヒレス腱斷裂ニヨル踵足 (n. Hoffa)



第四百六十九圖
兩足先天性内臓足 (n. Cernack)

第四百七十圖
兩足先天性内臓足 (n. Keen)



第四百七十一圖
踵足



第四百七十二圖
高度ノ扁平足



第四百七十三圖
初期ノ扁平足



第四百七十四圖
扁平足
(n. Cernach)



第四百七十五圖
凹足



第四百七十六圖
正常足



第四百七十七圖
中等度ノ扁平足



第四百七十八圖
扁平外翻足

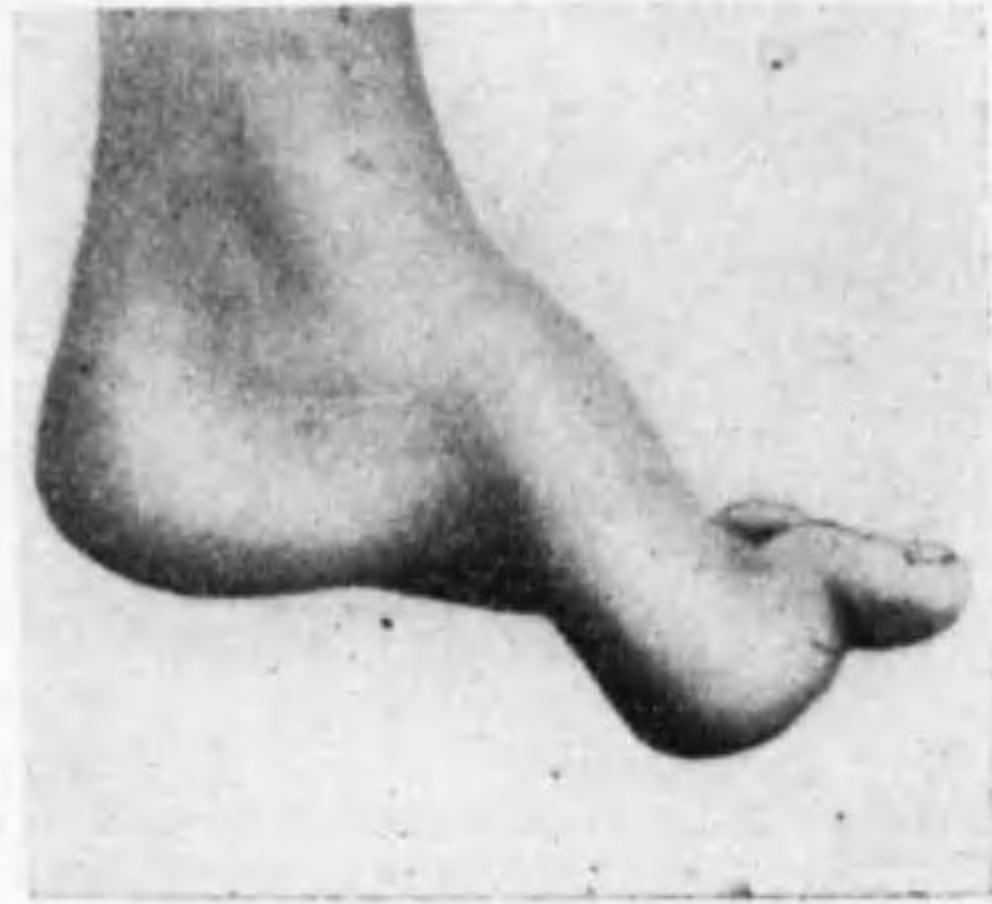


扁平足疼痛點 (n. Cernach)

第四百七十九圖



第四百八十圖
痲痺性凹足
(脊椎拔裂症ニ因スル)
(n. Quervain)



(IX) 足趾ノ後天性攣縮 Erworbene Kontraktur der Zehe

1) 跖趾外翻 Hallux valgus
歐米人ニテ幼時ヨリ尖リタル靴ヲ穿チタル爲メニ起ル。

第四百八十一圖
跖趾外翻



2) 足趾ノ屈曲攣縮
Flexionskontraktur der Zehen(槌趾 Hammerzehe)
歐米人ニ認メラル、餘リ短キ靴ヲ穿チタル爲メニ起ル。

第四百八十二圖
跖趾外翻
小趾内翻



第四百八十三圖
槌趾



3) 纏足
支那婦人ニ見ラルルモノニシテ、高度ノ足部攣縮ヲ來ス。

第四百八十四圖
纏足(支那婦人)



(X) 趾ノ先天性畸形等 Angeb. Missbildungen der Zehe etc.

- 1) 聯趾 Syndaktylie 最も多キモノナリ、二趾甚シキハ全趾ガ癒合セルコトアリ。
- 2) 剩趾 Polydaktylie 時トシテ見ル、跖趾又ハ小趾ノ側ニアルコト多シ。
- 3) 缺趾 Ektodaktylie 趾ノ一節又ハ全體ガ缺如スルコトアリ。
- 4) 裂足 Spaltfuss 甚ダ稀ナリ、時トシテ缺趾ニ併發ス。
- 5) 小趾 Mikrodaktylie 先天性ニ過小ナル趾ヲ云フ。
- 6) 巨趾 Makrodaktylie 過大ナル趾ヲ云フ。
- 7) 足及下腿ノ巨大發育 Riesenwuchs des Fusses u. des Unterschenkels.
- 8) 足關節ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen des Fussgelenks. 甚ダ稀ナリ。下腿骨ノ先天性缺損ニ因スルモノナリ(手指ノ畸形参照)。

第四百八十五圖
剩趾 (慶大病院)



第四百八十六圖
聯趾 (慶大病院)



第二章 頭部外科 Kopfchirurgie

I. 頭蓋軟部ノ外傷

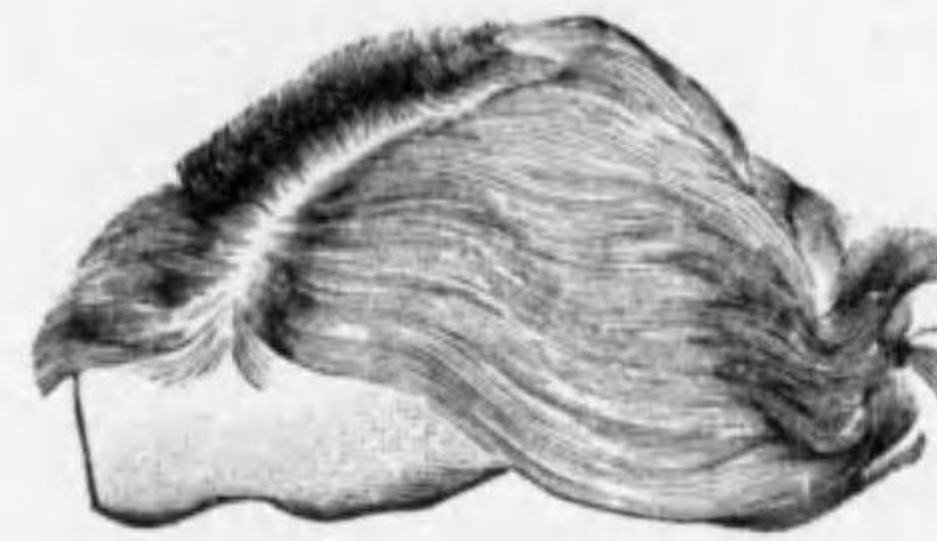
Verletzungen der Schädelweichteile

A. 頭蓋軟部ノ開放損傷(創傷)

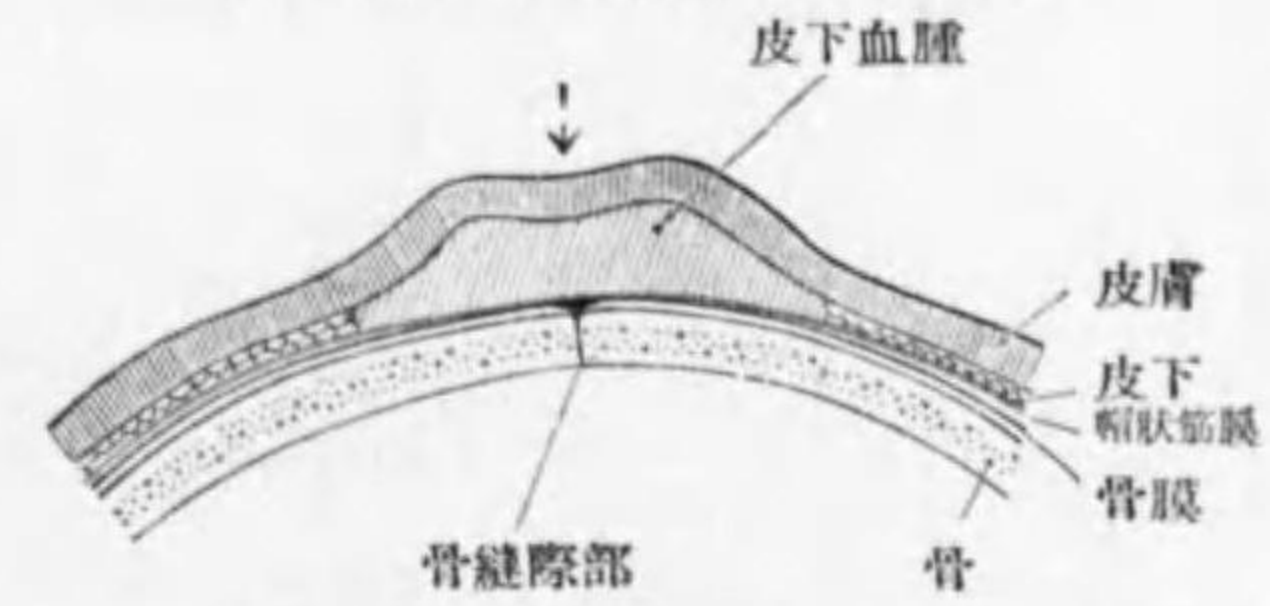
Offene Verletzung (Wunde) der Schädelweichteile

1) 切創 Schnittwunde	切創ガ帽状筋膜 Aponeurose ニ連セザレバ創ノ哆開少ナキモ之ヲ切ル時ハ哆開大ナリ。創形直線状ニシテ、創底淺ク、出血比較的多シ。切創ノ方向及ビ程度ニヨリテ瓣状創 Lappenwunde、組織缺損創 Wunde mit Substanzverlust ヲ作ルコトアリ。	(i) 頭蓋軟部ハ血管ニ富ムガ故ニ、創傷ニ際シ出血多ク、之ガ爲ニ小ナル創傷ニテモ大ナル創傷ト誤ラレルコトアリ。 (ii) 血管ニ富ムガ故ニ比較的化膿少ナシ。 (iii) 併シ一旦化膿スレバ、比較的治癒シ難シ。 (iv) 特ニ恐ルベキハ腦膜炎・靜脈竇炎・膿毒症ヲ起スコトアリ。 (v) 同時ニ頭蓋骨骨折・腦震盪症・腦壓迫症・腦損傷等ヲ伴フコトアリ。
2) 挫創 Quetschwunde	創形不規則ニシテ出血稍々少ナク、傳染多シ。外力ガ頭蓋ニ垂直ニ作用シタル時ハ割創 Hiebzwunde ヲ作り切創ト鑑別ヲ要ス(總論参照)。挫創原因ノ作用方向及ビ程度ニヨリ瓣状創・組織缺損創ヲ作ルコトアリ	
3) 裂創 Risswunde	鈍力ガ頭蓋表面ニ斜ニ作用シタル爲、又ハ毛髪ガ器械ニ捲キ込マレタル爲、或ハ爆裂ニヨリテ生ズ。創形不規則ニシテ出血少ナシ。特有ナルヲ剥皮創 Skalpierungswunde ト云フ。	
4) 刺創 Stichwunde	創口小ニシテ創道長シ。時トシテハ皮下ニ於テ顱動脈ヲ傷ツケ又ハ頭蓋骨・腦髓ヲ傷ツクルコトアリ。時トシテハ兇器ノ先端折レテ頭蓋腔内ニ残留ス。	
5) 銃創 Schusswunde	頭部ニ於テハ種々ノ銃創型ヲ見ル、即チ 1) 擦過銃創 Streifschuss、2) 盲貫銃創 Blindschuss 3) 貫通銃創 Durchschuss 4) 周匝銃創 Konturschuss 5) 反跳銃創 Prellgeschoss 等ヲ見ル。 屢々頭蓋骨骨折・腦震盪・腦損傷等ヲ伴フ。	
6) 彈片創 Schrapnellwunde	反跳彈片創(挫創ヲ作ル)・盲管彈片創(腦内ニ彈片ノ残留スルコト多シ)最モ多ク、時トシテハ貫通彈片創ヲ見ル。化膿スルコト最モ多シ。 屢々頭蓋骨骨折・腦震盪症・腦損傷ヲ伴ヒ、甚シキハ頭部ノ粉碎ヲ來ス。	

第四百八十七圖 頭蓋ノ剥皮創 (n. Brun)



第四百九十圖 頭蓋皮下血腫模型圖



第四百八十八圖

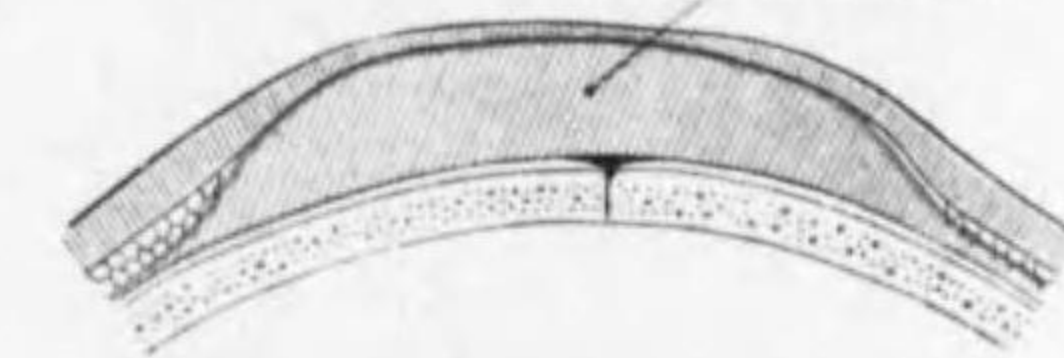
二十三歳ノ農婦打禾器械ノ輪ニ觸レテ頭皮ノ全部剝離セラレタルモノニシテ植皮術ニヨリテ治癒シタルモノナリ



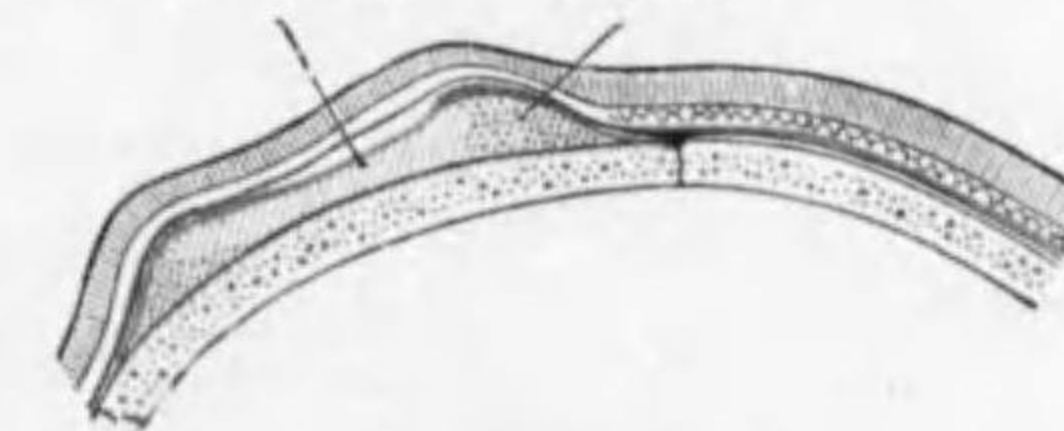
第四百八十九圖 銃創(自殺) (n. Keen)



第四百九十一圖 帽状筋膜下血腫模型圖 皮下帽状筋膜血腫



第四百九十二圖 骨膜下血腫模型圖 骨膜下血腫 骨膜肥厚



第四百九十三圖 帽状筋膜下血腫 (Breslauer Klinik)



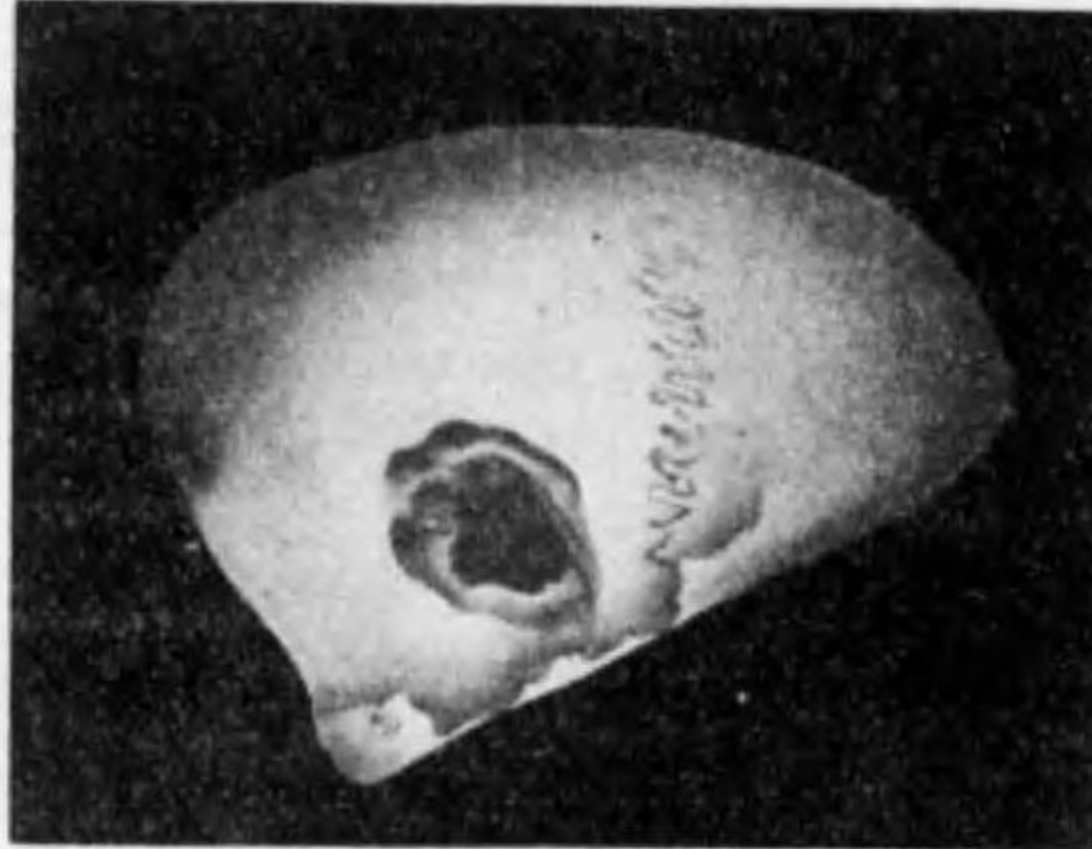
B. 頭蓋軟部ノ皮下損傷(挫傷) Subkutane Verletzung (Kontusion) od. Quetschung der Schädelweichteile 或 頭蓋血腫 Kephalohaematom

<p>1) 皮下血腫 Subkutanes Haematom (最も多シ)。 (比較的輕度ノ鈍力ニヨリテ屢々頭蓋皮下ニ出血ス)。</p>	<p>皮膚ト帽狀筋膜 Aponeurose トノ間ノ結締織ハ緊靱ナル爲メ血液ハ他部ニ於ケルガ如ク瀰漫セズシテ一個所ニ蓄溜シテ血腫ヲ作ル、多クハ鳩卵大乃至雞卵大ノ半球形ノ腫脹ニシテ、限界比較的明ナリ。中央ハ軟ニシテ波動ヲ觸レ、周邊ハ硬靱ナリ。初メ疼痛アルモ次第ニ不明トナル。皮膚ト共ニ少シク移轉ス。皮膚ニハ初メ着色ナキモ、二三日ニシテ藍青色ヲ呈シ、次第ニ褪色ス。普通數日ニシテ自然ニ吸收セララルモ、稀ニ化膿ヲ來スコトアリ。 以下ノ血腫トハ其大サ、形狀、皮膚トノ關係等ニヨリ區別セララル。</p>
<p>2) 帽狀筋膜下血腫(稀) Subaponeurotisches Haematom (稍々強キ鈍力ガ頭部ニ推移性ニ作用セル爲ニ生ズ)</p>	<p>帽狀筋膜ト骨膜間ノ疎鬆ナル結締織内ニ血液滲出スルニヨル。扁平瀰漫性ノ腫脹ニシテ、(3)ノ如ク骨膜縫隙ニテ制限セララルコトナシ、其實軟ニシテ、中央部ニ波動アリ、周邊ハ少シク靱ナリ。併シ骨新生ナシ。皮膚ト共ニ移動シ難ク、皮膚ニ變色ヲ呈セズ。 大ナル動脈又ハ靜脈ヲ傷ツクル時ハ腫脹モ著大ニシテ、時トシテハ一時波動ヲ呈ス。 特ニ骨膜下血腫ト區別ヲ要ス。</p>
<p>3) 骨膜下血腫 Subperiostales Haematom (骨膜ガ骨面ニ對シテ強ク推移セラレタル爲ニ生ズ。特ニ出産ニ際シテ認めラル 初生兒頭蓋血腫 Kephalohaematoma neonatorum)</p>	<p>帽狀筋膜下血腫ニ類シ瀰漫性腫脹ヲ呈ス。血液ノ吸收比較的不良ニシテ外傷性出血性囊腫 Traumatische Blutzyste ヲ形成スルコトアリ。 a) 帽狀筋膜下血腫トノ區別、(イ)帽狀筋膜下血腫ハ骨縫隙ヲ越サズ。(ロ)骨膜下血腫ハ數日ヲ經レバ其周邊ニ硬キ骨新生ヲ認ム、(ハ)試験的穿刺ニヨリ先端ニ新生セル稍々粗糲ナル骨ヲ觸ル、(ニ)其發生的關係(分娩ニヨルハ3ナリ)ニヨリテ區別ス。 b) 頭蓋穿窿部骨折 Fraktur des Schädelgewölbes (イ)周圍ノ肥厚部ヲ注意シテ檢スルニ血腫ニ於テハ壓ニヨリテ一部消失シ、(ロ)疼痛比較的少ナシ、(ハ)X線檢査ニヨレバ確實。 c) 初生兒浮腫性腫瘤 Kephaloedema neonatorum 出産ニ際シ産道ニテ頭部ヲ強ク壓迫セラレタル爲ニ浮腫ヲ來シ、時トシテハ出血ヲ伴フコトアリ。之ハ分娩直後ニ著明ナルモ數日ニシテ速カニ消散ス。</p>

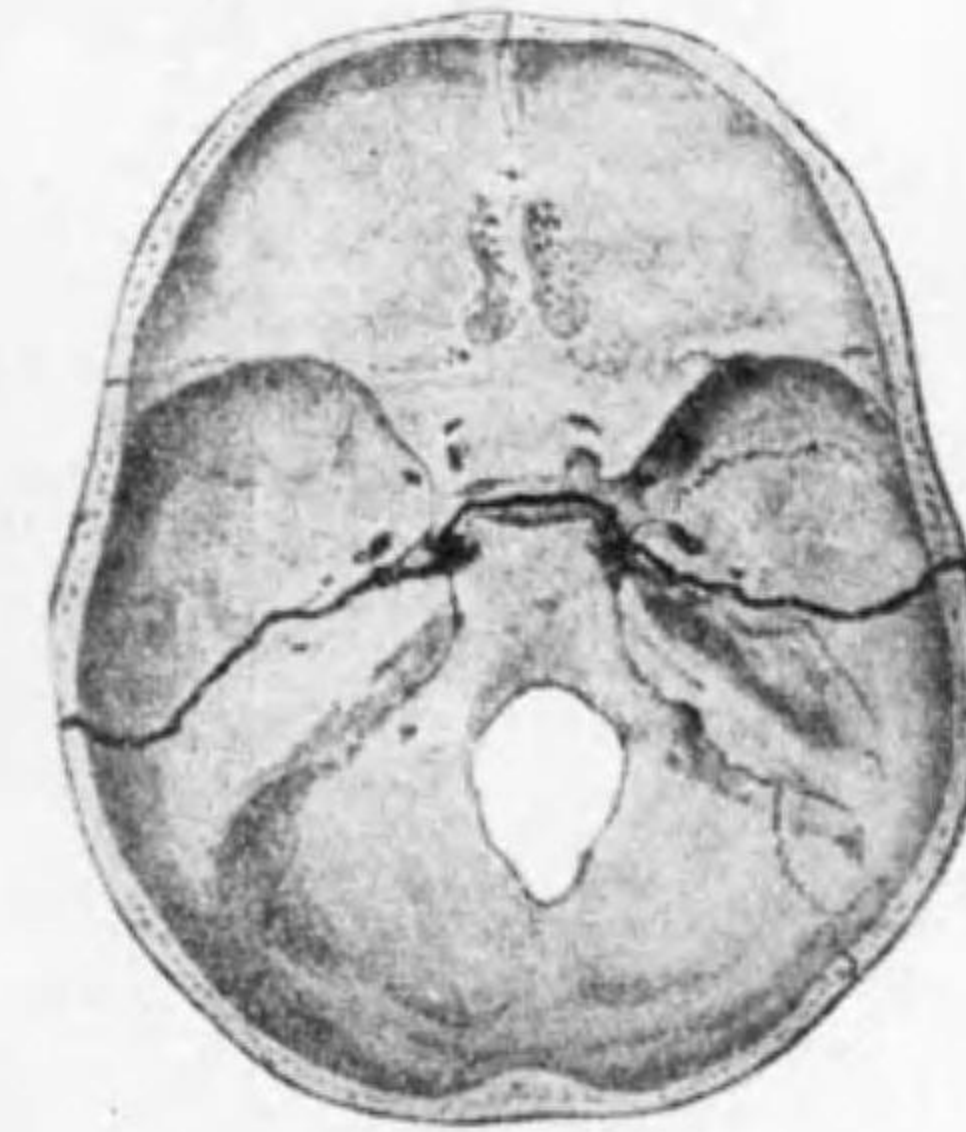
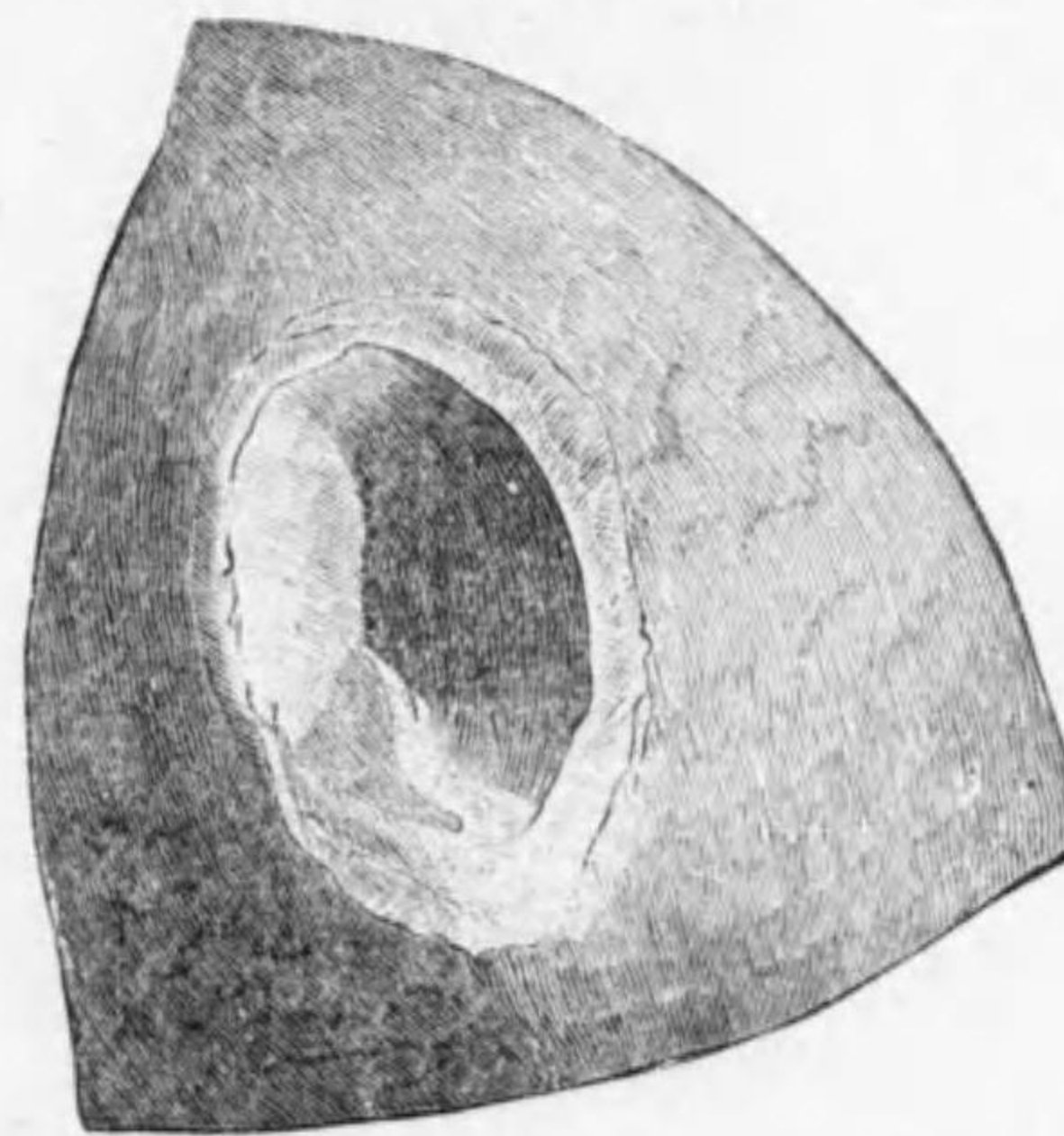
第四百九十四圖
一千米突ヨリノ銃創射入口



第四百九十五圖
一千米突ヨリノ銃創射出口



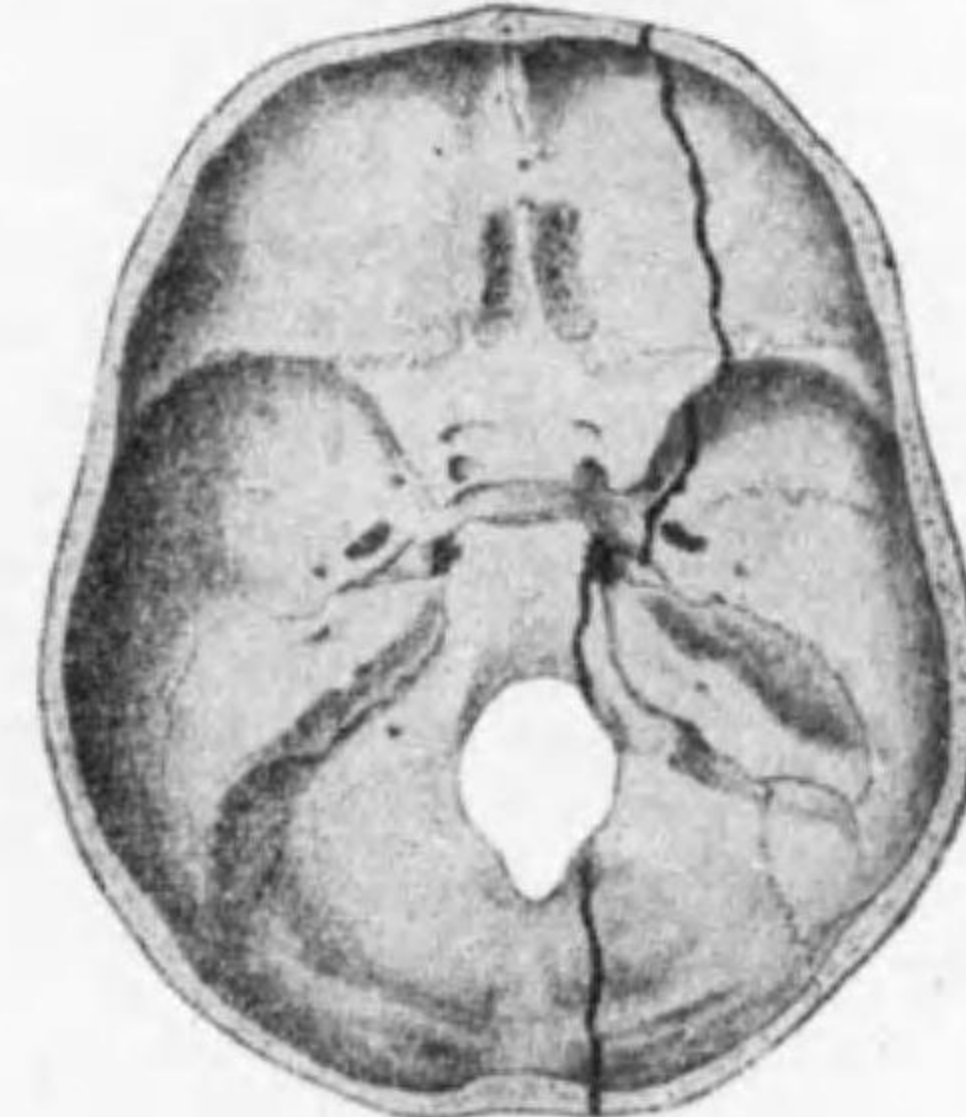
第四百九十六圖
頭蓋骨陷凹骨折



第四百九十七圖
頭蓋底骨折ノ諸型



第四百九十八圖
同上



第四百九十九圖
同上

II. 頭 蓋 骨 骨 折 Schädelfraktur

		原因	骨折型	主要症状
1) 頭蓋穹窿部骨折 Fraktur des Schädeldgewölbes	a) 開放骨折 Offene Fraktur	銃創・刺創・挫創・切創等ニ因ル。	孔狀骨折 陥凹骨折 粉碎骨折 冰裂骨折等。	軟部ノミノ創傷ニ比シ出血多量、骨折痛(±)、時トシテハ骨片移動・變形ヲ認ム。消息子検査ハ成ルベク行フ勿レ、時トシテ骨折線・腦脊髄液ノ流出・腦實質ノ漏出ヲ認ム。
	b) 皮下骨折 Subkutane Fraktur	種々ノ鈍力ノ作用ニヨル。	屈曲骨折 破裂骨折 破碎骨折等。	直達或ハ介達壓痛。出血ハ頭蓋外部ニ血腫ヲ生ジ或ハ頭蓋腔内ニアリテハ腦壓迫症・骨片ノ移動・異常位・軋雜音等アリ(±)、部位ニヨリテハ皮下氣腫ヲ形成ス。
2) 頭蓋骨基底骨折 Fraktur der Schädelbasis		多クハ頭部ノ介達性鈍力ノ作用ニヨル、稀ニハ頭部打撲、時トシテハ銃創・刺創等ノ直達外力ニヨル。	直達性ナルハ孔狀骨折又ハ冰裂骨折、介達性ナルハ冰裂骨折ニシテ斜骨折・横骨折・縦骨折ハ稀ナリ。	<p>1) 皮下溢血：挫傷ニ於ケル局所性皮下出血ト異ナリ外傷後數時間乃至二三日後ニ現ハルルヲ常トス。又皮下溢血ノ場所ニヨリ大體骨折部ヲ知り得ルコトアリ。頭蓋腔内出血多量ナル時ハ腦壓迫症狀ヲ呈ス。</p> <p>i) 眼球結膜・眼瞼ノ血液滲出・眼球突出アルハ眼窩天盖又ハ中頭蓋高ノ骨折ナリ。</p> <p>ii) 耳後ニ皮下溢血著明ナルハ中頭蓋高又ハ後頭蓋高ノ骨折ナリ。</p> <p>iii) 咽頭粘膜炎ニ溢血著明ナルハ後頭蓋高ノ骨折ナリ。</p> <p>2) 外出血</p> <p>a) 耳出血 頭蓋骨折ニ際シテ内耳ヲ損傷シタル場合ニハ耳出血ヲ來ス、其量多量ナルコトト、少量ニシテ持續的ナルコトトアリ。併シ耳出血ハ他ノ部ノ損傷ニテモ來ル。</p> <p>i) 外耳附近ノ創傷 ニテ其血液ガ耳内ニ入りテ耳出血ト誤ラルルコトアリ。</p> <p>ii) 鼓膜ノ損傷。出血少量。鼓膜検査</p> <p>iii) 外聽道ノ創傷 (特ニ刺創ニヨル)。出血少量。耳内ノ検査。</p> <p>iv) 外聽道ノ骨折 (下顎ノ激シキ衝突) 出血多量ニシテ頭蓋底骨折ト誤ラルルコトアリ。外傷ノ状態・頸關節ノ機能障礙ニヨリテ區別セラル。</p>

頭蓋骨骨折ニハ屢々腦震盪症・腦壓迫症・腦挫傷等ヲ併發ス。又開放骨折・頭蓋底骨折ニ於テハ化膿ヲ起ス危險アリ、更ニ腦膜炎・靜脈竇血栓等ヲ起ス懼アリ。又開放骨折ニテハ外傷性腦脫ヲ來スコトアリ。

鑑 別

單純ノ創傷 (イ)限局性骨折痛、(ロ)骨折線ノ目撃(±)、(ハ)腦脊髄液ノ流出、(ニ)X線検査等ニヨリテ鑑別ス。併シ不明ナル時ハ重キニ從ツテ處置スベシ。

- a) 帽狀筋膜下血腫及骨膜下血腫 限局性疼痛、皮下氣腫、骨ノ異常(±)、腦症狀、X線検査等。
- b) 先天性頭蓋骨異常(後頭骨鱗様部ノ隆出・間骨)、既往症・疼痛等。
- c) 微毒性骨缺損 既往症、疼痛、他部ノ微毒及其反應、X線検査等。
- d) 既往ノ骨折ニヨル變形 既往症、疼痛、X線検査等。
- e) 頭蓋骨陥凹 年齢・疼痛・出血等ニヨリ區別ス。(右記參照)

- b) 鼻出血及口腔出血 多クハ搏動性ニ多量ニ出血ス。歐氏管ノ損傷ニ於テモ類似ノ出血ヲ見ルコトアリ、出血量稍々少ナシ。歐氏管・口腔・鼻腔ヲ検査スベシ。
- 3) 腦脊髄液ノ流出 初メハ血液ヲ含ミ赤色ナルモ後ニハ水様透明トナル、反應アルカリ性ニシテ食鹽ニ富ム、煮沸スルニ蛋白質少量ナルヲ以テ僅カニ凝固ス。少量ヅツ流出スルモ持續的ナルガ爲メニ一日 100-200 又ハ 600-800cc ニ及ブコトアリ。尙ホ之レガ流出部位ハ
 - i) 耳孔ヨリ腦脊髄液ガ流出スル場合ハ顛顛骨岩様部ノ骨折ナリ。
 - ii) 歐氏管ヨリ咽頭及ビ鼻腔ニ流出スルハ同上ノ場合ニテ數膜ニ損傷ナキ時ナリ。
 - iii) 篩骨排泄口ヨリ鼻腔ニ流出スルハ前頭骨ノ骨折ナリ。
 迷路 Labyrinth ノシェワルベ氏淋巴腺 (Schwabische Lymphräume) ノ損傷ニ際シ淋巴漏出ヲ來シテ腦脊髄液ノ流出ト誤ラルルコトアリ、併シ其流出量少ナク、蛋白質ニ富ムヲ以テ煮沸ニヨリ凝固著シ。
- 4) 腦實質ノ排出 重キ外傷ニ際シテハ外聽道及ビ鼻腔ヨリ腦實質ノ排出ヲ見ルコトアリ。但シ此場合ハ即死スルコト多シ。
- 5) 皮下氣腫 乳嘴突起部ノ骨折後其附近ニ皮下氣腫ヲ起スコトアリ。
- 6) 腦神經症狀 頭蓋基底部分骨折ノ診斷ニ必要ナリ。各腦神經ニヨリ夫々症狀ヲ呈ス(第313頁)。併シ時トシテハ全ク腦神經ノ症狀ナキコトモアリ。

頭蓋骨陥凹 Depression der Schädelknochen 初生兒ニ於テハ頭蓋骨彈力性ニ富ムガ故ニ、頭蓋骨穹窿部骨折ト同様ノ動機ニヨリテ骨折ヲ起スニ至ラズシテ單ニ頭蓋骨ノ一部分陥凹スルコトアリ。此際ニハ疼痛出血比較的少ナシ。

III. 腦震盪症・腦壓迫症及腦挫傷ノ鑑別

	1) 腦震盪症 Commotio cerebri	2) 腦壓迫症 Compressio cerebri	3) 腦挫傷 Contusio cerebri
原 因	何レモ頭部ノ外傷ニ因シ、頭蓋ノ損傷(特ニ骨折)ヲ伴フ場合ト然ラザル場合トアリ。又後二者ハ屢々腦震盪症ヲ併發ス。		
起 始 及 意識障礙	外力作用直後發生ス、輕症ノモノハ外力作用ノ刹那ニ特異ノ光線感(目から火が出る)、嗅感(きなくさい)、耳鳴・眩暈アルモ失神スルニ至ラズ。重症ノモノハ失神・昏睡ニ陥リ知覺・運動・諸反射全然消失ス。	初メ興奮状態ヲ呈シ、次第ニ昏睡ニ陥ル。腦震盪症ヲ併發セル場合ニハ昏睡ハ一旦回復シ更ニ又症状増悪ス。小出血ナレバ初メハ意識障礙ナキモ次第ニ失神ニ陥ル出血大ナル程早ク失神昏睡ヲ來ス(第315頁)。	多クハ腦震盪症ヲ伴ヒ外傷直後失神セルガ爲メニ電局症狀不明ナルコトアリ。時トシテハ初メヨリ電局症狀明カナルコトモアリ。多クハ腦震盪症ヲ伴フガ故ニ失神ヲ伴フ、併シ單純ノ腦挫傷ニハ失神ナク電局症狀ノミ。
顔 貌	顔面蒼白・失聲・皮膚冷厥・冷汗(併シ反應期ニハ顔面潮紅)・頸動脈ニ緊張ナシ。	顔面普通ナルカ、或ハ潮紅シ、頸動脈ノ緊張強シ。	腦震盪症ト同様ニ顔面蒼白ナルカ或ハ潮紅ス
眼 症 狀	眼球強直・瞳孔散大(反應期ニハ縮小)、頸血乳頭ナシ。	瞳孔初メハ縮小、麻痺期ニハ散大。頸血乳頭アルコトアリ。	
頭 痛	初メハ不明。反應期ニハ頭痛アリ。	腦壓迫症ノ進ムニ從ツテ頭痛次第ニ劇烈トナル。	
嘔 吐	外傷直後ニ嘔吐アルカ或ハ覺醒後ニ嘔吐。時トシテ糞尿ノ失禁又ハ便秘・尿閉。	嘔吐頻發。	
直腸及膀胱障礙		糞尿ノ失禁多シ(特ニ麻痺期ニ於テ)。	腦震盪症ト略ボ同様
脈 搏	遲徐ニシテ時トシテハ不整細小、反應期ニハ頻數ニシテ強クナル。	外傷直後ニハ著變ナキモ、壓迫加ハルニ從ツテ緩徐強實トナル。麻痺期ニハ頻數細小不整。	
呼 吸	淺表細小ニシテ緩徐、時々吸氣時ニ中絶。	壓迫初期ニハ促進。麻痺期ニハ緩徐深大不正、時トシテハ「シャインストック氏型」。	
體 温	屢々反應期ニ上昇スルコトアリ。	體温上昇スルコトアルモ一二日ニシテ下降。	屢々高熱持續。
電 局 症 狀	全ク缺如ス(之ハ特ニ腦挫傷トノ鑑別點)。	壓迫加ハルニ從ツテ現ハル、初メニ刺戟症狀、後ニ麻痺症狀。	外傷直後ヨリ現ハレテ持續ス(併シ部位ニヨリ電局症狀ヲ異ニシ、時トシテハ缺如)。
經 過	多クハ二三十分乃至數時間ニシテ覺醒ス。時トシテ覺醒ニ際シ一時興奮状態トナルコトアリ。	二三日乃至數日ニシテ次第ニ回復スルカ、或ハ壓迫加ハルニ從ヒ其儘致死ス。	腦震盪症ト同様、併シ局所麻痺症狀ヲ殘ス、或ハ致死ス。
後 症 狀	覺醒後久時無感覺ナルコト多ク、其他頭痛・眩暈・四肢疼痛アルコトアリ。	同左、併シ暫ラク局所症狀ヲ殘スコトアリ。	局所麻痺症狀持續シ緩慢ニ回復シ或ハ不變、時トシテ一時増悪。
其他種々ノ原因ニヨル失神ト鑑別ヲ要ス(内科書参照)			

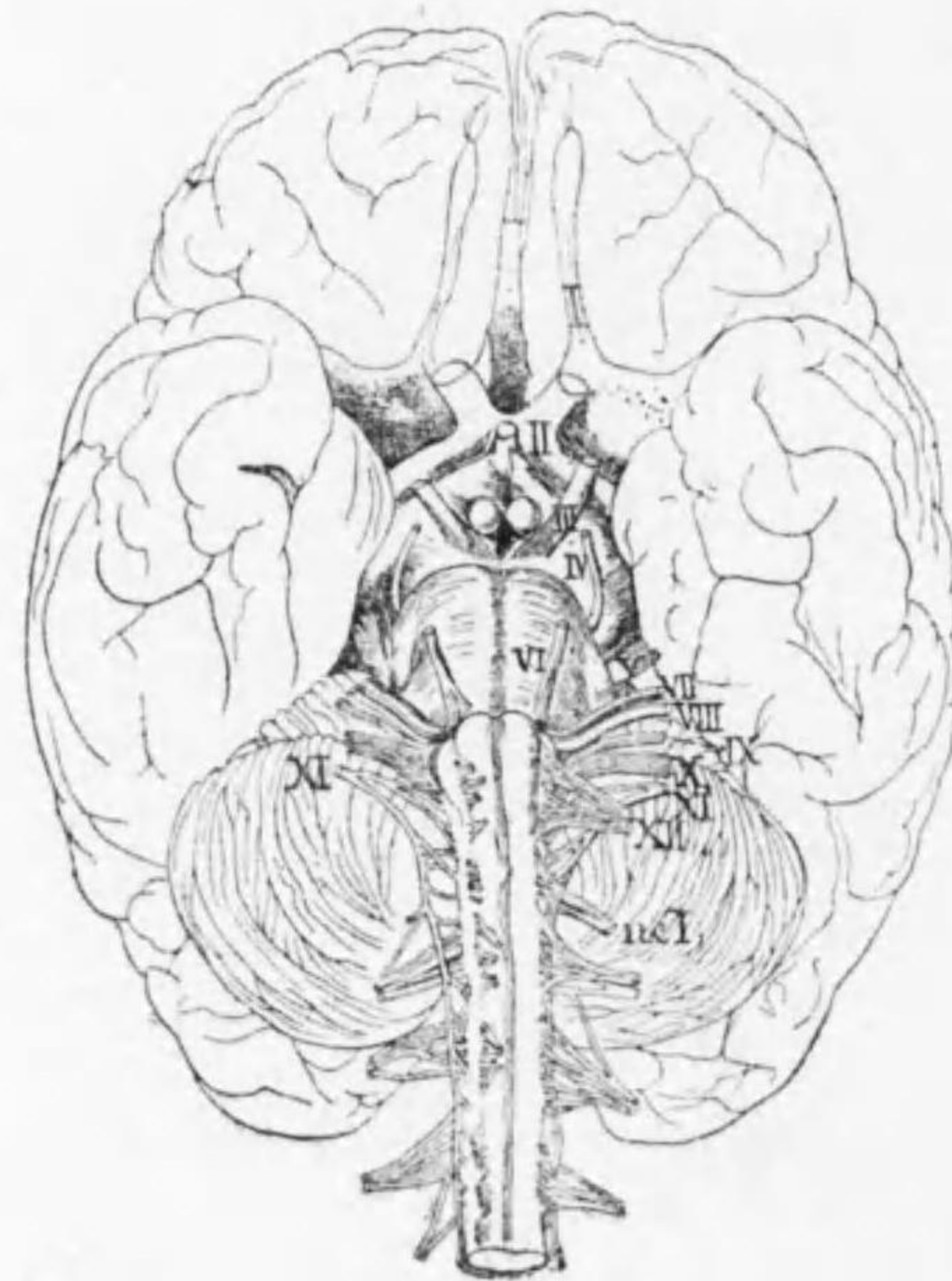
IV. 腦神經ノ傷害 Läsion der Gehirnnerven

	神經司配位	(a) 麻 痺 症 狀		(b) 刺戟症狀
		運 動 障 礙	知覺・榮養障礙等	
1) 嗅 神 經 N. olfactorius	鼻ノ嗅覺。	—	嗅覺缺乏。	嗅覺過敏。 嗅覺異常。
2) 視 神 經 N. opticus	神 經 幹		黒内障・視力減弱・色盲・視界黒斑・瞳孔散大(患側)。	眼華閃發・變視(眼科書或ハ内科書参照)。 兩顳側側半盲症、後ニハ全盲。
	視 神 經 索 Tractus	眼ノ視覺	(-)	
	視 神 經 交 叉 Chiasma			
3) 外 旋 神 經 N. abducens	側直筋。	眼球ヲ外側方ニ移動シ難シ、之レガ爲ニ内斜視及ビ複視ヲ生ズ。		
4) 滑 車 神 經 N. trochlearis	上斜筋。	眼球ヲ上方ニ迴轉シ難シ、下方ヲ見ル時ハ復像アリ。	知覺ニハ異常ナシ併シ時トシテ甚シキ眩暈ヲ訴フ。	眼球震頭・調節機能ノ障礙(眼科書或ハ内科書参照)。
5) 動 眼 神 經 N. oculomotorius	其他ノ動眼筋及ビ眼瞼舉筋。	眼球ノ上下及ビ内方運動不能トナリ。眼球ハ下方ニ向フ。外斜視・複視・瞳孔散大・瞳孔反射消失・調節障礙・瞳孔強直・眼瞼下垂等。		
6) 三 叉 神 經 N. trigeminus	咀嚼筋・前額・上顎・下顎・顳額部ノ皮膚及ビ粘膜。	咀嚼運動・下顎學上運動・開口運動・口底運動・嚥下運動等障礙セラル。兩側麻痺アレバ下顎沈降	左記部位ノ知覺喪失又ハ知覺異常、時トシテハ疼痛、或ハ味覺喪失又ハ異常・唾液分泌減少・麻痺性眼炎。	痙攣性牙關緊閉・齒牙磨蝕・三叉神經痛等
7) 顔 面 神 經 N. facialis	顔面諸筋及ビ後頭筋。	顔面表情ヲ失ヒ、假面狀、患側顔面ニ皺襞ナク。顔面患側ニ牽引セラレ患眼ヲ閉チ難ク、容易ニ結膜炎ヲ起ス。屢々死眼狀ヲ呈ス。口角閉鎖・口笛・吐唾運動不能。液體ヲ飲ム時口角ヨリ漏レ易ク、口唇音障礙セラル。	時トシテ顔面ニ牽引様疼痛アリ、屢々味覺・聽覺・嗅覺障礙セラレ、涙腺・唾液腺ノ機能障礙セラルル事アリ。	顔面痙攣・眼瞼痙攣等
8) 聽 神 經 N. acusticus	聽覺。	—	耳聾又ハ聽力減退	聽覺過敏・耳鳴。
9) 舌 咽 頭 神 經 N. glossopharyngeus	口腔及ビ咽頭ノ知覺及ビ味覺。	—	味覺障礙・口蓋及ビ咽頭ノ知覺喪失或ハ鈍麻。	味覺過敏或ハ異常。

10) 迷走神經 N. vagus.	咽頭・喉頭・ 食道・胃・氣 管・肺・心臓 ノ運動及ビ 知覺	聲帶麻痺・嚥下困難・胃・ 心臓及ビ肺ノ運動障礙。	咽頭及ビ喉頭ノ知 覺脱失。	聲門痙攣・ 嚥下痙攣。
11) 副神經 N. accessorius	喉頭筋 (迷走神經 ト共ニ)。	聲帶麻痺。	—	聲門痙攣。
	胸鎖乳嚔筋。 僧帽筋。	痙攣性斜頸(反 對側ニ傾ク)。 肩胛下垂シ、上 膊ヲ水平以上ニ 擧上シ難ク。 筋萎縮ノ爲メ肩 胛骨ノ輪廓明瞭	兩側ノ 筋麻痺 アル時 ハ頭部 前方ニ 沈降シ、 脊椎前 ニ傾ク。	痙攣性斜頸 (患側ニ傾 ク)。
12) 舌下神經 N. hypoglossus	舌ノ運動。	偏癱麻痺ニ於テハ舌ヲ挺 出セシムルニ健側ニ傾キ 次第二其半側萎縮ヲナス 兩側麻痺ニ於テハ舌ノ運 動不能・萎縮・嚥下困難等。	—	舌痙攣(中 樞性原因ニ ヨル)。

第五百圖
腦髓底部(Henle)

- 腦神經
- I 嗅神經
- II 視神經
- III 動眼神經
- IV 滑車神經
- V 三叉神經
- VI 外旋神經
- VII 顏面神經
- VIII 聽神經
- X 舌咽神經
- X 迷走神經
- XI 副神經
- XII 舌下神經



V. 頭蓋腔内血管ノ損傷
Verletzung der intrakraniellen Blutgefäße

	1) 中硬腦膜動脈 A. meningea media	2) 軟腦膜血管 Piagefäße (硬腦膜下出血 Subdurale Blutung)	3) 靜脈竇 Sinus venosus (特ニ縱竇・横 竇)	4) 腦部頸動脈 A. carotis. cerebralis
原因	刺創・鈍創又ハ骨折ニ因ル、稀ニハ 頭部打撲ニヨリテ、骨折ナシニ血 管ノミ傷ツケラレルコトアリ。或 ハ外傷ノ反對側ニテ損傷セラレル コトアリ(之レハ特ニ軟腦膜血管 ニ多シ)。		刺創・鈍創・骨折 等ニ因ル。	鈍創・刺創・頭蓋 底骨折(甚ダ稀) ニ因ル。
損傷部位	顳額部・顱頂部 ノ徑路中ニテ損 傷セラレルコト 多シ。	頭蓋穹窿部ノ損 傷ニヨル或ハ外 力作用ノ反對側 ニテ傷ツケラル。 頭蓋正中線ノ左 右ニ於テ特ニ出 血多量。	頭蓋正中線又ハ 顳額部前額部ノ 下方ノ損傷ニヨ ル。	腦底ノ損傷ニヨ ル。
外出血	鮮血一時ニ多量 ニ出ヅルニヨリ テ、診斷容易。 深頭頸動脈ヨリ スル出血トハ創 ヲ開大シテ檢ス ルコトニヨリ明。	創面ヨリ出血ア ルモ其量多量ナ ラズ。	暗赤色ノ血液持 續性ニ出ヅ、其 量中等度。	創口ヨリ多量ノ 鮮血噴出。
内出血	外傷後二三分 乃至二三時間ニ シテ腦壓迫症狀 著明トナル。併 シ腦震盪症ヲ併 發セル時ハ初期 ニハ腦壓症狀ノ 不明ナルコトア リ。	外傷後緩慢ニ腦 壓迫症狀ヲ呈ス ルコトアリ。甚 ダシキハ二三日 後ニ明カトナル コトアリ又出血 少量ナレバ腦壓 迫症狀ヲ呈セズ。	外傷後數時間乃 至十數時間ヲ經 テ腦壓迫症狀ヲ 呈ス。	速カニ腦壓迫症 狀ヲ呈ス。
其他	死亡スルコト多 シ。出血少ナキ 時、特ニ小兒ニ 於テハ助カレコ トアリ。末梢動 脈損傷セラレタ ル時ハ次ノモノ ト區別困難ナル コトアリ。	直接之レガ爲メ ニ死亡スルコト ナシ。 時トシテ前者ト ノ區別困難ナル コトアリ。	多クハ自然ニ止 血シ腦壓症狀重 篤ナラズ、豫後 必ラズシモ不良 ナラズ。	即死スルヲ常ト ス。

テハ腦震盪症ヲ伴フ。
之レニ開放損傷ト皮下損傷トアリ、前者ニ於テハ外出血著明ニシテ、後者ニ於テハ内出血アリ。屢々腦壓迫症ヲ起ス。其他時トシ
是等ノ血管ノ損傷ハ腦ノ損傷ヲ伴フコト多キモ、稀ニハ血管ノミ損傷セラレルコトアリ。

VI. 頭蓋ノ急性炎症 Akute Entzündungen des Schädels

	主 要 症 状	鑑 別
1) 癰 Furunkel	頭部ニ屢々認メラル、急性炎症症状著明ニシテ中央ニ膿栓ヲ生ズ、面疔ノ如ク膿後不良ナラズ。	1), 2), 3), 4), トノ鑑別ハ局所 症状・發生狀態 等ニヨル。其他 膿瘍トモ區別 ヲ要スルコトア リ。
2) 急性膿瘍 Akuter Abszess	小兒ニ於テ時トシテ急性膿瘍ヲ多發スルコトアリ。稀ニハ膿毒症ニヨル。	
3) 粉瘤ノ化膿 Eiterung d. Atheroms	以前ニ粉瘤アリテ、後テ急性炎症症状ヲ呈スルコトアリ。	
4) 血腫ノ化膿 Eiterung d. Haematoms	外傷ニヨリテ發生シタル血腫ニ化膿ヲ來シ急性炎症症状ヲ呈スルコトアリ。	
5) 癰 Karbunkel	項部ニハ屢々來ルモ頭部ニハ稀ナリ。其特有ナル狀態ニヨリ診斷容易ナリ。	稀ニ脾膿疽ト鑑別ヲ要スルコトアリ。
6) 蜂窩織炎 Phlegmone	頭部ニ於ケル原發性蜂窩織炎ハ甚ダ稀ニシテ多クハ他ノ急性炎ニ續發ス。	此三者ノ鑑別ハ多クハ容易ナリ。 (總論參照)
7) 丹毒(最多) Erysipelas	屢々認メラルモノナリ。併シ初期ニハ發赤部ガ毛髮ニ覆ハルルガ爲メニ見逃スコトアリ。併シ少シク注意スレバ丹毒ニ特有ナル症状ヲ認ム。	
8) 急性皮膚炎 Dermatitis acuta	屢々頭部ニ發生ス。搔痒等ノ自覺的症狀顯著ニシテ、小水疱多發シ、進行緩慢ナリ。	
9) 急性化膿性筋炎	頭部ニハ殆ンドナシ。	—
10) 急性化膿性骨髓骨膜炎	頭蓋骨ニハ甚ダ稀ナリ。起始・症状ニヨリ診斷容易ナリ。	他ノ原因ニヨル蜂窩織炎ト鑑別ヲ要ス。
11) 急性化膿性淋巴腺炎	後頭部淋巴腺・耳後淋巴腺ニ急性炎症ヲ起スコトアリ。炎症淋巴腺部ニ著明ナリ。	耳後淋巴腺炎ハ時トシテ後二者ト鑑別ヲ要ス。
12) 急性化膿性乳嚙突起炎 Mastoiditis purul. acuta.	多クハ中耳炎ニ續發シ、熱發ト共ニ乳嚙突起部ノ疼痛・頭痛著シク、乳嚙突起部著明ニ發赤腫脹シ、壓痛著シ。聽力障礙著シカラズ、外聽道ニ變化ナキモ、屢々鼓膜ニ變化ヲ認ム(耳鼻科書參照)。	此二者ノ鑑別ハ容易ナリ。其他耳後淋巴腺炎・化膿性耳後粉瘤トモ區別スベシ。
13) 外聽道癰 Furunkel d. Gehörgangs	外聽道及ヒ耳部ニ疼痛甚ダシク、咀嚼ニ際シテハ増悪ス。耳後ニ急性炎症症状著明ナルモ乳嚙突起ニ壓痛著シカラズ。聽力障礙セラレ、外聽道ニ發赤腫脹・膿栓アリ。鼓膜ヲ認メ難シ、併シ多クハ二三日ニシテ自潰輕快ス。	

VII. 頭蓋骨ノ慢性疾患
Chronische Erkrankungen der Schädelknochen

	發 生	主 要 症 状 及 診 斷
1) 骨腫及軟骨腫 Osteom u. Chondrom	小兒ニ發生シ、甚ダ慢性ニ成長ス。	稀ニ頭蓋底ニ發生シ、腦神經症狀ヲ呈スルコトアルモ、頭蓋穹隆部ニハ甚ダ稀ナリ。特異ノ硬度、表面等ニヨリ診斷容易ナリ。
2) 骨獅面症 Leontiasis ossea	後天性ニ發生ス。甚ダ稀有ノモノナリ。	原因不明ニシテ慢性ニ頭蓋骨及ヒ顔面骨(特ニ上顎骨)ノ肥厚ヲ來シ、顔面ノ變形著シクナル。頭蓋骨ノ肥厚著シキ時ハ腦ヲ壓迫シテ頭痛・痙攣・麻痺・精神異常等ヲ來シ、或ハ視神經ノ壓迫ニヨリ失明ヲ來ス。其他種々ノ腦神經症狀ヲ呈スルコトアリ。
3) 頭蓋骨肉腫 Sarkom der Schädelknochen	幼年者ニ發生シ、成長稍々速(比較的稀)。	<ul style="list-style-type: none"> a) 骨膜性肉腫 扁平腫瘤ニシテ、初ハ硬度軟軟ナルモ次第ニ骨増殖ヲ來シテ固クナル。骨嚙毒ト鑑別。 b) 骨髓性肉腫 次第ニ骨ヲ膨出シ、特有ナルハ羊皮紙様膜ヲ有ナス、始メハ軟ナルモ、骨膜面上ニ増殖盛ナル時ハ固クナルコトアリ。硬腦膜菌腫ト鑑別ヲ要ス(X線検査)。
4) 頭蓋骨惡性腫瘤轉移	甚ダ稀ニ頭蓋骨ニ癌腫・「グリオーム」・副腎腫瘍・惡性脈絡膜腫・肉腫(特ニ黑色肉腫)等轉移スルコトアリ。	
5) 頭蓋骨微毒 Schädelknochen-syphilis	壯年後發生スルコトアリ。(第三期微毒)。	初メ弾力性軟ノ膿腫ヲ生ジ、次第ニ吸收セララルカ或ハ自潰シテ潰瘍ヲ作ル。後ニハ不同ノ骨肥厚(骨缺損ヲ伴フ)ヲ來ス。既往症・羅徹法・ワ氏反應等ニヨリ確診セラル。
6) 頭蓋骨結核 Schädelknochen-tuberkulose	壯者ニ來ルコトアリ、甚ダ稀。	部位一定セズ、疼痛ナク、骨肥厚著明ナラザルヲ常トシ寒性膿瘍ノ發生ニテ氣附カルルノミ、X線検査ニヨルモ所見不明ナルコト多シ。
7) 頭蓋骨慢性骨髓骨膜炎		急性化膿性骨髓骨膜炎ニ續發スルコトアルモ稀ナリ。併シ化膿性創傷後頭蓋骨ヲ侵シテ痊愈治癒セザルコトアリ。併シ多クハ腐骨排除ニヨリ自然ニ治ス、稀ニハ化膿性腦膜炎・靜脈竇炎ヲ起ス危險アリ。

以上夫々特異ノ症状ヲ有スルニヨリ診斷多クハ容易ナリ(總論參照)。併シ第320頁記載ノ頭部各種ノ腫瘤類ト鑑別ヲ要スルコトアリ。少シク進行セルモノニ於テハX線検査ニヨリテ診斷確定セラルルモ、不明ナルコトモアリ。

第五百一圖
頭蓋骨骨腫



第五百二圖
頭蓋骨ノ骨膜性骨肉腫
(Breslauer Klinik)



第五百三圖
穿孔性頭蓋骨結核
(Leipziger Klinik)



第五百四圖
頭蓋骨ノ護膜腫性潰瘍
(n. Lexer)



第五百五圖
巨大ナル纖維腫
(n. Keen)



第五百六圖
頭皮淋巴管腫
(Breslauer Klinik)



第五百七圖
癌腫慢性ヲ來シタル粉瘤



第五百八圖
後頭部ノ大皮膚様囊腫
(Breslauer Klinik)



VIII. 頭部ニ於ケル各種腫瘤類ノ鑑別 (眞性腫瘍・囊腫・慢性炎症其他ヲ含ム)

(a)	1) 纖維腫 Fibrom	2) 脂肪腫 Lipom	3) 血管腫 Angiom
	起 始	多クハ先天性。 稀ニ後天性。	同 左。
發 生 部 位	不定(皮下)。	不定(皮下)。	不定(皮下)。
大 小 及 其 變 化	大小種々、時トシテ著大(軟性ノモノハ大)。	同 左。	大小種々。 頭部ノ下垂又ハ努責ニヨリ緊張増大。
形 狀	半球形・球形・稍々不正形等、稀ニ有莖。	同 左。	a) 單純性ノモノハ多ク圓形。 b) 海綿狀ノモノハ圓形・不正形。 c) 蔓狀ノモノハ蔓狀
表 面 皮 膚	異常ナシ。	異常ナシ。	表在性ナルハ皮膚藍青色或ハ暗赤色。
表 面	平 滑。	分葉狀凹凸。	屢々輕度ノ凹凸アリ
硬 度	弾力性靱(硬性)或ハ弾力性稍々軟(軟性)。	弾力性稍々靱(硬性)或ハ弾力性軟(軟性)。	軟性ニシテ壓縮性、時トシテハ中ニ小結節。
搏 動	—	—	大ナル血管腫ニ於テハ動脈性搏動アルコトアリ(併シ腦搏動ハナシ)。
癒 着	多クハ皮膚及ビ底部トナシ。(併シ皮膚性ナルハ之ト癒着ス)。	同 左。	表在性ノモノハ皮膚ト癒着アルコトアリ。
限 界	明 瞭。	明瞭、稀ニ軟性ノモノハ稍々不明瞭。	明瞭、併シ大ナルモノハ不明瞭ナルコトアリ。
骨 ノ 變 化	—	—	—
試 驗 的 穿 刺	—	—	純血液。
經 過	慢性、併シ軟性ノモノハ稍々速ニ増大。	同 左。	慢性、併シ海綿狀ノモノハ稍々速ニ増大。
其 他	—	—	破潰シテ大出血ヲナスコトアリ。
主ナル鑑別疾患	脂肪腫・肉腫及ビ癌腫ノ初期・粉瘤・皮膚様囊腫	纖維腫・皮膚様囊腫・血管腫・淋巴管腫・膿腫等	淋巴管腫、時トシテハ脂肪腫等。

4) 淋巴管腫 Lymphangiom	5) 肉腫 Sarkom (原發及ビ轉移)	6) 癌 腫 Karzinom	
		a) 原 發 癌	b) 轉 移 癌
多クハ先天性。	幼年者ニ多シ。	多クハ四五十歳後。	
不定(皮下)。	不定。(皮下結締織・筋膜・骨等)。	正常皮膚又ハ癬痕・潰瘍・乳癌腫・粉瘤等ヨリ變性スルコトアリ。	不定。
同左(併シ頭部下垂努責ニヨリ増大ノ度少ナシ)。	次第ニ巨大トナル。	餘リ著大トナラズ。	
a) 單純性ノモノハ圓形。 b) 海綿狀ノモノハ圓形・不正形。	扁平腫脹・半球形・不正形。	表皮癌ニシテ特有ノ外見ヲ有ス。 (總論參照)。	扁平腫脹・半球形等。
着色ナシ。	變色ナシ(但シ黒色肉腫ハ特有ノ色)。		異常ナシ。
平滑或ハ稍々凹凸。	初メハ平滑後凹凸。	初メハ平滑、末期ニハ不同凹凸。	
軟性ニシテ壓縮性、併シ小結節ヲ觸レズ。	弾力性稍々軟或ハ少シク靱。	靱或ハ硬靱。	
—	—	—	
多クハナシ。	多クハナシ。末期ニアルコトアリ。	屢々アリ。	
小ナルハ明瞭ナルモ大ナルハ屢々不明瞭。	初期ニハ明瞭。末期ニハ不明瞭ナルコトアリ。	初期ニハ明瞭ナルモ、少シク進行セルハ不明瞭ナルコト多シ。	
—	無シ。(併シ骨ト癒着著シキ時ハ骨増殖アルコトアリ)。	—	
淋巴液。	—	—	
慢性。	稍々速。	稍々速(肉腫ヨリ遅シ)。	
同左ノ症状ナシ。	轉移形成。次第ニ衰弱。	轉移形成。次第ニ惡液質。	轉移形成。他ニ原發癌アリ次第ニ惡液質。
血管腫。脂肪腫	癌腫轉移・硬腦膜肉腫・粉瘤。	癬痕・潰瘍・乳癌腫・粉瘤ヨリ癌腫變性ヲナセル場合ニハ成長急ニ速トナリ周圍及ビ底部ニ滲潤ヲ生ジ、時トシテ疼痛ヲ發ス。	肉腫等。

(b)	7) 硬腦膜菌腫 (i) Fungus durae matris	8) 粉 瘤 Atherom	9) 皮膚様囊腫 Dermoidzyste	10) 包蟲囊腫 Echino- kokkus
起 始	幼年又ハ壯年。	後天性 (十四五歳以後)。	先天性或ハ青春期ニ著明トナル。	頭蓋骨ニ發生シタル報告アルモ非常ニ稀ナリ (論總參照)。
發 生 部 位	不定 (深部ヨリ増大ス)。	部位一定セズ (皮下) 時トシテ多發。	部位一定ス (皮下深部) 項部・顛頂部ノ正中線・大顛門。	
大 小 及 其 變 化	著大トナラズ。	小指頭大乃至雞卵大ノモノヲ見ルコト多シ。	略ボ同左。	
形 狀	扁平腫脹・半球形	半球形或ハ球形。		
表 面 ノ 皮 膚	異常ナシ。	多クハ異常ナシ。		
表 面	平滑。	平滑。		
硬 度	靱軟。	軟泥様軟或ハ少シク硬。		
搏 動	—	—		
癒 着	皮膚ト癒着ナシ。底部ト密接ノ關係アリ。	皮膚ト癒着アリ。底部ト癒着ナシ。	皮膚ト癒着ナシ。底部ト癒着アリ。	
限 界	多クハ明瞭、併シ初期ニハ不明瞭。	明瞭。		
骨 ノ 變 化	次第ニ骨ヲ擡舉破潰シテ表面ニ出ヅ。	多クハナシ。	底面ノ周圍ニ堤狀骨肥厚ヲ見ルコトアリ。	
試 驗 的 穿 刺	—	糜爛様物ナルモ穿刺ニヨリテ證明シ難キヲ常トス。	同左 (他部ノ皮膚様囊腫ト異ナリ、他ノ成分稀ナリ)。	
經 過	慢性。	慢性。		
其 他	時トシテ腦壓症狀アリ。	時トシテ化膿スルコトアリ。或ハ癌腫變性。	癌腫變性ヲ來スコトアリ。	
主ナル鑑別疾患	肉腫・護膜腫等。	皮膚様囊腫・脂肪腫・護膜腫等。	粉瘤・纖維腫・脂肪腫等。	

(i) 硬腦膜ノ肉腫・内被細胞腫ガ増大スルニ從ヒ、骨ヲ破リテ外方ニ現ルモノヲ云フ。時トシテハ内方ニ増大シテ腦壓迫症ヲ呈ス。

11) 腦ヘルニア Cephalocele (先天性) (脊椎披裂症ノ條下參照)			12) 頭部漿液囊腫 Seröse Zyste des Kopfes
a) 腦膜ヘルニア Meningocele	b) 腦ヘルニア Encephalocele	c) 水腫腦ヘルニア Hydrocephalocele	
頭蓋骨裂隙ヨリ腦膜脫出シ、腦脊髄液瀦留。	腦膜ト共ニ腦ノ一部モ脫出セルモノ。	第四腦室・側室等ノ内液瀦留著明ニシテ共ニ脫出。	先天性(腦ヘルニアノ莖部癒着ニヨル)。
後頭部ノ中央ニ最も多ク、前頭部ノ中央ニ次グ。	前頭部ニ最も多ク後頭部ニハ少ナシ。	後頭部ノ下部ニ多シ。	左記ニ同ジ。
屢々著大トナル擗指頭大乃至小兒頭大。	比較的小。	多クハ著大トナル。	著大ナラズ、鳩卵大以下ナルヲ常トス。
扁平腫脹・半球狀・球狀・稍々不正形等ニシテ細キ或ハ廣キ莖ヲ以テ頭蓋腔内ニ通ズ。	多クハ球形或ハ稍々不正形ニテ有莖。	多クハ皮膚ニ異常ナシ	球形又ハ半球形。
時トシテ透光性著明。	時トシテ血管腫併發。	多クハ皮膚ニ異常ナシ	異常ナシ。
平滑ナルヲ常トス、稀ニ一部ニ不同凹凸。			平滑ナルヲ常トス。
弾力性軟(或ハ緊滿性)ニシテ波動著明、時トシテ壓縮性。	緊滿性硬ニシテ壓縮性少ナシ、波動ナシ。	壁厚クシテ緊滿性軟、壓縮性少ナシ。	緊滿弾力性軟時トシテ波動・壓縮性ナシ。
輕度或ハ不明。	著明。	著明ナラザルカ或ハ輕度。	(-)
皮膚ト癒着ナク、底部ト密接ノ關係アリ。			皮膚ト癒着ナク、底部ト關係アリ。
明瞭ナルヲ常トス、時トシテ有莖(a, b)。			同左。
多クハ其基底ニ骨缺損ヲ觸ル。			骨變化不明ナルコト多シ。
腦脊髄液出デ、穿刺後ニ腫瘍ハ著明ニ縮小。	腫瘍縮小著明ナラズ。(穿刺液少ナシ)。	穿刺後腦軟部組織ヲ認ム。	多クハ水様液。
慢性。小兒ノ成長ニ伴フテ増大、(c)ニ於テハ早死スルコト多シ。			増大著明ナラズ。
腹壓亢進ニヨリ緊張増大、時トシテ腦壓症狀ヲ呈ス。	略々同左。	左ノ症狀著明ナラズ。	腦症狀ナシ。
先天性腫瘍ニシテ特有ナル狀態・部位ニヨリ診斷多クハ容易ナリ。			皮膚様囊腫・脂肪腫等ト鑑別。左記トハ壓縮性ニヨリ區別。

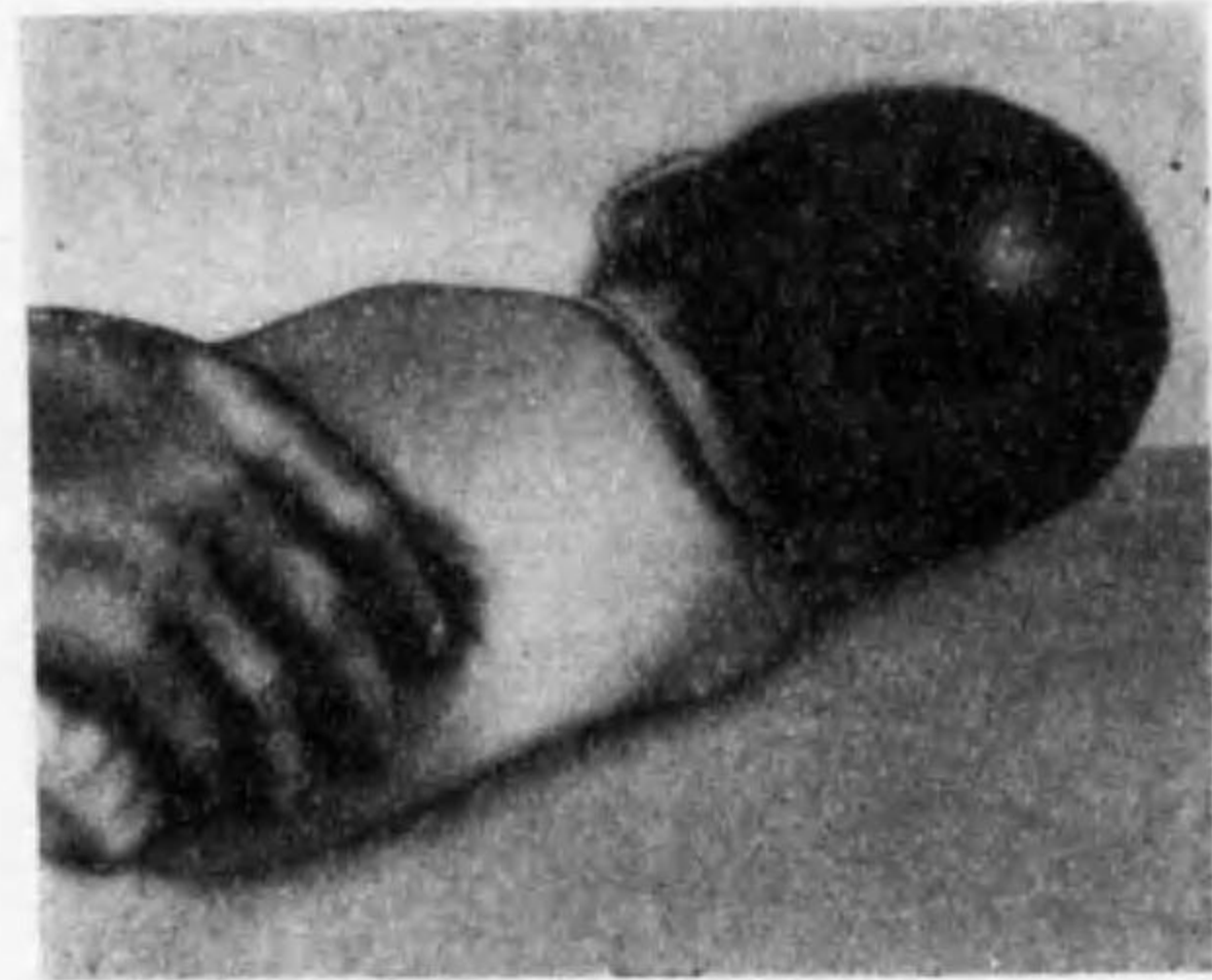
第五百九圖

頭蓋間隙部=占居セル皮膚様囊腫



第五百十一圖

上後頭部腦ヘルニア」



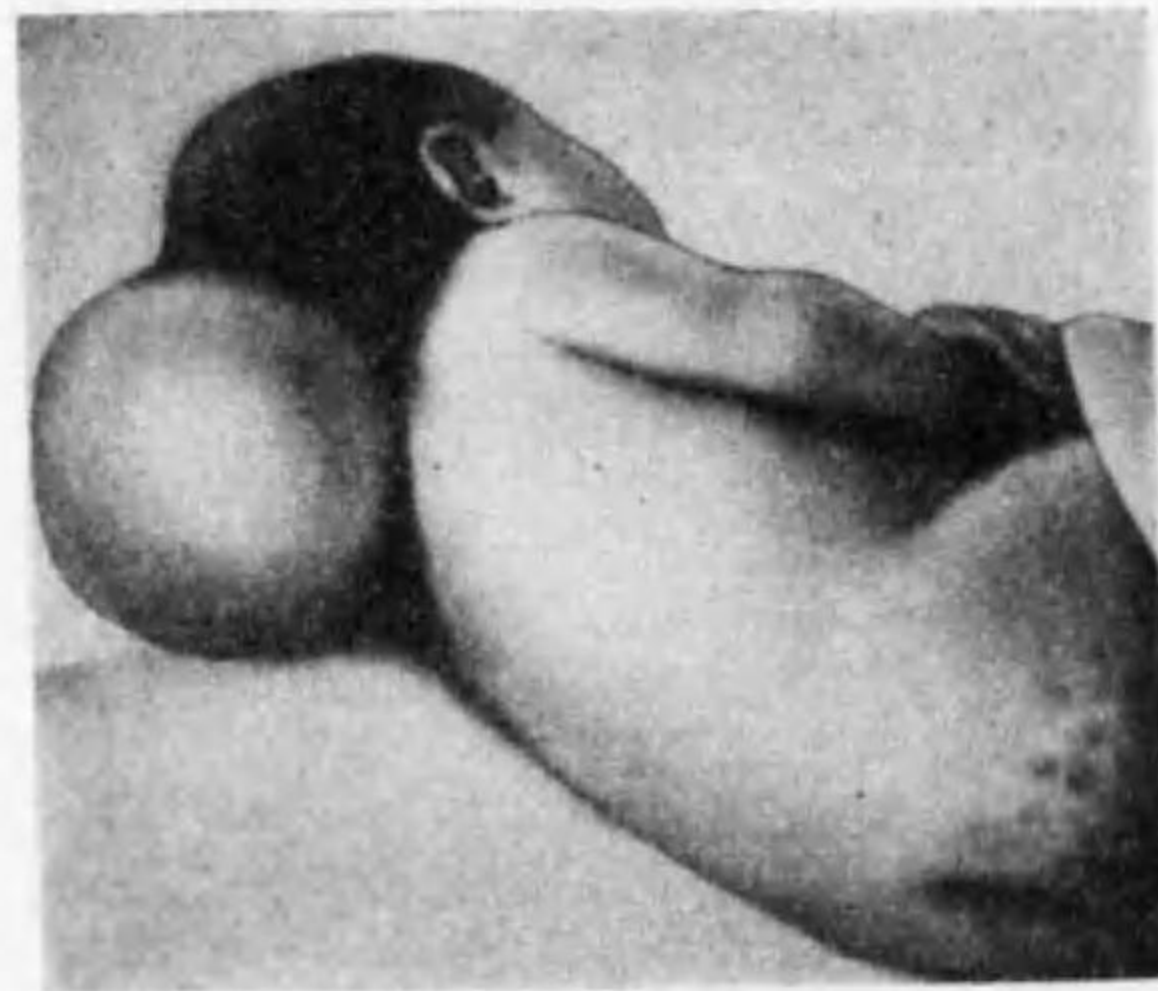
第五百十圖

腦ヘルニア」
(n. Sultan)



第五百十二圖

後上頭部腦ヘルニア」



第五百十四圖

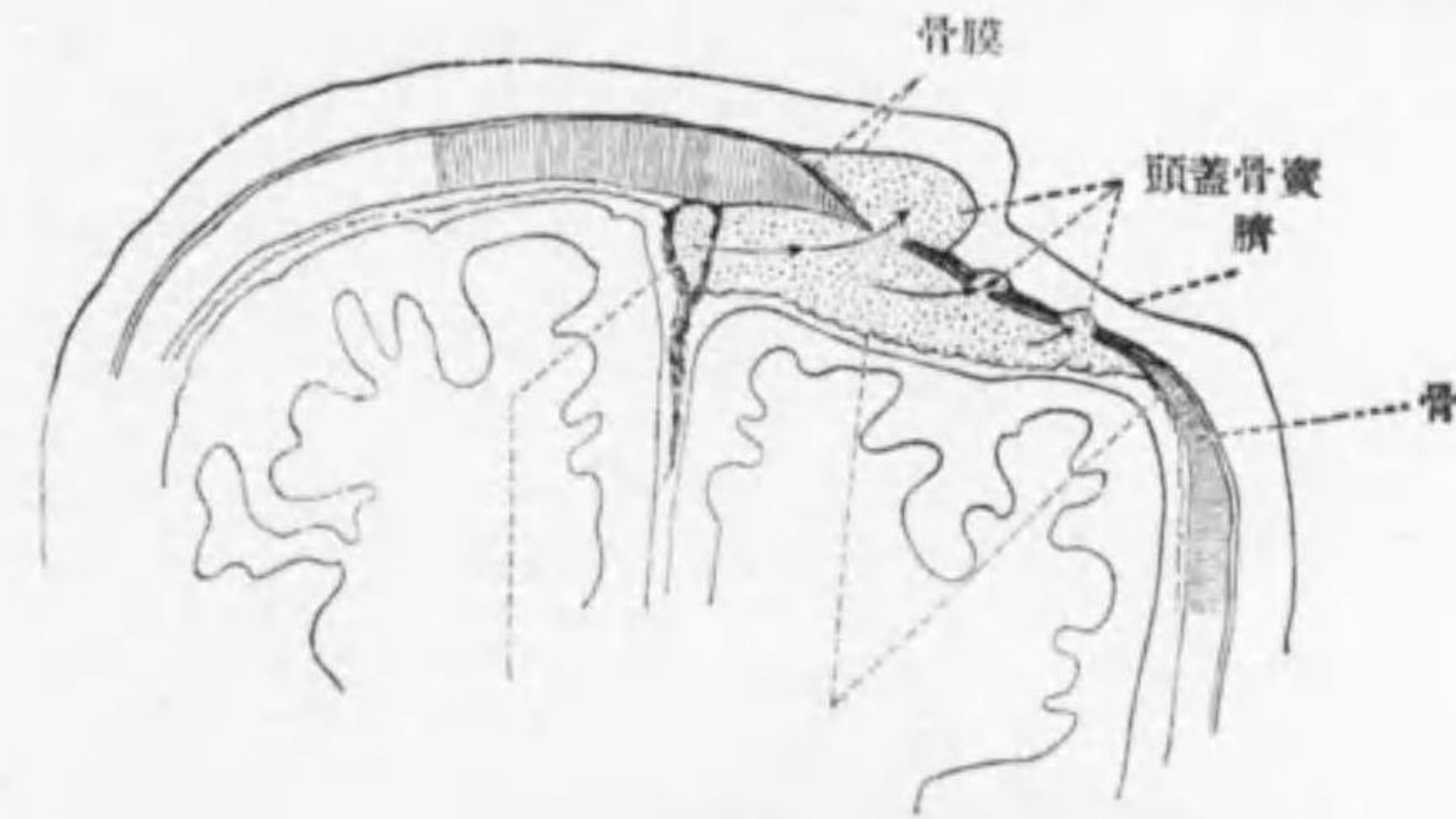
頭蓋骨結核ノ大ナル寒性膿瘍 (Breslauer Klinik)



第五百十三圖
外傷性腦脱



第五百十五圖
頭蓋外賣



第五百十六圖

假性腦水腫
(Breslauer Klinik)



(c)	13) 頭部動脈瘤 Aneurysma capitis	14) 頭部動靜脈瘤 Aneurysma arteriovenosum	15) 頭蓋骨動脈瘤 Aneurysma der Schädelknochen
起 始	多クハ外傷性動靜脈瘤又ハ動靜脈瘤ニシテ、外傷後時日ヲ經テ起ル。		先天性ノモノナレドモ成長後次第ニ著明トナル。
發 生 部 位	顱顳部ニ於ケル顱顳動脈ニ發生ス。		顱頂部・顱顳部。
大サ及其變化	拇指頭大内外ノモノ多シ(動靜脈瘤ノ方大トナル)。顱顳動脈幹ノ壓迫ニヨリ縮小シ、頭部下垂又ハ努責ニヨリ増大ス。		著大トナラズ。(頸動脈ノ壓迫ニヨリ縮小シ頸部下垂ニヨリ増大ス)。
形 狀	半球形・球形・橢圓形。(動靜脈瘤ノ大ナルハ不正形)。		半球形・橢圓形・不正形。
表面ノ皮膚	著變ナシ。	時トシテ藍青色。	著變ナシ。
表 面	平滑。	平滑或ハ稍々凹凸。	時トシテ不同凹凸。
硬 度	弾力性軟・稍々壓縮性。		同左。
動	動脈性搏動。(時トシテ雜音アリ。特ニ後者ニ著シ)。		略同左。
癒 着	皮膚及ビ底部ト癒着ナシ。發生血管ト關係アリ。		皮膚ト癒着ナシ。底部ト密接ノ關係。
限 界	明瞭。	明瞭。時トシテ稍々不明瞭。	多クハ不明瞭。
骨ノ變化	(-)		底部ニ骨缺損ヲ觸ルルコトアリ。
試驗的穿刺	鮮血。		同左。
經 過	慢性ニ増大。		同左。
其 他	—		—
主ナル鑑別疾患	以上ノ三者ハ互ニ鑑別ヲ要ス。		

16) 頭蓋外贅 Sinus pericranii	17) 頭蓋血腫 Kephalo- haematom (再出)	18) 頭部氣腫 Pneumatocele capitis	19) 外傷性腦脫 Prolapsus cerebri traumatica
先天性ニ第515圖ニ示ス如ク靜脈竇頭蓋骨外ニ出ヅルモノヲ云フ(甚ダ稀)。	外傷直後ニ發生。	先天性又ハ後天性(外傷・炎症)。	頭蓋骨骨折後時日ヲ經テ起ル。
後頭正中線ニ限ル。	頭蓋穹窿部ニ多シ。(皮下・筋膜下・骨膜下ノ區別アリ)。	前頭部・顱顳部・後頭部等。	頭蓋穹窿部。
大トナラズ。	皮下血腫ハ鳩卵大乃至鵝卵大。其他ノモノハ更ニ大。	大小種々アリ。(時トシテ咳嗽ニヨリ増大)。	鳩卵大乃至鵝卵大ナルモノ多シ。
扁平球形或ハ橢圓形。	皮下血腫ハ半球形。其他ノ二者ハ扁平腫脹。	扁平或ハ瀰漫性腫脹。	半球形ニテ廣底ヲ有スルヲ常トス(努責・頭部下垂ニヨリ増大)。
多クハ普通ノ皮膚ニ覆ハル、稀ニ藍青色ニ透見。	皮下血腫ニハ皮下溶血像ヲ認ムルモ、其他ノ二者ニハ變化ナシ。	變化ナシ。	慶糊セル腦表面ヲ見ル、時トシテハ薄キ上皮ニ被ハル。
平滑。	平滑。	平滑。	
弾力性軟・壓縮性。	初メハ軟ニシテ波動、後ニハ握雪状態、稀ニハ永ク波動ヲ有ス。骨膜下出血ニテハ周邊固クナル。	甚ダ柔軟ニシテ、加壓ニヨリ縮小又ハ消失、其際捻髪音ヲ發ス。	軟性ニシテ多少壓縮性(但シ其際腦壓迫症狀ヲ呈スルコトアリ)。
—	—	—	多クハ著明、併シ後ニハ不明ナルコトアリ。
表面トナク、底部トアリ。	皮下血腫ハ底部ニ對シテ移動性、他ハ移動セズ。底部ト移動セズ。	皮膚ト關係ナキモ、底部トノ關係不明。	腦腔トノ關係明白。
明瞭或ハ稍々不明瞭。	皮下血腫ハ明瞭ナルコトアルモ、他ノモノハ不明瞭。	不明瞭。	明瞭。
稀ニ底部ニ骨缺損ヲ觸ル。	無シ(但シ骨膜下血腫ニテハ周邊ニ骨新生)。	稀ニ骨缺損部ヲ觸ル。	骨缺損著明。
血液。	初メハ新鮮血液、後ニハ暗赤色、陳腐ナルハ漿液性。	空氣。	—
甚ダ慢性。	多クハ速ニ吸收セララルモ稀ニハ永ク残留スルコトアリ。	速ニ消散。	次第ニ増大シ、或ハ腦膜炎ニテ致死、稀ニハ膨隆腦實質壞疽脱落シテ自然治癒。
—	—	—	—
血管腫・淋巴管腫・腦ヘルニア等。	診斷容易。(詳細ハ第308頁參照)	殆ンド鑑別ヲ要スベキモノナシ。	特有ノ状態ニヨリ容易ニ診斷セララル。

(d)	20) 外傷性腦水腫 Cephalohydrocele traumatica	21) 結核性膿瘍 Tuberkulöses Abszess	22) 護 謨 腫 Gumma
起 始	鉗子分娩又ハ頭蓋骨折ニテ骨間隙ヨリ腦脊髄液皮下ニ漏出セルニ因ル。	虛弱ナル若年者ニ來ルコトアルモ甚ダ稀。	多クハ三四十歳後。
發 生 部 位	顳額部又ハ前額部ニ來ル(甚ダ稀)。	不定(骨結核ニ續發スル寒性膿瘍)。	不定(皮膚・皮下・骨)。
大 小 及 其 變 化	稍々大トナル。(頭部下垂ニヨリ増大スルコトアリ)。	不同。	大サ不同。時トシテハ多發。
形 狀	扁平腫瘍。	半球形・扁平腫脹。	半球形扁平腫脹或ハ不整形。
表 面 皮 膚	屢々皮下溢血又ハ挫傷ヲ見ル。	多クハ變化ナキモ、自潰前限局性發赤。	多クハ變化ナキモ、自潰前暗赤色。
表 面	大體平滑。	平滑。	平滑。
硬 度	弾力性軟、時トシテ波動。	軟ニシテ波動(肉芽多キ時ハ不明ナルコトアリ)。	弾力性軟、軟化著明ナル時ハ少シク波動。
搏 動	初期ニハ著明ナルコトアリ。後ニハ不明。	—	—
癒 着	皮膚トナク、底部ニ關係アリ。	皮膚ト癒着ナク、底部トハ不明。	屢々皮膚及ビ底部ト癒着アリ(±)。
限 界	不明瞭。	明瞭或ハ稍々不明瞭。	初期ニハ明瞭ナルコトアルモ、多クハ不明瞭。
骨 ノ 變 化	時トシテ骨裂隙ヲ觸ルルコトアリ(±)。	不明ナルコト多シ。	骨ヨリ發生スル時ハ骨肥厚或ハ陷凹。
試 驗 的 穿 刺	屢々腦脊髄液(血性)。	結核性膿。	粘稠膿、(併シ多クハ不明)。
經 過	次第ニ縮小或ハ致死。	次第ニ自潰シテ結核性瘻孔或ハ潰瘍形成。	次第ニ吸收セラレ、或ハ軟化自潰シテ膿毒性潰瘍。
其 他	時トシテ頭皮質ノ損傷ヲ伴フガ故ニ癩癬症狀ヲ伴フコトアリ。	體質・他部ノ結核・「ツベルクリン反應」・膿ノ検査等。	試験的驅蟲法・ワ氏反應等。
主ナル鑑別疾患	血腫・先天性軟性腫瘍等。	脂肪腫・護謨腫等。	脂肪腫・寒性膿瘍等。

IX. 腦ノ主要ナル外科的疾患
Wichtige chirurgische Erkrankungen des Gehirns

	原 因	起 始 及 經 過	頭 痛	眩 暈	熱 發	
1) 急性化膿性軟腦膜炎 Leptomeningitis purulenta acuta	頭蓋ノ種々ノ化膿症・耳及ビ鼻等ノ化膿症ニ續發。	多クハ急性ニ發病。	多クハ甚ダ激烈。多クハ偏側性或ハ限局性。	屢々有。	屢々惡寒戰慄ニ急ニ上昇或ハ次第ニ上昇、熱型不正。	
2) 靜脈炎 Sinus-thrombose	a) 海綿竇炎 Sinus cavern.	眼窩又ハ顔面ノ炎症ノ傳播	每常急性ニ發病。	屢々著明。	屢々有。	
	b) 橫竇炎 Sinus transv.	耳又ハ顔面ノ炎症ノ傳播。				
	c) 上縦竇炎 Sinus long. sup.	顔面又ハ頭部ノ炎症ノ傳播				
3) 硬腦膜炎(化膿性頭蓋内膜炎) Pachimeningitis (Endocranitis purul. acut.)	化膿性中耳炎・乳嘴突起炎・骨折後ノ化膿・顔面及ビ頭部ノ炎症ノ傳播。	急性或ハ慢性ニ發病。	可ナリ著明ナルガ、時トシテハ輕度ナルコトアリ。	輕度或ハ無。	著明又ハ不明(原發疾患ニ因ス)。	
4) 腦膿瘍 Hirnabszess	a) 外傷性膿瘍。頭蓋骨外傷後ノ化膿ニヨル。	稍々急性ニ始マルコトト、慢性ナルコトトアリ。	腦壓迫症狀ノ初期症狀トシテ必要ナルモノナリ初ハ長キ間歇時ヲ以テ發作性ニ來ルモ、後ニハ持續性トナルコト多シ。	種々有。	弛張性ノ高熱アリ。時々惡寒戰慄アリ。併シ發熱著シカラザルコトモアリ。	
	b) 續發性膿瘍。頭蓋骨ノ化膿症・化膿性中耳炎・乳嘴突起炎(耳性膿瘍)・鼻腔ノ化膿(鼻性膿瘍)等ニ因ス。					
	c) 轉移性膿瘍。各所ノ化膿ヨリスル血行轉移(甚ダ稀)。					
5) 腦腫瘍 Hirntumor	a) 眞正腫瘍 Echte G.	何レモ慢性。	屢々頭痛激甚ナリ。屢々一部ニ限局シ打敲痛ヲ訴フルコトアリ。併シ時トシテハ鈍痛ニ過ギズ或ハ缺如スルコトアリ。	種々有。	熱發ナキヲ常トス。	
	b) 囊腫 Zyste					「グリオーム」最多シ、其他瘤腫・肉腫等。
	c) 孤立性結核					皮膚様囊腫・「エヒノコックス」等。
	d) 護謨腫					他部ノ結核。
	e) アクチノミコーゼ					第三期梅毒。

以下腦疾患ハ結核性腦膜炎 Meningitis tuberculosa. 出血性硬腦膜炎 Pachymeningitis haemorrhagica. 腦出血症 Hirnblutung 等ト鑑別ヲ要ス(内科書参照)。

嘔 吐	意 識	項部強直	痙 攣	呼 吸	腦 脊 髄 液
屢々激烈ニシテ頻發、或ハ初期症狀トシテ來ル。	次第ニ意識濁・譫妄・嗜眠等アリ。	本症ニ最も特有(！)	時トシテハ一時性ノ搐搦・牙關緊閉ヲ見ルコトアリ。	體温上昇ニ伴フテ頻數トナルモ發熱ニ比シテ少ナク腦壓著シキ時ハ緩徐トナル。末期ニハ頻數細小不正トナル。屢々シャイン・ストックス氏呼吸型ヲ發ス。	腦脊髄液ノ壓力増加シ、多クハ濁濁シ、膿球・赤血球・白血球・細菌ニ富ム。
略ボ同上。	聽覺及ビ視覺過敏トナル。	無シ。(併シ腦膜炎ヲ併發セル時ハ有)。	時トシテ痙攣アルコトモアリ。		腦脊髄液ノ壓力増加シ、血球及ビ蛋白質ノ増加ヲ認ムルモ、前者ノ如キ變化著シカラズ。
著明ナラザルコト多シ。	多クハ障礙ナシ。	無シ。	多クハ痙攣ナシ。		略ボ同上。
多クハ嘔吐アリ。	急性腦壓迫症ト異ナリ(第312頁)初期ニハ意識障礙ナク、末期ニ來ルノミ、即チ末期ニハ嗜眠性トナリ、意識ヲ失フ。時トシテハ記憶力喪失、又ハ精神病トナル。	無シ。	時トシテ局所性痙攣ヲ發シ或ハ、ジャクソン氏痙攣ヲ起スコトアリ併シ全ク痙攣ナキコトモアリ。	急性腦壓迫症ノ如ク著明ニハアラザレドモ急性膿瘍ニ於テ壓迫急性ナル時ハ脈搏呼吸緩慢トナルコトアリ。	略ボ同上或ハ變化著明ナラズ。
屢々朝時ニ食事ニ關係ナク容易ニ嘔吐ス。嘔吐回數ノ増加ハ腦壓ノ増進ヲ示ス。				多クハ著變ナシ。	腦脊髄液ノ壓力増加スルモ液ニハ變化ナシ。

頭蓋表面ニ於ケル變化	痙局症狀	眼 症 狀	經 過	其 他	鑑 別
著變ナシ。	時トシテハ腦神經麻痺(動眼神經・外旋神經・顔面神經等)時トシテ單癱・半側癱又ハジャクソン氏痙攣。	鬱血乳頭ナシ、時トシテ視神經炎ヲ起スコトアリ。稀ニハ斜視瞳孔不同等アリ。	其シキハ二三日乃至數日ニシテ死、併シ尙ホ永ク生存スルコトモアリ。	初期ニハ白血球增多アリ。皮膚知覺過敏・皮膚敏感症・ケルニヒ氏症狀。一健反射初メハ亢進、後消失等。	急性腦膿瘍・靜脈竇炎・腸チフス・肺炎・敗血症・尿毒症・出血性腦膜炎等。
頭蓋靜脈ノ鬱血ニヨリ	眼瞼浮腫・結膜浮腫・眼球突出等アリ。 乳嘴突起部ノ浮腫・頸靜脈ノ疼痛性滲潤。 頭部皮膚ノ浮腫出血等。	眼筋麻痺(眼瞼下垂・斜視等)。 三叉神經痛(第一枝)。 迷走神經・副行神經・舌咽頭神經麻痺。	時トシテ鬱血乳頭・眼靜脈ノ擴張ヲ見ルコトアリ。	速ニ敗血症毒症ヲ起シテ致死。(膿瘍・脾腫・黃疸・昏睡等)。	同上。
頭部創傷又ハ耳ヨリノ排膿増加或ハ膿瘍外部ニ自潰スルコトアリ。	著明ナラザルヲ常トス。稀ニ痙攣發作。	鬱血乳頭ナシ、時トシテ視神經炎ヲ起ス。	速ニ致死シ或ハ慢性ノ經過ヲ取ル。	腦膜炎・靜脈竇炎・腦膿瘍ヲ併發スルコトアリ。白血球增多症等。	略ボ同上。
外部ニ變狀ヲ來スコトハ甚ダ稀ナリ。	部位・大サ・種類等ニヨリテ異ル。初メハ刺戟症狀、後ニハ痙攣症狀ヲ呈ス(第312頁参照)。	鬱血乳頭多クハナシ。時トシテ視神經炎ヲ起ス。	急性ナルハ二三週乃至數週ニテ死亡シ慢性ナルハ年餘ニ及ブコトアリ。	時トシテハ腦室内ニ穿破シテ即死シ、或ハ腦膜炎・靜脈竇炎ヲ併發ス。白血球增多症。	同上或ハ腦腫瘍。
腫瘍増大著シキ時ハ頭蓋ヲ膨出スルコトアルモ甚ダ稀ナリ。		腫瘍前頭葉ニアル時ハ鬱血乳頭アリ。一般ニ甚ダ稀、炎症性膿瘍ニハ多クハナシ。	慢性ニ増進ス。	原因的疾患ニ關係アル他部ノ變化アリ。白血球增多症ナシ。	慢性腦膿瘍。各自ノ區別ハ原病ニ關係アル種々ノ條項ニヨル。

X. 眼球突出症 Exophthalmus (牛眼 Buphthalmus)

	原 因	主 要 症 狀	鑑 別	
急性性症	1) 眼球後出血 Retrolbulbäres Bluterguss	外傷ニヨリ其直後ニ發生ス時トシテハ頭蓋骨折併發。	眼瞼ニモ皮下溢血著明ナリ。出血甚シキ時ハ一時眼球ニ搏動アルコトアリ。多クハ二三日ニシテ血液吸収輕快ス。	特殊ノモノニテ鑑別スベキモノナシ。
	2) 眼窩窩膿炎 Phlegmone orbitae	副鼻腔炎或ハ附近ノ蜂窩織炎ニ併發シ急性ニ始マル。	單ニ眼球突出ノミナラズ、眼瞼ノ發赤腫脹・疼痛著シク、眼球結膜ニ浮腫充血アリ。眼球ニモ疼痛ヲ訴フ。體溫上昇・熱症狀著明。	此三者ハ時トシテ互ニ鑑別ヲ要ス。(3)ハ鬱血乳頭アルニヨリ他ト區別ス。兩側性ナル時又ハ無熱ナレバ診斷一層容易ナリ。(2)ト(4)ハ鑑別困難ナルコトアルガ、眼窩窩膿炎ノ壓痛著明ナル時、經過慢性ナル場合ハ後者ナリ。
	3) 眼窩靜脈血栓 Thrombose der Orbitalvenen	附近ノ化膿性・靜脈竇血栓(時トシテハ兩側性ニ來ル)ニ續發。	眼瞼一様ニ腫脹スルモ多クハ急性炎症症狀ヲ伴ハズ。眼球結膜浮腫・鬱血乳頭アリ。體溫上昇及ビ熱症狀著明或ハ缺如。	
	4) 眼窩急性骨膜炎 Periostitis acuta der Orbita	外傷後或ハ附近ノ化膿性ニ續發(甚ダ稀)。	眼瞼炎症性浮腫・眼窩窩ノ壓痛・眼球ノ疼痛・運動制限等アリ。屢々眼窩窩膿炎ヲ併發。熱發及ビ熱症狀著明。	
慢性性症	5) 眼窩骨結核及梅毒 Tuberkulose u. Syphilis der Orbitalknochen	何レモ甚ダ稀有、夫々ノ原因的關係アリ。	慢性ニ眼瞼浮腫シ(充血ナシ)。眼窩窩ノ輕度ノ壓痛・眼球ノ運動障礙等アリ。X線検査ニテ骨變化著明或ハ不明。	腫瘍及ビ囊腫ト鑑別ヲ要ス又兩者ノ區別ハ他ト同様。
	6) 眼球後腫瘍及囊腫 Retrolbulbäre Tumoren u. Zyste	a) 肉腫特ニ「グリオ肉腫」。	比較的モ多キモノナリ。若年者ニ發生シ成長比較的速ニシテ眼球ノ突出ヲ來シ、時トシテハ結膜ニ浮腫アルモ充血ナシ。末期ニハ眼球及ビ周圍ニ滲潤性ニ成長ス。	初期ニハ他ノ腫瘍又ハ囊腫ト鑑別困難ナルガ、少シク進行セルモノハ容易ナリ。
		b) 纖維腫・骨腫・血管腫・脂肪腫等。	甚ダ稀ナリ。慢性ニ眼球ノ突出ヲ來ス。骨腫ハX線ニヨリテ證明セラルルコトアリ。血管腫ハ頭部下垂ニヨリ増大ス。	其或者ハ診斷稍々容易ナルモ、多クハ臨床的診斷困難ナリ。
		c) 皮膚様囊腫・包蟲腫。	甚ダ稀ナリ。慢性ニ眼球突出ス。	
		d) 腦ヘルニア Cephalocoele	甚ダ稀ニ先天性ニ本症ガ眼窩窩内ニ發生セル爲ニ眼球突出ヲ來スコトアリ。	
7) 眼窩靜脈靜脈瘤 Varizen der Orbitalvenen		甚ダ稀ナリ。徐々ニ眼球突出ス。頭部下垂・努責ニヨリ著明トナリ。平靜ニ復スレバ縮小ス。搏動ナシ。	血管腫ニ比シ容積ノ縮小著明ナリ。	
8) 眼窩動脈動脈瘤 Aneurysma d. A. ophthalmica	外傷又ハ特發性ニ發生ス。	徐々ニ眼球ノ突出ヲ來ス。搏動著明ニシテ雜音ヲ發ス。眼瞼浮腫・鬱血乳頭アリ、頸動脈ノ壓迫ニヨリ縮小ス。	血管腫・靜脈瘤ト鑑別ヲ要ス。	

9) バセドー氏病 Basedowsche Krankheit	毎 常	バセドー氏病ニ特有ナル甲状腺腫其他ノ各症狀アルニヨリ診斷容易。 眼球突出多クハ兩側性ニシテ略ボ同程度ナルモ、稀ニハ一側ニ著明ナルコトアリ。
10) 骨癩面症 Leontiasis ossen	兩 側 性	顔面骨ノ慢性肥厚從ツテ顔面ノ畸形著明ニシテ(總論及ビ第317頁参照)。 眼球突出ハ全ク從屬的ノモノナリ。
11) 白血病及假性白血病		特殊ナル血液・淋巴腺・脾臟・肝臟等ノ變化アルニヨリ診斷容易。

第五百十七圖

眼球ノ肉腫
(n. Wilms)



第五百十八圖

眼球後部腫瘍
(n. Cernach)

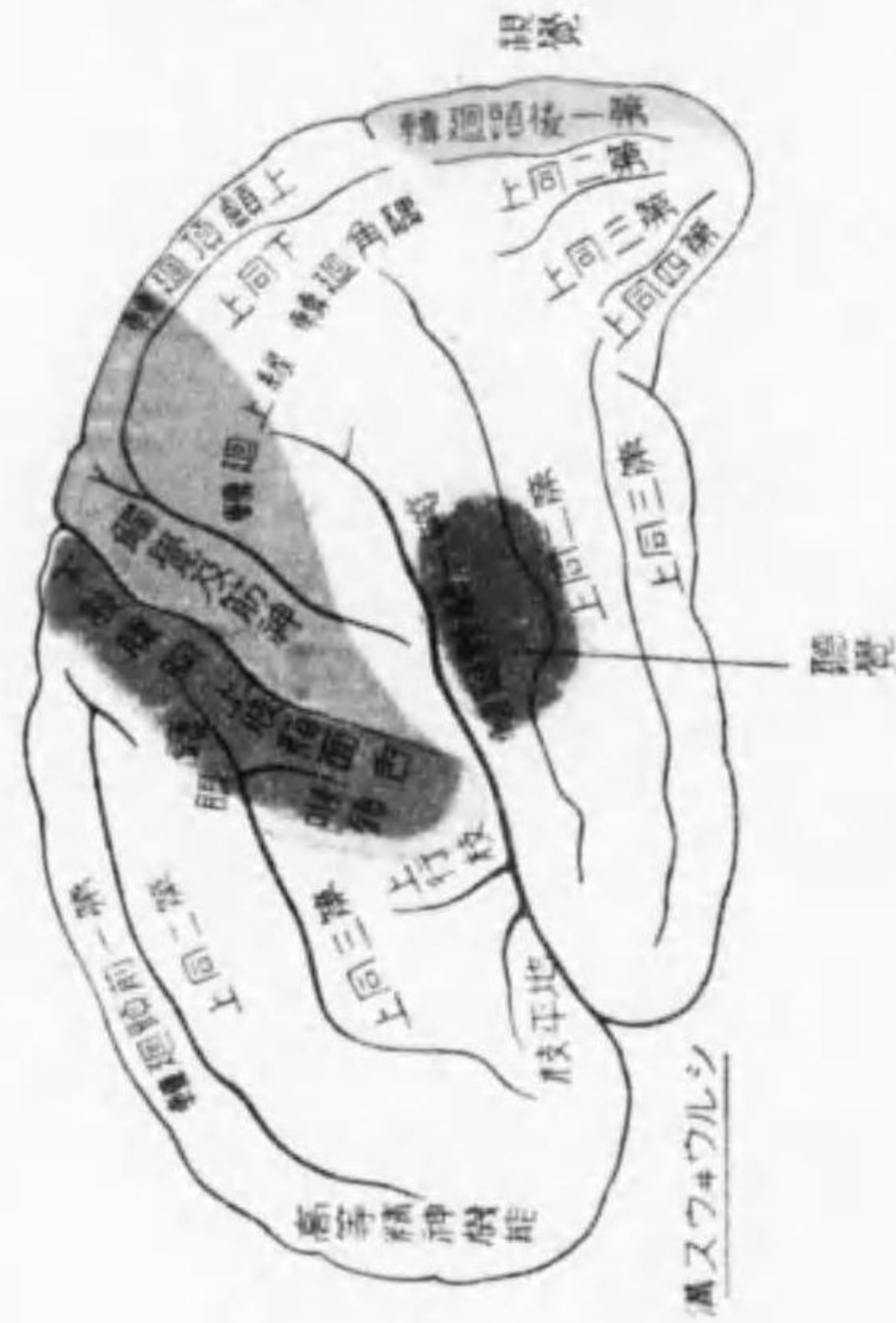


XI. 腦ノ竈局症狀 Herdsymptome des Gehirns

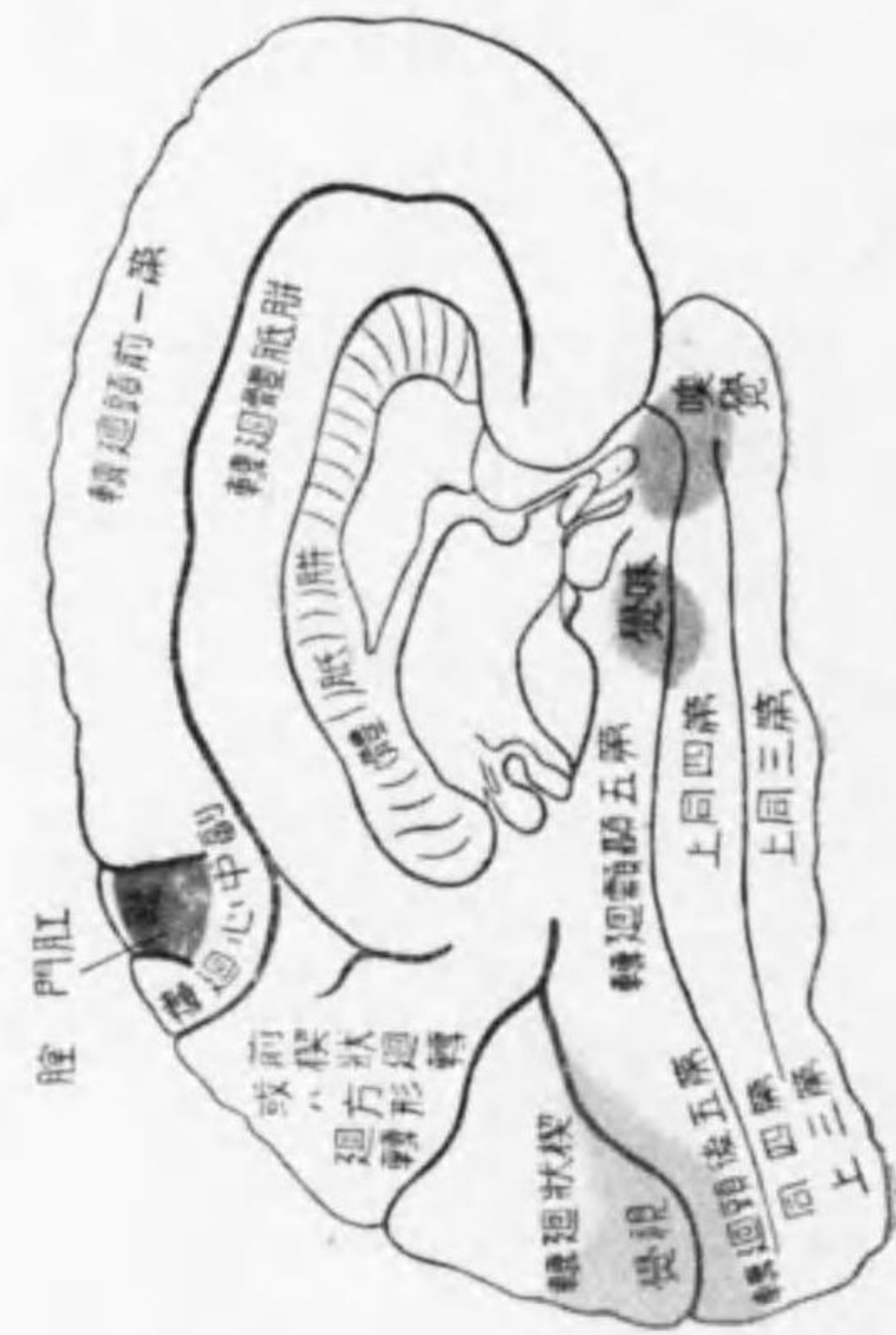
		運動障礙 Motorische Störung			
		麻 痺 症 狀	刺 戟 症 狀		
(1) 腦皮質 Cerebrinhinde	a) 正中廻轉 Zentral-Windungen	前正中廻轉 上三分ノ一	反對側ノ下肢 單癱。	何レモ單癱ニシテ完 全ノ半身不隨ヲ來サ ズ、毎常痙攣性麻痺 ニシテ筋肉ノ強剛ヲ 來シ、變性萎縮及ビ 電氣反應變性ヲ來サ ズ。	搐搦性 klonisch, 稀ニ 緊張性 tonisch ノ痙 攣ヲ起ス。 時トシテジャクソン 氏性痙攣又ハ舞踏病 樣運動及ビ痙攣ヲ來 ス。
		前正中廻轉 中三分ノ一	反對側ノ上肢 單癱。		
		前正中廻轉 下三分ノ一	反對側ノ顔及 ビ舌單癱。		
	b) 前頭廻轉 Stirn-W. (Brocasche W.)	運動性失語症(語啞)、多クハ書字不 能症ヲ伴フ(通常左側ノ障礙ニヨル モ左利者ニハ右側ノ障礙ニヨル)。		(-)	
	c) 額頂廻轉 (Schlafen-W.) ノ上後三分ノ一	(-)		(-)	
	d) 顛頂廻轉 (Scheitel-W.)	反對側ノ眼瞼下垂症・兩眼及ビ頭部 ノ患側廻轉。		(-)	
e) 後頭廻轉 (Hinterhaupt-W.)	(-)		(-)		
2) 内囊部 Innere Kapsel	反對側ノ 上下肢ノ 半身不隨 (痙攣性)	其障礙著シキ時ハ顔面及ビ舌 ノ麻痺ヲ來シ、言語モ障礙セ ラル。變性萎縮・電氣反應變 性ヲ來サズ。		(-)	
3) 大脳脚 Hirnschenkel 脳被膜部 Haubenregion		時トシテハ同側ノ動眼神 經麻痺ヲ來シ或ハ「ヘミ アタキシー」ヲ起ス。	時應 ト變 シ性 テア テア	(-)	
4) 橋 髓 Brücke (Pons)		同側ノ眼ノ外旋神經麻 痺・顔面神經麻痺・咬筋麻 痺・時トシテハ「アタキシ ー」等	變性 萎縮 ・電 氣反	痙々痙攣ヲ發シ、特 ニ牙關緊閉ヲ見ル。	
5) 延 髓 Medulla oblongata		言語・咀嚼・嚥下・呼吸・血 行障礙ヲ來シ、甚シキハ 即死ス。	電氣反	(-)	
6) 四 疊 體 Corpora quadrigemina		動眼神經麻痺(多クハ兩側性)即チ眼 球運動麻痺・瞳孔麻痺・眼調節不能・ 眼瞼下垂等アリ時トシテハ「アタキシ ー」		震顛・舞踏病・眼球震 顛アリ。	
7) 視神經牀 Thalamus opticus	反對側ノ顔面表情麻痺。 時トシテ半身失調。		時トシテ舞踏病・「ア テトーゼ」・注意震 顛。		
8) 小 腦 Kleinhirn	歩行蹣跚・眩暈(但シロムベルグ症狀 ナシ)、稀ニハ強迫位・強迫運動。		時トシテ注意震顛・ 眼球震顛。		

知 覺 障 礙 Sensible Störung	意 識 障 礙 Sensorische Störung	反 射 Reflexe	(9) (10) (11) 腦 下 垂 體 Hypophysie ニ 障 礙 アル 時 ノ 肢 端 肥 大 症 Akromegalie ヲ 起 ス。
著シキ障礙ナシ、併シ時ト シテハ觸覺及ビ部位覺僅カ ニ減退スルコトアリ。	(-)	深部反射(腱及ビ筋 反射)亢進。	左記以外ノ部位ニ於ケル障礙ニハ特殊ノ症狀ヲ早セズ。其他内科書參照。 IV. Ventricelニ障礙アル時ハ多尿症・蛋白尿・糖尿等アリ。 Hypophysieニ障礙アル時ハ肢端肥大症・Akromegalieヲ起ス。
(-)	(-)	(-)	
(-)	語聲ヲ兼ネタル感覺性失語 症、兩側性ノ時ハ聲啞。	(-)	
(-)	(-)	(-)	
(-)	交叉性同名半盲症。 兩側性ナレバ全盲。	(-)	
反對側半身不隨アル部位ノ 知覺麻痺。	反對側ノ聽力減退及ビ半盲 症、時トシテハ失語症(左 側障礙)。	筋肉及ビ腱反射亢進 併シ皮膚反射ハ消失。	
同上。	(-)		
同上。 時トシテ疼痛・知覺異常。	(-)	消失。	
同上(稀)。	(-)		
同上(時トシテ)。	聽力減退・反對側同名半盲 症。	(-)	
同上(時トシテ)。 或ハ疼痛・知覺異常。	反對側同名半盲症。	(-)	
(-)	小腦ノ腫瘍ニ於テハ遠隔症 狀トシテ視力・聽力・味覺障 礙アリ。	膝蓋腱反射時トシテ 亢進。	

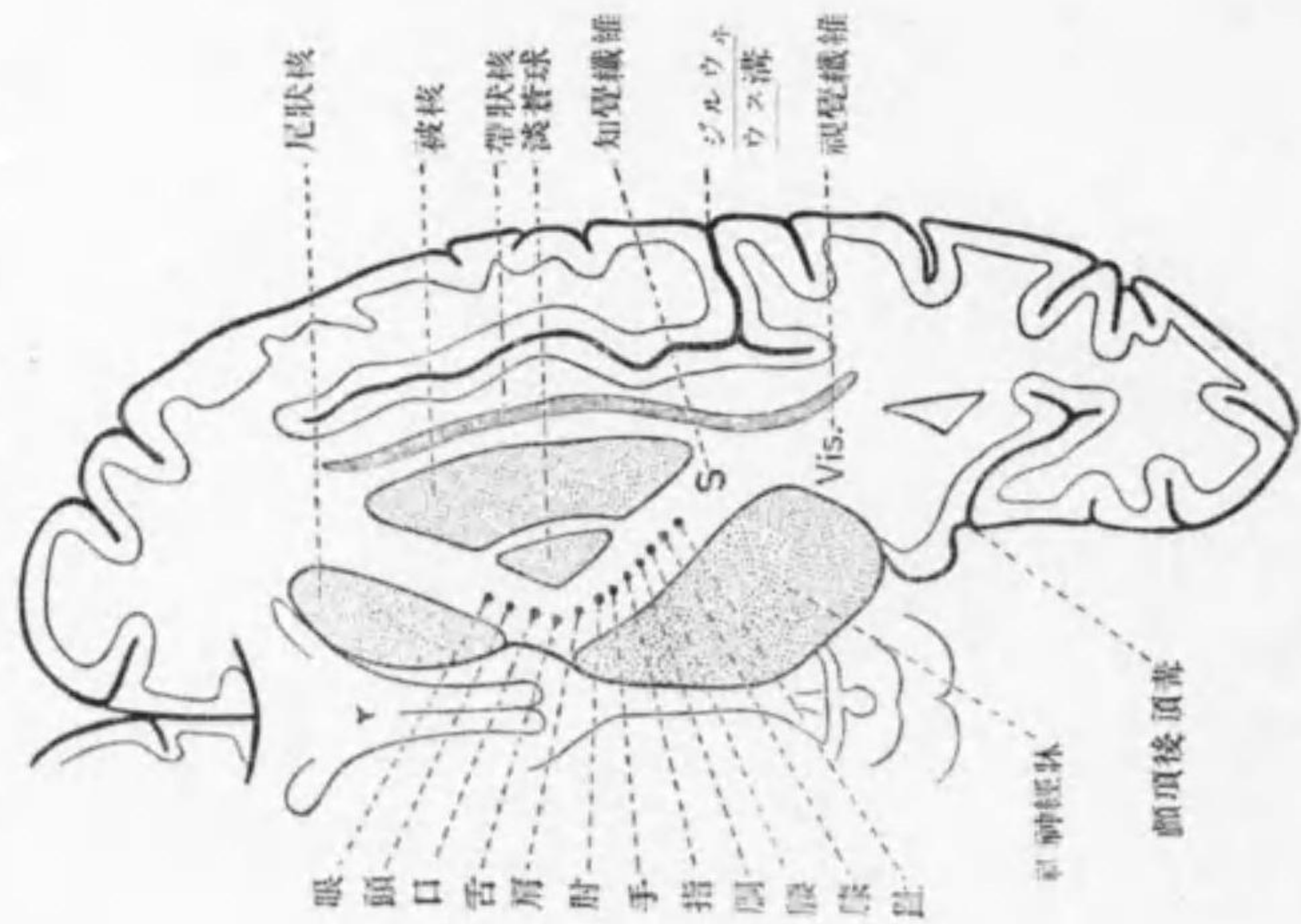
第五百十九圖 大腦半球外面



第五百二十圖 大腦半球內面



第五百二十一圖 右大腦ノ地平断面ニ於ケル内囊ノ外部ヲ示ス

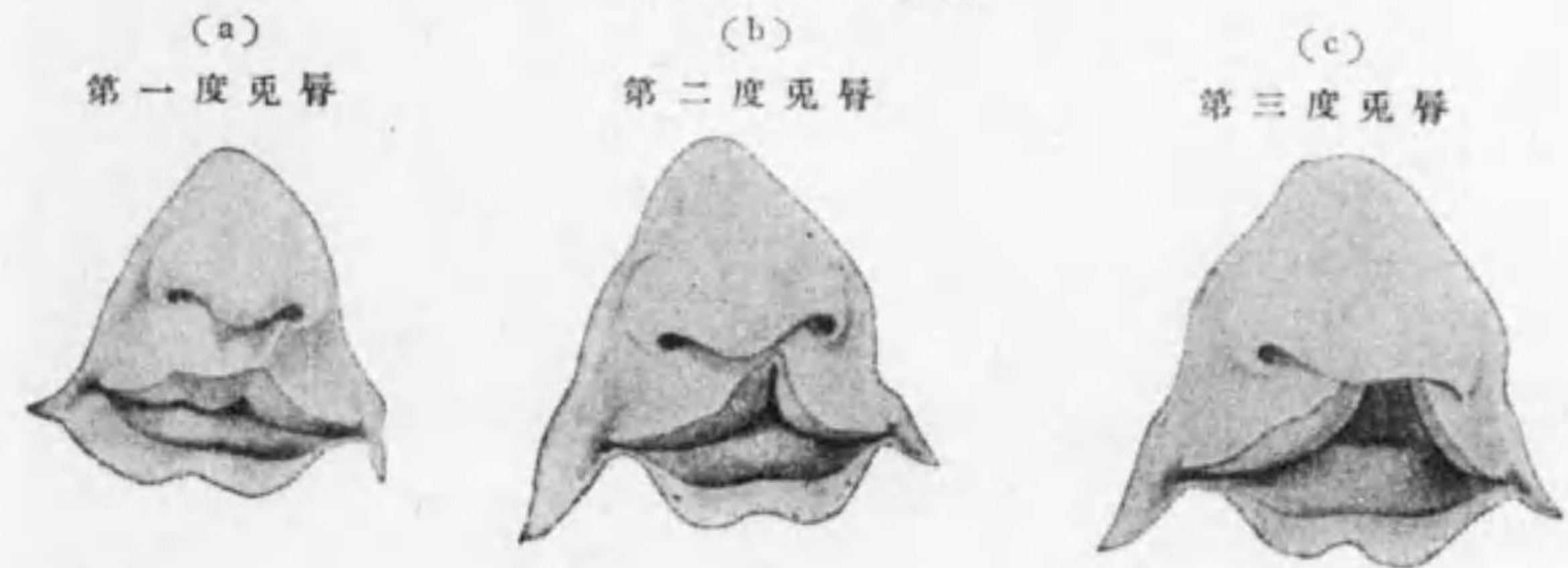


第三章 顔面外科 Gesichtschirurgie

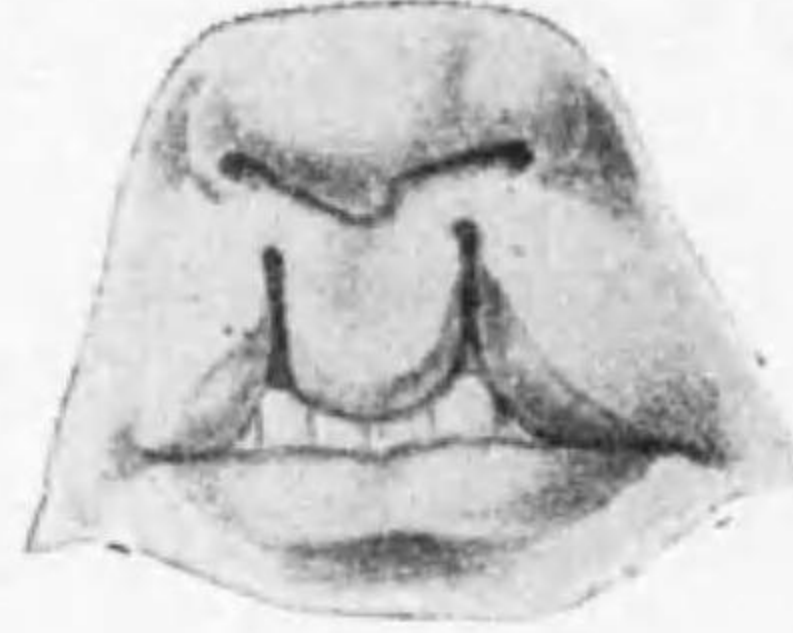
I. 顔面ノ先天性畸形 Angeb. Missbildungen des Gesichts

1) 兔唇或上唇破裂症 Hasenscharte (兔唇以外ノ顔面畸形ハ甚ダ種ナリ)。	a) 不全兔唇 Unvollständige Hasenscharte i) 第一度 I. Grad (口唇粘膜ノ破裂ニ留マルモノ)。 ii) 第二度 II. Grad (口唇破裂ノ鼻孔ニ達セザルモノ)。 b) 全兔唇 Vollständige Hasenscharte iii) 第三度 III. Grad (口唇破裂ノ鼻孔ニ及ベルモノ)。 a) 偏側兔唇 Einseitige Hasenscharte (特ニ左側ニ多シ)。 b) 兩側兔唇 Beidseitige Hasenscharte (前者ニ比シテ種)。 a) 單純兔唇 Einfache Hasenscharte b) 複雜兔唇 Komplizierte Hasenscharte (屢々口蓋破裂ヲ伴フ)。
2) 正中上唇破裂症 Mediale Spaltung der Oberlippe 前者(1)ハ多キモ之ハ甚ダ種。	
3) 鼻破裂症 Nasenspalte (鼻瘻 Nasenfistel ニ此部ニ屬ス)。 a) 正中鼻破裂症 Mediale Nasenspalte (其高度ナルヲ「ブルドッグ鼻 Bulldognase ト云フ)。 b) 側鼻破裂症 Laterale Nasenspalte	
4) 斜顔面破裂症 Schräge Gesichtsspalte 之ニ種々ノ形及ビ程度アリ, 多クハ口角ヨリ破裂ス(第526圖)。	
5) 横顔面破裂症或頬破裂症 Quere Gesichtsspalte od. Wangenspalte 巨口症 Makrostomie. 小口症 Mikrostomie モ之ニ關係アリ。	
6) 下唇破裂症 Spaltbildung der Unterlippe	
7) 下唇瘻 Unterlippenfistel	
8) 複口唇 Doppellippe (口唇ニ横溝アルモノヲ云フ)。	

第五百二十二圖



第五百二十三圖
兩側性兔唇
(n. Bruns)



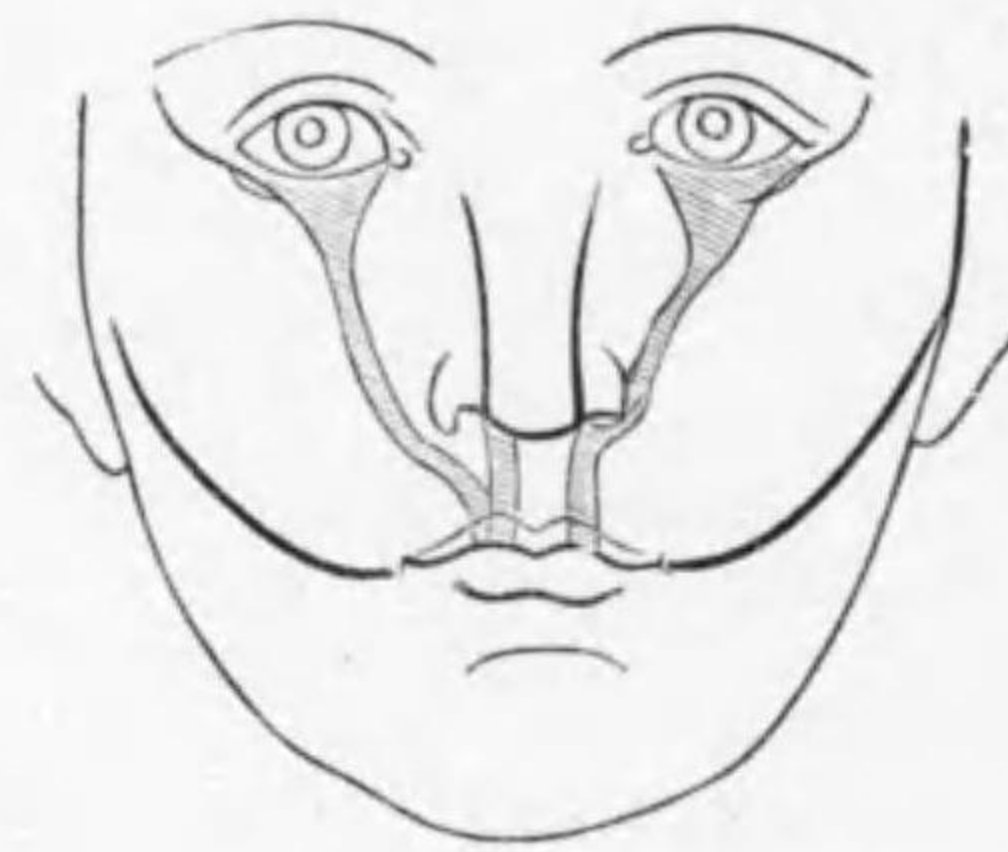
第五百二十四圖 上唇破裂
(n. Bergmann)



第五百二十五圖
橫顔面破裂



第五百二十六圖
種々ノ斜顔面破裂線ヲ示ス



第五百二十七圖
下唇ノ正中破裂 (n. Hochberg)

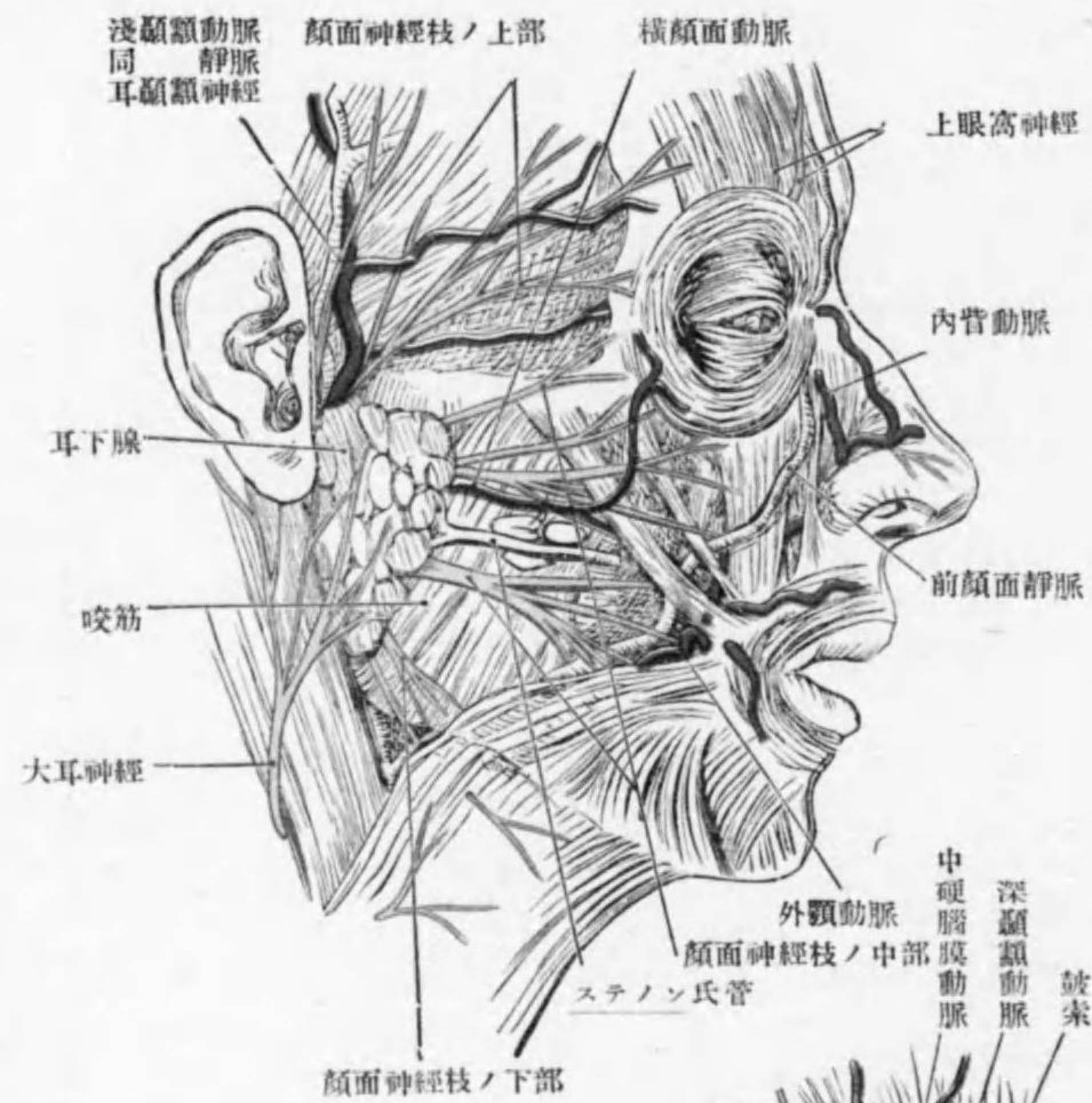


第五百二十八圖
瘦口唇 (鹽田教室所藏)

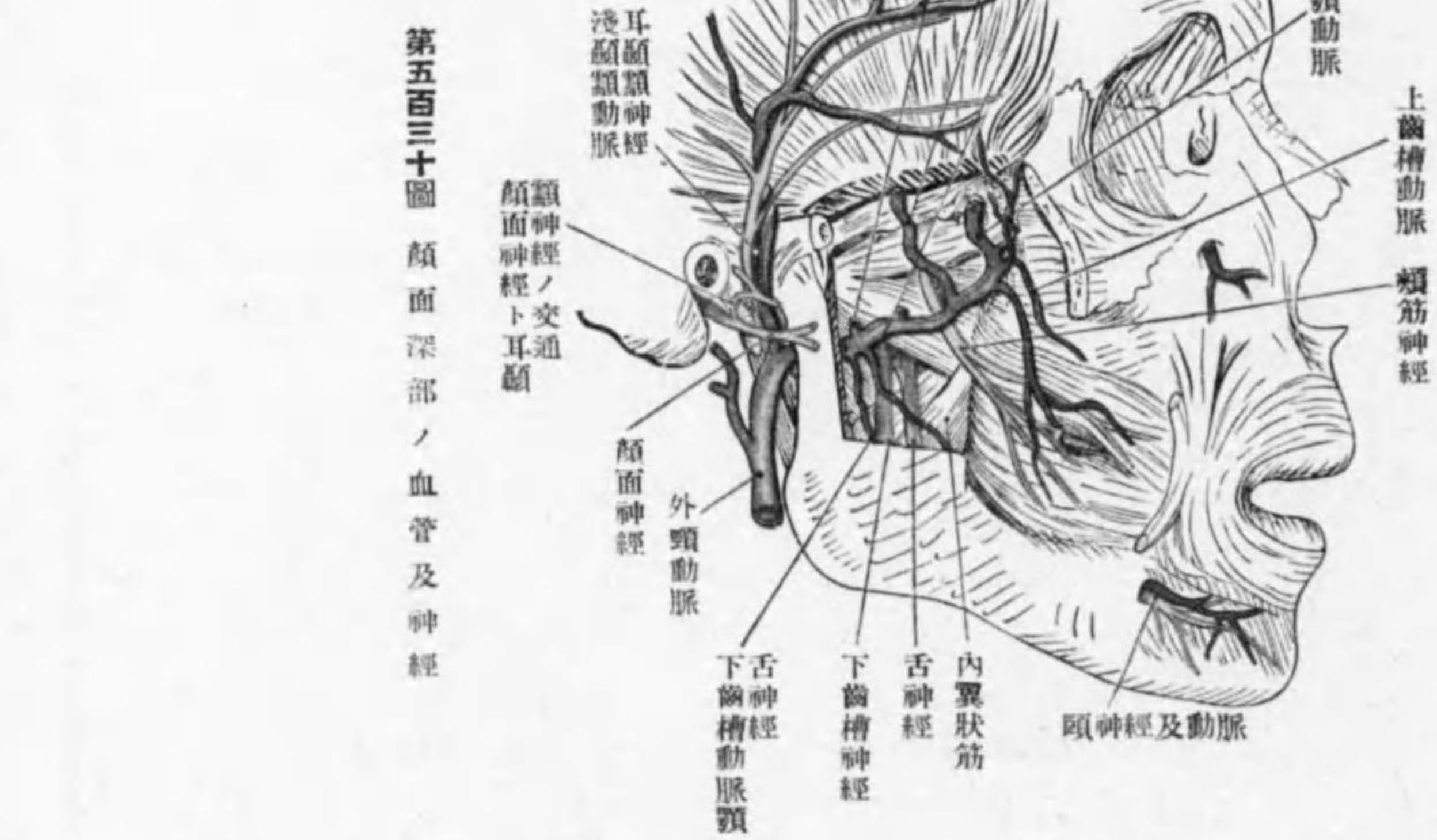


II. 顔面ノ損傷 Verletzungen des Gesichts

<p>1) 顔面ノ創傷 Wunde d. Gesichts</p>	<p>顔面ニハ切創・刺創・挫創・銃創・彈片創等種々アリ。而シテ顔面ノ創傷ニ於テ注意スベキコトハ</p> <ul style="list-style-type: none"> i) 顔面ハ血管ニ富ムヲ以テ小ナル創傷ニテモ大出血アリ。 ii) 顔面ノ創傷ハ化膿シ難キモ、一旦化膿スル時ハ蜂窩織炎・腦膜炎・靜脈竇炎等ヲ起スコトアリ。 iii) 創傷大ナル時ハ治後顔面ノ畸形ヲ殘スコトアリ。 iv) 口角ト耳翼輪ノ聯結線上ニ於ケル創傷ニ於テハ耳下腺又ハ其排泄管ナルステノニ尿管ガ損傷セララル時ハ後來唾液瘻 Speichelfistel ヲ殘スコトアリ。唾液瘻ハ治癒シ難キモノナリ。 v) 耳下腺附近ノ創傷又ハ手術ニ際シテ顔面神經ヲ傷ツクル時ハ顔面神經麻痺 Facialislähmung ヲ殘スコトアリ(解剖圖參照)。
<p>2) 顔面ノ挫傷 Kontusion od. Quetschung</p>	<p>種々ノ鈍力ノ作用ニ因ル、皮下溢血著明ナリ。顔面骨ノ骨折有無ニ注意スベシ。</p>
<p>3) 顔面ノ火傷 Verbrennung</p>	<p>屢々顔面ニ火傷ヲ見ル。 第三度火傷ニ於テハ顔面ノ醜形ヲ殘シ易シ。</p>
<p>4) 顔面ノ凍傷 Erfrierung</p>	<p>鼻・耳翼ニ凍傷ヲ來シ易シ、併シ第三度凍傷ハ稀ナリ。</p>
<p>5) 顔面骨骨折 Fraktur d. Gesichtsknochen</p>	<p>a) 鼻梁骨折 Fraktur des Nasengerüsts. 直接外力ニヨリテ起ル。 鼻骨骨折ト鼻中隔骨折ノ別アリ。 初メ皮下溢血著明ナルヲ以テ診斷困難ナラズ、溢血去ルト共ニ鼻梁ノ陥没ヲ認ム(外傷性鞍鼻 Traumatische Sattelnase)。 鼻骨折ニ於テハ屢々鼻血 Epistaxis 著明ナリ、特ニ鼻中隔ノ骨折ニ著シ、出血著シキ時ハ一時鼻タムボンニヨリテ止血セシメタル後檢スベシ。 X線ニヨリテ確診セララル。</p> <p>b) 顴骨骨折 Fraktur des Jochbeins (Zygomaticus) 直達性外力ニヨル、併シ甚ダ稀ナリ。 初期ニハ皮下溢血著明ナルニヨリテ不明ナルコトアルモ溢血去ルト共ニ明カニ知ラル。又限局性壓痛アリ。</p> <p>c) 上顎骨骨折 Fraktur des Oberkiefers (第 351 頁)</p> <p>d) 下顎骨骨折 Fraktur des Unterkiefers (,,)</p>



第五百二十九圖 顔面表部ノ血管及神經



第五百三十圖 顔面深部ノ血管及神經

第五百三十一圖 上唇ノ癰腫 (n. Quervain)



第五百三十二圖 上顎骨附近ノ蜂窩織炎 (Sammlang Borak)



第五百三十三圖 急性涙腺炎 (n. Cemach)



第五百三十四圖 涙囊炎 (n. Cemach)



III. 顔面ノ急性炎症 Akute Entzündungen des Gesichts

	發 生	局 所 症 狀
1) 丹 毒 Erysipelas	顔面ヨリ發生スルモノ多シ、或ハ頭部・咽頭ヨリ發病スルコトアリ。	發赤顯著ナルモ腫脹疼痛ナシ(但シ眼瞼・耳翼ニハ浮腫アルコトアリ)。發赤部ノ限界明瞭ニシテ速ニ周圍ニ蔓延ス(舊患部ハ褪色ス)、時トシテハ水疱ヲ生ズ。
2) 蜂窩織炎 Phlegmone	原發性ノモノハ甚ダ稀ニシテ、他ノ各種化膿症ニ續發。	發赤・腫脹・疼痛アリ。腫脹ハ中央部ニ近ク著明ニシテ、周圍ノ限界瀰漫性・蔓延速ナラズ、陳舊部ニハ軟化ヲ來スコトアリ。
3) 面疔及癰 Gesichtsfurunkel u. Karbunkel	顔面ニ屢々原發ス。	初メ小限局性腫脹・發赤・疼痛アリ、中央突出シテ膿栓ヲ形成ス(癰ニ於テハ膿栓多發)、後ニハ蜂窩織炎ヲ伴フコト多ク瀰漫性ニ腫脹ス。
4) 脾 脫 疽 Milzbrand	甚ダ稀ニ發生、牛馬等ニ關係アル人ニ多シ。	脾脫疽癰・水疱・浮腫アリ。汚穢ノ痂皮乃至壞疽ヲ生ジ、滲潤可ナリ硬ク、疼痛著明ナラズ。
5) 化膿性粉瘤 Infizierter Atherom	時トシテ見ラル二十歳後ニ多シ。	限局性腫脹・疼痛・發赤等アリ。膿瘍狀ヲ呈ス。併シ限界稍々明瞭、單純ノ切開ニテハ治セズ。
6) 急性膿瘍 Akuter Abszess	比較的稀。(小兒ニ多シ)。	限局性腫脹・發赤・疼痛等アリ。前者ニ比シ硬度軟。
7) 急性淚囊炎 Dakryoadenitis acuta	稀、原因不明。或ハ淚管カダールノ經過中ニ發生。	淚囊部ニ急性炎症性腫脹・疼痛・發赤アリ。次第ニ下眼瞼・頰部ニ腫脹ヲ及ボシ、淚漏著シ。時トシテハ膿瘍ヲ形成ス。
8) 急性淚腺炎 Dakryoadenitis acuta	稀。	淚腺部(上眼瞼縁)ニ急性腫脹・疼痛・發赤等アリ。淚腺ヲ明カニ觸知シ、壓痛アリ。眼瞼結膜ノ外方ニ充血アリ。前額・額部腫脹ス。
9) 急性耳下腺炎 Parotitis acuta	流行性耳下腺炎トシテ來リ、或ハ麻疹・肺炎後等。	偏側或ハ兩側ノ耳下腺ニ急性腫脹・疼痛・發赤・熱感アリ、屢々周圍ニ蜂窩織炎ヲ伴フ、時トシテハ化膿シテ外聽道ニ穿破スルニ至ル。
10) 上 額 竇 副 鼻 腔 炎 前 額 竇 篩 骨 蜂 窩	比較的屢々。 稀。	初期ニハ顔面ニ著變ナシ、進行スルニ從ツテ鼻腔・頰部等ニ炎症性腫脹ヲ認ム。 (耳鼻科書參照)。 犬齒窩・下眼瞼部ニ壓痛アリ。 内上眼窩部ニ壓痛アリ。 内眼窩部ニ壓痛アリ。

顎骨ノ炎症ニ就テハ第 354 頁ニ述ブ。

全身症狀 (熱發)	經 過 等	診 斷
多クハ高熱持續シ時トシテハ譫妄・昏睡	經過速ニシテ一週間内外ニテ治癒(或ハ死)。時トシテ再發・再燃アリ。	診斷多クハ容易ナレドモ初期ニハ見逃スコトアリ。蜂窩織炎・皮膚炎ト鑑別スベシ。
熱發及ビ隨伴症狀多クハ著明ナリ。	比較的速ニ吸收セラルルカ或ハ軟化化膿ス、或ハ死。	丹毒ト鑑別スベシ。原病ノ探査ニ注意スベシ。
限局性ナルハ然ラザルモ瀰漫性ナルハ熱發等全身症狀重篤。	同上、屢々重篤ニ陥ル。	多クハ容易。脾脫疽ト鑑別スベシ。
高熱及ビ全身狀態重篤ナルコト多シ。	他ニ血行轉移ヲ生ズルコトアリ。屢々死亡ス。	面疔及ビ癰ト鑑別スベシ。細菌的検査必要ナリ。
熱發等少ナシ。	自潰スルコトアルモ、囊壁アル間ハ治セズ。	膿瘍ト鑑別スベシ(既往ニ粉瘤アリ)。
屢々熱發等アリ。膿毒症ニヨルハ重篤。	治シ易シ。併シ膿毒症ハ危險。	前者ト鑑別。
時トシテ高熱アリ、併シ著シカラザルコトモアリ。	比較的速ニ治癒。 同上。	多クハ容易。 多クハ容易。
熱發著明或ハ輕度。	比較的速ニ治、稀ニ死。	多クハ容易。
熱發著明ナラザルコト多シ屢々神經衰弱症狀ヲ伴フ。	屢々慢性ニ移行ス	多クハ容易。鼻腔等ノ検査必要ナリ(耳鼻科書參照)。

Erysipelas
Erysipel u. Karbunkel

IV. 顔面ノ慢性炎症及潰瘍
Chronische Entzündungen u. Geschwüre d. Gesichts

1) 顔面ノ梅毒 Syphilis	a) 第一期梅毒 稀ニ口唇附近ニ硬性下疳ヲ形成スルコトアリ。顎下腺炎ヲ伴フ。軟性下疳ト鑑別ヲ要ス。 b) 第二期梅毒 屢々顔面ニ特有ナル微毒性發疹ヲ生ズ。 c) 第三期梅毒 軟部(口唇・口角・頰部・前額部等)又ハ骨(鼻骨・前額骨・口蓋骨等)ニ膿膜腫ヲ形成スルコトアリ。初ハ軟性腫瘍ト誤ラル。後ニハ次第ニ吸收セラレルカ、或ハ自潰シテ微毒性潰瘍ヲ生ジ、次第ニ瘻底ヲ殘シテ治ス。骨ニ於テハ骨缺損及ビ骨増殖アルコトアリ。
2) 顔面ノ結核 Tuberkulose	a) 尋常性瘰癧 Lupus vulgaris 屢々顔面ニ發生ス。之ニ種々ノ形アリ。後ニハ鼻翼・耳翼等ヲ崩潰ス(總論參照)。 b) 寒性膿瘍 Kalter Abszess 顎骨結核ニ續發スルコトアルモ甚ダ稀ナリ。
3) 顔面アクチノミコーゼ Aktinomykose	時トシテ顔面ニ來ルコトアリ。滲潤比較的廣汎トナラズ、軟化シテ小膿瘍瘻孔ヲ生ジ、特有ナル「ドルーゼ」ヲ有スル膿ヲ排出ス。其跡ハ比較的速ニ治スルモ、又他部ニ生ズ(總論參照)。
4) 顔面癩 Lepra	顔面ニ豌豆大乃至拇指頭大ノ結節ヲ作り、其色赤色・暗赤色・褐色ニシテ表面ニ光澤アリ、知覺脫失ヲ特有トス。其他眉毛・睫毛・頭髮脫落シ、各所ノ神經ノ肥厚ヲ認ム(總論參照)。
5) 顔面ノ潰瘍 Geschwüre	a) 單純性潰瘍。b) 癌腫性潰瘍。c) 微毒性潰瘍。d) 軟性下疳等ヲ發生スルコトアリ(總論參照)。

第五百三十五圖
剃刀損傷後ノ初期硬結
(n. Wilson)



第五百三十六圖
顔面及胸部軟性下疳
(山村博士ニ據ル)



第五百三十七圖
初期瘰癧



第五百三十八圖
疣狀又ハ乳嘴性瘰癧
(山村博士ニ據ル)



第五百三十九圖
顔面結節癩
數個ノ潰瘍ヲ現出ス (光田氏)



第五百四十圖
顔面半部ノ「アクチノミコーゼ」(自家實驗)



V. 顔面軟部ノ腫瘤類 Tumoren der Weichteile des Gesichts

1) 纖維腫 Fibrom	a) 硬性纖維腫	硬靱ナル限局性腫瘤ニシテ巨大トナラズ。粉瘤・皮膚様囊腫・小脂肪腫等ト鑑別ヲ要ス。
	b) 軟性纖維腫	稍々軟軟ノ腫瘍ニシテ、時トシテハ他部ニモ多發ス。單發ナルハ脂肪腫・深在性血管腫・淋巴管腫・誤謬腫等ト鑑別ヲ要ス。
2) 神經纖維腫 Neurofibrom		眞性ノ神經腫ヲ見ルコトハ殆ンドナク、毎常神經纖維腫ニシテ纖維腫ト同様ノ症狀ヲ有ス。
3) 瘡痕ケロイド Narbenkloid		瘡痕ノ跡ニ生ズルモノニシテ纖維腫ノ如クニ硬靱ナリ。併シ纖維腫ト異ナリ瘡痕ト關係アリ、成長無限ナラズ。
4) 皮 角 Hauthorn		其特有ナル外見ニヨリ診斷容易ナリ。
5) 乳 嚙 腫 Papillom		其特有ナル外見ニヨリ診斷容易ナリ。但著大トナラズ。
6) 腺 腫 Adenom		皮脂腺ヨリ發生スルコトアルモ其ダ稀ナリ。確診ハ組織的検査ニヨルノミ。
7) 脂肪腫 Lipom	a) 硬性脂肪腫	限局性腫瘍ニシテ表面分葉狀ヲ呈シ、硬度ハ弾力性稍々軟軟ナリ。軟性纖維腫・粉瘤・誤謬腫等ト鑑別。
	b) 軟性脂肪腫	屢々可ナリ著大トナル。限界不明瞭ナルコトアリ。表面ノ分葉狀凹凸不明ナルコトアリ。弾力性軟時トシテ假性波動。淋巴管腫・血管腫・誤謬腫等ト鑑別。
8) 血管腫 Angiom (努責・頭部下垂ニヨリ腫痛著大ニ色彩著明トナル。此ノ如キハ他ノ腫痛ニナシ)。	a) 單純性血管腫	先天性ニ來ル限局性腫瘍ニシテ表面暗赤色或ハ藍青色ヲ呈シ(深在性ナル時ハ不明)、軟性ニシテ壓縮性ヲ有ス。表在性ナルハ診斷容易ナルモ、深在性ノモノハ種々ノ軟性腫痛ト鑑別ヲ要ス。特ニ淋巴管腫ニ酷似ス。
	b) 海綿狀血管腫	表面ノ色・壓縮性・硬度(時トシテ其中ニ小結節アリ)特有ナリ。可ナリ著大トナルコトアリ。大ナルモノハ限界不明瞭ナルコトアリ。淋巴管腫・誤謬腫等ト鑑別ヲ要ス。
	c) 蔓狀血管腫	血管ハ蔓狀ニ擴張蛇行シ一見シテ診斷容易ナリ。
9) 淋巴管腫 Lymphangiom	a) 單純性淋巴管腫	稀ニ顔面ニ來ル小腫痛ナリ。軟性ニシテ壓縮性ヲ有ス。血管腫・脂肪腫・誤謬腫ト鑑別ヲ要ス。
	b) 海綿狀淋巴管腫	稀。著大トナル。軟性ニシテ壓縮性著明ナリ、血管腫・誤謬腫ト鑑別ヲ要ス。
	c) 蔓狀淋巴管腫	顔面ニハ殆ンドナシ。
10) 母 斑 Naevus	a) 血管性母斑	小血管腫ナリ。暗赤色又ハ藍青色ニシテ表面ニ隆出セズ。
	b) 色素性母斑	先天性ニ來ル色素ノ限局性沈着ニシテ暗黒色ヲ呈ス。

11) 軟骨腫 Chondrom		稀ニ前額骨・眼窩内ニ發生ス。外部ニアルモノハ特有ナル状態ニヨリ診斷容易。
12) 骨 腫 Osteom		
13) 内被細胞腫 Endotheliom		混合腫瘍ノ一成分トシテ來ル。確診ハ組織的検査。
14) 混合腫瘍 Misch-Geschwulst		耳下腺部ノ混合腫瘍ト同様ノモノナリ。表面不同凹凸・硬度不同等ノ症狀アリ。周圍ト癒着ナシ。
15) 耳 贅 肉 Aurikularanhänge		耳翼形成等ニ關係アル第一腮弓ノ殘物ニシテ、先天性ニ存スル小腫痛ニシテ結締織ヨリ成リ、時トシテハ其間ニ軟骨組織ヲ有ス。増大セズ。
16) 肉 腫 Sarkom	a) 顔面皮下ノ肉腫	其ダ稀ニ生ズ。成長速ニシテ可ナリ著大トナル。後ニハ轉移ヲ形成ス。初期ニハ誤謬腫・纖維腫・脂肪腫等ト鑑別ヲ要ス。
	b) 骨(上下顎骨前額骨)ノ肉腫	其ダ稀。骨膜性ト骨髓性トアリ(顎骨及總論參照)。特有ノ状態ニヨリ診斷容易ナリ。
	c) 黒色肉腫	稀ニ顔面皮膚ニ發生シ、特有ナル色ヲ有ス。血行轉移速ニシテ最モ悪性ナリ。
	d) グリオ肉腫	眼窩内又ハ脳腔内ニ發生セルモノガ顔面ニ膨出又ハ轉移ヲ生ズルコトアリ。
17) 癌 腫 Karzinom	a) 潰瘍性癌	初期ニハ特有ナル圓形潰瘍 Ulcus rodens ノ狀ヲ呈シ末期ニハ不規則ノ潰瘍トナル。
	b) 腫瘍性癌	健康皮膚ヨリ發生スルコトハ稀ニシテ疣贅・粉瘤・慢性潰瘍等ヨリ發生ス。不規則ノ固キ腫痛ナリ。
	c) 浸潤性癌	顔面ニハ比較的稀、前記ノ癌腫ノ末期ニ認メラルルコトアリ。
	d) 續發性癌	上顎齶癌・口腔癌ノ末期ニ顔面軟部ヲ侵シテ表面ニ現ハルルコトアリ。
18) 粉 瘤 Atherom		顔面ニ屢々發生ス。皮膚様囊腫ニ似タルモノ一定ノ發生部位ナシ。
19) 皮膚様囊腫 Dermoidzyste		顔面ノ一定部位(内眥ノ上下・耳翼附着部附近)ニ發生ス。粉瘤ト鑑別ヲ要ス。
20) 寄生蟲性囊腫		其ダ稀ニ包蟲囊腫 Echinokokkus、囊蟲腫 Zysticercus cellulosa ノ發生セル報告アリ。

其他顔面ニハ「ボトリオミコーゼ」・齒瘻肉芽腫・寒性膿瘍・誤謬腫・氣腫・皮下異物等アリ、腫痛ト鑑別ヲ要スルコトアリ。尙ホ以上ノ詳細ハ總論參照。

第五百四十一圖
前頭部ノ海綿狀血管腫
(Breslauer Klinik)



第五百四十二圖
顔面ノ蔓狀血管腫



第五百四十三圖
迷走神經ノ神經腫及顳額部ノ蔓性神經腫
(n. Jordan)



第五百四十四圖
先天性海綿標淋巴管腫ニ因スル巨頰



第五百四十五圖
顔面内被細胞腫(慶大病院)



第五百四十六圖
頰部皮膚ノ圓形細胞肉腫
(n. Lexer)



第五百四十七圖
鼻ノ潰瘍性癌腫
(n. Quervain)



第五百四十八圖
十年以來ノ鼻部扁平皮膚癌
(n. Lexer)



VI. 顎骨ノ畸形 Missbildungen der Kiefer

(A) 先天性畸形	1) 口蓋破裂 Gaumenspalte od. Uranoschisma. 胎生時ニ於ケル上顎突起ト前顎突起トノ癒合不完全ナル爲ニ生ズルモノニシテ多ク兔唇ト合併シ來ル。 α) 偏側性ナルコト多ク、稀ニ β) 兩側性ナルアリ。 又其程度ハ a) 硬口蓋 harter Gaumen ニノミ存スル場合、b) 軟口蓋 weicher Gaumen ニ及ベル場合、c) 會厭軟骨 Uvula ニ迄及ベル場合等アリ。口蓋破裂アル時ハ哺乳障礙アリ。氣管枝加答兒・肺炎ヲ起シ易シ、又成長セルモノニ於テハ言語障礙(特ニた行か行)ヲ認ム。又齒牙發育不良ナリ。
	2) 下顎骨ノ畸形 甚ダ稀ナリ。 a) 先天性正中破裂症 angeborene mediale Spate b) 先天性小顎症 angeborene Mikrognathie c) 先天性複顎症 angeborene Polygnathie d) 先天性無顎症 angeborene Agnathie
(B) 後天性畸形	1) 老人性萎縮 Senile Atrophie 老人ニ於テハ特ニ齒牙脫落後下顎ノ齒槽突起 Alveolarfortsatz 及ビ下顎體部 Kieferkörper ノ萎縮ヲ來ス。併シ之ハ臨牀上ノ意義ナシ。
	2) 小顎症 Mikrognathie 幼時ヨリ顎關節ノ強直ヲ來シタル場合ニハ顎骨ノ發育不良ヨリ本症ヲ起ス。其特有ナル顔貌ヲ鳥顔 Vogelgesicht トモ云フ。
	3) アクロメガリー Akromegalie ニ際シ下顎骨ノ異常發育ヲ來スコトアリ。

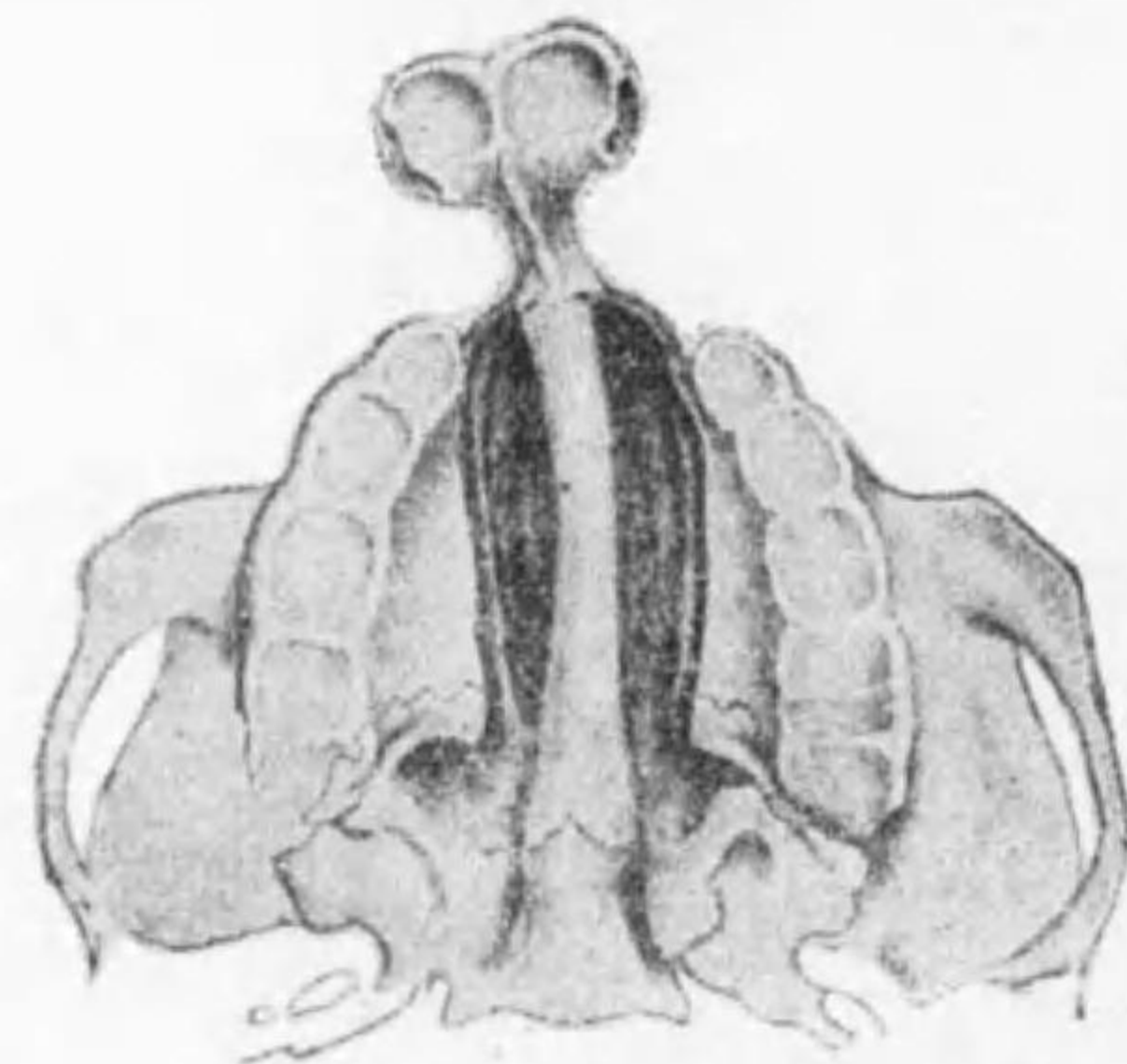
第五百四十九圖

左側口唇口蓋破裂 (Bergmanns Klinik)



第五百五十圖

兩側口蓋破裂 (n. Bruns)

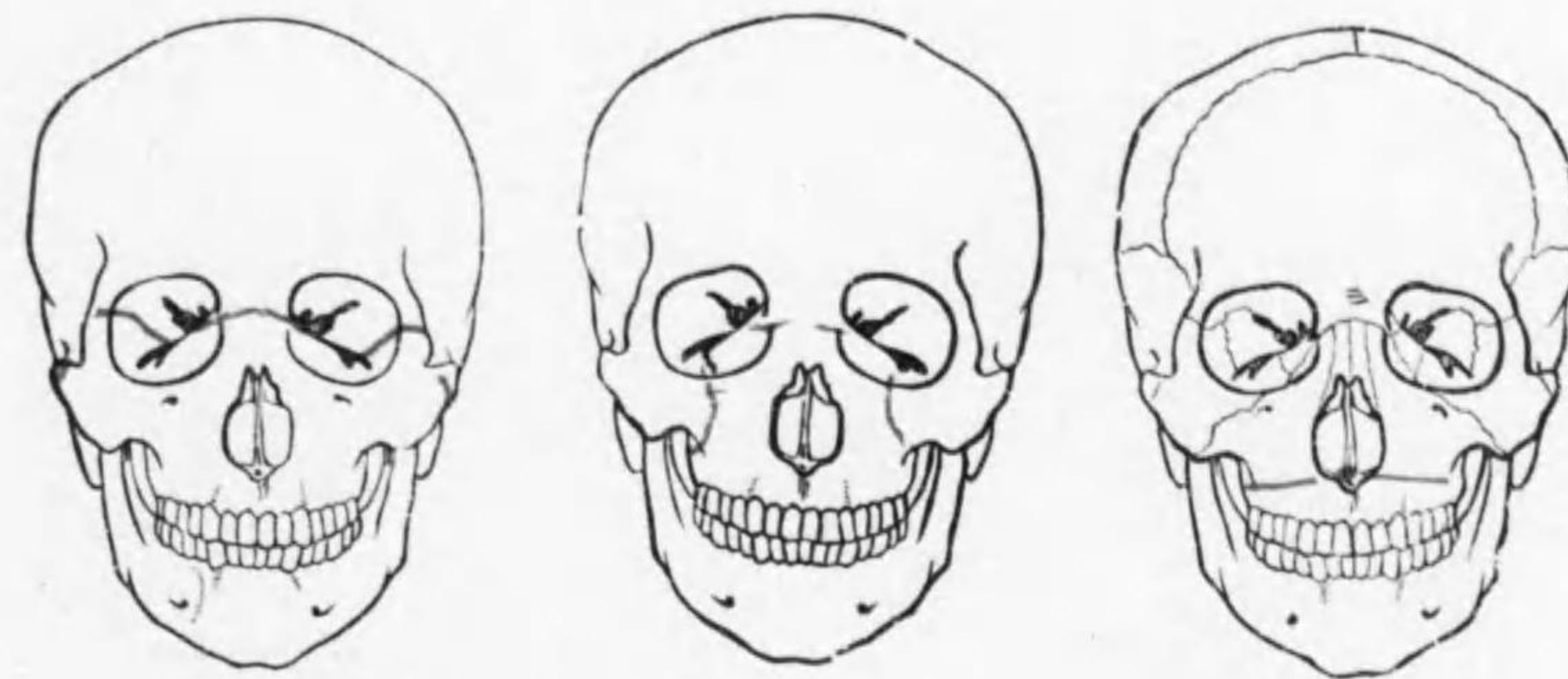


VII. 顎骨ノ挫傷・骨折及脱臼
Kontusion, Fraktur u. Luxation der Kiefer

	原因	皮膚ノ變化	齒牙	口腔粘膜	
1) 上顎骨及下顎骨ノ挫傷 Kontusion	各種ノ直達外力ニヨル(但シ程度輕シ)。	多クハ皮下溢血アリ。稀ニハ口腔・鼻腔ヨリモ出血。	變化ナシ。	時トシテ口腔粘膜下出血・小裂創ヲ見ル。	
(2) 上顎骨骨折 F. d. Oberkiefers	a) 體部骨折 Kieferkörper	各種ノ直達外力ニヨル(銃創ニヨルモノハ複雑)。	高度ノ皮下溢血アリ或口腔鼻腔ヨリ出血、創傷アレバ出血多量	屢々齒列不整・齒牙弛緩アリ。併シ骨折型ニヨリテハ是等不明	時トシテ口腔粘膜下溢血又ハ裂創ヲ見ル。
	b) 齒槽突起骨折 Alv.-fortsatz	直達外力或ハ粗暴ノ拔齒。	多クハ皮膚ニ變化ナシ。	齒列不整・齒牙弛緩又ハ脱落。	齒齦下ニ溢血アルコトアリ。
(3) 下顎骨骨折 F. d. Unterkiefers	a) 體部骨折 Kieferkörper	多クハ各種ノ直達外力(銃創ニヨルハ複雑)、稀ニ介達性外力。	高度ノ皮下溢血アリ、創傷アレバ出血多量(併シ介達外力ニヨル場合ニハ皮下溢血ナキコト多シ)。	多クハ齒牙錯列シ一ニノ齒牙弛緩或ハ脱落。	時トシテ口腔粘膜下出血又ハ齒齦ノ裂創ヲ見ル
	b) 上行枝骨折 Obere Kieferast	多クハ直達外力、稀ニ介達外力。	皮下溢血著明或ハ無。	齒牙ニハ變化ナキモ下顎骨ノ移動ニヨリ半開口及ビ咬合不能。	變化ナシ。
	c) 齒槽突起骨折 Alv.-fortsatz	直達外力或ハ粗暴ノ拔齒。	多クハ皮膚ニ變化ナシ。	齒列不整・齒牙弛緩又ハ脱落。	齒齦下ニ溢血アルコトアリ。
	d) 關節突起骨折 Gelenkfortsatz	多クハ直達外力、稀ニ介達外力。	皮下溢血著明或ハ無。	齒牙ニハ變化ナキモ下顎骨ノ移動ニヨリ半開口及ビ咬合不能。	變化ナシ。
	e) 烏喙突起骨折 Pr. cotyloid.	直達外力。	多クハ皮下溢血ヲ伴フ。	變化ナシ。	變化ナシ。
(4) 顎關節脱臼(L. d. Kiefergelenks) (前方)	a) 兩側性脱臼 beiderseitige Luxation	種々ノ原因ニヨル過度ノ開口ニヨル。甚ダ稀ニハ直達外力(後方ヨリノ打撃)。	皮膚ニハ異常ナシ。只半開口ノ位置ニ固定セラルル爲メ頰部ハ延長シテ見ユ。	變化ナシ。	變化ナシ。
	b) 偏側性脱臼 einseitige Luxation	種々ノ原因ニヨル過度ノ開口ニヨル。甚ダ稀ニハ直達外力(後方ヨリノ打撃)。	皮膚ニハ異常ナシ。只半開口ノ位置ニ固定セラルル爲メ頰部ハ延長シテ見ユ。	變化ナシ。	變化ナシ。

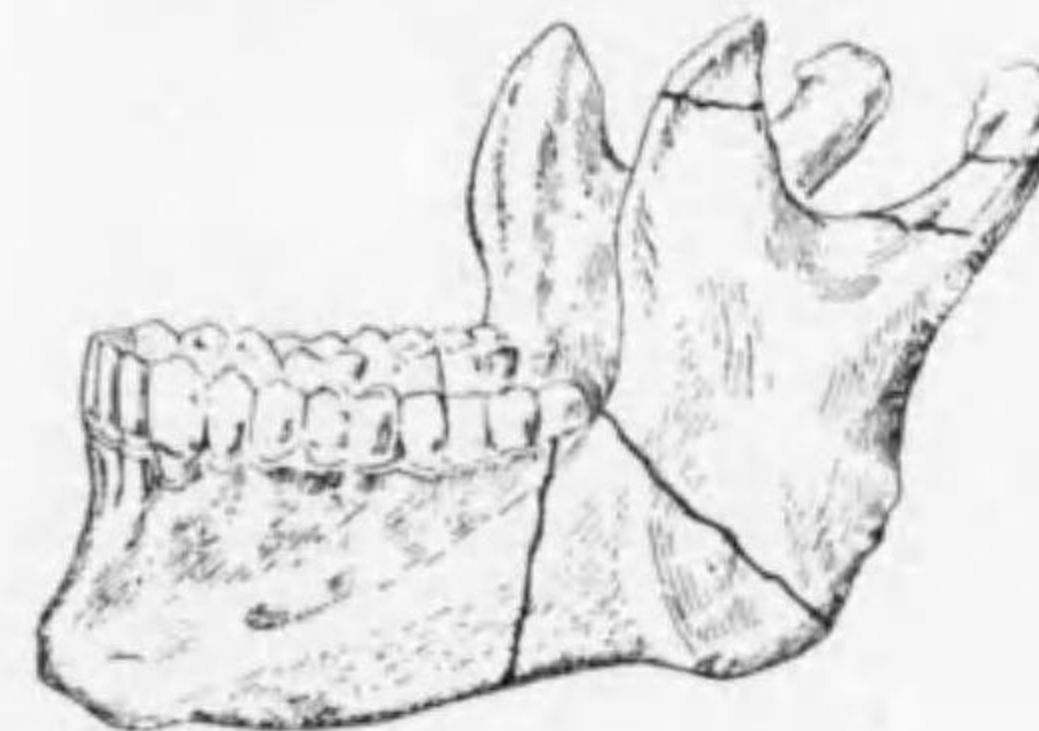
顎骨ノ位置	異常觸診及運動等	疼 痛	顎 關 節 運 動	其 他	診 斷
異常ナシ。	異常ナシ。	疼痛中等度ニシテ瀰漫性。	可能。	(-)	輕度ノ上顎骨部骨折・烏喙突起骨折ト鑑別ヲ要ス。
高度ノ骨折ニテハ顎骨ノ異常位ヲ認ムルコトアルモ多クハナシ。	骨折錯位又ハ骨折線ヲ觸レ、或ハ骨折片ノ異常運動(摩擦音)アルコトアリ。	著明ノ限局性骨折痛アリ、關節ノ運動ニ關係ナシ。	可能、時トシテハ不能。	神経痛ヲ發スルコトアリ。	挫傷・烏喙骨突起骨折ト鑑別ヲ要スルコトアリ。
局所ノ變化以外顎骨ノ異常位ナシ。	齒槽突起ノ骨折部ニ異常錯位・異常運動ヲ觸レ又ハ目撃スルコトアリ。		可能。	(-)	診斷容易。
不全骨折ニ於テハ顎骨ニ異常ナキモ、全骨折ニ於テハ顎骨患側モ傾斜スルコトアリ。又兩側骨折ニテハ中央部後方ニ移動スルコトアリ。	口腔内ヨリ骨折錯位又ハ骨折線ヲ觸ル、又ハ骨折片ノ異常運動(摩擦音)ヲ認ムルコトアリ。 口腔内ヨリ上行枝ノ前線ニ沿フテ檢スルニ骨折部ヲ觸ル、時ニハ異常運動アリ。	著明ノ限局性骨折痛アリ。顎骨ノ運動ニ際シ著シ。	疼痛ノ爲メ關節運動障礙セラル。	屢々談話及ビ咀嚼不能・流涎アリ。兩側性骨折ノ時ハ窒息ヲ起スコトアリ。時トシテ下顎神經痛ヲ發ス。	多クハ診斷容易。 不注意ニ検査スレバ骨折ヲ見逃スコトアリ。
局所ノ變化以外ニ顎骨ノ異常位ナシ。	齒槽突起ノ骨折部ノ容易ニ視診・觸診ス。時トシテハ異常運動アリ。	骨折痛アルモ關節運動ニ關係ナシ。	不能。	(-)	診斷容易。
上行枝外上方ニ移動シ頰部患側ニ傾斜ス。	時トシテハ上行枝骨折端ヲ觸ルルコトアリ。併シ不明ナルコトモアリ。	骨折痛アリ關節運動ニ際シ著シ。	疼痛ノ爲メ不能。	屢々談話及ビ咀嚼不能・流涎アリ。神経痛ナシ。	偏側顎關節脱臼トハ容易ニ區別セラル。
異常ナシ。	骨折部厚キ筋層ニ覆ハルルヲ以テ觸診上ノ所見少ナシ。	略同上。	時トシテ不能。	(-)	時トシテハ骨折ヲ見逃スコトアリ。X線検査。
下顎骨全體ニ前方ニ推移シ、半開口狀ヲ呈ス。	兩側ニ空虚ナル關節高及ビ關節小頭ヲ觸ル。	疼痛比較的輕度。	半開口位ニ固定セラレ、強ヒテ動カスニ彈性的抵抗アリ。	談話及ビ咀嚼不能・流涎著シ。 談話多少可能。	診斷多クハ容易。兩側性ナルカ偏側性ナルカヲ診斷スベシ。
下顎骨少シク前方ニ推移シ少シク開口位ニ固定セラレ且ツ健側ニ傾斜。	患側ニ關節高及ビ關節小頭ヲ觸ル。				

第五百五十一圖
兩側橫行骨折 (n. Querschnitt)



第五百五十二圖 下顎骨骨折部位

第五百五十三圖 下顎前方脱臼



第五百五十四圖 兩側性下顎脱臼

第五百五十五圖 右側顎關節ノ脱臼



第五百五十六圖

顎骨結核ヨリセル下眼縁結核性瘻孔



第五百五十八圖

口蓋及鼻骨ノ微毒性崩壞 (n. Brandt)



第五百五十七圖

下顎骨ノ結核 (n. Schlatter)



第五百五十九圖

硬口蓋及軟口蓋ノ膜腫性缺損及び痙攣性收縮 (n. Grünwald)



VIII. 顎骨ノ炎症 Entzündungen der Kiefer

	所 患 部 位	既 往 症 (原 因)	顎 骨 ノ 變 化 (X線検査ニヨレバ一層著明)	疼 痛	
急 性 炎	1) 齒根骨膜炎 Periodontitis od. Parulis	下顎骨, 時トシテハ上顎骨ノ齒槽突起。	齦齦部ノ激痛, 齒牙弛緩等ヲ以テ始マリ, 經過急性。	初期ニハ主トシテ軟部ノ急性炎症性腫脹著明ニシテ顎骨ニハ著變ナシ, 併シ末期ニハ骨肥厚ヲ來ス。	著明。
	2) 顎骨骨髓炎 Osteomyelitis	下顎骨ニ多シ。	前者ヨリ移行シ來リ或ハ外傷後稀ニハ血行轉移ニヨル。激痛ヲ以テ始マリ經過急性。	初期ニハ骨肥厚著明ナラザルモ後ニハ著明トナル。骨内ニ腐骨・膿瘍ヲ形成シ或ハ外部ニ瘻孔ヲ生ジテ治セズ。	著明。併シ慢性トナレバ無シ。
	3) 磷毒性骨疽 Phosphornekrose	下顎骨ニ多シ。	齒痛ヲ以テ始マリ齦齦ノ腫脹・齒牙ノ弛緩・脱落等アリ。磷職工ニ來ル。	顎骨ノ榮養障礙・化膿菌ノ傳染ニヨリテ腐骨ヲ形成シ(其程度種々)瘻孔ヲ生ジテ治シ難ク, 附近ニ骨増殖著明。	屢々著明。
慢 性 炎	4) 顎骨結核 Tuberculose der Kiefer	a) 上顎骨 下眼高縁ノ附近ニ多シ。 b) 下顎骨 下顎骨體部及下顎隅ニ多シ。	虛弱ナル幼年者ニ多シ。時トシテハ麻疹ノ後ニ發生ス。潛行性ニ顎骨ノ腫脹ヲ來ス。	徐々ニ顎骨ノ腫脹ヲ來シ初メハ硬靱ナルモ次第ニ軟化シ遂ニハ自潰ス。小腐骨ヲ形成スルコトアルモ, 骨増殖ナシ。下顎骨ニテハ風茄狀ニ肥厚スルコトアリ。	無シ, 或ハ輕度。
	5) 顎骨梅毒 Syphilis der Kiefer	a) 上顎骨 硬口蓋ニ多シ。 b) 下顎骨 下顎隅及ビ上行枝ニ多シ。	微毒ノ既往症アリ(但シ時ニハ不明), 徐々ニ顎骨ノ腫脹ヲ來ス。	顎骨ニ限局性膜腫或ハ瀰漫性滲潤ヲ來シ, 其儘吸收セララルカ或ハ軟化自潰シテ一時潰瘍ヲ生ジテ治ス(甚ダ稀)。口蓋骨ニ於テハ穿孔ヲ來スコトアリ。屢々骨増殖ヲ認ム。	無痛, 時トシテ初期ニ夜間痛。
炎	6) 顎骨アクチノミコーゼ Aktinomykose der Kiefer	下顎骨ニ多シ。	潛行性ニ始マリ齦齦ノ腫脹・齒牙ノ疼痛・弛緩アルコトアリ。屢々頭部ノ「アクチノミコーゼ」アリ。	齒槽突起或ハ顎骨體部ニ瀰漫性腫脹アリ板狀硬度ヲ有ス(頰部・頸部ニモ變化アルコト多シ)。屢々小軟化・自潰・排膿(ドルーゼ特異)・瘻孔形成アリ。	時トシテ多少ノ疼痛アリ。
	7) 腎臟癆性顎骨壞疽(甚ダ稀)。 Kiefernekrose bei Tabes dorsalis	下顎骨ニ多シ。	潛行性ニ始ル。疼痛ナキコト多シ。	齒牙何等ノ原因ナシニ脱落シ, 齒槽突起ノ萎縮ヲ來シ脆弱トナリ, 屢々腐骨ヲ形成ス(併シ骨増殖ナシ)。化膿ヲ伴フ。	無痛或ハ多少ノ疼痛(化膿アル時)。

齦齒 Zahnkaries 増悪スル時ハ屢々齦齒炎 Pulpitis ヲ起シ激烈ナル齦痛アリ。或ハ更ニ 齦齒膿瘍 Pulpabscess 或ハ齦齒膿腫 Pulpaverjauchung ヲ起ス。又之ヨリ齦根骨膜炎 Periodontitis, 齦槽突起骨膜炎 Periostitis alveolaris, 顎骨骨膜炎 Periostitis der Kiefer, 顎骨骨髄炎 Osteomyelitis der Kiefer ヲ起スコトアリ。

軟部ノ變化	機能障礙 (牙關緊閉)	分泌物	全身状態	其 他	診 断
齦・顎骨附近ノ粘膜炎及皮膚ノ急性炎症症状著明、併シ慢性ニ移行スレバ次第ニ緩快。	時トシテ牙關緊閉ヲ來ス。 牙關緊閉ヲ來シ易シ。	外部ニ開口セル時ハ濃汁分泌多量。 屢々口臭甚シ。	多少ノ熱發全身違和等アリ。 前者ヨリモ熱發及ビ全身症状重シ。併シ慢性ニ移行スレバ程度。	自潰後外齒瘻又ハ内齒瘻(時トシテ小肉芽腫ヲ伴フ)ヲ生ズルコトアリ。消息子ニヨリ腐骨ヲ觸ルルコトアリ。	(2)ハ(1)ヨリ移行シ來ルコトアルガ爲メ兩者ノ鑑別困難ナルコトアリ。發生・急性症状ノ輕重・X線検査等ニヨリテ鑑別ス。 又兩者ハ(3)及ビ上顎齶蓋膿症・齒根膿腫等ト鑑別ヲ要スルコトアリ。
附近ノ粘膜炎及皮膚ニ亞急性炎症症状ヲ呈ス。	時トシテ有。	瘻孔ヨリ惡臭アル汚穢膿汁出ヅ。 口臭甚シ。	時トシテ熱發アリ。攝食不能ノ爲メ衰弱。	消息子ニヨリ腐骨ヲ觸ルルコト多シ。	(1),(2)トハ原因的關係、經過ノ慢性ナルコトニヨリ區別ス。又職業ヲ去レバ症状緩快ス。
初期ニハ變化ナキモ、進行スルニ從ツテ周圍ニ浮腫性腫脹・寒性膿瘍等ヲ形成ス。	上顎骨ヲ侵シタル場合ニハ牙關緊閉ヲ來シ易キモ下顎骨ヲ侵シタル場合ニハ甚ダ稀ナリ。	瘻孔ヨリ稀薄結核性膿汁出ス。	初期ニハ著變ナシ。末期ニハ熱發・盜汗・衰弱等アリ。	肺・肋膜炎・淋巴腺等ノ結核ヲ伴フコトアリ。「ツベルクリン」反應。	時トシテ(4)ト鑑別ヲ要ス。一般ニ診斷容易。 時トシテ下顎骨ノ肉腫・(5)・(6)ト鑑別ヲ要ス。
初期ニハ變化ナシ、膿腫自潰前ニ限局性發赤アルコトアリ。自潰後微毒性潰瘍ヲ生ズ。	キモ下顎骨ヲ侵シタル場合ニハ甚ダ稀ナリ。	多クハ無キモ、軟化著シキ時ハ濃厚ナル膿汁出ヅ。	熱發等ノ全身症状ナシ、他ニ微毒症状アルコトアリ。	試驗的驅膿法、ワ氏反應。	初期ニハ齒根膿腫ト誤ラルルコトアルモ診斷一般ニ容易。 時トシテ結核ト鑑別ヲ要スルコトアルモ診斷多クハ容易。
每常附近ニ瀰漫性硬質性浸潤アリ後ニハ小潰瘍・瘻孔ヲ生ジ次第ニ治ス。併シ又再發。	屢々有。	特有ナル「ドルーゼ」ヲ有スル膿汁出ヅ。	末期ニ多少ノ熱發アルコトアリ。	頭部又ハ顔面ノ「アクチノミコーゼ」ヲ伴フコト多シ。	膿腫・肉腫・結核・微毒ト鑑別ヲ要スルコトアルモ、多クハ鑑別容易。
軟部ニ變化ナシ或ハ多少ノ滲潤ヲ伴フコトアリ	時トシテ有。	惡臭アル膿汁アルコトアリ。	脊髄癆ノ症状著明。	時トシテ特發骨折ヲ來ス。	慢性骨髓炎ト鑑別ヲ要スルコトアルモ少シク注意スレバ診斷容易。

IX. 顎關節ノ炎症 Entzündungen des Kiefergelenks

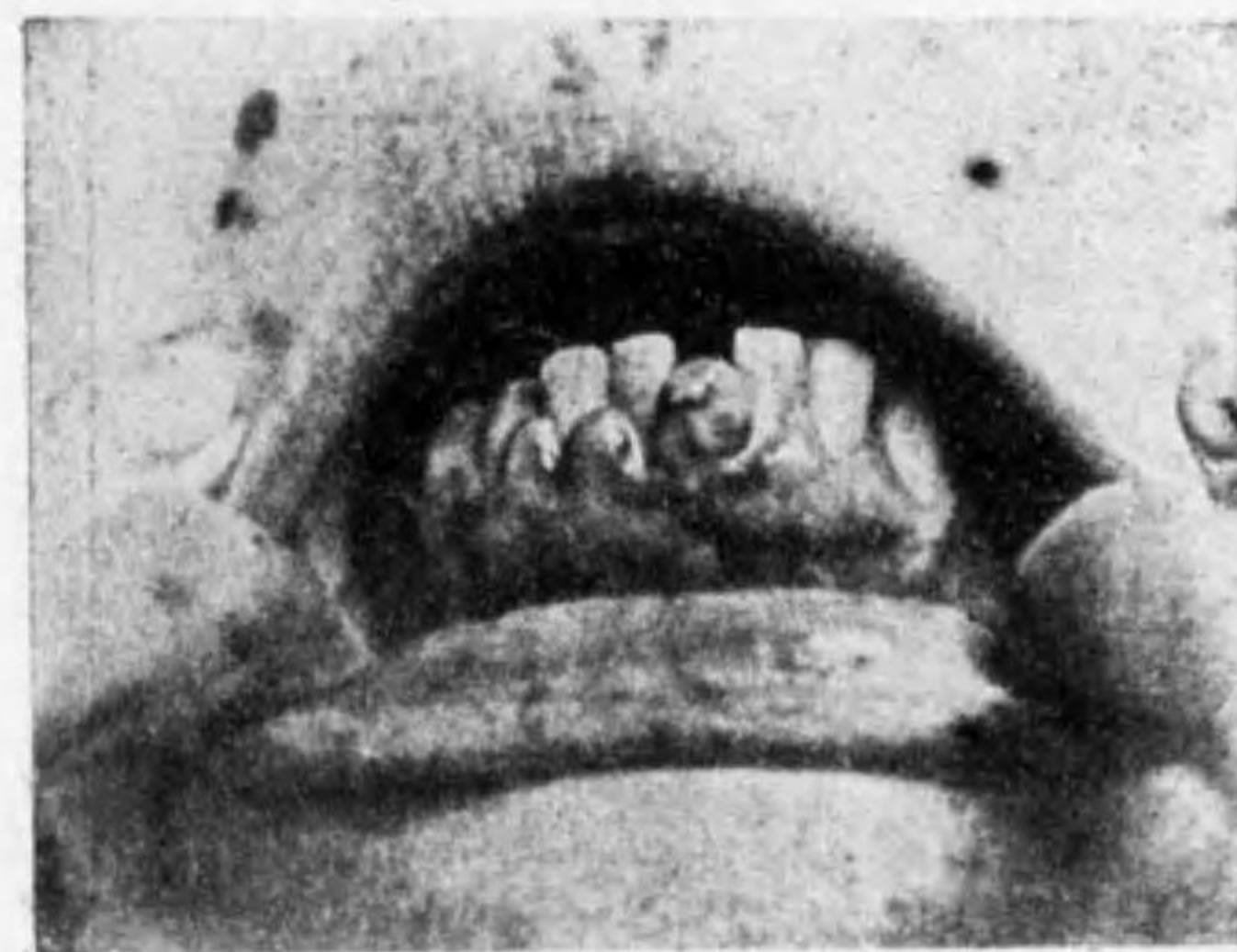
		主要症状及鑑別
急 性 性 炎	1) 急性單純性關節炎 Arthritis simplex acuta	顎關節ノ過勞(固キモノヲ永ク嚙ミタル爲メ等)、「インフルエンザ」等ニヨリテ起ルコトアリ。 多クハ兩側性ニ來リ咀嚼時ニ疼痛アリ。甚シキハ一時咀嚼不能トナル。併シ發赤腫脹著シカラズ。 多クハ一二日ニシテ治スルヲ常トス。 原因的關係明カニシテ經過速ナルニヨリ診斷容易ナリ。微麻質斯性ノモノト鑑別ヲ要スルコトアリ。
	2) 急性關節假麻質 Arthritis rheumatica acuta	屢々認メラルモノナリ。偏側性或ハ兩側性ニ來ル。顎關節ニ輕度ノ發赤腫脹疼痛アリ。屢々氣候ニヨリ消長アリ。一時牙關緊閉ヲ來スコトアルモ多クハ二三週間ニシテ治ス。時トシテ輕度ノ熱發アルコトアリ。又他ノ關節ニモ炎症ヲ伴フコトアリ。「サリチール」酸劑・加温有效ナリ。
	3) 淋毒性關節炎 Arthr. gonorrhoeica	顎關節ノ淋毒ハ非常ニ稀ナリ。 急性關節假麻質・化膿性關節炎トノ鑑別ハ困難ニアラズ。
	4) 急性化膿性關節炎 Arthr. purul. acut.	化膿性中耳炎・顎關節ノ創傷後ニ來ルコトアルモ甚ダ稀。 他症トノ鑑別困難ニアラズ。
慢 性 性 炎	5) 慢性關節假麻質 Arthr. rheum. chr.	屢々認メラル(急性ヨリモ多シ)。偏側性或ハ兩側性ニ來ル。顎關節部ノ不快鈍痛・運動時ノ憂音・多少ノ機能障礙アリ。氣候ニヨリテ消長アリ。或ハ他部ノ關節假麻質ヲ伴フ。「サリチール」酸劑・加温ニヨリ輕快シ症状多少不定ナルニヨリテ診斷セラル。
	6) 畸形性關節炎 Arthr. deform.	甚ダ稀。特ニ木邦ニハ殆ンド報告ナシ。 慢性關節假麻質ト鑑別ヲ要ス。
	7) 結核性關節炎 Arthr. tbc.	甚ダ稀。骨性ナルヲ常トス。虛弱ノ幼年者ニ來ルコトアリ。 顎關節部ニ慢性腫脹アリ。次第ニ運動障礙ヲ來ス、時トシテハ附近ニ寒性膿瘍ヲ形成シ、或ハ瘻孔ヲ形成ス。或ハ他部ニモ結核アリ。
	8) 微毒性關節炎 Arthr. syph.	微毒ノ第三期ニ來ルコトアルモ甚ダ稀。 顎關節部ノ慢性腫脹アリ。次第ニ運動障礙ヲ來ス。併シ寒性膿瘍ヲ形成セズ。潰瘍モ殆ンド生ゼズ。 ワ氏反應、特ニ試驗的驅膿療法ニヨリテ診斷セラル。

X. 牙關緊閉 (顎關節強直及攣縮) Kieferklemme

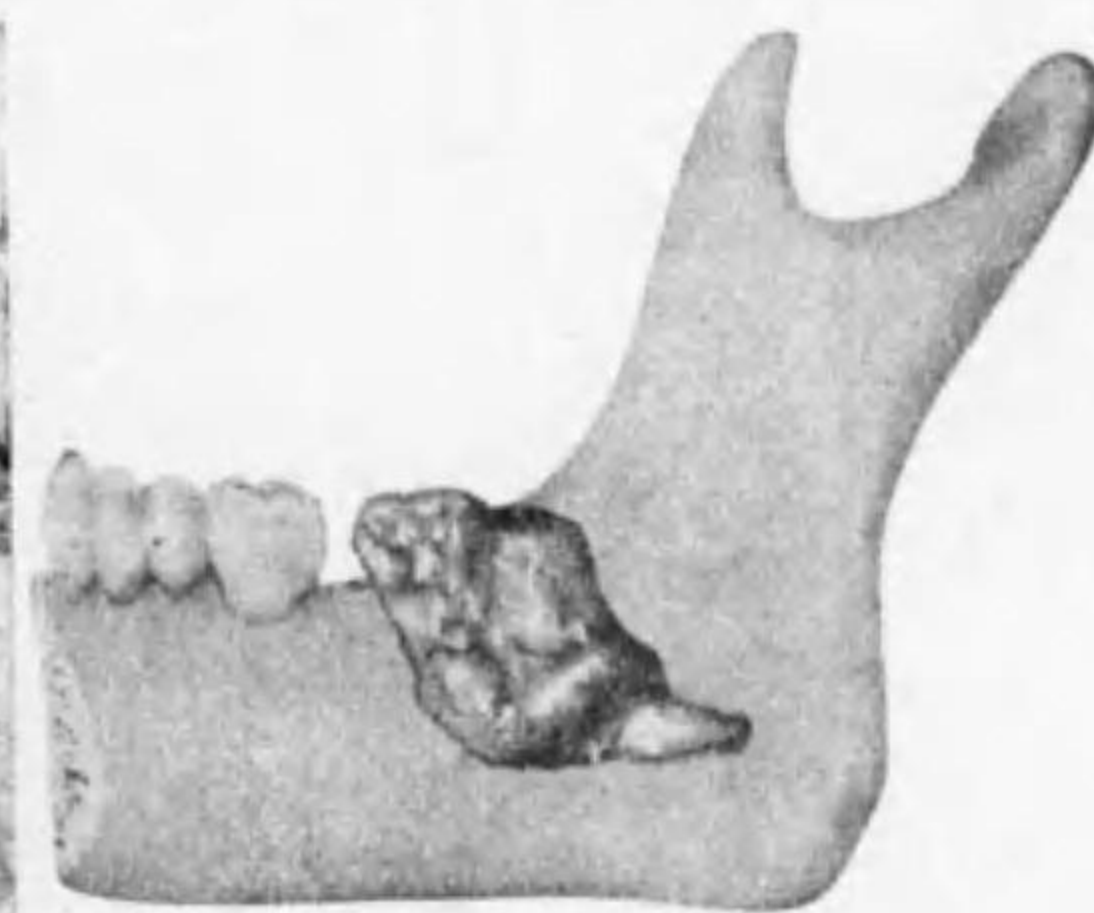
	原因及起始	主症狀及診斷
1) 先天性牙關緊閉 Angeborene Kieferklemme	先天性ニ、恐ラクハ分娩時ノ外傷ニヨリテ起ル。分娩後次第ニ始マル。甚ダ稀。	分娩直後顎關節部ニ腫脹アリ、初メハ多少可動性ナルモ、次第ニ眞性強直ヲ起ス。先天性ニシテ他ニ變化ナキニヨリ診斷セラル。
2) 骨折又ハ脱臼ニヨル牙關緊閉	顎骨小頭又ハ髁臼ノ骨折或ハ顎關節脱臼ノ整復セラレザル場合、外傷直後等ニ起ル。	齒列少シク開キ居ルモ、顎關節ノ運動不能。骨折又ハ脱臼ノ症狀著明ナルニヨリテ診斷セラル。
3) 症候的牙關緊閉 Symptomatische Kieferklemme	a) 急性ニハ顎骨骨膜炎・齒齦炎・扁桃腺炎・「アンギーナ」・急性耳下腺炎・急性顎下腺炎・頰部蜂窩織炎・智齒難生等ノ急性炎ニ續發シ、原病ニ伴フテ急性ニ始マル。	原病ノ症狀著シテ牙關緊閉ハ全ク從屬的ナリ。原病ノ治療ト共ニ牙關緊閉モ次第ニ治ス。原因的疾患著明ナルニヨリ診斷セラル。
	b) 慢性ニハ顎關節附近ノ「アクチノミコーゼ」等ニ因シ、慢性ニ始マル。	
4) 瘻痕性牙關緊閉 Narbige Kieferklemme	a) 皮膚ニ於テハ顔面ノ火傷・腐蝕・大創傷等ノ後。 b) 粘膜ニ於テハ頰部ノ水瘻・潰瘍後等。慢性ニ起ル。	皮膚又ハ粘膜ニ著明ノ瘻痕アリ初メハ多少顎關節ノ運動可能ナルモ、次第ニ不能トナル。原因明カナルニヨリテ診斷容易。
5) 筋性牙關緊閉 Myogene Kieferklemme	咬筋ノ誤誤腫後ノ變化ニヨリ慢性ニ起ル。	咬筋ノ變化著明。診斷容易。
6) 腫瘍ニヨル牙關緊閉	頰部・齒齦ノ悪性腫瘍(特ニ癌腫多シ)或ハ大ナル囊腫ノ壓迫ニヨリテ慢性ニ起ル。	原因タル腫瘍著明ナルニヨリ診斷セラル。
7) 痙攣性牙關緊閉 Spastische Kieferklemme	特ニ破傷風ニヨルモノ多シ、其他「ヒステリー」・腦出血等ニ因スルコトモアリ。突發スルヲ常トス。	原病ノ症狀著明。但シ破傷風ニ於テハ屢々牙關緊閉ヲ初發症狀トナス、即チ何等ノ原因ナクシテ突然牙關緊閉ヲ起ス時ハ最も破傷風ヲ疑フベシ。
8) 關節性牙關緊閉 Arthrogene Kieferklemme	a) 顎關節ノ急性復麻質斯・淋毒性關節炎・化膿性關節炎等ニヨリ急性ニ起ル。	其時期ニヨリ a) 結締織性強直。 b) 軟骨性強直。 c) 骨性強直ヲ分ツ。初期ニハ關節炎著明ナルモ後ニハ強直ノミヲ認ム。
	b) 慢性。顎關節ノ慢性復麻質斯・畸形性關節炎・微毒性關節炎・結核性關節炎等ニヨリ慢性ニ起ル。	

牙關緊閉久シキニ互ル時ハ下顎ノ發育不良ニヨリ小顎症 Mikrognathie トナリ鳥顔 Vogelgesicht ノ状ヲ呈ス。

第五百六十圖
齒齦腫 (Chirurg. Kl. Zürich)

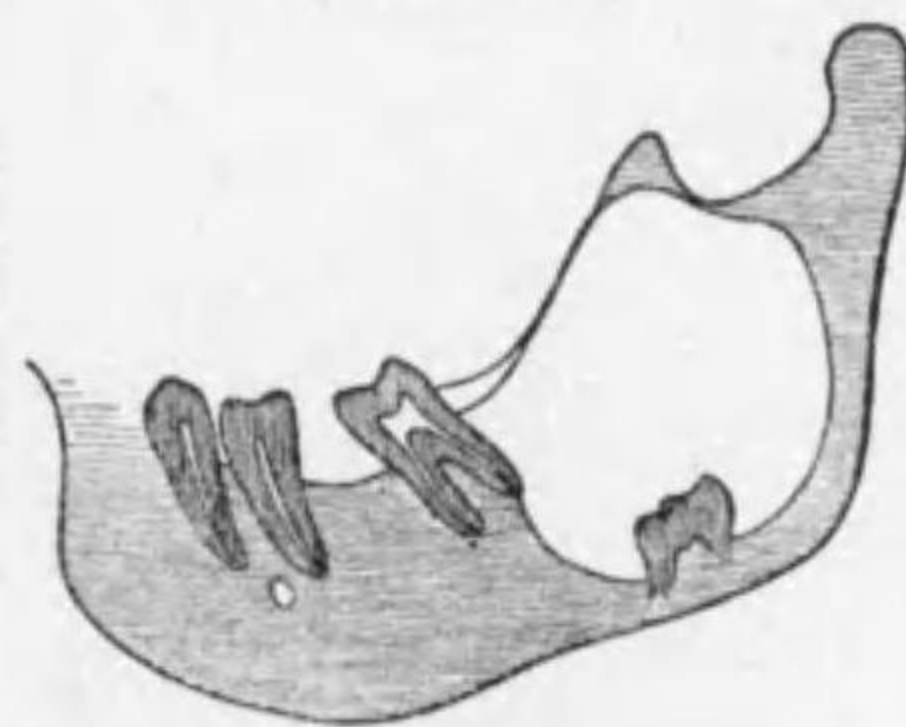


第五百六十一圖
オドントーラ

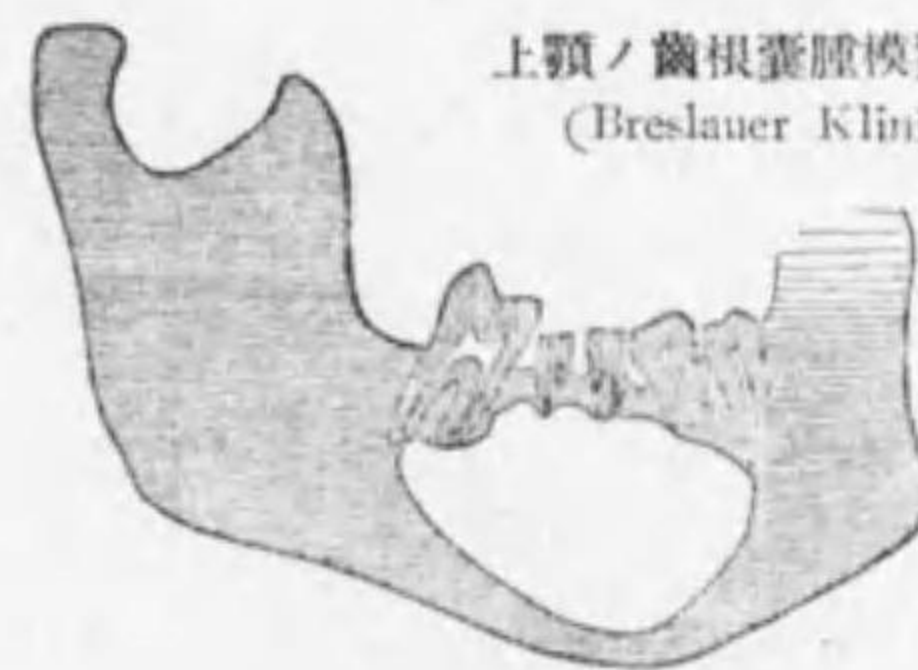


第五百六十三圖

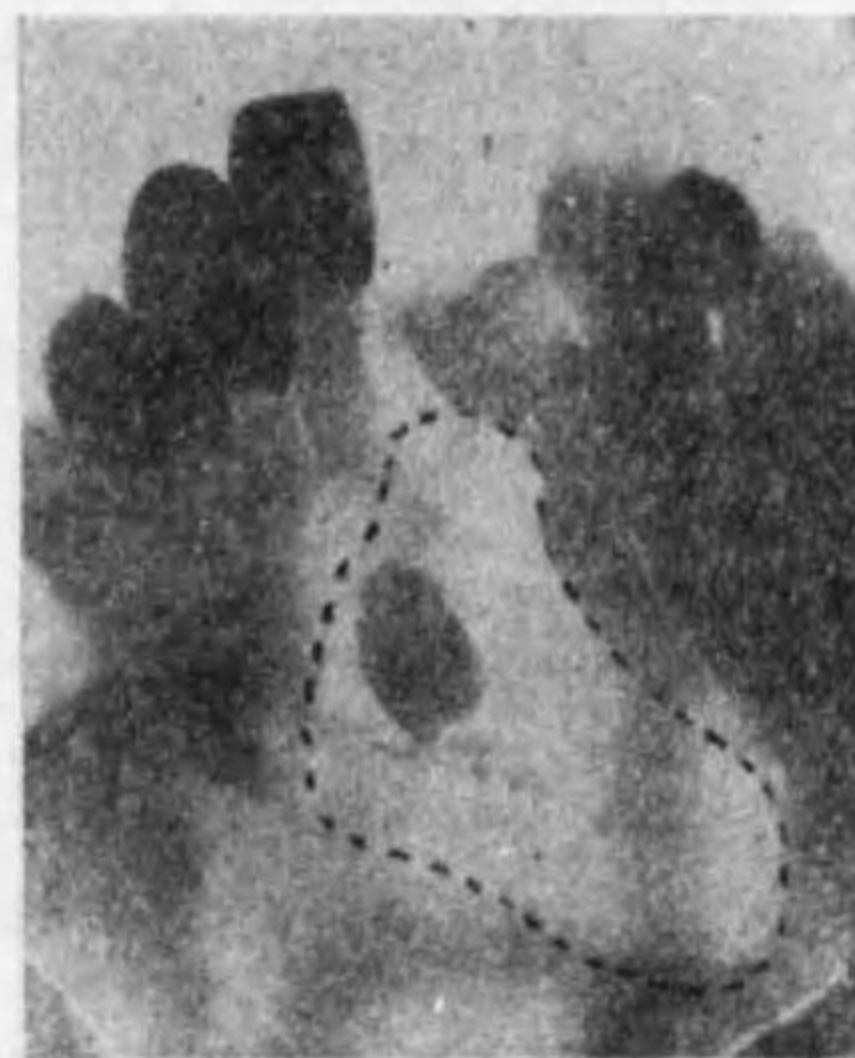
第五百六十二圖 濾胞囊腫X線模型圖
(n. Eiseberg)



上顎ノ齒根囊腫模型圖
(Breslauer Klinik)



第五百六十四圖 濾胞性齒牙囊腫
(北村氏)



第五百六十五圖 齒根囊腫 (n. Eiseberg)

XI. 顎骨ノ腫瘍及囊腫 Geschwülste u. Zyste der Kiefer

	發生年齡	發生部位	起始及經過	大サ	表面	硬 度	骨ノ變化
(1) 膿 贅 E-pulis	a) 纖維腫 若年者ニ多シ。 b) 纖維肉腫	下顎又ハ上顎ノ齒齦ニ生ズ。	次第ニ腫瘍増大ス。 稍々速ニ増大ス。	大トナラズ。 著大トナル。	小ナルハ平滑。大ナルハモノハ粗大凹凸アリ。	硬靱。 靱。	骨ニ關係ナシ。
(2) 齒 牙 腫 Odontom	a) 硬 性 齒 牙 腫 b) 軟 性 齒 牙 腫	先天性ノモノニモ壯年ニ發見セルコト多シ。 下顎骨ニ多シ。或ハ齒牙ニ附屬セルコトアリ。	成長甚ダ緩慢。 成長緩慢。	小。 大トナラズ。	顆粒狀 小凹凸	骨樣硬度 甚ダ硬靱。	緩慢ニ骨ヲ膨出セシム。
3) 齒 根 囊 腫 Zahnwurzelzyste	壯年後(齒齦ニ關係アリ)。	上顎骨、時トシテ下顎骨。	毎常齦齦ノアル所ニ發生シ、成長緩慢。	鳩卵大以下。	平滑。(單房)	骨膨出著シキ時ハ羊皮紙樣啞軋音ヲ呈スルコトアリ。	次第ニ骨ヲ膨出セシム。
4) 濾 胞 囊 腫 Follikularzyste	先天性ノモノニモ壯年後著明トナルコト多シ。	下顎骨ニ多シ。	慢性ニ始リ成長緩慢。	鳩卵大以下。	平滑。(單房)		
(5) 珪 瑯 腫 Amnantiom	a) 多 發 性 骨 囊 腫 b) 充 實 性 珪 瑯 腫	青春期ニ著明トナルコト多シ。 下顎骨ニ多シ。	成長稍々速。 成長緩慢。	著大トナル。 著大トナラズ	平滑或ハ輕度ノ凹凸(多房性)。	同上。自潰後ハ軟性腫瘍ヲ觸ル。(a)ニハ波動	同上。骨膜肥厚ナシ。
(6) 肉 腫 Sarcom	a) 骨 膜 性 肉 腫 b) 骨 髓 性 肉 腫	若年者、壯年者ニ多シ。 下顎骨又ハ上顎骨。	成長稍々速。	屢々著大トナル。	初期ニハ平滑。後ニハ不同凹凸。	靱一硬靱一硬(骨増殖著シキ時)。 骨樣硬一羊皮紙樣啞軋音等	骨腫脹ニ次デ骨膜増殖、化骨。 骨膨出自潰後骨膜増殖
7) 上 顎 癌 Oberkieferkarzinom	壯年後、老年。	上顎骨(下顎骨ニハ發生セズ)。	成長稍々速。	可ナリ大トナル。	多クハ平滑。後ニハ不同凹凸	骨膨出著シキ時ハ羊皮紙樣啞軋音自潰後硬靱	次第ニ骨膨出・自潰後骨膜増殖ナシ。
8) 上 顎 竇 蓄 膿 症 Empyema Highmorii	不定。	上顎骨ニ限ル。	増大著明ナラズ。	大ナラズ。	平 滑	骨ニ變化ナシ。	骨ノ膨出著シカラズ。

頁性腫瘍 顎骨又ハハイモル氏竇ニ纖維腫・粘液腫・骨腫・軟骨腫等ヲ發生スルコトアルモ、甚ダ稀ニシテ臨牀的ニ之ヲ發見スルコト殆ンドナシ。

粘 膜 ノ 變 化	齒 牙 ト ノ 關 係	鼻 腔 ト ノ 關 係	疼 痛	内 容	其 他	鑑 別
表面淡赤色或ハ蒼白色ヲ呈ス。	稍々大トナル時ハ齒牙嵌入又ハ弛緩ヲ來ス。	(-)	(-)	(-)	初メ良性腫瘍ニシテ後ニ惡性變性(肉腫)ヲナスコトアリ屢々再發ス。	齒齦ニ於ケル特異ノ腫瘍ナルニヨリテ鑑別容易ナリ。
多クハ著變ナシ。	多クハ發生部位ノ齒牙缺損	(-)	(-)	(-)	(-)	初期ニハ診斷困難ナリ。(3)(4)(5)(6)ノ初期ト鑑別ヲ要ス。X線ニテ區別セラレ。
多クハ著變ナシ。只膨隆著明ナル時ハ該部稍々貧血性トナル。	發生部位ニ齦齦アリ。 發生部位ノ齒牙缺損。	上顎骨ニ發生シ著大トナル時ハ鼻腔狹窄ヲ來ス。	(-)	透明黃色或ハ褐色液ニシテ屢々「コレステリン板」ヲ含有。	(-)	此三者ハ互ニ類似ス(3)ハ齦齦ニ關係アリ。(4)(5)ハ發生部ノ齒牙缺損ス。(3)(4)ハ著大トナラザルモ(5)ハ著大トナル。尙ホ(3)(4)ハ單房性ニシテ(5)ハ多房性ナリ。之ハX線検査ニコレバ明カナリ。
同上。時トシテハ腫痛自潰シ稍々赤色ヲ呈ス。	發生部位ノ齒牙缺損。	同上。	(-)	同上。	手術後再發スルコトアリ。	
初期ニハ異常ナキモ後ニハ毛細管擴張・自潰後腫瘍ヲ見ルコトアリ。	齒牙ニハ異常ナキヲ常トスルモ齒槽突起ヲ侵ス時ハ齒牙弛緩スルコトアリ。	時トシテ神經痛又ハ齒痛アルコトアリ。	(-)		衰弱・轉移・再發。増大著シキ時ハ顔面ニ膨出。	本症ハ比較的稀ナリ腫瘍ニ骨増殖アル時ハ明カナリ。其他X線ニヨリテ診斷セラレ。
初期ニハ異常ナキモ後ニハ自潰腫瘍ヲ見ル。	牙弛緩スルコトアリ。	鼻腔ノ狹窄、「ポリープ」形成等。	時トシテ神經痛アルコトアリ又ハ齒痛アルコトアリ。	稀ニハイモル氏竇内ニ滲潤漿液。	増大著シキ時ハ顔面ニ膨出・惡液質・轉移・再發。	此二者ノ鑑別ハ(イ)ハイモル氏竇ノ膿汁「ポリープ」(試驗的抽出検査)。(ロ)淋巴腺轉移。(ハ)顔面・鼻腔・口蓋ノ膨出程度。(ニ)經過(8ハ慢性)等ニヨル。
著變ナシ。	(-)	「ポリープ」形成、膿分泌。	鈍痛アルコトアリ。	ハイモル氏竇内ニ膿汁。	(耳鼻科書参照)。	

第五百六十六圖 珙 那 腫



第五百六十七圖 珙 那 腫



第五百六十八圖 多 發 性 囊 腫



第五百六十九圖 上 顎 痛



第五百七十圖



上 顎 骨 肉 腫 (進 行 期) (in Marwood)

第五百七十一圖



著 明 ノ 靜 脈 腫 脹 ヲ 有 ス ル 上 顎 骨 肉 腫

第四章 口腔外科 Mundhöhlenchirurgie

I. 口 内 炎 Stomatitis (齒齦炎ニ就キテハ別項ニ述ブ)

1) 加答兒性口内炎

Stomatitis catarrhalis

原因 i) 器械的原因。鹹齒線・義齒・齒石等ノ刺戟ニヨルコトアリ。乳兒ニ於テハ粗暴ナル口腔内清拭ニヨルコトアリ。
 ii) 温熱的原因。過熱セル飲食物ニヨル火傷後。
 iii) 中毒性原因。種々ノ腐蝕劑ニヨリテ急性ニ起リ、或ハ酒類・煙草ニヨリテ慢性ニ起ル。乳兒ニ於テハ哺乳後清拭不十分ナル爲ニ分解セル乳汁ニヨルコトアリ。其他沃刺・臭刺・亞砒酸・水銀等ノ内服ニヨリテモ起ルコトアリ。
 iv) 急性傳染病。腸チフス・麻疹・猩紅熱・痘瘡・瘧疾等ノ經過中ニ本病ヲ起スコトアリ。
 v) 續發性ニハ小兒ノ齒牙發育ニ際シ一時本症ヲ起スコトアリ。又鼻腔・咽頭加答兒・胃加答兒ニ續發スルコトモアリ。時トシテハ原因不明ナルアリ。

症狀 口腔粘膜(頰・口蓋・口唇・舌等)ノ發赤・腫脹及ビ灼熱アリ。時トシテハ粘膜ノ淋巴濾胞腫脹シ遂ニハ小圓形表在性ノ糜爛ヲ生ジ、口内灼熱乃至疼痛ヲ發シ食物攝取ニ困難ナルコトアリ。此際ニハ其刺戟ニヨリテ流涎著明トナル。時トシテハ口臭ヲ發シ、乳兒ニハ屢々熱發アルコトアリ。
 頰粘膜及ビ舌ノ炎症性腫脹著明ナル時ハ一時齒牙ノ壓痕ヲ殘スコトアリ。本症ハ數月ニシテ治癒シ危險症狀ヲ殘サザルヲ常トス。
慢性口内炎 ニ於テハ粘膜多クハ暗赤色乃至赤褐色トナリ、屢々上皮ノ肥厚又ハ潤濁ヲ伴ヒ、灰白色ノ斑點ヲ見ルコトアリ。時トシテハ粘膜ニ皸裂ヲ生ジ疼痛ヲ發ス。

鑑別 以上特異ノ状態ニヨリテ診斷容易ニシテ殆ンド鑑別スベキモノナシ。蜂窩織炎性口内炎トハ症狀ノ輕度ナルニヨリ區別セラル。

2) 蜂窩織炎性口内炎

Stomatitis phlegmonosa

原因 口腔附近ノ種々ノ化膿症特ニ顔面蜂窩織炎・齒齦膿瘍・舌膿瘍等ニ續發ス。口腔粘膜ニ原發スルコトハ殆ンドナシ。ルード井イチ氏安魏那 Angina Ludovici モ之ニ編入サル(本病ニ就キテハ耳鼻咽喉科書參照)。

症狀 原發病竈ニ連續シテ口腔粘膜ニ急性發赤・腫脹・疼痛アリ。顔面ニ屢々浮腫ヲ伴フ。顔面蜂窩織炎ニ於テハ特ニ顔面ノ腫脹著明。齒齦膿瘍ニ於テハ齒痛ヲ伴ヒ、舌膿瘍ニ於テハ舌ノ腫脹特ニ著明。ルード井イチ氏安魏那ニ於テハ口腔底ノ滲潤性腫脹特ニ著明ニシテ嚥下痛及ビ談話障礙著シク、炎症ハ時トシテ下方ニ下降シテ縱膈竇炎ヲ起シ危險ナルコトアリ。時日ヲ經ルニ從ツテ炎症限局シ、化膿自潰ス。併シ炎症滲潤性ニ進行スル時ハ腦症又ハ縱膈竇炎ヲ起シテ危險ナルコトアリ。體温上昇一般ニ著明ナルガ、自潰又ハ切開ニヨリ下降ス。惡性ナルハ熱發等持續ス。

鑑別 診斷困難ナラズ。加答兒性口内炎・咽頭丹毒其他ノ咽頭炎ト鑑別スベシ(耳鼻咽喉科書參照)。

<p>3) アフタ性口内炎或亞布答 Stomatitis aphthosa od. makulofibrosa od. Aphthae (口蹄疫或ハ畜疫性アフタ)</p>	<p>原因 其病原菌尙ホ不明ナルガ家畜類ニ來ル一種ノ傳染病ニシテ、其乳又ハ製出物ヨリ人類ニ傳染スルコトアリ。但シ甚ダ稀ナリ。 症狀 三四日ノ潛伏期ヲ經テ體溫急ニ上昇シ(時トシテ四十度以上ニ及ブ)。約二日後口腔ニ本病ニ特有ナル水疱ヲ生ズ(屢々同時ニ爪ノ周圍・手指ノ間・時トシテハ胸壁ニモ水疱ヲ生ズ)。此水腫ハ口腔粘膜ニ於テハ舌縁・舌繫帶・口唇・頰粘膜等ニ多ク、間モナク自潰シテ扁豆大乃至豌豆大ノ扁平ナル或ハ僅カニ隆起セル灰白色或ハ少シク黃色ノ圓形潰瘍斑點ヲ生ジ、其周圍ニ赤色暈アリ。此數ハ數多ニシテ或ハ互ニ融合シテ大トナルコトアリ。 其他口腔ニ灼熱感アリ。咀嚼或ハ嚥下ハ疼痛ノ爲メ困難トナリ、流涎アリ、併シ口臭ナシ、屢々胃腸障礙ヲ伴フ。 併シ本症ノ豫後ハ概シテ良好ニシテ 1-2 週間ニシテ治癒ス。 診斷 潰瘍性口内炎・「チフテリー」・驚口瘡等ト鑑別(小兒科書或耳鼻喉科書参照)。</p>
<p>4) 驚口瘡 Soor</p>	<p>原因 「オイヂウム、アルビカンス」ナル絲狀菌ノ口腔内寄生ニヨルモノニシテ特ニ衰弱セル小兒ニ來ル(特ニ齒牙發生時)。 症狀 口腔粘膜「カタル」狀ニ發赤シタル所ニ帽針頭大乃至扁豆大ノ灰白色乃至灰白黃色ノ苔ヲ生ジ、周圍ニ赤色暈アリ。此苔ハ所々ニ散在スルコトアルモ、互ニ融合シテ大ナル斑紋ヲ作ルコトモアリ。 此斑紋ハ舌・上下口唇・咽頭ノ粘膜等ニ來ル、時トシテハ化膿菌ノ混合傳染ニヨリ蜂窩織炎ヲ併發スルコトアリ。 診斷 「アフタ性口内炎」ト鑑別ヲ要スルガ、之ハ小潰瘍ニシテ、驚口瘡ハ小苔狀物ナリ。又其細菌的検査ニヨリ絲狀菌ヲ證ス。</p>
<p>5) 壞疽性口内炎或水瘡 Stomatitis gangraenosa od. Noma</p>	<p>原因 從來種々ノ細菌ガ病原菌トシテ報告セラレシモ未ダ確實ノモノナシ。三歳乃至七歳ノ小兒ニ多ク、特ニ麻疹・「チフス」・肺炎等ノ後ニ來ルコト多ク、又榮養ノ不良ナル小兒ニ來ル。 症狀 初メ齒齦又ハ頰粘膜(特ニ口角附近)甚ダ稀ニ口蓋粘膜ニ潰瘍性口内炎ノ像ヲ呈シ次第ニ壞疽ニ陥リ速ニ周圍ニ進行ス。 壞疽部ハ汚穢灰白黃色乃至汚穢暗黑色ニシテ周圍トノ限界比較的明カナル場合ト浮腫性腫脹ヲ伴フ場合トアリ。壞疽進行スルニ從ツテ軟部ノミナラズ顎骨・舌・口蓋・鼻等ノ崩潰ヲ來シ、速ニ衰弱死ニ陥ル。 其他疼痛ハ中等度ニシテ口臭甚シク流涎アリ。攝食不能トナリ、顎下腺又ハ頰下腺ノ炎症ヲ伴フ。體溫上昇スルヲ常トス。 診斷 初期ニハ潰瘍性口内炎ト鑑別ヲ要スルモ、壞疽ノ有無・口臭・全身症狀等ニヨリテ區別ス。併シ初期ニハ潰瘍性口内炎ノ狀ヲ呈シ、間モナク水瘡ニ移行スルコトモアリ。</p>

<p>6) 口粘膜丹毒 Erysipelas d. Mundschleimhaut</p>	<p>原因 口腔粘膜ノ丹毒ハ顔面皮膚ノ丹毒ニ續發スルモノ多キモ、稀ニ口腔内ノ小創傷・潰瘍・咽頭ヨリ發病シ、或ハ鼻腔又ハ耳ヨリ發病スルコトモアリ。 症狀 口腔粘膜特ニ咽頭・舌・口腔底・口蓋等ニ發赤著明ニシテ屢々浮腫性腫脹ヲ伴フ。從ツテ丹毒ニ特有ナル發赤部境界不明ナルコトアリ。喉頭粘膜ノ腫脹著甚ナル時ハ呼吸困難ヲ起スコトアリ。多クハ顔面ニモ丹毒症狀ヲ呈スルニヨリ、其方面ヨリ診斷セラル。熱發亦顯著ナリ。 診斷 各種咽頭炎ト鑑別ヲ要ス(耳鼻喉科書参照)。</p>
<p>7) 潰瘍性口内炎</p>	<p>多クハ潰瘍性齒齦炎トシテ來ル。汞毒性口内炎モ同様ナリ(前項参照)。</p>
<p>8) 壞血病性口内炎</p>	<p>(前項参照)。</p>
<p>9) 口腔ノ結核 Tuberkulose d. Mundhöhle</p>	<p>原因 原發性ノモノハ殆ンド無ク、多クハ續發性ニシテ特ニ肺結核ノ末期ニ來ルヲ常トス。 症狀 咽頭・口蓋・口角・齒齦・舌等ニ淡黃灰白色ノ帽針頭大乃至小豆大ノ結節ヲ生ジ、或ハ散在又ハ集合シ、其周圍ニ輕度ノ滲潤アリ。結節増大スルニ從ツテ弛緩性潰瘍トナリ、疼痛ヲ發シ、特有ナルモノニ於テハ底面ニ乾酪樣變性物ノ沈着ヲ認ム。 診斷 肺結核患者ニ慢性結節又ハ潰瘍ヲ生ジタル場合ニハ最モ本症ヲ疑フベシ。疼痛アルモ急性症狀ヲ缺ク。口腔毒トハ各種ノ點ニ於テ相異アリ。</p>
<p>10) 口腔梅毒 Syphilis d. Mundhöhle</p>	<p>a) 初期硬結 Initialsklerose 稀ニ舌・口唇・扁桃腺等ニ發病スルコトアリ。陰部ニ於ケル硬性下疳ト同様ナリ(梅毒ノ條下参照)、屢々顎下腺ニ著明ノ腫脹ヲ來シ、硬クシテ無痛ナリ。 b) 第二期梅毒 II. Stadium der Syphilis i) 微毒性紅斑 Erythema syphilitica 主トシテ口蓋扁桃腺ノ粘膜ニ來リ、他部ニハ殆ンド發生セズ。其状態皮膚ニ於ケルモノト同様ニシテ、二三週間乃至數週ニシテ消散スルヲ常トス。 ii) 微毒性丘疹 Papulosa syphilitica 口腔ノ到ル所ニ發生ス。白色ニシテ少シク隆起セルガ屢々破壊シテ小糜爛面ヲ生ジ、甚ダ過敏ナリ(此點ハ皮膚ノ丘疹ト異ル)。 iii) 扁平コンヂローム Kondyloma lata 丘疹ノ密集シタルモノナルガ特ニ舌及ビ口唇縫隙ニ來ル。大豆大乃至扁豆大ノ扁平花壇狀ノ丘疹ニシテ表面灰白色ヲ呈シ、僅カニ疼痛アルコト多シ。 診斷多クハ容易ナルモ、舌白斑又ハ舌痛ノ初期ト區別スベシ。</p>

c) 膿腫 Gumma 舌ヲ始メトシ咽頭・口蓋・扁桃腺等ニ發生ス。
 初メ軟性ノ膿腫ヲ發生シ、其後吸收サルルカ或ハ自潰シテ膿腫性潰瘍ヲ作ル。口蓋ニ於テハ穿孔ヲ來スコトアリ。膿腫潰瘍ハ次第ニ瘻管形成ニヨリテ治癒スルコト多キモ、咽頭及ビ口蓋ニ於テハ一部癒着シテ狭窄ヲ來スコトアリ。
 診断 多クハ容易ナルガ、初期ニハ口腔腫瘍、後ニハ癌腫性潰瘍ト鑑別ヲ要スルコトアリ(總論參照)。

第五百七十二圖

水瘻(發病後十七日目)
 (n. Lexer)



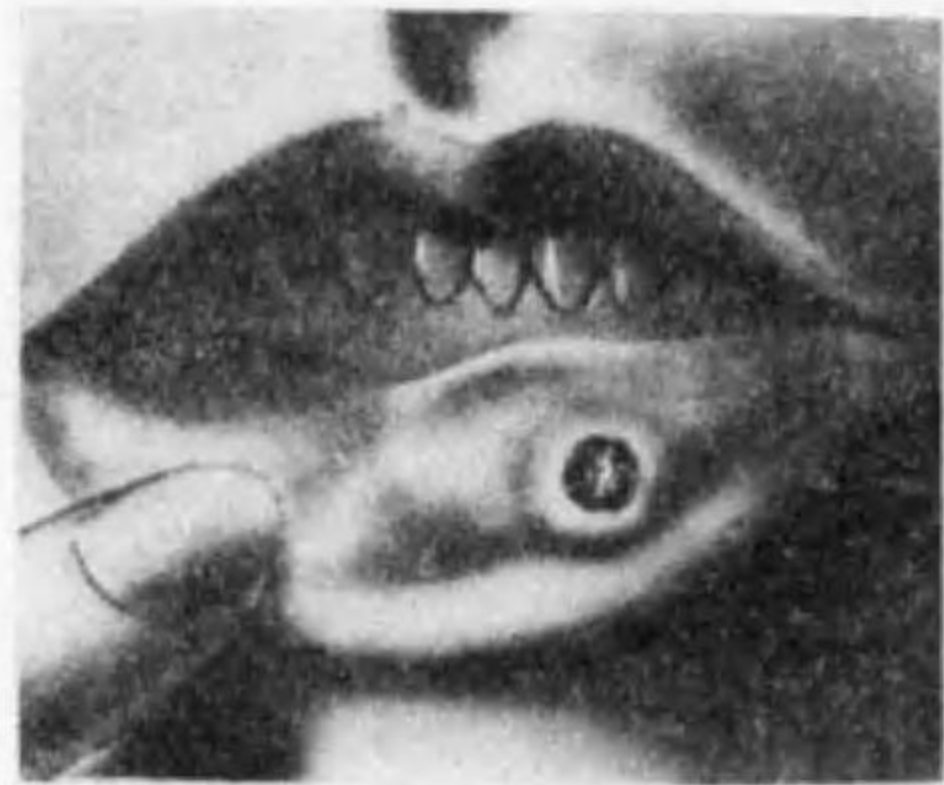
第五百七十三圖

同上手術後、死前五日
 (n. Lexer)



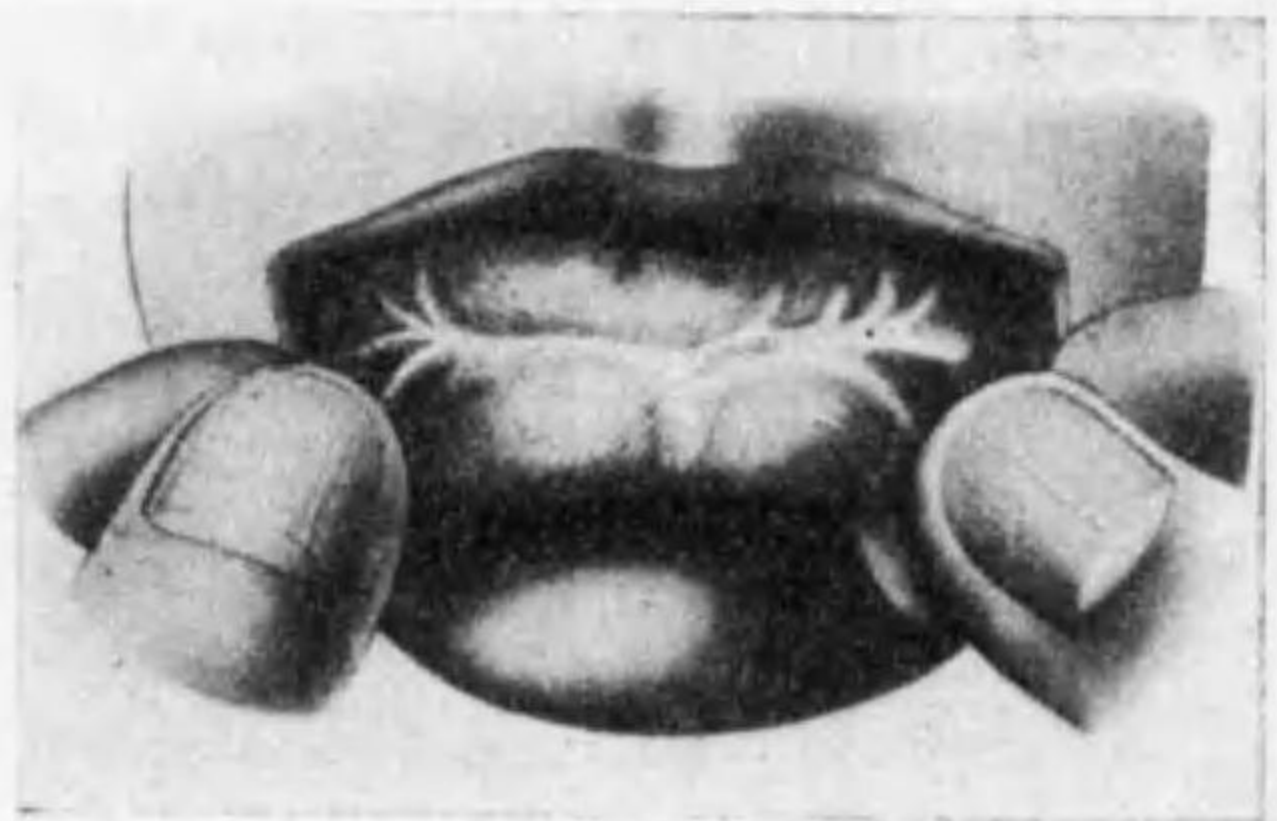
第五百七十四圖

口唇ノ黴毒初期感染
 (n. Cernach)



第五百七十五圖

口唇ノ第三期黴毒性瘻痕
 (n. Meral)



II. 口腔ノ腫瘍 Geschwülste der Mundhöhle

(頬粘膜・口蓋・口唇・口腔底等)

(齒齦・舌ノ腫瘍ハ別項ニ述ブ、扁桃腺・咽頭ニ就キテハ耳鼻咽喉科書參照)

1) 纖維腫 Fibrom	比較的稀ナリ。時ニ粘膜上ニ「ポリープ」状ノモノトシテ認メラルルコトアリ。或ハ粘液腫ヲ混ズ。脂肪腫・混合腫・肉腫又ハ癌腫ノ初期ト鑑別ヲ要ス。
2) 脂肪腫 Lipom	比較的稀ナリ。特ニ著大ナルハ稀ナリ。軟性纖維腫・淋巴管腫・血管腫・膿腫等ト鑑別ヲ要ス。
3) 血管腫 Angiom	血管腫ハ口唇・舌ニ比較的多ク發生ス。是等ノ部位ニ於ケル血管腫著大トナル時ハ巨唇 Makrocheilie・巨頰 Makromelie ト稱スルコトアリ。是等ハ先天性ニ發生スルヲ常トス。是等ノ部位ニ發生スル血管腫ハ a) 單純性血管腫 Angioma simplex. b) 海綿狀血管腫 Angioma cavernosum ニシテ、前者ハ著大ナルコトナキモ、後者ハ著大ナルコトアリ。又限界不明瞭ナルコトモアリ。表在性ナルハ暗赤色乃至藍青色著明ナルモ、深在性ナルハ僅ニ青色ニ透見セラレ或ハ殆ンド平常ニ見ユルコトアリ。硬度軟性ニシテ壓縮性ヲ有スルコト特異ナルガ、時トシテハ其中ニ小結節ヲ觸ルルコトアリ(±)。頭部下垂又ハ努責ニヨリ増大緊張ス。診断多クハ容易ナルモ特ニ淋巴管腫ト鑑別ヲ要ス。其他脂肪腫・粘液囊腫等トモ區別スベシ(總論參照)。
4) 淋巴管腫 Lymph-angiom	血管腫ニ比シテ稀ナルモ、時トシテ血管腫ト同様ノ場所ニ先天性ニ發生スルコトアリ。巨唇・巨頰ヲ來スコトアリ。單純性淋巴管腫ヨリモ海綿狀淋巴管腫ナルコト多シ。軟性ニシテ壓縮性ヲ有スルコト及ビ先天性ニ發生スルコトハ血管腫ニ類似スルモ、之ニハ血管腫ノ如キ着色ナク、小結節ヲ觸ルルコトナク、頭部下垂又ハ努責ニヨリテ著シキ變化ナキコト等ニヨリテ區別セラル。或ハ細小ノ注射針ニヨリテ試験的穿刺ヲナスコトアリ。
5) 混合腫 Misch-geschwulst	耳下腺腫瘍ト同様ノ發生的關係ニテ口蓋・頰部・口唇等ニ混合腫瘍ヲ發生スルコトアリ。内被細胞腫・纖維腫・粘液腫・軟骨腫等ヲ成分トナスコト多シ。多クハ良性ニシテ限局性腫瘍ナルモ、稀ニハ肉腫又ハ癌腫ニ變性シ著明ニ増大シ悪性腫瘍ノ状態ヲ呈スルコトアリ。診断 纖維腫・肉腫ノ初期ニ類スルモ、混合腫ハ是等ニ比シテ屢々發生シ、多少硬度ヲ異ニス。膿腫トモ鑑別ヲ要ス。癌腫トノ鑑別ハ困難ニハアラズ。

<p>6) 肉 腫 Sarkom</p>	<p>極メテ稀ナリ。年少者ニ發生スルコト多ク、成長速ナリ。 初期ニハ上記良性腫瘍ト鑑別ヲ要スルモ、著明ニ増大シタル場合ニハ診断困難ニアラズ、只顎骨ヨリ發生セル肉腫ト區別スベシ(齒齦腫ハ別項ニ述ブ)。</p>
<p>7) 癌 腫 Karzinom</p> <p>(口腔粘膜ノ癌腫ハ表皮癌Kankroidナルヲ常トス、 i) 腫瘤性癌最モ多ク、 ii) 浸潤性癌之ニ次ギ、 iii) 潰瘍性癌ハ稀ナリ、 嚢胞形成比較的遅シ。)</p>	<p>a) 口唇癌 Mundlippenkarzinom ハ比較的下口唇ニ多ク、喫煙者ニ多シト、口唇ハ外部ニ露出セルヲ以テ、比較的早期ニ發見セララル。尙ホ之ハ腫瘤性癌乃至増殖性癌 tumorbildendes od. wucherndes Karzinom ナルコト多シ。 b) 頬癌 Wangenkarzinom 頬粘膜ノ遊離部ノ癌腫ハ比較的稀ナリ。併シ該部ニ於ケル癌腫ノ診断ハ困難ニアラズ。併シ舌口蓋弓 Arcus glosopalatinum ノ癌腫ニ於テハ屢々浸潤強キ爲メ開口不十分トナリ内部ヲ充分ニ検査シ難キ爲メ本症ヲ見逃スコトアリ。故ニ慢性ニ開口不能トナル場合ニハ口腔内ノ癌腫ニ注意スベシ。 c) 口腔底癌 Mundbodenkarzinom 時トシテ見ララルコトアリ。此際疼痛ヲ發スル場合ト無キ場合トアリ。成長スルニ從ツテ舌ノ運動不自由トナリ、或ハ開口不十分ナル。舌運動不十分ナル場合ニハ特ニ口腔底ヲ檢スベシ。 d) 口蓋癌 Gaumenkarzinom 口蓋粘膜ニ原發スル癌腫ハ比較的稀ナリ、併シ診断困難ニハアラス。但シ上顎竇癌ガ口蓋ニ自潰セルモノト誤ラヌヤウ注意スベシ。 e) 齒齦癌 (第371頁参照)。 f) 舌癌 (第382頁参照)。 g) 扁桃腺癌 (咽頭癌ニ就キテハ耳鼻咽喉科書参照)。</p>
<p>8) 粘液囊腫 Schleim- zyste</p>	<p>時トシテ口唇又ハ頬粘膜ニ發生スルコトアリ。原因ノ關係不明。 豌豆大内外ノ球形又ハ半球形腫瘍ニシテ淡青色ニ透見シ、硬度堅滿性軟ニシテ加壓スルモ縮小セズ疼痛ナシ。 之ハ粘液腺ノ排泄口閉塞シタル爲ニ生ズルモノナルガ、時トシテハ排泄口破開シテ一時消失スルコトアルモ、屢々又再發ス。 診断 血管腫ト鑑別ヲ要ス(形状球形又ハ半球形ニシテ不正形ナラズ、硬度堅滿性軟ニシテ壓縮性ナラズ、表面ノ色等ニヨリテ區別ス)。</p>

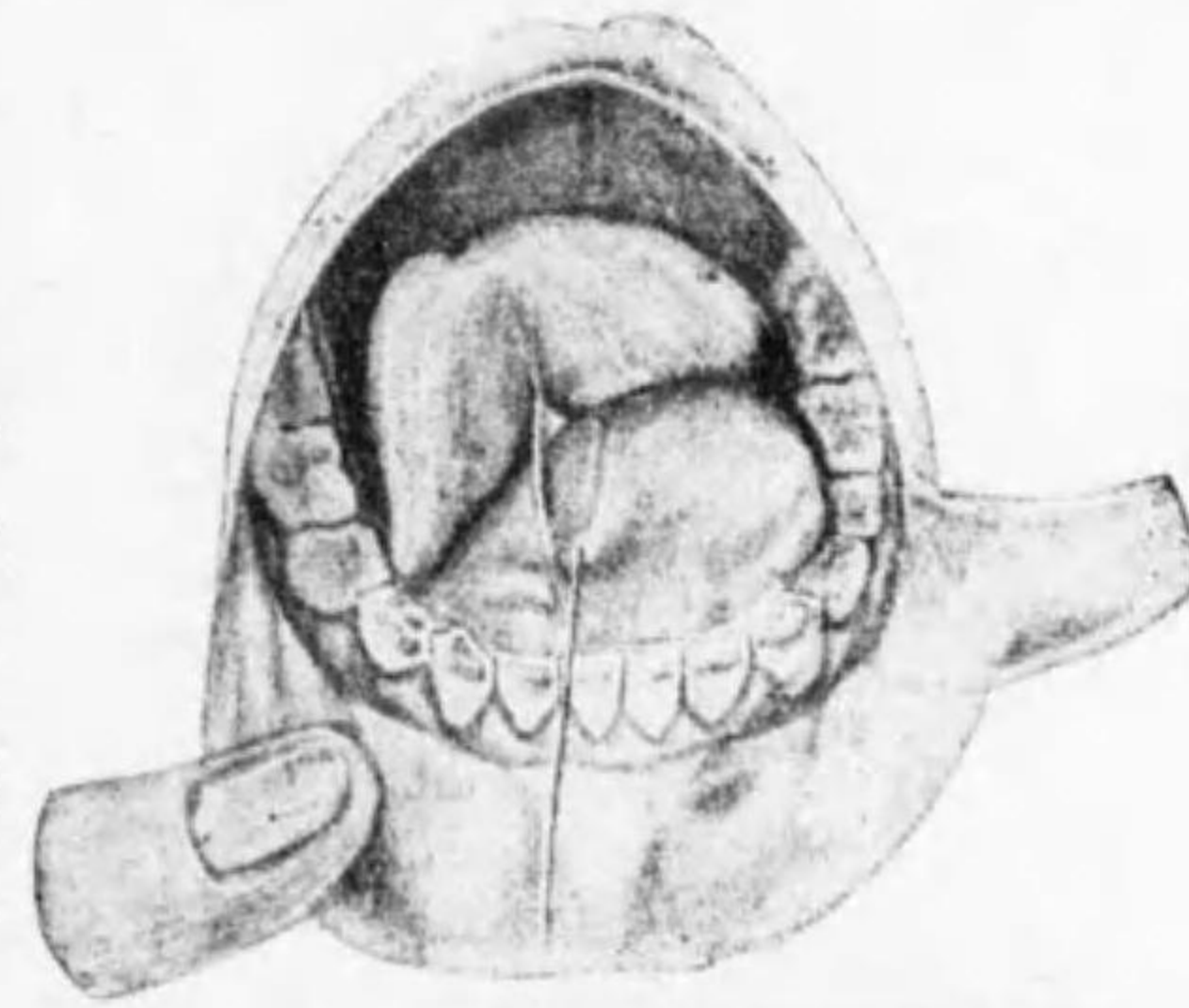
第五百七十六圖 下唇ノ粘液囊腫



(山村氏ニ據ル)

第五百七十七圖 左側軟齶腫

(n. Bergmann-Kühner)



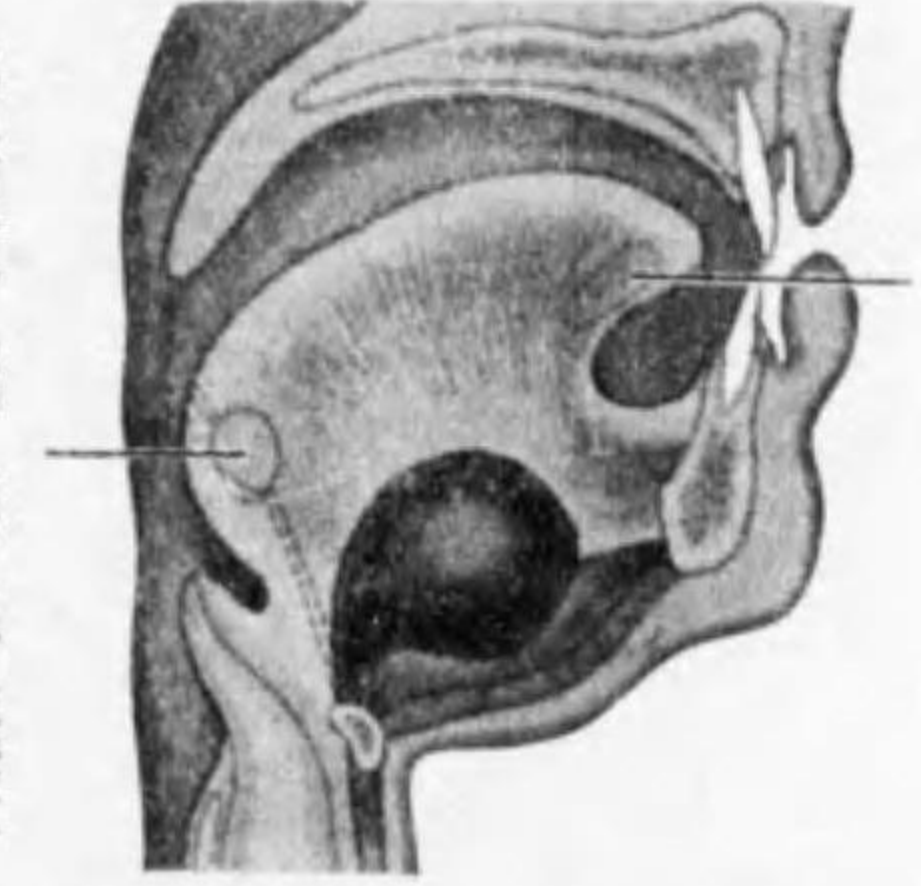
第五百七十八圖

舌下皮膚様囊腫

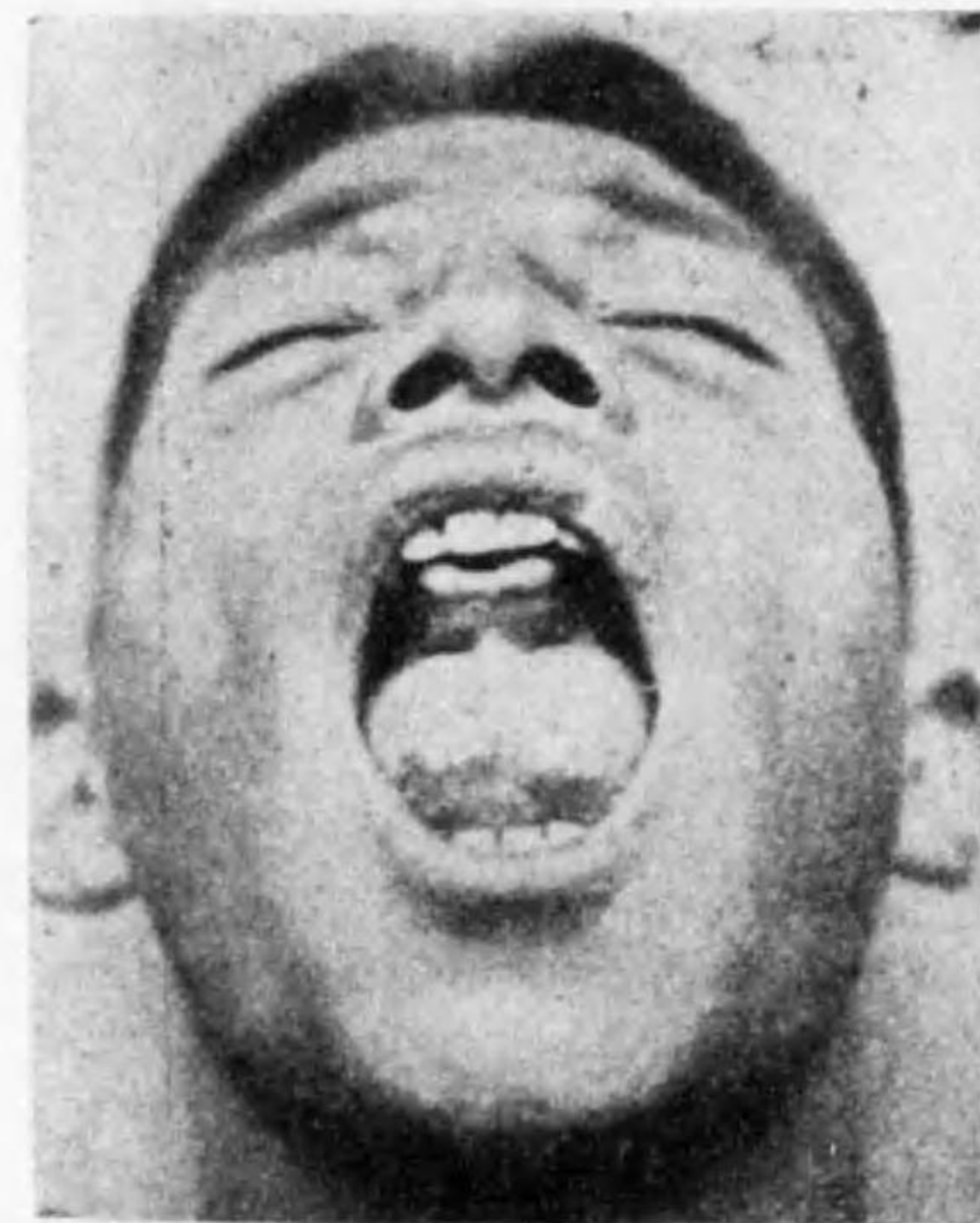


第五百七十九圖

頤下皮膚様囊腫



第五百八十圖 口腔底皮膚様囊腫



第五百八十一圖 口腔底皮膚様囊腫

